

シラバス

(年間授業計画)

電子工学科

平成 21 年 度

神戸市立工業高等専門学校

目 次

I	本校の目的	1
1.	本校の使命	1
2.	本校の教育方針	1
3.	養成すべき人材像	1
4.	卒業時に身につけるべき学力や資質・能力（学習・教育目標）	1
II	本校の教育組織	5
III	授業科目の履修について	7
IV	試験についての注意事項	8
1.	受験上の注意事項（定期試験・中間試験・追試験）	8
2.	試験における不正行為	9
3.	追試験	9
4.	再評価	10
5.	防災警報および交通機関スト時の定期試験の取り扱い	10
V	伝染病による学生の出席停止期間	11
VI	諸手続一覧	11
VII	行事予定表	12
VIII	概要・系統図	13
IX	授業科目一覧表	15
1.	一般科目	15
2.	専門科目	16
X	シラバス	17
1.	一般科目	17
2.	専門科目	125

I 本校の目的

1. 本校の使命

本校は、学校教育法の定める高等専門学校として、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること、並びにその教育、研究機能を活用して国際港都神戸の産業及び文化の発展向上に寄与することを使命とする。

2. 本校の教育方針

■ 人間性豊かな教育

心身の調和のとれた、たくましい感性豊かな人間形成をめざして、教養教育の充実をはかるとともに、スポーツ・文化クラブ等の課外活動を振興する。

■ 基礎学力の充実と深い専門性を培う教育

工学に関する基礎知識と専門知識を身につけ、日進月歩する科学技術に対応し、社会に貢献できる実践的かつ創造的人材を育成する。

■ 国際性を育てる教育

国際・情報都市神戸にふさわしい高専として、世界的視野を持った、国際社会で活躍できる人材を育成する。

3. 養成すべき人材像

健康な心身と豊かな教養のもと、工学に関する基礎的な知識を身につけると同時に、創造性も合わせ持つ国際性、問題解決能力を有する実践的技術者を養成する。

4. 卒業時に身につけるべき学力や資質・能力（学習・教育目標）

(A) 工学に関する基礎知識を身につける。

- (A1) 数 学 工学的諸問題に対処する際に必要な数学の基礎知識を身につけ、問題を解くことができる。
- (A2) 自 然 科 学 工学的諸問題に対処する際に必要な自然科学に関する基礎知識を身につけ、問題を解くことができる。
- (A3) 情 報 技 術 工学的諸問題に対処する際に必要な情報に関する基礎知識を身につけ、活用することができる。
- (A4) 専 門 分 野 各学科の専門分野における工学の基礎知識・基礎技術を身につけ、活用することができる。 ※詳細はp.3～p.5に記載

(B) コミュニケーションの基礎的能力を身につける。

- (B1) 論 理 的 説 明 自分の意図する内容を文章及び口頭で相手に適切に伝えることができる。
- (B2) 質 疑 応 答 自分自身の発表に対する質疑に適切に応答することができる。
- (B3) 日 常 英 語 日常的な話題に関する平易な英語の文章を読み、聞いて、その内容を理解することができる。
- (B4) 技 術 英 語 英語で書かれた平易な技術的文章の内容を理解し、日本語で説明することができる。

(C) 複合的な視点で問題を解決する基礎的能力や実践力を身につける。

- (C1) 応用・解析 工学的基礎知識を工学的諸問題に応用して、得られた結果を的確に解析することができる。
- (C2) 複合・解決 与えられた課題に対して、工学的基礎知識を応用し、かつ情報を収集して戦略を立て、解決できる。
- (C3) 体力・教養 技術者として活動するために必要な体力や一般教養の基礎を身につける。
- (C4) 協調・報告 与えられた実験テーマに対してグループで協調して挑み、期日内に解決して報告書を書くことができる。

(D) 地球的視点と技術者倫理を身につける。

- (D1) 技術者倫理 工学技術が社会や自然に与える影響および技術者が負う倫理的責任を理解することができる。
- (D2) 異文化理解 異文化を理解し、多面的に物事を考えることができる。

※学習・教育目標 (A4：専門分野)

[機械工学科]

- ①機械工学的諸問題に対処する際に必要な材料に関する基礎知識を身につけ、活用できる。
 - ・機械工学的諸問題に対処する際に必要な材料および材料力学に関する基礎知識を身に付け、活用できる。
- ②機械工学的諸問題に対処する際に必要な熱力学および流体力学に関する基礎知識を身につけ、活用できる。
 - ・熱および流体の諸性質を理解し、対象とする熱流体の物性値を定めることができる。
 - ・熱流体に関する諸定理を理解し、それをを用いて熱流動現象を説明できる。
 - ・各種熱機関や流体機械の動作原理や特徴を理解し、エネルギー・環境問題を念頭におきながら、目的に応じた応用技術・システムを構築できる。
- ③機械工学的諸問題に対処する際に必要な計測および制御に関する基礎知識を身につけ、活用できる。
 - ・設計、製造等を行う際に必要な計測の基礎知識を身につけ活用できる。
 - ・設計、製造等を行う際に必要な制御の基礎知識を身につけ活用できる。
- ④機械工学的諸問題に対処する際に必要な生産に関する基礎知識を身につけ、活用できる。
 - ・機械工作に関連する基本作業を習得し、実用に応じた加工ができる。
 - ・機械加工および塑性加工の基礎知識を習得し、設計・生産分野における技術課題に対応できる。
 - ・生産システムに必要な基礎知識を理解し、生産管理や生産技術として活用できる。

[電気工学科]

①電気電子工学分野に関する基礎知識を身に付け、活用できる.

- ・電気および磁気に関する諸現象と諸定理を理解し、それらを説明できる.
- ・電気回路や電子回路の解析ができ、基本的な回路を組み活用できる.
- ・コンピュータリテラシーと基本的なプログラミング技術を身に付け、活用できる.

②電気材料や電子デバイスに関する基礎知識を身に付け、活用できる.

- ・電気電子材料における原子集合としての諸現象と諸定理を理解し、それらを説明できる.
- ・電気電子材料の特性を理解し、電気電子素子を活用できる.

③計測や制御に関する基礎知識を身に付け、活用できる.

- ・計測機器のしくみを理解し、適切な使用ができる.
- ・計測システムを構築し、計測データの処理ができる.
- ・制御システムを解析でき、基本的なシステムを組み活用できる.

④エネルギー、電気機器、設備に関する基礎知識を身に付け、活用できる.

- ・電気エネルギーの発生と輸送のしくみを理解し、環境や信頼性を考慮した電気設備の基礎知識を身に付ける.
- ・電気機器の仕組みを理解し、用途に応じて適切な機器を使用できる.

[電子工学科]

①電気電子工学分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる.

- ・電界および磁界に関する諸定理を理解し、それらによって生じる物理現象を説明できる.
- ・電気回路や電子回路の動作を理解し、基本的な回路を設計できる.
- ・工学系に必要な情報リテラシーと基本的なプログラミング技術を身につける.

②物性や電子デバイスに関する基礎知識を身につけ、活用できる.

- ・電子部品や電子素子(電子デバイス)に使用される材料の特徴を理解し、取り扱うことができる.
- ・電子部品や電子素子のしくみと特性を理解し、活用できる.

③計測や制御に関する基礎知識を身につけ、活用できる.

- ・計測機器のしくみを理解し、適切な使用ができる.
- ・自動計測システムを構築し、計測データの処理ができる.
- ・電子制御システムを理解し、簡単なシステムを構成できる.

④情報や通信に関する基礎知識を身につけ、活用できる.

- ・コンピュータおよび周辺ハードウェアのしくみを理解し、基本的な回路を設計できる.
- ・コンピュータソフトウェアを利用活用でき、開発できる.
- ・情報ネットワークのしくみを理解し、小規模なネットワークを構築できる.

[応用化学科]

- ①**有機化学関連分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。**
 - ・代表的な有機化合物の構造・性質・反応性について説明できる。
 - ・各種スペクトルの原理を理解し、解析に利用できる。
 - ・有機化学反応を電子論や分子構造に基づいて反応機構を解説できる。
- ②**無機化学・分析化学関連分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。**
 - ・主な無機化合物の製法や性質を説明できる。
 - ・容量分析や代表的な分析機器の使用法を習得し、その解析ができる。
- ③**物理化学関連分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。**
 - ・化学熱力学の基礎概念を理解し、それらの応用としての相平衡関係について説明できる。
 - ・反応速度式や量子理論の基礎を理解し、それらを用いて各種現象の説明ができる。
- ④**化学工学関連分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。**
 - ・拡散単位操作の物理化学的基礎を理解し、各種装置の基本的な設計ができる。
 - ・移動現象の基礎理論を理解し、装置設計に活用できる。
 - ・反応工学の基礎理論を理解し、反応モデルや反応器の種類に応じた反応器の基本設計ができる。
- ⑤**生物学関連分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。**
 - ・生物を構成する生体分子の種類、構造について理解し、生合成過程を説明できる。
 - ・遺伝子組み換え技術の応用例を理解し、有用性と問題点について説明できる。

[都市工学科]

- ①**設計に関する基礎知識を身につけ、活用できる。**
 - ・測量に関する理論を理解し、測量技術を身につける。
 - ・設計製図に関する理論を理解し、図面作成技術を身につける。
 - ・情報処理、CADに関する理論を理解し、設計に活用できる。
- ②**力学に関する基礎知識を身につけ、活用できる。**
 - ・応用物理に関する理論を理解し、力学の解析に活用できる。
 - ・構造力学、水理学、土質力学に関する諸定理を理解し、基礎的解析ができる。
- ③**施工に関する基礎知識を身につけ、活用できる。**
 - ・コンクリート工学、材料学に関する理論を理解し、基礎的な施行技術を身につける。
 - ・施工管理学に関する理論を理解し、施工に対して活用できる。
 - ・防災に関する理論を理解し、施工に対して活用できる。
- ④**環境に関する基礎知識を身につけ、活用できる。**
 - ・都市環境、環境水工、環境生態に関する理論を理解し、建設に対して活用できる。
 - ・都市交通に関する理論を理解し、交通データの処理ができる。
 - ・デザイン、景観に関する理論を理解し、建設に対して活用できる。

II 本校の教育組織

校長	黒田 勝彦
----	-------

一般科目

国語	吉川 敏郎	教授	国語	一般科長
	土居 文人	准教授	国語	D2担任
	舟見 一哉	助教	国語	
社会	福田 敬子	教授	歴史・日本史	
	高橋 秀実	教授	政治経済・経済学	
	手代木 陽	教授	倫理・哲学	M1B担任
	町田 吉隆	准教授	歴史・世界史	S2担任
数学	八百 俊介	准教授	地理・社会科学特講	
	石塚 正洋	教授	数学Ⅰ	
	末次 武明	教授	数学Ⅰ・数学Ⅱ	1学年主任・M1A担任
	八木 善彦	教授	数学Ⅰ・確率統計	
	児玉 宏児	教授	数学Ⅰ・数学Ⅱ・応用数学Ⅰ・応用数学Ⅱ	
	横山 卓司	准教授	数学Ⅰ・数学Ⅱ	
	菅野 聡子	准教授	数学Ⅰ・数学Ⅱ	C1担任
	吉村 弥子	准教授	数学Ⅰ・数学Ⅱ	
理科	北村 知徳	准教授	数学Ⅰ・数学Ⅱ	
	大多喜 重明	教授	物理	
	佐藤 洋俊	准教授	化学	学生副主事
	一瀬 昌嗣	講師	物理・電気磁気学Ⅱ	M2B担任
保健 体育	福本 晃造	助教	化学	
	中川 一穂	教授	保健・体育	学生主事
	寺田 雅裕	教授	保健・体育	
	小森田 敏	准教授	保健・体育	学生副主事
英語	春名 桂	准教授	保健・体育	C2担任
	西山 正秋	教授	英語・英語演習	
	前田 誠一郎	教授	英語・英語演習	
	折附 良啓	教授	英語・英語演習	2学年主任・M2A担任
	柳生 成世	教授	英語・英語演習	D1担任
	田口 純子	教授	英語・英語演習	E2担任
	今里 典子	准教授	英語・英語演習・人文科学特講	
ドイツ語	上垣 宗明	准教授	英語・英語演習	S1担任
	本田 敏雄	教授	論理学・ドイツ語	D3担任

専門科目

機械 工学科	森本 義則	教授	生産工学・生産システム・機械実習・機械工学実験	
	尾崎 元泰	教授	機械設計・機構学・設計製図	
	中辻 武	教授	応用機械設計・設計製図・機械工学概論・機械設計・機械工学実験	機械工学科長
	吉本 隆光	教授	機械実習・設計製図・工業熱力学・エネルギー変換工学・機械工学実験	
	小林 滋	教授	応用数学ⅠA・応用数学ⅠB・機械工学概論・機械工学実験	
	赤対 秀明	教授	流体工学・機械工学概論・機械工学実験	教務主事(教育)
	斉藤 茂	教授	機械工作法・創造設計製作・精密加工学・加工工学・機械実習・機械工学実験	3学年主任・M3D担任
	小林 洋二	教授	情報処理・線形システム理論・設計製図・機械工学実験	5学年主任・M5C担任
	長 保浩	教授	応用数学Ⅱ・工業英語・自動制御・機械工学実験	
	田口 秀文	准教授	電気工学・自動制御・制御機器・機械工学実験	
	西田 真之	教授	材料工学・材料力学Ⅰ・材料力学Ⅱ・機械工学実験	学生副主事
	宮本 猛	准教授	機械実習・工作機械・設計製図・機械工学実験	M5D担任
	石崎 繁利	准教授	設計製図・機械実習・電気・電子回路・創造設計製作・電子工学概論・機械工学実験	
	尾崎 純一	准教授	設計製図・加工工学・機械力学Ⅰ・工業力学・創造設計製作・機械実習	
	和田 明浩	准教授	材料力学・情報基礎・機械工学概論・機械工学実験	教務副主事
	朝倉 義裕	准教授	情報基礎・情報処理・数値計算法・機械力学Ⅱ・機械工学実験・情報工学	M4C担任
	山本 高久	准教授	設計製図・工業熱力学・機械工学実験	
	早稲田 一嘉	准教授	情報基礎・材料力学特論・材料工学・機械実習・機械工学実験	M4D担任
	熊野 智之	講師	図学・製図・設計製図・応用物理・機械工学実験	M3C担任
	武縄 悟	講師	計測工学・機械工学実験・応用計測・設計製図・創造設計製作	

機械 工学科	寺脇 正夫	技術職員		
	安東 猛	技術職員		
	大庭 浩明	技術職員		
	北野 好洋	技術職員		

電気 工学科	松田 忠重	教授	応用物理Ⅰ・計算機工学・応用数学・電気工学実験実習	電気工学科長
	下代 雅裕	教授	応用数学・電気回路Ⅱ・電気工学実験実習	E4担任
	山本 誠一	教授	電気計測・生体情報工学・電気工学実験実習	
	森田 二郎	教授	情報基礎・電気磁気学Ⅰ・電気磁気学Ⅱ・電気法規及び電気施設管理・電気工学実験実習	E1担任
	津吉 彰	教授	電気数学・電気回路Ⅲ・発変電工学・工業英語・電気工学実験実習	
	道平 雅一	准教授	制御工学・パワーエレクトロニクス・電気数学・電気工学実験実習	
	山本 和男	准教授	電気製図・数値解析・送配電工学・電気工学実験実習	E5担任
	赤松 浩	准教授	電気磁気学Ⅰ・電子回路Ⅰ・情報処理・電気工学実験実習	教務副主事
	加藤 真嗣	講師	電気機器Ⅰ・電気機器Ⅱ・電気工学実験実習	E3担任
	市川 和典	助教	論理回路工学・半導体工学・電気工学実験実習	
長谷川 央	技術職員			
中村 透	技術職員			

電子 工学科	林 昭博	教授	応用物理・光エレクトロニクス・電子工学実験実習	
	若林 茂	教授	プログラミングⅠ・ソフトウェア工学・電子工学実験実習	電子工学科長
	笠井 正三郎	教授	応用数学・制御工学Ⅱ・電子工学実験実習	
	橋本 好幸	教授	電気磁気学Ⅰ・電子工学実験実習	教務主事(研究)・専攻科長
	萩原 昭文	准教授	電気回路Ⅰ・電気回路Ⅱ・電気回路Ⅲ	
	戸崎 哲也	准教授	プログラミングⅡ・画像処理・電子工学実験実習	副専攻科長
	西 敬生	准教授	電子デバイス・半導体工学・電子工学実験実習	学生副主事
	小矢 美晴	准教授	電子回路Ⅱ・通信方式・電子工学実験実習	D5担任
	藤本 健司	准教授	情報基礎・情報通信ネットワーク・電子工学実験実習	
	長谷 芳樹	講師	電子回路Ⅰ・電子工学序論・電子工学実験実習	D4担任
八瀬林 美男	技術職員			
小幡 欣矢	技術職員			

応用 化学科	松井 哲治	教授	分析化学Ⅰ・応用無機化学Ⅰ・無機化学Ⅱ・応用化学実験Ⅰ	
	杉 廣志	教授	化学工学Ⅰ・化学工学Ⅱ・化学工学量論・応用化学実験Ⅲ	応用化学科長
	根津 豊彦	教授	分析化学Ⅱ・環境化学・応用化学実験Ⅰ・応用化学実験Ⅱ・応用化学実験Ⅲ	C5担任
	大淵 真一	教授	有機化学Ⅰ・有機合成化学・応用化学実験Ⅱ・応用化学実験Ⅲ	
	九鬼 導隆	准教授	応用物理Ⅰ・応用物理Ⅱ・物理化学Ⅱ・情報処理Ⅱ・応用化学実験Ⅲ	
	渡辺 昭敬	准教授	応用物理Ⅰ・物理化学Ⅰ・物理化学Ⅱ・基礎化学実験・応用化学実験Ⅱ	C3担任
	宮下 芳太郎	准教授	無機化学Ⅰ・無機化学Ⅱ・応用化学実験Ⅰ・応用化学実験Ⅲ	
	小泉 拓也	講師	有機化学Ⅱ・応用有機化学Ⅰ・有機合成化学・応用化学実験Ⅱ	教務副主事
	根本 忠将	講師	高分子化学・化学英語・基礎化学実験・応用化学実験Ⅱ	
	牧野 貴至	講師	情報基礎・化学工学Ⅰ・化学工学Ⅱ・応用化学実験Ⅲ	C4担任
	下村 憲司朗	講師	生物化学・生物工学・応用微生物・基礎化学実験・応用化学実験Ⅲ	
	向村 一晃	技術職員		
高橋 晋	技術職員			

都市 工学科	中西 宏	教授	構造力学Ⅱ・防災工学・CAD基礎・都市工学実験実習	
	橋本 渉一	教授	都市システム工学・数理計画学・交通システム工学・都市工学実験実習	都市工学科長
	中尾 幸一	教授	測量学・都市情報工学・設計製図・都市工学実験実習	
	辻本 剛三	教授	水理学・都市工学実験実習・工業英語	S3担任
	高科 豊	准教授	材料学・コンクリート工学・設計製図・都市工学実験実習	
	山下 典彦	准教授	構造力学Ⅰ・土質力学・応用数学Ⅱ・都市工学実験実習	教務副主事
	並河 努	准教授	応用数学Ⅰ・土質力学・情報数値解析・都市工学実験実習	S4担任
	柿木 哲哉	准教授	都市環境工学Ⅰ・環境水工学Ⅱ・都市工学実験実習	
	上中 宏二郎	准教授	構造力学Ⅰ・構造力学Ⅱ・情報処理・都市工学実験実習	
	宇野 宏司	准教授	環境生態・水理学・都市環境工学Ⅱ・都市工学実験実習	学生副主事
	亀屋 恵三子	講師	情報基礎・デザイン工学・CAD基礎・応用CAD・景観工学・都市工学実験実習	S5担任
	光田 純二	技術職員		
	西阪 和佳	技術職員		

Ⅲ 授業科目の履修について

下記に「学生便覧」の「学業成績評価及び進級並びに卒業認定に関する規程」について抜粋した条文を掲載する。それ以外の条文についても学生諸君にとって修学上関係の深い諸規則なので、別途配布されている「学生便覧」を必読すること。

第1章 総 則

第1条 この規程は神戸市立工業高等専門学校における試験・学業成績の評価・進級及び卒業の認定について定める。

第2章 単 位 数

第2条 単位数は、次のとおりとする。

- (1) 学修単位Ⅰ 1単位は30単位時間の授業を行う。
- (2) 学修単位Ⅱ 1単位を45時間の学修を必要とする内容とし、15単位時間の授業を行う。
- (3) 学修単位Ⅲ 1単位を45時間の学修を必要とする内容とし、30単位時間の授業を行う。

なお、50分の授業は1単位時間、90分の授業は2単位時間として扱う。

1～3学年の授業科目の単位数は学修単位Ⅰを適用。4～5学年の授業科目の単位数は学修単位Ⅰ、学修単位Ⅱ及び学修単位Ⅲで構成する。

第3章 試 験

第3条 試験は、定期試験、中間試験及び必要に応じて随時、臨時試験を行うものとする。

2 定期試験及び中間試験は、期日を定めて実施するものとし、試験の開始10日前までに、試験科目及び時間表を学生に発表する。

第4条 定期試験及び中間試験を病気・忌引などその他やむを得ない理由で受験できなかった学生に対しては追試験を行うことができる。

2 追試験の成績は、その試験成績の80%で評価する。

第5条 故意に試験を忌避したと認められた者は、当該試験の成績を0点とする。

2 試験中、不正行為を行った者は、当該試験期間中の全科目の試験成績を0点とする。

第4章 学業成績の評価

第6条 年間欠課時数が年間授業総時間の1/3を超えない科目を「履修科目」とし、「評価」を行う。1/3を超える科目は「不履修科目」とし、評価は行わない。

第7条 学業成績の評価は、各授業科目ごとに、試験の成績及び平素の成績を総合して行う。

2 試験成績は、定期試験、中間試験により評価するものとする。

3 平素の成績は、学習態度が良好なことを前提としてレポート及び演習等を総合して評価するものとする。

4 学年成績の評価は、各学期末の学業成績を総合して行う。ただし、前期のみ又は後期のみで修了する科目については、学期末の学業成績を学年成績とする。

第8条 科目担当教員は、必要に応じてレポート及び演習等の成績を試験成績に代えることができる。

第9条 科目担当教員が二人以上のときの学業成績は、当該担当教員が協議してその評価を行う。

第10条 学業成績は100点法により評価し、60点以上の科目は単位の「修得」を認定する。評価が60点未満は「未修得」となる。

2 卒業研究の評価は、優、良、可及び不可の区別で行う。

3 学外実習を修得した場合の評価は、認定となる。

4 学業成績の優、良、可及び不可の評語の区分は次の通りとする。

学業成績	評語
80点～100点	優
70点～79点	良
60点～69点	可
0点～59点	不可

IV 試験についての注意事項

1. 受験上の注意事項（定期試験・中間試験・追試験）

① 中間試験は授業時間、定期試験は学校行事として扱うものとする。

② 試験教室では、監督の先生に指示された座席で受験すること。

机は原則として6列に並べ、特に指示のない場合は窓側の前から出席番号順に着席すること。

③ 試験開始後、30分以上遅刻してきた者は受験できない。また、試験開始後30分以内は退室できない。尚、延着証明は遅刻を免除するためのものであり、試験に関して特別に扱うことはない。ただし、両主事判断により特別措置を講じることもある。

- ④ 教室での受験が物理的に不可能な場合は、両主事の判断による別室受験を認めることもある。
- ⑤ 鉛筆（シャープペンシル）・消しゴムのほか、許可されたもの以外の使用は認めない。また、電卓など持ち込みを許可された物の貸し借りはしないこと。
- ⑥ 机の中には何も入れないこと。持ち物は、教室の前後に置くか、または机のフックに掛けておくこと。また、下敷などを使用する場合には、あらかじめ監督の先生の許可を得ておくこと。
- ⑦ 試験中、いったん退室した者の再入室は認めない。試験が終了しても答案用紙の回収が済むまで教室への再入室はできない。
- ⑧ 廊下での試験の待機は他の受験者への迷惑となるので、他所（食堂・図書館等）を利用すること。
- ⑨ 授業中と同様、携帯電話、PHSのスイッチは切っておくこと。
- ⑩ 試験監督からの終了の合図の後は速やかに筆記用具を置くこと。
- ⑪ 答案用紙の回収は、最後尾の学生のみが行い、その他の学生は試験監督の指示があるまで絶対に席を立たず、静かに待機すること。

2. 試験における不正行為

[I] 以下の行為は不正行為（カンニング）とみなす。

- ① 予め机などに書き込んだり、またはカンニングペーパーなどを用意すること。また、それらを参照すること。
- ② 使用を許可されていないノート、テキスト、参考書、辞書などを参照すること。
- ③ 許可された場合を除き、電卓に式、数値などをあらかじめ記憶させておき、参照すること。
- ④ 答案を互いに交換すること。
- ⑤ 他人の答案を写し取ったり、写させたりすること。
- ⑥ 試験中に私語をすること。
- ⑦ 他人に受験を依頼すること。
- ⑧ 試験中不審な行為をし、監督の先生の指示に従わないこと。
- ⑨ 以上に類する行為をすること。

[II] 不正行為をした場合には、以後の受験は認めない。

当該学生は監督の先生の指示を受けること。なお、当該試験期間の全試験科目は0点となる。更に、1週間の停学処分（初回）となる。

3. 追試験

- ① 中間・定期試験を病気・忌引など、やむを得ない理由で欠席した試験科目の追試験を希望する学生は、追試験受験願書（所定の用紙）にその欠席理由を証明する書

類等を添え、事務室学生係に提出すること。教務主事が可否を決定する。

- ② 追試験が認められる理由は以下のような場合である。
 - (イ) 病気・負傷（医師の診断書、薬袋等が必要）
 - (ロ) 忌引（三親等以内）
 - (ハ) 天災・交通機関等の障害（証明書を必要とする場合がある）
 - (ニ) 就職・編入学受験（証明する書類等が必要）
 - (ホ) 以上に相当する理由のある場合
- ③ 追試験許可者には、教科担当教官宛の「追試験実施依頼書」を発行する。
追試験の実施日・時間等については、教科担当教官から直接指示を受けること。ただし、非常勤講師の担当科目の場合はクラス担任から指示を受けること。
- ④ 追試験の成績は、その試験成績の80%で評価する。ただし、インフルエンザなど学校保健法施行規則第19条にかかげる第1種・第2種・第3種伝染病による出席停止に伴う追試験の成績は100%で評価する。（学生便覧P.78参照）

4. 再評価

- ① 進級認定会議の結果、不合格となった科目の再評価を許可された学生は、不合格科目の再評価を受けることができる。なお、選択科目については再試験の科目を指定することがある。
- ② 再評価で許可された学生が再評価を受けるためには、各自所定の申請を行う必要がある。前期修了科目の内、必修科目については後期に再評価を受けることができる。
- ③ 学年末には、5年生は再評価許可となった学生氏名、科目名をクラス担任が該当学生に連絡するので各自確認すること。試験実施期日・時間、場所等についても各自確認すること。
- ④ 再評価合格による成績の評価は、60点となる。

5. 防災警報および交通機関スト時の定期試験の取り扱い

『試験の場合の取り扱いは、通常の授業の場合と異なるので、注意すること。』

兵庫県の阪神又は播磨南東部に「暴風警報・大雨警報又は洪水警報」が発令されたとき、またはJR西日本（大阪－姫路間）、神戸市営地下鉄の「スト」の場合の処置は以下のとおりとする。

- ① 午前7時までに警報が解除された場合、またはストが解決した場合は、平常どおり9時から試験を実施する。
- ② 午前10時までに警報が解除された場合、またはストが解決した場合は、その日の試験を午後に移動して、午後1時より実施する。当日、午後に予定されている試験については、後日、連絡する。
- ③ 午前10時までに警報が解除されない場合、またはストが解決しない場合は自宅学習日とする。また、その日の試験は試験最終日の次の日に（試験最終日が金曜日の場合は翌週の月曜日）移動して、試験期間を1日延長し、実施する。

- ④ 山陽電鉄, 神戸電鉄, 阪急電鉄, 阪神電鉄のいずれかがストのときには, 開始時間を午前 10 時からに移動して, 実施する。(3 限目以降の試験は午後 1 時より行う.)
- ⑤ その他の交通機関がストの場合は, 平常どおり 9 時から試験を実施する.
- ⑥ 試験中に警報が発令された場合には, 教務主事の判断によって措置する.

V 伝染病による学生の出席停止期間

出席停止の期間の基準を以下の表に定めるが, 学生が下記病気のため欠席したときは, 出席停止届に医師の登校証明書を添付のうえ届け出るものとする.

	病名	期間の基準
第 1 種	エボラ出血熱・クリミア・コンゴ出血熱・ペスト, マールブルグ病, ラッサ熱, 急性灰白髄炎, コレラ, 細菌性赤痢, ジフテリア, 腸チフス, パラチフス, 重症急性呼吸器症候群(病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る), 痘そう	治癒するまで
第 2 種	インフルエンザ	解熱した後2日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで
	麻疹	解熱した後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎	耳下腺の腫脹が消失するまで
	風疹	発疹が消失するまで
	水痘	すべての発疹が痂皮化するまで
	咽頭結膜熱	主要症状が消退した後2日を経過するまで
第 3 種	結核	病状により学校医その他の医師において伝染のおそれがないと認めるまで
第 3 種	腸管出血性大腸菌感染症, 流行性角結膜炎, 急性出血性結膜炎, その他の伝染病	伝染のおそれがないと認めるまで

VI 諸手続一覧

種 類	用紙の交付	提 出 先	時 期
追試験受験願	学生係	担任	病気・忌引等により中間・定期試験を受験できなかった場合
未修得科目再評価申請書	学生係	担任	所定の期間
未修得科目再評価申請書(非常勤)	学生係	学生係	所定の期間
再履修免除申請書	学生係	担任	4・5年生で所定の期間
選択科目受講辞退願書	学生係	担任	4・5年生で所定の期間
選択科目追加履修申請書	学生係	担任	4・5年生で所定の期間
公用欠席届	学生係	担任(クラブは顧問)	その都度
出席停止届	学生係	担任	その都度
遅刻免除願	事務室前カウンター	事務室前カウンター	遅刻当日の昼休み

VII 行事予定表

前 期	行 事
4月	始業式・入学式 講演会・身体測定 1年オリエンテーション
5月	2～5年学年学科行事 1年野外活動 授業公開
6月	創立記念日 中間試験 前期専攻科入試
7月	保護者会 夏季休業日(7/21-8/31) (編入試)
8月	オープンキャンパス
9月	定期試験

後 期	行 事
10月	全校集会 スポーツ大会 後期専攻科入試
11月	高専祭 (産学官フォーラム)
12月	中間試験 冬季休業日(12/25-1/7)
1月	3年学習達成度試験 (推薦入試) 研修旅行
2月	定期試験 (学力入試) テスト返却・達成度アンケート入力
3月	卒研発表会 終業式 卒業式 学年末・春季休業日(3/20-3/31・4/1-4/7)

VIII 概要・系統図

電子工学科(Department of Electronic Engineering)

1. 養成すべき人材像

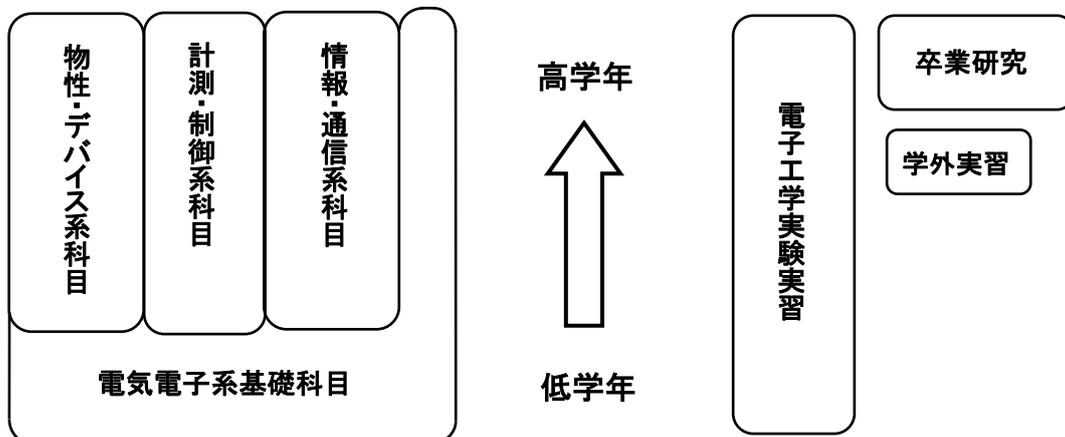
数学、自然科学、情報処理技術、エレクトロニクスの基礎技術を習得し、豊かな一般教養のもと創造性も合わせ持ち、多種多様な課題を解決できる実践的技術者を養成する。

2. 教育の特徴

エレクトロニクス（電子工学）はまさに現在の高度情報化社会を支えている学問分野である。電話に始まり、ラジオ、テレビ、レーザ、ロボット、コンピュータ、情報ネットワークなど電子工学の応用製品は次々と人々の夢を実現してきた。電子工学科では、今後もますます多様化、高度化していくであろうエレクトロニクス分野の第一線で活躍できるように、電気電子系基礎科目をベースに物性・デバイス系科目、計測・制御系科目、情報・通信系科目をバランスよく配置した5年間の系統的なカリキュラムで学ぶことができる。また電子工学科には、情報（コンピュータのハードウェアとソフトウェア）、通信、計測、制御、半導体、音響、光エレクトロニクスなどの実験を行うための設備をもった多くの実験室があり、実験実習、学外実習、卒業研究などを通して、実践的で独創的な開発研究能力を有するエンジニアの養成を目指している。

3. 学習・教育目標

- ①電気電子工学分野に関する基礎知識を身につけ、活用できる。
 - ・電界および磁界に関する諸定理を理解し、それらによって生じる物理現象を説明できる。
 - ・電気回路や電子回路の動作を理解し、基本的な回路を設計できる。
 - ・工学系に必要な情報リテラシーと基本的なプログラミング技術を身につける。
- ②物性や電子デバイスに関する基礎知識を身につけ、活用できる。
 - ・電子部品や電子素子(電子デバイス)に使用される材料の特徴を理解し、取り扱うことができる。
 - ・電子部品や電子素子のしくみと特性を理解し、活用できる。
- ③計測や制御に関する基礎知識を身につけ、活用できる。
 - ・計測機器のしくみを理解し、適切な使用ができる。
 - ・自動計測システムを構築し、計測データの処理ができる。
 - ・電子制御システムを理解し、簡単なシステムを構成できる。
- ④情報や通信に関する基礎知識を身につけ、活用できる。
 - ・コンピュータおよび周辺ハードウェアのしくみを理解し、基本的な回路を設計できる。
 - ・コンピュータソフトウェアを利用活用でき、開発できる。
 - ・情報ネットワークのしくみを理解し、小規模なネットワークを構築できる。



図：電子工学科授業科目の構成

電子工学科の教育課程の体系性と科目系統図 (H21年度開講)

卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力	授 業 科 目 名							
	本科1年	本科2年	本科3年	本科4年		本科5年		
				前期	後期	前期	後期	
(A-1) 数学	数学I 数学II	数学I 数学II	数学I 電気数学	確率統計 応用数学	応用数学			
(A-2) 自然科学	物理 化学	物理 化学	生物	応用物理	応用物理			
(A-3) 情報技術	情報基礎	プログラミングI 論理回路	プログラミングII コンピュータ工学	ソフトウェア工学 数値解析	ソフトウェア工学 数値解析	情報理論	情報理論	
(A-4-ED1) 電気電子基礎	電子工学序論 電子工学実験実習	電気回路I 電子工学実験実習	電気磁気学I 電気回路II 電子工学実験実習	電気磁気学II 電気回路III 電子回路I 電子工学実験実習	電気磁気学II 電子回路I 電子工学実験実習	電子回路II 電子工学実験実習	電子回路II 電子工学実験実習	
(A-4-ED2) 物性・デバイス			電子デバイス 電子工学実験実習	半導体工学 電子工学実験実習	半導体工学 電子工学実験実習	電子応用セ 電子工学実験実習	光エレクトロニクスセ 電子工学実験実習	
(A-4-ED3) 計測・制御			計測工学 電子工学実験実習	電子計測 制御工学I 電子工学実験実習	電子計測 制御工学I 電子工学実験実習	制御工学II 電子工学実験実習	電子工学実験実習	
(A-4-ED4) 情報・通信				ソフトウェア工学 通信方式 電子工学実験実習	ソフトウェア工学 通信方式 電子工学実験実習	コンピュータアーキテクチャセ 情報通信ネットワーク 電子工学実験実習	画像処理セ 情報通信ネットワーク 電子工学実験実習	
(B-1) 論理的説明	国語 電子工学実験実習	国語 電子工学実験実習	国語 論理学 電子工学実験実習	電子工学実験実習	電子工学実験実習	卒業研究 電子工学実験実習	卒業研究 電子工学実験実習	
(B-2) 質疑	電子工学実験実習	電子工学実験実習	電子工学実験実習	電子工学実験実習	電子工学実験実習	卒業研究 電子工学実験実習	卒業研究 電子工学実験実習	
(B-3) 日常英語	英語	英語	英語 英語演習	英語演習	英語演習	英語演習	英語演習	
(B-4) 技術英語						工業英語セ		
(C-1) 応用・解析	電子工学実験実習	電子工学実験実習	電子工学実験実習	電子工学実験実習	電子工学実験実習	電子工学実験実習	電子工学実験実習	
(C-2) 複合・解決				学外実習セ		卒業研究	卒業研究	
(C-3) 体力・教養	保健・体育 地理 歴史 芸術	保健・体育 倫理 歴史	保健・体育 政治・経済	保健・体育	保健・体育	保健・体育 社会科学特講☆ 哲学☆ 日本史☆ 世界史☆ 人文科学特講☆ 経済学☆	社会科学特講☆ 哲学☆ 日本史☆ 世界史☆ 人文科学特講☆ 経済学☆	
(C-4) 協調・報告書				電子工学実験実習	電子工学実験実習	電子工学実験実習	電子工学実験実習	
(D-1) 倫理	電子工学実験実習	倫理 電子工学実験実習	電子工学実験実習	学外実習セ 電子工学実験実習	電子工学実験実習	電子工学実験実習	電子工学実験実習	
(D-2) 異文化	英語	英語	英語 英語演習	ドイツ語☆ 中国語☆	ドイツ語☆ 中国語☆	社会科学特講☆ 哲学☆ 日本史☆ 世界史☆ 人文科学特講☆ 経済学☆	社会科学特講☆ 哲学☆ 日本史☆ 世界史☆ 人文科学特講☆ 経済学☆	

備考 セは選択科目 ☆は並行開講科目で選択必修(各1科目)科目

IX 授業科目一覧

1. 一般科目

各学科共通

授業科目	単位数	学年別配当					備考	
		1年	2年	3年	4年	5年		
必修科目	国語	9	3	3	2	1	全て 学修単位 I	
	倫理	2		2				
	政治・経済	2			2			
	論理学	1			1			
	歴史	4	2	2				
	地理	2	2					
	数学 I	14	6	4	4			
	数学 II	4	2	2				
	確率統計	1				1		
	物理	5	2	2	1			
	化学	5(4)	3(4)	2(0)				
	生物	1(2)		1(2)				
	保健・体育	9	2	2	2	2		1
	芸術	1	1					
	英語	12	4	4	4			
	英語演習	5			1	2		2
	修得単位計	77	27(28)	24(24)	17(16)	6		3
選択科目	ドイツ語	2				2	いずれか 1科目を 選択	
	中国語	2						
	哲学	2				2	いずれか 1科目を 選択	
	日本史	2						
	世界史	2						
	社会科学特講	2						
	人文科学特講	2						
	経済学	2						
	開設単位計	16				4	12	
	修得単位計	4				2	2	
一般科目開設単位計	93	27(28)	24(23)	17(17)	10	15		
一般科目修得単位計	81	27(28)	24(23)	17(17)	8	5		

(注) ()内は、応用化学科の実施単位数である。

2. 専門科目

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	電気数学	2		2			*学修単位 I
	応用数学	2			2 ^{***}		**学修単位 II
	応用物理	2			2 ^{***}		***学修単位 III
	情報基礎	2	2				1~3年は全て
	プログラミング I	2		2			学修単位 I
	プログラミング II	2		2			
	ソフトウェア工学	2			2 ^{***}		
	数値解析	2			2 ^{***}		
	電気磁気学 I	2		2			
	電気磁気学 II	2			2 ^{***}		
	電子デバイス	2		2			
	電子工学序論	2	2				
	半導体工学	2				2 ^{***}	
	電気回路 I	2		2			
	電気回路 II	2		2			
	電気回路 III	2			2 ^{**}		
	計測工学	2		2			
	電子計測	2				2 ^{***}	
	論理回路	2		2			
	コンピュータ工学	2		2			
	電子回路 I	2				2 ^{***}	
	電子回路 II	2					2 ^{***}
	通信方式	2				2 ^{***}	
	情報通信ネットワーク	2					2 ^{***}
	情報理論	2					2 ^{***}
	制御工学 I	2				2 ^{***}	
	制御工学 II	2					2 ^{**}
電子工学実験実習	18	2	4	4	4 [*]	4 [*]	
卒業研究	9					9 [*]	
修得単位計	81	6	10	18	26	21	
選択科目	学外実習	1			1 [*]		
	工業英語	2				2 ^{**}	
	電子応用	2				2 ^{**}	
	光エレクトロニクス	2				2 ^{**}	
	画像処理	2				2 ^{**}	
	コンピュータアーキテクチャ	2				2 ^{**}	
	開設単位計	11				1	10
修得単位計	5以上				4・5年で5以上		
専門科目開設単位合計	92	6	10	18	27	31	
専門科目修得単位合計	86以上	6	10	18	26以上 4・5年で52以上		
一般科目修得単位合計	81	27	24	17	8	5	
一般科目との合計修得単位	167以上	33	34	35	34以上 4・5年で65以上		

X. シラバス

1. 一般科目一覧

■国語

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	国語	舟見 一哉 助教	3	通年	19
2年	必修	国語	土居 文人 准教授	3	通年	21
3年	必修	国語	吉川 敏郎 教授	2	通年	23
4年	必修	国語	中本 百合枝 非常勤講師	1	後期	25

■人文社会

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	歴史	福田 敬子 教授	2	通年	27
1年	必修	地理	八百 俊介 准教授	2	通年	29
2年	必修	倫理	手代木 陽 教授	2	通年	31
2年	必修	歴史	町田 吉隆 准教授	2	通年	33
3年	必修	政治・経済	高橋 秀実 教授	2	通年	35
3年	必修	論理学	本田 敏雄 教授	1	後期	37

■数学

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	数学I	菅野 聡子 准教授	6	通年	39
1年	必修	数学II	吉村 弥子 准教授	2	通年	41
2年	必修	数学I	吉村 弥子 准教授	4	通年	43
2年	必修	数学II	江口 直日 非常勤講師	2	通年	45
3年	必修	数学I	石塚 正洋 教授	4	通年	47
4年	必修	確率統計	八木 善彦 教授	1	後期	49

■理科

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	物理	大多喜 重明 教授	2	通年	51
1年	必修	化学	福本 晃造 助教	3	通年	53
2年	必修	物理	一瀬 昌嗣 講師	3	通年	55
2年	必修	化学	福本 晃造 助教	2	通年	57
3年	必修	生物	森 寿代 非常勤講師	1	前期	59

■英語

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	英語	柳生 成世 教授	4	通年	61
2年	必修	英語	田口 純子 教授	4	通年	63
3年	必修	英語	前田 誠一郎 教授	4	通年	65
3年	必修	英語演習	佐藤 絹子 非常勤講師	1	後期	67
4年	必修	英語演習	(前期)今里 典子 准教授, (後期)エイナー・ニルセン 非常勤講師	2	通年	69
5年	必修	英語演習	(前期)前田 誠一郎 教授, エイナー・ニルセン 非常勤講師 (後期)前田 誠一郎 教授	2	通年	71

■ドイツ語

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
4年	選択	ドイツ語	本田 敏雄 教授	2	通年	73

■中国語

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
4年	選択	中国語	陳 国祺 非常勤講師	2	通年	75

■芸術

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	芸術	大倉 恭子 非常勤講師	1	前期	77

■体育

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	保健・体育	(前期)春名 桂 准教授 (後期)中川 一穂 教授	2	通年	79
2年	必修	保健・体育	(前期)春名 桂 准教授 (後期)小森田 敏 准教授	2	通年	81
3年	必修	保健・体育(前期/体育館種目)	春名 桂 准教授	2	通年	83
3年	必修	保健・体育(前期/グラウンド種目)	小森田 敏 准教授	2	通年	85
3年	必修	保健・体育(前期/テニス)	中川 一穂 教授	2	通年	87
3年	必修	保健・体育(後期/体育館種目)	小森田 敏 准教授	2	通年	89
3年	必修	保健・体育(後期/グラウンド種目)	春名 桂 准教授	2	通年	91
3年	必修	保健・体育(後期/テニス)	中川 一穂 教授	2	通年	93
4年	必修	保健・体育(前期/体育館種目)	中川 一穂 教授	2	通年	95
4年	必修	保健・体育(前期/グラウンド種目)	寺田 雅裕 教授	2	通年	97
4年	必修	保健・体育(前期/テニス)	小森田 敏 准教授	2	通年	99
4年	必修	保健・体育(後期/体育館種目)	中川 一穂 教授	2	通年	101
4年	必修	保健・体育(後期/グラウンド種目)	小森田 敏 准教授	2	通年	103
4年	必修	保健・体育(後期/テニス)	寺田 雅裕 教授	2	通年	105
5年	必修	保健・体育(前期/体育館種目)	寺田 雅裕 教授	1	前期	107
5年	必修	保健・体育(前期/グラウンド種目)	小野 舞衣 非常勤講師	1	前期	109
5年	必修	保健・体育(前期/テニス)	春名 桂 准教授	1	前期	111

■5年選択科目

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
5年	選択	哲学	手代木 陽 教授	2	通年	113
5年	選択	日本史	福田 敬子 教授	2	通年	115
5年	選択	世界史	町田 吉隆 准教授	2	通年	117
5年	選択	社会科学特講	八百 俊介 准教授	2	通年	119
5年	選択	人文科学特講	(前期)今里 典子 准教授, (後期)米澤 優 非常勤講師	2	通年	121
5年	選択	経済学	高橋 秀実 教授	2	通年	123

科目	国語 (Japanese Language and Literature)		
担当教員	舟見 一哉 助教		
対象学年等	電子工学科・1年・通年・必修・3単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B1(100%)		
授業の概要と方針	基礎力の養成を第一の目的とする。〔現代文〕では、評論文・随筆を精確に分析し、理解する方法を学ぶ。また、小説・韻文を読み解き、鑑賞する方法を学ぶ。同時に、わかりやすく、論理的な文章を書くための基礎を学ぶ(グループワークの実施)。また、基礎的な漢字能力を身につける訓練も行う。〔古文〕では、正確に訳出・訓読するための基礎を学ぶ。そして、古代のことば、文化、思想に対する関心および理解を深める。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【B1】 評論文・随筆を精確に分析し、理解する基礎的能力を身につける。		提示された評論文・随筆を論理的に分析し、正確に理解できるか、中間試験と定期試験で評価する。
2	【B1】 小説・韻文の基礎的読解力および鑑賞力を身につける。		提示された小説および韻文を、正しく読解し、鑑賞できるか、中間試験と定期試験で評価する。
3	【B1】 古文および漢文を正確に現代語訳・訓読し、内容を把握する基礎的能力を身につける。		提示された古文・漢文を正確に現代語訳・訓読し、内容を把握できるか、中間試験と定期試験で評価する。
4	【B1】 わかりやすく、論理的な文章を書くための基礎を身につける。		提示されたテーマについて、意見文を書くことができるか、中間試験と定期試験で評価する。
5	【B1】 基礎的な漢字力(準2級程度)および語彙力を身につける。		基礎的な漢字能力、語彙力が身につけているか、中間試験と定期試験で評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験100%として評価する。中間試験、定期試験の平均値を試験成績とする。100点満点で、60点以上を合格とする。		
テキスト	『改訂版 高等学校 標準国語総合』(第一学習社) 配布プリント		
参考書	本多勝一『中学生からの作文技術』朝日選書 野矢茂樹『論理トレーニング101題』産業図書		
関連科目	2年国語		
履修上の注意事項	なし		

授業計画 1 (国語)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	〔現代文〕現代文入門, 漢字の学習(隔週) / 〔古文〕古典入門(1)	〔現代文〕現代文を学習する意義を学ぶ。漢字学習プリントの配布と解答(以後, 隔週実施) 〔古文〕 古文を読むための基礎(仮名遣い, 文法, 活用, 古典常識ほか)を学習。
2	〔現代文〕随筆の読解, 語彙学習プリントの配布と解答(以後, 隔週実施) / 〔古文〕古典入門(2)	〔現代文〕随筆『自立と依存』を精読。語彙学習プリントの配布と解答(以後, 隔週実施) 〔古文〕 古文を読むための基礎(仮名遣い, 文法, 活用, 古典常識ほか)を学習。
3	〔現代文〕随筆の読解 / 〔古文〕説話の読解	〔現代文〕随筆『自立と依存』を精読。〔古文〕 『宇治拾遺物語』のうち「児のそら寝」を読む。
4	〔現代文〕随筆の読解 / 〔古文〕説話の読解	〔現代文〕随筆『自立と依存』を精読。〔古文〕 『宇治拾遺物語』のうち「児のそら寝」を読む。
5	〔現代文〕小説の読解 / 〔古文〕物語の読解	〔現代文〕小説『羅生門』を精読。〔古文〕 『竹取物語』冒頭部(なよ竹のかぐや姫)を読む。
6	〔現代文〕小説の読解 / 〔古文〕物語の読解	〔現代文〕小説『羅生門』を精読。〔古文〕 『竹取物語』冒頭部(なよ竹のかぐや姫)を読む。
7	〔現代文〕小説の読解 / 〔古文〕物語の読解	〔現代文〕小説『羅生門』を精読。〔古文〕 『竹取物語』冒頭部(なよ竹のかぐや姫)を読む。
8	中間試験	前期中間試験を実施。
9	中間試験の解答, 〔現代文〕評論の読解 / 〔古文〕随筆の読解	前期中間試験の解答と解説。〔現代文〕評論『水の東西』を精読。〔古文〕 『徒然草』を読む。
10	〔現代文〕評論の読解 / 〔古文〕随筆の読解	〔現代文〕評論『水の東西』を精読。〔古文〕 『徒然草』を読む。
11	〔現代文〕評論の読解 / 〔古文〕随筆の読解	〔現代文〕評論『水の東西』を精読。〔古文〕 『徒然草』を読む。
12	〔現代文〕評論の読解 / 〔古文〕随筆の読解	〔現代文〕評論『水の東西』を精読。〔古文〕 『徒然草』を読む。
13	〔現代文〕表現の実践(1) / 〔古文〕随筆の読解	〔現代文〕文脈把握・要約の基礎的技術を学習。グループワークの実施 〔古文〕 『伊勢物語』のうち「東下り」の段を読む。
14	〔現代文〕表現の実践(2) / 〔古文〕歌物語の読解	〔現代文〕文脈把握・要約の基礎的技術を学習。グループワークの実施 〔古文〕 『伊勢物語』のうち「東下り」の段を読む。
15	〔現代文〕詩の読解 / 〔古文〕歌物語の読解	〔現代文〕詩『道程』を精読。〔古文〕 『伊勢物語』のうち「東下り」の段を読む。
16	定期試験の解答, 〔現代文〕評論の読解 / 〔古文〕軍記物語の読解	定期試験の解答と解説。〔現代文〕評論『コンコルドの誤り』を精読。〔古文〕 『平家物語』のうち「木曾の最期」を読む。
17	〔現代文〕評論の読解 / 〔古文〕軍記物語の読解	〔現代文〕評論『コンコルドの誤り』を精読。〔古文〕 『平家物語』のうち「木曾の最期」を読む。
18	〔現代文〕評論の読解 / 〔古文〕軍記物語の読解	〔現代文〕評論『コンコルドの誤り』を精読。〔古文〕 『平家物語』のうち「木曾の最期」を読む。
19	〔現代文〕評論の読解 / 〔古文〕軍記物語の読解	〔現代文〕評論『コンコルドの誤り』を精読。〔古文〕 『平家物語』のうち「木曾の最期」を読む。
20	〔現代文〕表現の実践(3) / 〔古文〕紀行文・俳句の読解	〔現代文〕わかりやすく論理的な文章を書くための基礎的技術を学習。伝言文の作成 / グループワークの実施 〔古文〕 『奥の細道』のうち「平泉」を読む。
21	〔現代文〕表現の実践(4) / 〔古文〕紀行文・俳句の読解	〔現代文〕わかりやすく論理的な文章を書くための基礎的技術を学習。意見の提示 / グループワークの実施 〔古文〕 『奥の細道』のうち「平泉」を読む。
22	〔現代文〕表現の実践(5) / 〔古文〕和歌の読解	〔現代文〕わかりやすく論理的な文章を書くための基礎的技術を学習。論説文を書く / グループワークの実施 〔古文〕 『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』を読む。
23	中間試験	後期中間試験の実施
24	中間試験の解答, 〔現代文〕評論の読解 / 〔古文〕漢文入門(1)	後期中間試験の解答と解説〔現代文〕評論『ものまね上手・創造上手の日本技術』を精読。〔古文〕 訓読のための基礎を学習。
25	〔現代文〕評論の読解 / 〔古文〕漢文入門(2)	〔現代文〕評論『ものまね上手・創造上手の日本技術』を精読。〔古文〕 訓読のための基礎を学習。
26	〔現代文〕評論の読解 / 〔古文〕漢文の読解	〔現代文〕評論『ものまね上手・創造上手の日本技術』を精読。〔古文〕 『韓非子』「矛盾」を読む。
27	〔現代文〕評論の読解 / 〔古文〕漢文の読解	〔現代文〕評論『ものまね上手・創造上手の日本技術』を精読。〔古文〕 『韓非子』「矛盾」を読む。
28	〔現代文〕小説の読解 / 〔古文〕漢文(儒教)の読解	〔現代文〕小説『夢十夜』を精読。〔古文〕 『論語』を読む。
29	〔現代文〕小説の読解 / 〔古文〕漢文(儒教)の読解	〔現代文〕小説『夢十夜』を精読。〔古文〕 『論語』を読む。
30	〔現代文〕小説の読解 / 〔古文〕漢文(儒教)の読解	〔現代文〕小説『夢十夜』を精読。〔古文〕 『論語』を読む。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	国語 (Japanese Language and Literature)		
担当教員	土居 文人 准教授		
対象学年等	電子工学科・2年・通年・必修・3単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B1(100%)		
授業の概要と方針	1年に続いて、一般教養としての国語の基礎的学習を行う。現代文は、エッセイ、小説、短歌・俳句の読解法と鑑賞法を学習する。また漢字の学習、グループワークによる文書の作成を通じて、日本語表現のトレーニングを行う。古文は、日本古典文学・古代日本語に関する基礎知識の学習および古典文学作品の現代語訳を通じて、日本語と日本文化についての理解を深める。また、「荘子」(プリントで配布)の読解を通じて、古代中国の思想を学習する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【B1】エッセイ、小説、短歌・俳句の基本的読解方法、鑑賞方法を習得し、その方法によってエッセイ、小説、短歌・俳句を読解・鑑賞できる。		エッセイ、小説、短歌・俳句を的確に読解・鑑賞できているか、中間試験と定期試験で評価する。
2	【B1】文意の明快な文章を書くための知識と方法を習得し、文意の明快な文章を書ける。		明快な文章を書くための知識と方法が身についているか、中間試験と定期試験で評価する。
3	【B1】日本古代語に関する知識を習得し、日本古典文学作品を正確に現代語訳できるようになる。		古代日本語に関する知識が身についているか、日本古典文学作品を正確に現代日本語訳できるか、中間試験と定期試験で評価する。
4	【B1】古代日本の文化、古代中国の思想に関する知識を習得し、それを説明できる。		古代日本の文化、古代中国の思想について理解できているか、中間試験と定期試験で評価する。
5	【B1】実用的な漢字表現を使いこなせるようになる。		実用的な漢字表現の知識について、中間試験と定期試験で評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験100%として評価する。中間試験、定期試験の平均値を試験成績とする。100点満点で、60点以上を合格とする。		
テキスト	「高等学校 国語総合 [改訂版]」：柴田武、金谷治ら著(三省堂)プリント		
参考書	「シリーズ・日本語のしくみを探る(4) 日本語学のしくみ」：町田健編・加藤重広著(研究社) 「日本語の歴史」：山口仲美著(岩波新書)		
関連科目	1年, 3年「国語」。		
履修上の注意事項	なし。		

授業計画 1 (国語)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	村上春樹を読む・漢字の練習 / 古代語のいわゆる「助動詞」の解説	(現代文) 現代日本を代表する小説家, 村上春樹の小説を紹介する。漢字プリントを配布, 解答する(以後, 2週に1回程度これを実施する)。(古文) 古代語のいわゆる「助動詞」について概説する。
2	小説の読解 / 古代語のいわゆる「助動詞」の解説	(現代文) ティム・オプライエン / 村上春樹訳「待ち伏せ」を通読, 読解・鑑賞する。(古文) 古代語のいわゆる「助動詞」について概説する。
3	小説の読解 / 平安時代の日記文学を読む	(現代文) 「待ち伏せ」の読解と鑑賞。(古文) 『土佐日記』「門出」を読む。
4	小説の読解 / 平安時代の日記文学を読む	(現代文) 「待ち伏せ」の読解と鑑賞。(古文) 『土佐日記』「門出」を読む。
5	小説の読解 / 平安時代の日記文学を読む	(現代文) 「待ち伏せ」の読解と鑑賞。(古文) 『土佐日記』「門出」を読む。
6	小説の読解 / 平安時代の日記文学を読む	(現代文) 「待ち伏せ」の読解と鑑賞。(古文) 『土佐日記』「門出」を読む。
7	小説の読解 / 平安時代の日記文学を読む	(現代文) 「待ち伏せ」の読解と鑑賞。(古文) 『土佐日記』「門出」を読む。
8	中間試験	前期中間試験を実施する。
9	中間試験の解答・短歌・俳句の鑑賞 / 鎌倉時代の軍記を読む	(現代文) 中間試験の解答・短歌・俳句を鑑賞する。(古文) 『平家物語』「祇園精舎」を読む。
10	短歌・俳句の鑑賞 / 鎌倉時代の軍記を読む	(現代文) 短歌・俳句を鑑賞する。(古文) 『平家物語』「祇園精舎」を読む。
11	短歌・俳句の鑑賞 / 鎌倉時代の軍記を読む	(現代文) 短歌・俳句を鑑賞する。(古文) 『平家物語』「祇園精舎」を読む。
12	短歌・俳句の鑑賞 / 鎌倉時代の軍記を読む	(現代文) 短歌・俳句を鑑賞する。(古文) 『平家物語』「祇園精舎」を読む。
13	短歌・俳句の鑑賞 / 鎌倉時代の軍記を読む	(現代文) 短歌・俳句を鑑賞する。(古文) 『平家物語』「祇園精舎」を読む。
14	短歌・俳句の鑑賞 / 鎌倉時代の軍記を読む	(現代文) 短歌・俳句を鑑賞する。(古文) 『平家物語』「祇園精舎」を読む。
15	短歌・俳句の鑑賞 / 鎌倉時代の軍記を読む	(現代文) 短歌・俳句を鑑賞する。(古文) 『平家物語』「祇園精舎」を読む。
16	定期試験の解答・エッセイ(評論)の読解 / 江戸時代の紀行文を読む	(現代文) 定期試験の解答・エッセイ(評論), 鈴木孝夫「ものごとことば」を通読する。なお, 後期の授業でも, 与えられた課題に対してグループで文書を作成する「日本語を書くトレーニング」を適宜実施する【グループワーク】。(古典) 松尾芭蕉『奥の細道』「旅立ち」を読む。
17	エッセイ(評論)の読解 / 江戸時代の紀行文を読む	(現代文) 「ものごとことば」を読解する。(古文) 『奥の細道』「旅立ち」を読む。
18	エッセイ(評論)の読解 / 江戸時代の紀行文を読む	(現代文) 「ものごとことば」を読解する。(古文) 『奥の細道』「旅立ち」を読む。
19	エッセイ(評論)の読解 / 江戸時代の紀行文を読む	(現代文) 「ものごとことば」を読解する。(古文) 『奥の細道』「旅立ち」を読む。
20	エッセイ(評論)の読解 / 江戸時代の紀行文を読む	(現代文) 「ものごとことば」を読解する。(古文) 『奥の細道』「旅立ち」を読む。
21	エッセイ(評論)の読解 / 江戸時代の紀行文を読む	(現代文) 「ものごとことば」を読解する。(古文) 『奥の細道』「旅立ち」を読む。
22	エッセイ(評論)の読解 / 江戸時代の紀行文を読む	(現代文) 「ものごとことば」を読解する。(古文) 『奥の細道』「旅立ち」を読む。
23	中間試験	後期中間試験を実施する。
24	中間試験の解答・エッセイ(評論)の読解 / 『莊子』を読む(プリント教材)	(現代文) 中間試験の解答・宮沢賢治の作品を紹介する。(古文) 『莊子』について解説する。
25	宮沢賢治を読む / 『莊子』を読む(プリント教材)	(現代文) 宮沢賢治の小説「紫紺染について」を通読・読解する。(古文) 『莊子』「渾沌」を読む。
26	宮沢賢治を読む / 『莊子』を読む(プリント教材)	(現代文) 宮沢賢治の小説「紫紺染について」を読解する。(古文) 『莊子』「渾沌」を読む。
27	宮沢賢治を読む / 『莊子』を読む(プリント教材)	(現代文) 宮沢賢治の小説「紫紺染について」を読解する。(古文) 『莊子』「渾沌」を読む。
28	宮沢賢治を読む / 『莊子』を読む(プリント教材)	(現代文) 宮沢賢治の小説「紫紺染について」を読解する。(古文) 『莊子』「渾沌」を読む。
29	宮沢賢治を読む / 『莊子』を読む(プリント教材)	(現代文) 宮沢賢治の小説「紫紺染について」を読解する。(古文) 『莊子』「渾沌」を読む。
30	宮沢賢治を読む / 『莊子』を読む(プリント教材)	(現代文) 宮沢賢治の小説「紫紺染について」を読解する。(古文) 『莊子』「渾沌」を読む。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	国語 (Japanese Language and Literature)		
担当教員	吉川 敏郎 教授		
対象学年等	電子工学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B1(100%)		
授業の概要と方針	「現代文」の教科書を使用し近代以降の様々な作品に触れることで、読解・理解・表現の領域において国語の能力の深化・発展させることに重点を置き、さらに言語事項に関する知識の充実を図る。また、それを通して、言語文化への関心を高め、一人一人が独自の物の見方や考え方が身につくように指導する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【B1】 常用漢字が正しく読め、正確に書くことができるようになる。		各単元の最初に常用漢字の読みと、主要な漢字が正確に書けるように指導し、プリント教材も併用してその充実を図り、定期試験で評価する。
2	【B1】 様々な分野の専門用語に関する一定の知識を持つ。		各単元の最初に難解語句の意味や専門用語の解説を行い、それが正確に把握できているかを定期試験で評価する。
3	【B1】 様々な表現技法を身につける。		評論文・小説・詩の読解を通して説明した、各ジャンル固有の表現技法が正確に理解できているかを定期試験で評価する。
4	【B1】 目的に応じて的確に読み取る能力が向上する。		各単元で表現された高度で難解な文章に関しても、正確に論旨を読み取ることができ、それを要約し解説できるか否かを定期試験で評価する。
5	【B1】 作品の読解を通して多様な物の見方や考え方ができ、それを表現できるようになる。		感想文の課題を与え、作者の主張を正確に読み取れているか、それに対する考え方に独自性があるか、論旨が一貫しているか、正しい表記で書かれているか等を評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験90%、レポート10%として評価する。試験成績の平均点（9割）とレポート点（10点満点）を合算して、60点以上を合格とする。		
テキスト	「高校生の現代文」（明治書院） プリント		
参考書	「現代国語例解辞典」（小学館）		
関連科目	2年「国語」 4年「国語」		
履修上の注意事項	無し		

授業計画 1 (国語)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	随想文を読む。	「情けは人のためならず」の全文を通読する。難解な常用漢字の読みの指導と常用漢字の習得を指示する。新出の難解な語句の意味を説明する。全体の文章構成を理解させる。
2	随想文を読む。	文脈を丁寧に追いながら、論旨を把握させ、筆者の主張を的確に読み取れるように指導する。
3	随想文を読む。	表現内容に関する様々な問題を解説する中で、随想文特有の文体についての理解を深める。
4	随想文を読む。	筆者の論述内容を踏まえて、日常生活における様々な「出会い」の持つ意味を、学生自らに考えさせる。
5	科学評論を読む。	「失敗に学ぶ」の全文を通読する。難解な常用漢字の読みの指導と常用漢字の習得を指示する。科学評論固有の用語について解説する。
6	科学評論を読む。	評論の文脈をたどり、個々の文をを解説していく中で論旨を的確に把握できるように指導していく。
7	科学評論を読む。	「失敗」が「創造」の上でいかに不可欠なものかという筆者の論理を、叙述された具体例を通して検証していく。
8	科学評論を読む。	論理的な文章表現を講解する中で、論理的文章表現法を習熟させる。
9	科学評論を読む。	エンジニアである筆者の「失敗に学ぶ」姿勢を、学生自らの物事に取り組む姿勢と照らし合わせることで、「失敗」の持つ意味を考えさせる。
10	詩を鑑賞する。	「永訣の朝」の音読を通して、韻律の理解を深める。とりわけ、方言の活用に注意を払うように指導する。
11	詩を鑑賞する。	詩固有の言語表現、特に修辞(比喻・反復・倒置等)について学習させる。言語(方言を含む)の美しさに対する感覚を養う。
12	詩を鑑賞する。	詩語の理解を通して、そこに表現された詩人の心情を正確に把握させる。
13	詩を鑑賞する。	詩の主題や構成について考えさせるとともに、「生と死」についての理解を深めさせる。
14	感想文を書く。	小説を全文通読して、感想文を書く。
15	プリント教材(語彙を豊かに)	教育漢字の書き取り、常用漢字の読みと書き取り、四字熟語、慣用句の主要なものを抜粋して、学生に取り組みせ習得させる。
16	前期末試験の問題解説と解答。小説を読む。	「山月記」の全文を通読する。
17	小説を読む。	「山月記」の作者の作風、文学史的位置づけ、時代背景等を解説する。難解な常用漢字の読みの指導と常用漢字の習得を指示する。歴史小説特有の難解な語句、特に漢語の意味を重点的に説明する。
18	小説を読む。	作品の主題・構成および表現上の特徴(漢語表現の多用)について学習させる。
19	小説を読む。	主人公の心情あるいは状況の変化を表現に即して性格に読み取れるように指導する。
20	小説を読む。	作品中にある漢詩の読解指導をするとともに、物語の展開にどうかかわっているかを明らかにする。
21	小説を読む。	作品からうかがえる作者の人生観を理解させ、人間や社会に対する洞察を深めさせる。
22	評論文を読む。	「知識の扉」の全文を通読する。難解な常用漢字の読みの指導と常用漢字の習得を指示する。新出の難解な語句の意味を説明する。全体の文章構成を理解させる。
23	評論文を読む。	作者の独自の言い回しや表現技法に留意させ、論理的な文章表現を講解するする中で、学生自身の言語生活が豊かになるように指導する。
24	評論文を読む。	筆者は「知識」をどのように定義し、現代社会が抱えている問題点を、どのように解決へと導いているかを読み取らせる。
25	評論文を読む。	筆者の論理的な表現を理解させ、物事の本質に迫るものの見方、思考のあり方を考えさせる。
26	近代短歌を読む。	近代短歌として取り上げられた、五人の歌人の作風や文学史的位置付けを明らかにして、歌人についての理解を深めさせる。
27	近代短歌を読む。	韻文固有の難解な語句について解説する。
28	近代短歌を読む。	短歌の修辞法を解説し、それが果たす表現効果を理解させ、短歌の鑑賞力を高める。
29	現代短歌を読む。	現代短歌として取り上げられた、五人の歌人の作風や文学史的位置付けを明らかにして、歌人についての理解を深めさせる。
30	現代短歌を読む。	近代短歌から現代短歌への変遷を、作品の鑑賞を通して理解させる。
備考	前期定期試験および後期定期試験を実施する。	

科目	国語 (Japanese Language and Literature)		
担当教員	中本 百合枝 非常勤講師		
対象学年等	電子工学科・4年・後期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B1(100%)	JABEE基準1(1)	(d)2-b,(f)
授業の概要と方針	論理的文章が書けるよう訓練することを目標とする。そのためにさまざまなジャンルの作品を分析し、自分の文章に取り込んでみる。なお、実践的な日本語能力の養成を目的として編集されたテキストを用い、記述・発表・討論などにおいて正確に表現できるコミュニケーション能力を身につけることも、同時に目指していく。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【B1】文章表現の基本を習得する		正しい言葉遣いが理解できているか、定期試験および授業中の発表・提出された文章により評価する。
2	【B1】論理的文章の基本を習得する		文体が統一された論理的文章が書けるか、定期試験および提出物により評価する。
3	【B1】小論文の書き方を習得する		小論文を提出させ、型を守って論理的に書かれているか評価する。なお定期試験も実施する。
4	【B1】日常生活やビジネスの場における正しい言葉遣いを習得する		正しい言葉遣いが理解できているか定期試験および提出物により評価する。
5	【B1】口頭発表で個性的な自己表現ができるようになる		分かりやすい口頭発表のための知識・技術が習得できたか、授業中の演習および定期試験で評価する。
6	【B1】レジュメ、発表資料の作り方を習得する		レジュメ、発表資料の作り方が習得できたか、提出された資料により評価する。
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験90%、レポート10%として評価する。成績は試験90パーセント、提出物(小説・小論文)10パーセントとして評価する。試験は到達目標1・2・3・4・5について実施。到達目標1・2・3・4・6については提出物・演習により評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「日本語表現ガイダンスー情報の収集から発信まで」佐藤嗣男他著(おうふう)		
参考書	「理科系の作文技術」木下是雄著(中央公論新社)		
関連科目	三年「国語」		
履修上の注意事項	特になし		

科目	歴史 (History)		
担当教員	福田 敬子 教授		
対象学年等	電子工学科・1年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(100%)		
授業の概要と方針	困難な日本の転換期といわれる今日を理解する上で、過去の新時代が形成された時点を検証したい。戦国期から幕藩体制の成立に着目して、具体的事実の面白さを史料や図表から読み取り、想像力と創造力をつけて、豊かな教養を身につける契機になってくれればと思う。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C3】 基本的な史実を把握した上で、各事件の特徴および歴史的事象の関連が理解できる。		中間試験および定期試験で評価する。
2	【C3】 授業計画に従い戦国期から幕藩体制の成立を中心に学習するが、信長・秀吉・家康の個性を知る。		中間試験および定期試験で評価する。
3	【C3】 史料を読んでその内容を理解し、図や表により歴史理解を深める。		中間試験および定期試験で評価する。
4	【C3】 教科書表紙の裏、「古代の行政区画」の地図作成を夏休みの課題とする。国名・県境・県名・県庁所在地名を、それぞれ色分けして、見やすいように1枚に作成し(大きさはA3以下)、現在の日本の府県を再確認する。		「古代の行政区画」の地図作成を夏休みの課題とし、国名・県境・県名・県庁所在地名を、それぞれ色分けして、見やすいように1枚に作成した(大きさはA3以下)提出物で評価する。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験85%、「古代の行政区画」地図の提出15%、として評価する。なお、試験成績は、中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	『詳説日本史』石井進・五味文彦・笹山晴生・高埜利彦ほか著(山川出版社) 『最新日本史図表』外園豊基編集代表(第一学習社)		
参考書	『日本史B用語集』(山川出版社) 『角川日本史辞典』(角川書店)		
関連科目	歴史(2年)・日本史(5年)・世界史(5年)		
履修上の注意事項	・教科書を授業前に読んでおくことを望む。		

授業計画 1 (歴史)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	シラバスの説明・戦国時代	シラバスの説明をし、戦国時代の予備知識を問う。
2	戦国大名の登場(1)	いつ頃どこの国にどんな戦国大名がいたかを知る。
3	戦国大名の登場(2)	戦国大名の出目や家臣団の組織化について理解する。
4	戦国大名の登場(3)	家法や分国法の史料を読み、戦国大名の分国支配の様子について理解する。
5	戦国大名の登場(4)	堺や博多を中心とする都市の発展や、京の町衆のような都市市民の活動について理解する。
6	ヨーロッパ人の東アジア進出	スペイン・ポルトガルが中心となって大航海時代が始まり、中国・日本・朝鮮などにヨーロッパ人が参入する様子について理解する。
7	南蛮貿易とキリスト教	鉄砲伝来を中心とする南蛮貿易と、キリスト教伝来後の日本について理解する。
8	中間試験	1週目から7週目の内容について試験を行う。
9	中間試験の解答	中間試験の解答を通じて、これまでの知識を確認し、次のテーマに進む。
10	織田信長(1)	織田信長の全国統一課程を知る。
11	織田信長(2)	織田信長の性格を知り、斬新な政治とともに、本能寺の変が起きた理由を探る。
12	豊臣秀吉(1)	豊臣秀吉が全国統一事業をどのように完成させたか理解する。
13	豊臣秀吉(2)	史料「太閤検地」を読み、検地が後世に与えた影響について理解する。
14	豊臣秀吉(3)	史料「刀狩令」を読み、刀狩令が後世に与えた影響について理解する。
15	豊臣秀吉(4)	史料「バテレン追放令」を読み、秀吉の対外政策を知り、朝鮮侵略の無謀さを知る。
16	桃山文化	主な建築に城郭が加わった点など、桃山文化の特色を理解する。
17	町衆の生活・南蛮文化	富裕な町衆文化や、南蛮貿易によってもたらされた南蛮文化について理解する。
18	江戸幕府の成立・幕藩体制	関ヶ原の戦いや大坂の役を見て江戸幕府の成立を知り、史料「武家諸法度(元和令・寛永令)」を読み、幕府が諸大名を従わせる過程を見る。
19	幕府と藩の機構	幕府の職制や月番交代の制度を知り、藩では俸禄制度がとられ、職制が整備される様子を見る。
20	朝廷と寺社	史料「禁中並公家諸法度」から幕府の朝廷統制を知り、寺院法度・寺請制度などを通して、宗教や民衆を支配した様子を見る。
21	村と百姓	幕藩体制の基本となった本百姓体制(税・組織など)を理解する。
22	町と町人・身分秩序	城下町を中心に町と町人の様子を知り、近世社会の身分秩序を理解する。
23	中間試験	16週目から22週目の内容について試験を行う。
24	中間試験の解答	中間試験の解答を通じて、これまでの知識を確認し、次のテーマに進む。
25	初期の外交	江戸初期の朱印船貿易が盛んだった時代(慶長遣欧使節・日本町など)を知る。
26	鎖国政策(1)	キリスト教禁止から鎖国令がだんだん強化されていく様子を知る。
27	鎖国政策(2)	島原の乱を契機に鎖国を完成させた幕府が、更に統制力を強化することを理解する。
28	長崎貿易	オランダ・清との長崎貿易の様子を理解する。
29	朝鮮と琉球・蝦夷地	朝鮮・琉球・蝦夷地とは、江戸時代にどんな交易を行っていたかを知る。
30	寛永期の文化	元禄文化に先行する江戸初期の寛永期の文化について理解する。
備考	前期、後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	地理 (Geography)		
担当教員	八百 俊介 准教授		
対象学年等	電子工学科・1年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(100%)		
授業の概要と方針	はじめに、地形・気候の形成要因を学習し、地形図から地形等の情報を読み取る手法、植生・土壌・農業と気候との連関を学習する。次に、人口変化と人口構成の地域的差異の要因、工業の立地要因、環境との関係を学習する。また、国内産業と貿易の関連を学習する。最後に、都市の内部構造とその形成要因を学習する。基本的な地理的情報を各種資料から検索する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C3】自然現象(気候、地形、植生、土壌)の形成要因が理解でき、資料・地形図等から類型・分布等を判別することができる		自然現象(気候、地形、植生、土壌)の形成要因が理解でき、資料・地形図等から類型・分布等を判別することができるか中間試験で評価する
2	【C3】産業(農業、工業)の分類と立地条件が理解でき、資料・地図から類型・分布等を判別できる。産業と貿易の関係が理解できる		産業(農業、工業)の分類と立地条件が理解でき、資料・地図から類型・分布等を判別できるか、産業と貿易の関係が理解できるかを中間試験および定期試験で評価する
3	【C3】人口変化・人口構成の形成要因が理解でき、地域特性が推察できる		人口変化・人口構成の形成要因が理解できているか、データから地域特性が推察できるか中間試験で評価する
4	【C3】都市の内部構造とその形成要因・変化、都市問題が理解できる		都市の内部構造とその形成要因が理解できているか、データから地区・都市特性が判別できるか定期試験で評価する
5	【C3】国内外の地誌情報を検索し、地域が特定できる		国内外の地誌情報を検索し、地域が特定できるか課題で評価する
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験85%、レポート15%として評価する。100点を満点とし、60点以上を合格とする。試験成績は中間試験、定期試験の平均点とする。		
テキスト	高橋彰他「新詳地理B(初訂版)」: 帝国書院		
参考書	高校地理B課程に関するもの		
関連科目	なし		
履修上の注意事項			

授業計画 1 (地理)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	地形と営力1	大地形・小地形の分類と形成要因について学習する
2	地形と営力2	第1週目に同じ
3	地形と営力3	第1週目に同じ
4	地形図の読図1	地形図から各種情報を読み取る方法を学習する
5	地形図の読図2	第4週目に同じ
6	地形図の読図3	第4週目に同じ
7	地形図の読図4	第4週目に同じ
8	中間試験	第1週目から第7週目の範囲で試験を行なう
9	気候要素と特性1	気候の形成要因を学習し, データから気候特性を読み取り, 地点を特定する
10	気候要素と特性2	第9週目に同じ
11	気候要素と特性3	第9週目に同じ
12	気候と土壌・植生・農業1	気候ごとの土壌・植生・農業を学習する
13	気候と土壌・植生・農業2	第12週目に同じ
14	気候と土壌・植生・農業3	第12週目に同じ
15	気候と土壌・植生・農業4	第12週目に同じ
16	人口の変化と要因1	人口変化の社会的・経済的要因を学習する
17	人口の変化と要因2	第16週目に同じ
18	人口構成と地域1	人口構成と地域特性の関係を学習する
19	人口構成と地域2	第18週目に同じ
20	工業立地1	工業立地の類型を学習する
21	工業立地2	第20週目に同じ
22	工業立地3	第20週目に同じ
23	中間試験	第16週目から第22週目の範囲で試験を行なう
24	貿易と地域1	貿易に関するデータから地域特性を識別する方法を学習する
25	貿易と地域2	第24週目に同じ
26	都市の内部構造1	都市の内部構造とその形成要因を学習する
27	都市の内部構造2	第26週目に同じ
28	都市の内部構造3	第26週目に同じ
29	都市の変化と都市問題1	都市の成長と都市問題について学習する
30	都市の変化と都市問題2	第29週目に同じ
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科目	倫理 (Ethics)		
担当教員	手代木 陽 教授		
対象学年等	電子工学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(20%) D1(80%)		
授業の概要と方針	現代社会において私たちはいかに生きるべきであろうか。人間として「よく生きる」ことを先人たちの思想や現代社会の問題を通して学び、自らの生き方を考える姿勢を身につける。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C3】 青年期の特徴を理解し、自らの問題として考えることができる。		青年期の特徴についての理解度を前期中間試験で評価し、自らの問題として考えることができるかをレポート課題で評価する。
2	【C3】 「思想の源流」と言われる先人の倫理思想を正しく理解できる。		ギリシャの思想の理解度を前期中間試験で、キリスト教、イスラーム、仏教思想の理解度を前期定期試験で評価する。
3	【C3】 現代社会の前提となった近代の倫理思想を正しく理解できる。		近代における人間の尊厳の思想の理解度を後期中間試験で、近代科学・民主社会の思想の理解度を後期定期試験で評価する。
4	【C3】 現代社会における倫理的問題を正しく理解できる。		高齢社会、高度情報社会、グローバル化の問題についての理解度を後期中間試験で、生命倫理、環境倫理の問題についての理解度を後期定期試験で評価する。
5	【D1】 現代社会における倫理的問題について自分の意見を矛盾なく展開できる。		高齢社会、高度情報社会、グローバル化、生命倫理、環境倫理の問題について自分の意見を矛盾なく展開できるかを後期中間試験及び定期試験の作文問題とレポート課題で評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験80%、レポート20%として評価する。レポート評価には授業の課題、自主課題のレポート評価とノートの評価が含まれる。なお、試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「高等学校 倫理」：越智貢他（第一学習社） 「最新倫理資料集 思想家からのメッセージ」（再訂版）（第一学習社）		
参考書	なし		
関連科目	哲学		
履修上の注意事項	なし		

授業計画 1 (倫理)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	「倫理」とは	「倫理」という言葉の意味を漢字の成り立ちから考える。1年間の授業の概要、評価方法について説明し、最近のニュースの中から倫理的問題を取り上げる。
2	青年期の特徴と課題	青年期の特徴、青年期の発達課題としてのアイデンティティの確立、パーソナリティと性格、欲求と適応などの問題を解説する。
3	青年期の人間関係	青年期に特有の恋愛や性の問題について考える。セクシュアル・ハラスメントなどの社会問題も取り上げる。
4	人間としての自覚	人間の歴史の最初期において人間の生き方を導いた「思想の源流」について解説する。
5	ギリシャの思想(1)	初期自然哲学の形成、ソフィスト、ソクラテスの思想について解説する。
6	ギリシャの思想(2)	ソクラテスの死の意義について考える。国法を尊重するとはどういうことか、憲法9条の問題を通して現代のわれわれの問題として考える。
7	ギリシャの思想(3)	プラトン、アリストテレスの思想について解説する。
8	前期中間試験	青年期の特徴と課題、青年期の人間関係、ギリシャの思想の範囲で試験を実施する。
9	キリスト教(1)	新約聖書から「放蕩息子の物語」を取り上げ、信仰するとはどういうことか考える。旧約聖書とユダヤ教の思想について解説する。
10	キリスト教(2)	パレスチナ問題の歴史について解説し、和平について考える。
11	キリスト教(3)	新約聖書とイエスの思想について解説する。
12	イスラーム(1)	イスラームの成立史と信仰の特徴について解説する。
13	イスラーム(2)	国際社会におけるイスラームの位置づけについて解説する。
14	仏教(1)	仏教の成立史とゴータマ=シッダッタの思想について解説する。
15	仏教(2)	日本仏教の展開について解説する。
16	現代の特質と倫理的課題(1)	科学技術の進歩によって生じた現代の諸問題は技術的解決のみならず、社会的合意が必要な倫理的問題でもあることを解説する。
17	現代の特質と倫理的課題(2)	高齢社会の問題を現代の家族の変容との関係において解説し、その対策を考える。
18	現代の特質と倫理的課題(3)	高度情報社会におけるプライバシーや知的財産権の問題を解説し、その対策を考える。
19	現代の特質と倫理的課題(4)	グローバル化が進む世界の現状を解説し、レポート課題を通して真の国際人とは何かを考える。
20	人間の尊厳(1)	「人間の尊厳」とは何かを、その思想的源泉であるルネサンスまで遡って考える。
21	人間の尊厳(2)	人間の尊厳を「人格」に見出したカントの思想を解説し、自由とは何かを考える。
22	人間の尊厳(3)	現代の遺伝子技術と人間の尊厳の問題について考える。
23	後期中間試験	現代の特質と倫理的課題、人間の尊厳の範囲で試験を実施する。
24	近代の科学革命と自然観	近代科学の自然観とF. ベーコンの思想について解説する。
25	自由で平等な社会の実現(1)	すべての人間の平等を目指す民主社会の思想的源泉を17-18世紀の社会契約説に遡って解説する。
26	自由で平等な社会の実現(2)	18-19世紀の功利主義の展開と、これを批判した現代の正義論について解説する。
27	生命倫理と課題(1)	臓器移植や、体外受精や代理母などの生殖医療技術の倫理的問題を考える。
28	生命倫理と課題(2)	安楽死と尊厳死の問題を解説し、「生命の尊厳」を守ることと「生命の質」を選ぶことが両立するかという問題を考える。
29	環境倫理と課題(1)	地球温暖化の問題を通して、環境保護と人間間の平等の両立について考える。
30	環境倫理と課題(2)	生態系の保全を目的とする「自然の権利」について解説し、人間以外の生物に生きる権利があるかという問題を考える。
備考	前期、後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	歴史 (History)		
担当教員	町田 吉隆 准教授		
対象学年等	電子工学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(100%)		
授業の概要と方針	17世紀から19世紀にかけての歴史を学ぶ。昨年度の1年生歴史の内容を受けて、日本の江戸時代にあたるこの時期の世界の動きを探る。各地域社会の動きを他地域との関係から眺めることによって、その社会の特色を探ることを目標とする。「国際化」「グローバリズム」が注目される現在、「国民国家」の成立過程をを考えてみる必要があるだろう。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C3】17世紀から19世紀にかけての世界の動きを、歴史的 事件や事象の内容相互に関連させながら理解することができる。		17世紀から19世紀にかけての世界の動きを、歴史的 事件や事象の内容を相互に関連させて理解できているかどうかを中間 試験および定期試験で評価する。
2	【C3】世界の各地域における社会的、文化的な歴史環境を 理解することができる。		世界の各地域における社会的、文化的な歴史環境に関する理 解力を、中間試験および定期試験で評価する。
3	【C3】歴史的な事件や事象の内容と因果関係を、正確かつ丁 寧に解説、表現することができる。		授業で扱った歴史的な事件や事象の内容と因果関係についての 理解を、歴史プリントおよびノート検査で評価する。
4	【C3】歴史的な事象に対する適切な評価、価値判断を、具体 的な事件に基づいて、正確に表現することができる。		各自が興味を持つ歴史的な事象をテーマに設定して作成するレ ポートの内容で評価する。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験70%、レポート20%、歴史プリント、ノート10%として評価する。到達目標1, 2, 3については中 間および定期試験4回の平均点で評価する。また到達目標3については歴史プリント作成およびノート検査で 評価する。到達目標4についてはレポートで評価する。これらを総合して100点満点で60点以上を合格とする		
テキスト	『詳説世界史』佐藤次高・木村靖二・岸本美緒ほか著 (山川出版社) 『グローバルワイド最新世界史図表』三訂版 第一学習社編集部編 (第一学習社)		
参考書	『山川世界史小辞典』改訂新版 世界史小辞典編集委員会編 (山川出版社) 『角川世界史辞典』西川正雄・川北稔ほか編 (角川書店)		
関連科目	歴史 (1年)・日本史 (5年)・世界史 (5年)		
履修上の 注意事項	教科書を授業前に読んでおくことを期待する。授業に参加する姿勢の乏しい者については個別に注意する。		

授業計画 1 (歴史)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	導入	世界史における地域間の交流, 文化変容, 「時代精神」について考える。
2	暦と歴史	キリスト教文化圏, イスラーム教文化圏, 東アジア文化圏における暦と紀年方法の比較を通じて, その文化の相違点と異文化交渉の歴史について理解する。
3	二つの戦い(1)	アルマダ海戦がヨーロッパにおける勢力関係と世界に与えた影響について理解する。
4	二つの戦い(2)	文禄・慶長の役(壬辰・丁酉倭乱)が東アジア世界に与えた影響について理解する。
5	17-18世紀のアジア諸地域(1)	明清交替と東アジア諸地域の動向を理解する。
6	17-18世紀のアジア諸地域(2)	ムガル帝国の興亡と南アジア, 東南アジア諸地域の動向を理解する。
7	17-18世紀のアジア諸地域(3)	トルコ, イランなどイスラーム文化圏の動向を理解する。
8	中間試験	第1週から第7週までの内容について試験を行う。
9	中間試験の解答	中間試験の内容について解説する。これまでに得られた17-18世紀アジア諸地域の関係に関する知見を確認する。
10	ヨーロッパ主権国家体制(1)	17世紀のヨーロッパ社会の動きを理解する。
11	ヨーロッパ主権国家体制(2)	三十年戦争とピューリタン革命がその後のヨーロッパ社会に与えた影響を理解する。
12	ヨーロッパ主権国家体制(3)	重商主義の隆盛とそれともなう市場競争, 奴隷貿易について理解する。
13	北大西洋革命(1)	産業革命の進展を「世界システム」形成との関係から理解する。
14	北大西洋革命(2)	アメリカ独立の過程をヨーロッパ諸国との関連から理解する。
15	北大西洋革命(3)	アメリカ独立革命の影響を北大西洋革命としての観点から理解する。
16	定期試験の解答	定期試験の内容について解説する。これまでに得られた17-18世紀のヨーロッパと北アメリカ世界に関する知見を確認する。
17	フランス革命(1)	フランス革命の歴史的要因について考える。
18	フランス革命(2)	フランス革命の過程とヨーロッパ諸国の動向について理解する。
19	フランス革命(3)	ナポレオン体制の成立過程を理解し, フランス革命の歴史的意義について考える。
20	自由主義と国民主義(1)	ウィーン体制の実態とラテンアメリカや東ヨーロッパ世界の動向を理解する。
21	自由主義と国民主義(2)	イギリスにおける自由主義発展の過程を理解する。
22	自由主義と国民主義(3)	ドイツ, イタリアにおける国民主義の動向を, 国民国家成立過程から理解する。
23	中間試験	第16週から第22週までの内容について試験を行う。
24	中間試験の解答	中間試験の内容について解説する。これまでに得られた18-19世紀のヨーロッパの動向から近代世界システムの変容過程を理解する。
25	イスラーム世界と近代化(1)	オスマン帝国支配の動揺とエジプトにおける近代化の試みについて理解する。
26	イスラーム世界と近代化(2)	アラビア半島やアフガニスタン, アフリカにおけるイスラーム復興運動について理解する。
27	インド大反乱	インド植民地化の動きとインド社会内部の変容について理解する。
28	南北戦争と日本の開国(1)	18-19世紀の世界情勢を理解し, 日本の対外認識の変化の過程について学習する。
29	南北戦争と日本の開国(2)	日本開国期のアメリカ合衆国社会の動揺について理解する。
30	南北戦争と日本の開国(3)	アメリカ南北戦争の過程から, 近代世界システムの性格について考える。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	政治・経済 (Political Science and Economics)		
担当教員	高橋 秀実 教授		
対象学年等	電子工学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(100%)		
授業の概要と方針	歴史的転換期としての現代世界及び日本の政治・経済を理解するため、政治・経済・国際関係の諸事象を多角的な視点から分析し、その構造や潮流を把握して、広い視野から判断しうる見識と考察力を養成する。前期は国際政治を中心に政治分野を、後期は経済分野を扱う。国際政治や経済の時事問題を随時導入する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C3】第二次世界大戦・冷戦・核問題などを通じて戦争と平和の問題を理解する。南北問題・人口問題・民族問題など現代世界の諸課題を理解する。国際連合の組織・機能、国際機関や国際条約を理解する。		国際政治の理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
2	【C3】リベラルデモクラシーの原理、及びこれに基づく日本国憲法の原理(国民主権・基本的人権・平和主義)・制度・成立過程を理解する。		リベラルデモクラシー・日本国憲法の理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
3	【C3】資本主義経済の特徴、市場メカニズム、金融・財政、労働問題など現代経済のしくみを理解する。		現代経済のしくみの理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
4	【C3】資本主義成り立ちから敗戦・戦後復興・高度経済成長・石油危機・貿易不均衡・バブル経済・バブル崩壊を経て現在に至るまでの、日本経済の歩みを理解する。		日本経済の歩みの理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
5	【C3】グローバル化と地域経済統合の進展の中で、世界経済・貿易のあり方を理解する。		世界経済・貿易の理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験70% レポート・提出物30% で評価する。試験成績は前後期の平均点とする。100点満点の60点以上を合格とする。		
テキスト	「教養の政治学・経済学」：香川勝俊編(学術図書出版) 「政治・経済資料 2009」：東京法令出版編(東京法令出版)		
参考書	「転換期の国際政治」：武者小路公秀(岩波新書) 「テロ後 世界はどう変わったか」：藤原帰一(岩波新書) 「集団的自衛権と日本国憲法」：浅井基文(集英社新書) 「世界経済入門 第三版」：西川潤(岩波新書) 「日本経済図説 第三版」：宮崎勇(岩波新書)		
関連科目	経済学(5年選択)		
履修上の注意事項	なし		

授業計画1(政治・経済)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	政治序論: 現代世界の課題	20世紀という時代, 戦後の時代を多面的に検証し, 転換期としての冷戦後世界の諸課題を問題提起する。
2	国際社会と主権国家	近代国家のあり方・要素を分析し, 国際社会を動かす政治・経済的利害関係, 民族・宗教など文化的要因などを考察する。
3	第二次世界大戦と東西冷戦	第二次世界大戦と東西冷戦を, ファシズム・ Kommunismus・リベラルデモクラシーなど政治思想・国家体制の側面から分析し考察する。
4	冷戦終結と冷戦後の国際社会・グローバリゼーション	冷戦終結の政治過程とその歴史的意義を分析し考察する。世界市場の一体化(グローバリゼーション)の潮流を考察する。
5	9・11テロとイラク戦争	9・11テロとイラク戦争を通じて, 21世紀初頭の現代世界が直面している国際政治の潮流・動向を考察する。
6	ナショナリズム・民族対立・難民問題	ボスニア・コソボ紛争・チェチェン紛争等に見られる, 多民族国家におけるナショナリズム・民族対立・地域紛争・ジェノサイド・難民問題を考察する。
7	南北問題・人口問題	先進工業国と発展途上国の経済格差の現状やその原因, 国際社会の対応, 近年の変化を分析する。人口問題も南北問題と関連させて考察する。
8	核問題	広島・長崎原爆, 戦後米ソの核対立, 核抑止の国際条約締結の歩み, 大量破壊兵器の危機的現実を分析し考察する。
9	国際連合の組織と機能	国際連合の成立過程, 総会・安全保障理事会を中心とした国連の組織, PKOなど平和維持機能を理解する。
10	リベラルデモクラシーの原理と人権	社会契約説に基づき市民革命・人権宣言によって確立したリベラルデモクラシーの原理・制度が近代国家体制の基礎を成すことを理解し考察する。自由権から社会権への流れを理解する。
11	各国の政治制度	日本の立法府(国会)と行政府(内閣)の関係を規定する議院内閣制を米国の大統領制と比較して考察する。
12	日本国憲法の成立	太平洋戦争と敗戦, 戦後の日本国憲法成立に至る政治過程を分析し, 日本国憲法を戦前の大日本帝国憲法と比較して考察する。
13	日本国憲法の平和主義と戦後日本の歩み	日本国憲法前文・第9条の平和主義を考察する。そして憲法の理想と現実の戦後日本の歩みとの相克を分析し考察する。
14	冷戦後の安全保障問題	新ガイドライン, 北朝鮮の核開発, 自衛隊イラク派遣など, 冷戦後(1990年代以降)の安全保障をめぐる諸問題を考察する。
15	総括: 21世紀の国際社会と日本	政治編の総括として, 21世紀の国際社会の潮流と諸課題, 及び日本のあり方を考察する。
16	経済序論: 商品経済・貨幣経済・生産と消費	商品としての財・サービスの生産, 企業と消費者・労働者, 貨幣の機能など, 資本主義経済の特徴を基礎から分析し考察する。
17	市場経済メカニズム	自由競争市場では商品の需要と供給が価格の変動によって自動的に調整されるという, アダムスミスが解明した市場メカニズムの原理を理解する。
18	自由競争から独占資本主義へ	産業革命期の自由競争資本主義から独占(寡占)資本主義への転換を理解し, 独占(寡占)の形態を分析する。
19	世界恐慌とケインズ・修正資本主義	1930年代の世界恐慌・デフレスパイラル, 欧州先進国のブロック経済化, 米国のニューディール政策とその基盤たるケインズ理論, 修正資本主義を理解する。
20	財政の機能としくみ・財政政策	財政の機能とそのしくみ, 予算(歳入・歳出), 租税の種類・制度を理解する。国債累積によって財政が破綻に瀕している現状, 財政改革のあり方を考察する。
21	金融の機能としくみ・金融政策	資金の循環と金融の機能・しくみ, 日本銀行による金融政策を理解する。バブル崩壊後の金融再編の潮流を考察する。
22	形成期の日本資本主義	富国強兵・殖産興業の下に国家主導で軍需産業中心に形成された成り立ちの日本資本主義の特徴を, 後進的農村, 劣悪な労働条件, 狭い国内市場, 植民地獲得への軍事進出, など多面的に分析し考察する。
23	戦後経済復興と高度経済成長	敗戦後の経済民主化改革と経済復興, 1950・60年代の著しい工業発展・高度経済成長を可能にした諸要因を多面的に分析し考察する。
24	オイルショックと貿易不均衡	1970年代オイルショックによる高度成長の終結, 日本企業の技術革新, 輸出拡大, 80年代日米貿易不均衡・貿易摩擦を分析する。
25	バブル経済とバブル崩壊デフレ	1985年ブラザ合意以降の株価・地価高騰, バブル経済, 90年代株価・地価暴落によるバブル崩壊と金融システム不安を伴う平成不況へと至った過程及び原因を考察する。
26	技術革新と産業構造の変化	日本経済の歩みを通じて産業構造の変化を考察し, 技術革新が産業構造の変遷と密接に関連していることを理解する。
27	労働・雇用問題	憲法・労働基準法に規定された労働者の権利を理解する。終身雇用・年功序列・企業別労働組合という戦後日本の雇用制度の特徴, 及びその変化の潮流を考察する。
28	国際経済と貿易	戦後国際経済の基軸たるIMF・GATT体制の中で, 加工貿易によって発展を遂げた日本経済を理解する。生産拠点の海外移転, 多国籍企業化の現状も分析する。
29	地域経済統合・EU	1990年代市場統合を成し遂げ, 通貨統合・共通外交政策・加盟国拡大へと向かうEUの歩みを通じて, 地域経済統合を考察する。
30	総括: 世界経済・日本経済の現状と課題	経済編の総括として, 世界経済の現状と課題及び日本経済の現状と課題を考察する。
備考	前期定期試験および後期定期試験を実施する。政治経済の時事テーマを随時導入するため, 上記予定テーマの内容・順序は変更可能性あり。	

科目	論理学 (Logic)		
担当教員	本田 敏雄 教授		
対象学年等	電子工学科・3年・後期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B1(100%)		
授業の概要と方針	論理学は、全ての学問のオルガンであり、基礎である。その入門的な知識を持ち、論理的な思考に習熟する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【B1】 論理学の法則が、各自の思考過程に常に働いていることを身をもって理解する。		基本的な論理法則が理解できていることは、各回の試験問題が解けるための前提である。
2	【B1】 論理法則の理解と習熟を深め、学問諸分野において基礎となる推理の能力を高める。		クラス論理による推理能力は中間試験で、命題論理による推理能力は、定期試験で評価する。
3	【B1】 クラス論理学により、命題を記号化し、推理できるようになる。		クラス論理による、命題表現、それに基づく推理問題が解けるかどうかを中間試験で評価する。
4	【B1】 命題論理学による命題の記号化と命題計算が自由にできるようになる。		命題論理による、命題の記号化、それに基づく推理問題が解けるかどうかを定期試験で評価する。
5	【B1】 形式的証明ができるようになることから、日常生活でも思考の論理性を発揮出来るようになる。		定期試験で、評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験100%として評価する。なお、試験成績は、中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「論理学入門」：近藤洋逸（岩波書店）		
参考書	「論理トレーニング」：矢野茂樹（産業図書） 「論理学」：矢野茂樹（東京大学出版会） 「詭弁論理学」：野崎昭弘（中公新書）		
関連科目	現代思想文化論 哲学特講		
履修上の注意事項			

科目	数学I (Mathematics I)		
担当教員	菅野 聡子 准教授		
対象学年等	電子工学科・1年・通年・必修・6単位(学修単位I)		
学習・教育目標	A1(100%)		
授業の概要と方針	高等専門学校における数学の基礎となる事柄を丁寧に講義する。さらに、演習を行うことにより、内容の定着と応用力の養成をはかる。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A1】実数、複素数の計算ができる。実数の計算において、無理数や分数式の計算ができる。		実数、複素数の計算ができ、実数の計算において、無理数や分数式の計算ができるかどうかを試験およびレポートで評価する。
2	【A1】整式の計算ができる。因数定理を理解し、高次の方程式・不等式に応用できる。		整式の計算ができるかどうか、因数定理を理解し、高次の方程式・不等式に応用できるかどうかを試験およびレポートで評価する。
3	【A1】1次不等式が解ける。		1次不等式が解けるかどうかを試験およびレポートで評価する。
4	【A1】2次関数とそのグラフを理解し、2次の方程式・不等式に応用できる。2次方程式の解の公式を活用できる。		2次関数とそのグラフを理解し、方程式・不等式に応用できるかどうか、2次方程式の解の公式を活用できるかどうかを試験およびレポートで評価する。
5	【A1】命題と条件について理解できる。また、簡単な等式・不等式の証明ができる。		命題と条件について理解でき、簡単な等式・不等式の証明ができるかどうかを試験およびレポートで評価する。
6	【A1】関数とグラフ、グラフの変換を理解し、累乗関数、分数関数、無理関数のグラフに応用ができる。		関数とグラフ、グラフの変換を理解し、累乗関数、分数関数、無理関数のグラフに応用できるかどうかを試験およびレポートで評価する。
7	【A1】三角関数の定義、グラフを理解できる。また、三角関数に関する定理、公式を理解し、応用できる。		三角関数の定義、グラフを理解でき、三角関数に関する定理、公式を理解し、応用できるかどうかを試験およびレポートで評価する。
8	【A1】三角形に関する定理、公式を活用できる。		三角形に関する定理、公式を活用できるかどうかを試験およびレポートで評価する。
9	【A1】点、直線、円などの座標平面上の図形の扱い方を理解し、問題を解決できる。また、2次曲線の特徴を理解できる。		点、直線、円などの座標平面上の図形の扱い方を理解し、問題を解決でき、2次曲線の特徴を理解できるかどうかを試験およびレポートで評価する。
10	【A1】等差数列、等比数列、いろいろな数列とその和に関する事項および数学的帰納法の考え方を理解できる。		等差数列、等比数列、いろいろな数列とその和に関する事項および数学的帰納法の考え方を理解できるかどうかを試験およびレポートで評価する。
総合評価	成績は、試験70%、レポート30%として評価する。試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「新編 高専の数学1(第2版)」 田代 嘉宏 他 編 (森北出版) 「新編 高専の数学2(第2版)」 田代 嘉宏 他 編 (森北出版) 「改訂版 チャート式 基礎と演習 数学I+A」「数学II+B」(数研出版)		
参考書	「新訂 基礎数学」 斎藤 斉 他 著 (大日本図書) 「基礎の数学 改訂版」 矢野健太郎 他 編 (裳華房) 「新編 高専の数学1問題集(第2版)」 田代 嘉宏 他 編 (森北出版) 「新編 高専の数学2問題集(第2版)」 田代 嘉宏 他 編 (森北出版)		
関連科目	1年 数学II		
履修上の注意事項	・時間に余裕がある場合には、発展的な話題を扱うこともある。・参考書に挙げた書籍は全部揃える必要はない。・4月のオリエンテーションの中で、入学前に課した課題についての実力 テストを実施する。このテストの結果は1年数学Iの成績とは関係ない。		

授業計画 1 (数学I)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	整式の加法・減法, 整式の乗法	整式の加法・減法および整式の展開公式について解説し, 文字式の計算に関する演習を行う。
2	因数分解, 整式の除法, 整式の約数・倍数	因数分解の公式およびその使い方について解説し, 演習を行う。また, 整式の割り算の方法, 整式の約数・倍数の定義とその求め方を解説し, 演習を行う。
3	分数式	分数式の加減乗除について, その方法を解説し, 計算練習をさせる。
4	実数, 実数の大小関係, 平方根を含む式の計算	実数の性質, 絶対値の定義, 平方根の定義と性質を解説し, 演習を行う。また, 分母の有理化とその方法について解説し, 演習を行う。
5	2次関数のグラフ, 2次関数の最大・最小	2次関数のグラフのかき方および最大値・最小値の求め方について解説し, 演習を行う。また, 2次関数の最大・最小の応用についても解説し, 演習を行う。
6	2次方程式の解の公式, 複素数, 2次方程式の解	複素数の定義および計算方法について解説し, 演習を行う。また, 2次方程式の解の公式を導き, その利用に関する演習を行う。
7	判別式, 解と係数の関係	2次方程式の解の判別とその方法について解説し, 演習を行う。また, 解と係数の関係および2次式の因数分解について解説し, 演習を行う。
8	中間試験	1~7週の範囲で中間試験を行う。
9	グラフと方程式の解, 不等式, 2次不等式	2次方程式の判別式と2次関数のグラフのx軸との共有点の個数との関係, および, 2次関数のグラフと直線のグラフの共有点について解説し, 演習を行う。また, 1次不等式, 2次不等式について解説し, 演習を行う。
10	命題	命題に関するいろいろな用語について解説し, 演習を行う。また, 背理法による証明について解説し, 演習を行う。
11	恒等式, 因数定理	恒等式について解説し, 剰余の定理, 因数定理およびその応用について解説し, 演習を行う。
12	高次の方程式・不等式, 等式・不等式の証明	高次の方程式・不等式の解法, 等式・不等式の証明方法, 相加平均と相乗平均の関係について解説し, 演習を行う。
13	関数, 平行移動・対称移動	関数の定義域・値域, 平行移動・対称移動について解説し, 演習を行う。
14	べき関数, 分数関数	偶関数・奇関数, べき関数, 分数関数について解説し, 演習を行う。
15	無理関数, 逆関数	無理関数, 無理方程式, 逆関数とその性質について解説し, 演習を行う。
16	三角比, 一般角, 弧度法, 三角関数	三角比, 一般角, 弧度法, 三角関数の定義について解説し, 演習を行う。
17	三角関数の関係	三角関数の関係を述べたいろいろな公式について解説し, 演習を行う。
18	三角関数のグラフ	三角関数のグラフについて解説し, 演習を行う。
19	加法定理, いろいろな公式	加法定理, 三角関数の合成, 倍角の公式, 積を和(和を積)に直す公式について解説し, 演習を行う。
20	三角方程式・不等式	三角方程式・不等式について解説し, 演習を行う。
21	三角形の面積と正弦定理, 余弦定理	三角形の面積の公式, 正弦定理, 余弦定理について解説し, その応用に関して演習を行う。
22	演習	三角比, 三角関数, 三角形の性質などについての総合演習を行う。
23	中間試験(後期)	16~22週の範囲で中間試験を行う。
24	直線上・平面上の点の座標	2点間の距離の公式, 内分点・外分点に関する公式について解説し, 演習を行う。
25	直線の方程式, 2直線の関係	直線の方程式に関する公式, 2直線の平行・垂直について解説し, 演習を行う。
26	円, 2次曲線	円・楕円・双曲線・放物線の各方程式について解説し, 演習を行う。
27	不等式の表す領域, 領域における最大・最小	不等式の表す領域, 領域における最大・最小について解説し, 演習を行う。
28	数列, 等差数列	数列の基本事項, 等差数列とその和について解説し, 演習を行う。
29	等比数列, いろいろな数列の和	等比数列とその和, さまざまな数列の和について解説し, 演習を行う。
30	漸化式, 数学的帰納法	漸化式, 数学的帰納法について解説し, 演習を行う。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	数学II (Mathematics II)		
担当教員	吉村 弥子 准教授		
対象学年等	電子工学科・1年・通年・必修・2単位(学修単位I)		
学習・教育目標	A1(100%)		
授業の概要と方針	前期は、場合の数と確率の基本事項を学習し、後期は、指数関数と対数関数の基本事項を学習する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A1】 集合の概念を理解し応用できる。		集合の概念を理解し応用できることを試験および演習・レポートで評価する。
2	【A1】 さまざまな場合の数の計算ができる。		さまざまな場合の数の計算ができることを試験および演習・レポートで評価する。
3	【A1】 順列と組合せの計算ができ、二項定理が使える。		順列と組合せの計算ができ、二項定理が使えることを試験および演習・レポートで評価する。
4	【A1】 さまざまな確率の計算ができる。		さまざまな確率の計算ができることを試験および演習・レポートで評価する。
5	【A1】 指数法則を理解し、計算および応用ができる。		指数法則を理解し、計算および応用ができることを試験および演習・レポートで評価する。
6	【A1】 指数関数とそのグラフを理解し応用できる。また、指数方程式・不等式が解ける。		指数関数とそのグラフを理解し応用できること、指数方程式・不等式が解けることを試験および演習・レポートで評価する。
7	【A1】 対数の定義を理解し、計算および応用ができる。		対数の定義を理解し、計算および応用ができることを試験および演習・レポートで評価する。
8	【A1】 対数関数とそのグラフを理解し応用できる。また、対数方程式・不等式が解ける。		対数関数とそのグラフを理解し応用できること、対数方程式・不等式が解けることを試験および演習・レポートで評価する。
9			
10			
総合評価	成績は、試験90%、レポート10%として評価する。レポートは、夏季休業前・冬季休業前等、適宜課す。100点満点で60点以上を合格とする。試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする。		
テキスト	「新編 高専の数学1 (第2版)」：田代 嘉宏 他 編 (森北出版) 「改訂版チャート式 基礎と演習 数学I+A」：(数研出版) 「改訂版チャート式 基礎と演習 数学II+B」：(数研出版)		
参考書	「新訂 基礎数学」：斎藤 斉 他 著 (大日本図書) 「工科の数学 基礎数学 (第2版)」：田代 嘉宏 著 (森北出版) 「新編 高専の数学1 問題集 (第2版)」：田代 嘉宏 編 (森北出版) 「新訂 基礎数学問題集」：(大日本図書)		
関連科目	1年の数学I		
履修上の注意事項	・内容によっては発展的な話題を扱うこともある。・参考書に挙げた書籍は全部揃える必要はない。・確率についてはプリントを配布する。		

授業計画 1 (数学II)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	集合	集合の概念について学習する。
2	集合の要素の個数	集合の要素の個数とその計算について学習する。
3	場合の数	和の法則, 積の法則について学習する。
4	順列	順列の計算とその応用について学習する。
5	組合せ	組合せの計算とその応用について学習する。
6	いろいろな順列	重複順列や同じものを含む順列について学習する。
7	演習	順列と組合せに関する総合的な演習を行う。
8	中間試験	1~7週の範囲で中間試験を行う。
9	二項定理	二項定理と二項展開について学習する。
10	事象と確率	事象と確率の概念について学習する。
11	確率の基本性質	和事象・積事象・余事象の概念と確率の関連について学習する。また, 確率の計算について学習する。
12	独立な試行と確率	独立な試行の確率の計算とその応用について学習する。
13	反復試行の確率	反復試行の確率の計算とその応用について学習する。
14	期待値	期待値の計算とその応用について学習する。
15	演習	確率に関する総合的な演習を行う。
16	累乗根	累乗根とその性質について学習する。
17	指数の拡張(1)	指数の整数への拡張と指数法則について学習する。
18	指数の拡張(2)	指数の有理数への拡張と指数法則について学習する。
19	演習	累乗根と指数の拡張に関する総合的な演習を行う。
20	指数関数	指数関数とそのグラフについて学習する。
21	指数方程式・不等式	指数方程式・不等式について学習する。
22	演習	指数関数および指数方程式・不等式に関する総合的な演習を行う。
23	中間試験	16~22週の範囲で中間試験を行う。
24	対数(1)	対数の定義・性質について学習する。
25	対数(2)	底の変換公式について学習する。
26	演習	対数に関する総合的な演習を行う。
27	対数関数	対数関数とそのグラフについて学習する。
28	対数方程式・不等式	対数方程式・不等式について学習する。
29	常用対数	常用対数とその応用について学習する。
30	演習	対数関数, 対数方程式・不等式, 常用対数に関する総合的な演習を行う。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	数学I (Mathematics I)		
担当教員	吉村 弥子 准教授		
対象学年等	電子工学科・2年・通年・必修・4単位(学修単位I)		
学習・教育目標	A1(100%)		
授業の概要と方針	理工学系の基礎となる微分・積分学を講義する。概念の理解に重点を置き、豊富な演習を通じて運用能力を高める。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A1】関数の極限、連続性について理解し、極限値の計算ができる。		関数の極限、連続性について理解し、極限値の計算ができることを試験およびレポート・小テストで評価する。
2	【A1】微分係数・導関数の定義および接線との関係を理解し、三角関数や指数・対数関数などいろいろな関数の導関数を求めることができる。		微分係数・導関数の定義および接線との関係を理解し、三角関数や指数・対数関数などいろいろな関数の導関数を求めることができることを試験およびレポート・小テストで評価する。
3	【A1】関数の増減と導関数の関係を理解し、極大・極小、最大・最小を求めることができる。また、第2次導関数と曲線の凹凸との関係を理解し、関数のグラフの概形をかくことができる。		関数の増減と導関数の関係を理解し、極大・極小、最大・最小を求めることができ、第2次導関数と曲線の凹凸との関係を理解し、関数のグラフの概形をかくことができることを試験およびレポート・小テストで評価する。
4	【A1】積分の定義および性質を理解し、分数式、無理式を含む関数や三角関数などの積分計算ができる。		積分の定義および性質を理解し、分数式、無理式を含む関数や三角関数などの積分計算ができることを試験およびレポート・小テストで評価する。
5	【A1】置換積分法、部分積分法を理解し、使いこなすことができる。		置換積分法、部分積分法を理解し、使いこなすことができることを試験およびレポート・小テストで評価する。
6	【A1】定積分を使って、図形量(面積、体積、弧長、回転面の面積)の計算ができる。		定積分を使って、図形量(面積、体積、弧長、回転面の面積)の計算ができることを試験およびレポート・小テストで評価する。
7	【A1】極座標を使いこなすことができる。		極座標を使いこなすことができることを試験およびレポート・小テストで評価する。
8	【A1】媒介変数で表された曲線について、接線の方程式、囲む面積、回転してできる立体の体積、弧長などの計算ができる。		媒介変数で表された曲線について、接線の方程式、囲む面積、回転してできる立体の体積、弧長などの計算ができることを試験およびレポート・小テストで評価する。
9	【A1】速度・加速度と微積分の関係を理解する。		速度・加速度と微積分の関係を理解していることを試験およびレポート・小テストで評価する。
10	【A1】広義積分の計算ができる。		広義積分の計算ができることを試験およびレポート・小テストで評価する。
総合評価	成績は、試験90%、レポートおよび小テスト10%として評価する。レポートは夏期休業前・冬期休業前等、適宜課す。小テストは授業中に行う。100点満点で60点以上を合格とする。試験成績は中間試験と定期試験の平均とする。		
テキスト	「新訂 微分積分I」：高遠 節夫・斎藤 斉 他 著(大日本図書) 「新編 高専の数学2 問題集(第2版)」：田代 嘉宏 編(森北出版) 「新編 高専の数学3 問題集(第2版)」：田代 嘉宏 編(森北出版)		
参考書	「微分積分 改訂版」：矢野 健太郎・石原 繁 編(裳華房) 「工科の数学 微分積分(第2版)」：田代 嘉宏 著(森北出版) 「大学・高専生のための 解法演習 微分積分I」：系岐 宣昭・三ツ廣 孝 著(森北出版) 「改訂版チャート式 基礎と演習 数学III+C」：チャート研究所 編著(数研出版)		
関連科目	1年の数学I, 数学II		
履修上の注意事項	・参考書に挙げた書籍は全部買い揃える必要はない。・4月の最初の授業時に、1年時の数学の内容に関する実力テストを実施する。このテストの結果は2年数学Iの成績とは関係しない。		

授業計画 1 (数学I)

週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	関数の極限	関数の収束を理解し, 極限値の計算練習を行う. 無限大の概念を学ぶ.
2	関数の連続	開・閉区間の表記を学ぶ. 関数の連続性を理解する. 連続関数についての中間値の定理を用いて, 方程式の解の存在を証明する.
3	微分係数, 導関数	平均変化率, 微分係数の定義を学ぶ. 微分係数と曲線の接線の傾きの関係を理解する. 関数の微分可能性を理解する. 導関数の定義を学び, 定義に従って関数を微分する.
4	導関数の公式, 合成関数の導関数	導関数のさまざまな性質と計算公式を学び, 計算練習を行う.
5	三角関数の導関数, 逆三角関数, 逆三角関数の導関数	三角関数の導関数を定義より導き, 公式化する. 逆三角関数とその導関数について学ぶ.
6	指数関数・対数関数の導関数	e (ネピアの数) の定義を学び, 指数関数と対数関数の導関数を計算する. 自然対数, 対数微分法についても学ぶ.
7	平均値の定理	ロルの定理, 平均値の定理について, その意味を理解する.
8	中間試験	中間試験を行う.
9	関数の増減と極値	関数の導関数と増減の関連を理解する. 増減表を利用して, 関数の極値を求め, 関数のグラフの概形をかく.
10	関数の最大・最小, 接線と法線	増減表を利用して関数の最大値・最小値を求める. 最大・最小を求める応用問題を解く. 接線・法線の方程式を求める.
11	不定形の極限	ロピタルの定理を理解し, 不定形の極限の極限値を計算する. 漸近線を持つ関数のグラフをかく.
12	高次導関数, 曲線の凹凸	第 n 次導関数の定義を学ぶ. 第 2 次導関数の符号と曲線の凹凸の関係を理解し, グラフの概形に生かす.
13	媒介変数表示と微分法	曲線の媒介変数表示について学ぶ. 媒介変数表示された関数の導関数を計算し, 曲線の接線の方程式を求める.
14	速度と加速度	速度・加速度と微分との関連を理解し, 速度・加速度に関する問題を微分を使って解決する.
15	演習	微分法全般について, まとめの演習を行う.
16	定積分	定積分の定義を理解する. 定義に従って, 関数を定積分する. 定積分の性質を学ぶ.
17	不定積分, 定積分と不定積分の関係	不定積分の定義を学ぶ. 不定積分の公式を作り, 計算練習を行う. 定積分と不定積分の関係を学び, 微分積分法の基本定理を理解する.
18	定積分の計算	不定積分を利用した定積分の計算方法を学び, 計算練習を行う. 曲線で囲まれた図形の面積を, 定積分を利用して計算する.
19	置換積分法	置換積分法について学ぶ.
20	部分積分法	部分積分法について学ぶ.
21	分数関数・無理関数の積分	分数関数の積分, 無理関数の積分について, 計算練習を行う.
22	三角関数の積分	三角関数の積分について計算練習と公式の整理を行う.
23	中間試験	中間試験を行う.
24	図形の面積, 曲線の長さ	曲線で囲まれた図形の面積を定積分で計算する. 曲線の長さを定積分で計算する.
25	立体の体積	立体の体積を定積分で計算する.
26	回転面の面積	回転面の面積を定積分で計算する.
27	媒介変数表示による図形	媒介変数表示による曲線で作られる図形の面積, 曲線の長さ, 回転体の体積, 回転面の面積を計算する.
28	極座標による図形	極座標について学ぶ. 極座標による図形の方程式を学び, 図形の面積や曲線の長さを計算する.
29	変化率と積分	速度・加速度と微積分の関係を理解し, 具体的な問題に应用する.
30	広義積分	広義積分を学び, 計算練習を行う.
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科目	数学II (Mathematics II)		
担当教員	江口 直日 非常勤講師		
対象学年等	電子工学科・2年・通年・必修・2単位(学修単位I)		
学習・教育目標	A1(100%)		
授業の概要と方針	工学, 自然科学, 社会学など幅広い分野で利用される線形代数学の基礎について講義し, 演習を行う. 発展的な事項も適宜補う予定である.		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A1】ベクトルの意味およびその性質を理解し, 基本的な計算ができる.		ベクトルの意味およびその性質を理解し, 基本的な計算ができることを試験およびレポートで評価する.
2	【A1】ベクトルの考え方を利用して, 平面や空間の図形を扱える.		ベクトルの考え方を利用して, 平面および空間の図形を扱えることを試験およびレポートで評価する.
3	【A1】複素数と複素数平面について理解し, 実際に計算ができる.		複素数と複素数平面について理解し, 計算ができることを試験およびレポートで評価する.
4	【A1】行列およびその演算方法を理解し, 基本的な計算ができる.		行列およびその演算方法を理解し, 基本的な計算ができることを試験およびレポートで評価する.
5	【A1】線形変換を理解し, 2次元における線形変換の基本的な計算ができる.		線形変換を理解し, 2次元における線形変換の基本的な計算ができることを試験およびレポートで評価する.
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は, 試験80%, レポート20%として評価する. レポートは夏期休業前・冬期休業前等, 適宜課す. 100点満点で60点以上を合格とする. 試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする.		
テキスト	「新訂 線形代数」: 斎藤齊・高遠節夫 他 著 (大日本図書) 「改訂版チャート式 基礎と演習 数学II+B」: (数研出版) 「新編 高専の数学2問題集(第2版)」: 田代嘉宏 編 (森北出版)		
参考書	「工科の数学 線形代数(第2版)」: 田代 嘉宏 著 (森北出版) 「改訂版チャート式 基礎と演習 数学III+C」: (数研出版) 「入門線形代数」: 三宅 敏恒 著 (培風館) 「教養の線形代数」: 村上正康・佐藤常雄・野澤宗平・稲葉尚志 (培風館) 「プログラミングのための線形代数」: 平岡和幸・堀玄(オーム社)		
関連科目	1年の数学I, 数学II		
履修上の注意事項	・参考書に挙げた書籍は全部買い揃える必要はない. ・複素数と複素数平面についてはプリントを配布する. ・行列と線形変換については軽めに扱う.		

授業計画 1 (数学II)

週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	平面ベクトル	ベクトルの基本的な概念・用語などを導入する。ベクトルの和・差・スカラー倍とこれらの演算に関する基本的な性質を学ぶ。
2	平面ベクトルの成分	ベクトルの成分表示を学ぶ。
3	平面ベクトルの内積	ベクトルの内積について学ぶ。
4	ベクトルの平行と垂直	ベクトルの平行条件・垂直条件を学ぶ。
5	平面ベクトルの図形への応用(1)	ベクトルの観点から内分点, 直線などの扱い方を学ぶ。
6	平面ベクトルの図形への応用(2)	法線ベクトル, 円のベクトル方程式などの扱い方を学ぶ。
7	演習	平面ベクトルについての総合演習を行う。
8	中間試験	中間試験を行う。
9	空間座標	空間座標の基本的な扱い方と用語について学ぶ。
10	空間ベクトル	空間ベクトルとその成分について学ぶ。
11	空間ベクトルの内積	空間ベクトルの内積について学ぶ。
12	空間内の直線の方程式	空間内の直線とその方程式について学ぶ。
13	空間内の平面の方程式	空間内の平面とその方程式について学ぶ。
14	空間内の球面の方程式	空間内の球面とその方程式について学ぶ。
15	演習	空間ベクトルについての総合演習を行う。
16	複素数	複素数とその演算について学ぶ。
17	複素数平面	複素数平面と極形式について学ぶ。
18	ド・モアブルの定理とオイラーの公式	ド・モアブルの定理とオイラーの公式について学ぶ。
19	図形への応用	複素数の図形への応用について学ぶ。
20	演習	複素数についての総合演習を行う。
21	行列の定義	行列の概念と用語などが導入される。
22	行列の和・差, スカラー倍, 行列の積	行列の基本的な演算について学ぶ。
23	中間試験	中間試験を行う。
24	転置行列	転置行列について学ぶ。
25	逆行列	逆行列について学ぶ。
26	線形変換の定義	線形変換の概念と点の変換について学ぶ。
27	線形変換の性質	線形変換による直線の像について学ぶ。
28	合成変換と逆変換	線形変換の合成と, 逆変換について学ぶ。
29	回転を表す線形変換	回転を表す線形変換について学ぶ。
30	演習	行列と線形変換についての総合演習を行う。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	数学I (Mathematics I)		
担当教員	石塚 正洋 教授		
対象学年等	電子工学科・3年・通年・必修・4単位(学修単位I)		
学習・教育目標	A1(100%)		
授業の概要と方針	理工学系の基礎となるテイラー展開, 偏微分, 重積分, 微分方程式について講義する. 概念の理解に重点をおき, 基本問題, 応用問題の演習で基礎を固め, さらに応用力をつけて運用能力を高める.		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A1】ロピタルの定理, テイラーの定理などを使って, 関数の極限值, 近似値などの計算ができる.		ロピタルの定理, テイラーの定理などを使って, 関数の極限值, 近似値などの計算ができることを, 試験およびレポートなどの提出物で評価する.
2	【A1】分数関数, 三角関数などの様々な関数の不定積分を求めることができる.		分数関数, 三角関数などの様々な関数の不定積分を計算できることを, 試験およびレポートなどの提出物で評価する.
3	【A1】定積分を使って, 面積, 体積, 曲線の長さが計算できる.		定積分を使って, 面積, 体積, 曲線の長さが計算できることを, 試験およびレポートなどの提出物で評価する.
4	【A1】偏導関数の計算ができる.		偏導関数の計算ができることを, 試験およびレポートなどの提出物で評価する.
5	【A1】偏導関数を使って, 極値や条件付き極値を求めることができる.		偏導関数を使って, 極値や条件付き極値を調べることができることを, 試験およびレポートなどの提出物で評価する.
6	【A1】重積分の計算ができる.		重積分の計算ができることを, 試験およびレポートなどの提出物で評価する.
7	【A1】微分方程式と解について理解する.		微分方程式とその解の意味を理解していることを, 試験およびレポートなどの提出物で評価する.
8	【A1】1階微分方程式, 2階微分方程式が解ける.		1階微分方程式, 2階微分方程式が解けることを, 試験およびレポートなどの提出物で評価する.
9			
10			
総合評価	成績は, 試験85%, レポート15%として評価する. 試験成績は中間試験と定期試験の平均とする. 100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト	「新編 高専の数学3(第2版)」: 田代嘉宏 著 (森北出版) 「新編 高専の数学3 問題集(第2版)」: 田代 嘉宏 編 (森北出版)		
参考書	「新訂 微分積分II」: 高遠 節夫 他 著 (大日本図書) 「入門 微分積分」: 三宅 敏恒 著 (培風館) 「大学・高専生のための解法演習 微分積分II」: 系岐 宣昭 他 著 (森北出版) 「技術者のための微分積分」: 上野健爾監修 阿蘇和寿 他 (森北出版) 「新訂 微分積分 問題集」: 田河 生長 他 編 (大日本図書)		
関連科目	1, 2年の数学I, 数学II		
履修上の注意事項	・時間に余裕がある場合には, 発展的な話題を扱うこともある. ・レポートは夏季休業前・冬季休業前等, 適宜課す. ・参考書に挙げた書籍は全部揃える必要はない. ・4月の最初の授業時に, 2年時までの数学の内容に関する実力テストを実施する. このテストの結果は3年数学Iの成績とは関係ない.		

授業計画 1 (数学I)

週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	不定形の極限值	ロピタルの定理を用いて不定形の極限を求める.
2	べき級数, 高次導関数	べき級数, 高次導関数の扱いについて学習する.
3	テイラーの定理	テイラー展開, マクローリン展開を使って関数の近似式を求める.
4	おもな関数の不定積分	おもな関数の不定積分について学習する.
5	分数関数の積分	分数関数の積分について学習する.
6	$\sin x, \cos x$ の分数関数の積分	$\sin x, \cos x$ を含む分数関数の積分について学習する.
7	和の極限としての定積分	和の極限としての定積分を理解し, 和の極限を定積分に直して計算する.
8	中間試験	中間試験を行う.
9	面積・体積	定積分を使って面積や体積を計算する.
10	曲線の長さ	定積分を使って曲線の長さを計算する.
11	広義積分	広義積分について理解し, 広義積分を計算する.
12	2変数関数	2変数関数の概念を理解し, 極限值や連続性を調べる.
13	偏導関数, 合成関数の偏導関数	偏導関数について理解し, 様々な偏導関数の計算をする.
14	2変数関数の平均値の定理	2変数関数の平均値の定理を理解し, 誤差の評価に利用する.
15	演習	演習により積分と偏微分の計算に習熟する.
16	2変数関数の極大・極小	偏導関数を使って極値の計算をする.
17	陰関数定理	陰関数定理について理解し, 極値や特異点を求める.
18	条件付き極大・極小	条件付きの関数の極値について理解し, 極値を求める.
19	重積分	重積分について理解し, 計算をする.
20	積分の順序変更	積分順序の変更を理解する.
21	体積	重積分を使って体積を求める.
22	極座標による重積分	極座標を使って重積分を求める.
23	中間試験	中間試験を行う.
24	微分方程式と解	微分方程式と一般解, 特殊解, 特異解について理解する.
25	変数分離形	変数分離形の微分方程式を解く.
26	同次形	同次形の微分方程式を解く.
27	線形微分方程式, 完全微分形	線形微分方程式, 完全微分形の微分方程式を解く.
28	2階微分方程式	2階微分方程式を1階微分方程式になおして解く.
29	定数係数2階線形微分方程式(1)	定数係数2階線形微分方程式を解く.
30	定数係数2階線形微分方程式(2)	定数係数2階線形微分方程式を解く.
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する. 1月に学習到達度試験が行われる予定である.	

科目	確率統計 (Probability and Statistics)		
担当教員	八木 善彦 教授		
対象学年等	電子工学科・4年・後期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A1(100%)	JABEE基準1(1)	(c),(d)1
授業の概要と方針	1年次に学んだ確率の基礎をふまえて、確率・統計の考え方を必要とする場面に直面したとき、必要な基礎的知識を講義する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A1】 データを解析するときの統計の考え方を理解する。		データを解析する方法の理解を試験およびレポートで評価する。
2	【A1】 確率変数と確率分布の概念を理解する。		確率変数と確率分布の概念の理解とそれに関する計算ができることを試験およびレポートで評価する。
3	【A1】 二項分布、ポアソン分布、正規分布を理解し、具体例の確率などを計算できる。		分布を適切に使った計算ができることを、試験およびレポートで評価する。
4	【A1】 推定・検定の考え方を理解し、具体例を扱える		具体例で推定・検定を扱えるかを試験およびレポートで評価する。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験85%、レポート15%として評価する。試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「新訂 確率統計」：高遠 節夫 他 著 (大日本図書)		
参考書	「統計の基礎」：水本 久夫 著 (培風館) 「キーポイント 確率・統計」：和達 三樹・十河 清 著 (岩波書店) 「これだけは知っておこう! 統計学」：東北大学統計グループ 著 (有斐閣ブックス)		
関連科目	1年数学I, II, 2年数学I, II, 3年数学I		
履修上の注意事項	授業中に電卓が必要な場合がある。		

科目	物理 (Physics)		
担当教員	大多喜 重明 教授		
対象学年等	電子工学科・1年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A2(100%)		
授業の概要と方針	物理的な事物・現象についての観察, 実験や課題研究などを通して, 物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則の理解を深め, それを活用する能力を育成する. 第一学年では, 演示実験を行いながら, 物理の基礎部分である力学を教授する. 測定値の平均値の推定方法などを加えたが, ほぼ, テキストに従った授業内容である.		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A2】等加速度直線運動の「速度と時刻」, 「位置と時刻」, 「速度と変位」の関係式を理解し, 活用できる.		本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポートで, 授業内容の理解度を評価する. 試験では, 75%正答を標準とする. (直線運動については前期, 平面と空間運動については後期)
2	【A2】運動の第1法則, 第2法則, 第3法則を理解し, 活用できる.		本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポートで, 授業内容の理解度を評価する. 試験では, 75%正答を標準とする. (直線運動については前期, 平面と空間運動については後期)
3	【A2】運動量保存の法則を理解し, 活用できる.		本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポートで, 授業内容の理解度を評価する. 試験では, 75%正答を標準とする. (直線運動については前期, 平面と空間運動については後期)
4	【A2】力学的エネルギー保存の法則を理解し, 活用できる.		本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポートで, 授業内容の理解度を評価する. 試験では, 75%正答を標準とする.
5	【A2】つり合いの条件を理解し, 活用できる.		本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポートで, 授業内容の理解度を評価する. 試験では, 75%正答を標準とする. (質点については前期, 剛体については後期)
6	【A2】圧力と浮力について理解し, 活用できる.		本校が定めた期間に行う試験と適時行うレポートで, 授業内容の理解度を評価する. 試験では, 75%正答を標準とする.
7	【A2】真の平均値が得られる量と原理的にそれが得られない量の区別ができる.		適時行うレポートで評価する.
8	【A2】図書館や情報センター等を利用して必要な情報を入手し, 課題についての説明ができる.		適時行うレポートで評価する.
9			
10			
総合評価	成績は, 試験70%, レポート30%として評価する. 試験では, 基礎60%, 応用40%の割合で出題する. レポート提出では, 良いものを提出することが大事であるが, 〆切を守ることも重要である. 75点を標準とする.		
テキスト	「高専の物理[第5版]」和達三樹監修 (森北出版) 「エクセル物理I+II 三訂版」(実教出版)		
参考書	「専門基礎ライブラリー 基礎物理1 運動・力・エネルギー」金原稜編著 (実教出版) 「理化学辞典」長倉三郎他編集 (岩波書店) 「理科年表」国立天文台編集 (丸善) 「高専の物理問題集[第3版]」田中富士男編著 (森北出版)		
関連科目	国語, 数学I, 数学II		
履修上の注意事項	テキストに従って, 予習をすること. 問題演習を行い, 学んだことを定着させることも大切である. 授業では数式をよく使う, また, 人の考えを受け取る力と自分の考えを伝える力も必要である. 「数学」や「国語」もよく勉強すること.		

授業計画 1 (物理)

週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	直径の測定(母平均の区間推定)	入学試験などの点数の真の平均値は知ることが出来ませんが, プリントにある手書き円の直径の真の平均値は知ることが出来るでしょうか. このことについて考察します.
2	直線運動1(平均の速度・加速度)	直線運動での, 速度と加速度の平均値について考察します.
3	直線運動2($x-t$, $v-t$, $a-t$ グラフ)	位置と時刻, 速度と時刻, 加速度と時刻の関係をグラフを使って考察します.
4	直線運動3(瞬間の速度・加速度)	電車やバス, 速度や加速度は刻々と変化しています. 平均の速度と瞬間の速度について考察します. 平均を取る時間を限りなく短くするとどうなるでしょう.
5	直線運動4(まとめ)	等加速度直線運動について, これまで考え分かったことを式にまとめます. 物理では分かったことを, 文(国語)だけでなく, 式(数学)としても表現しておきます. 国語や数学も物理を学習して行く上で大切です.
6	運動の法則1(力, 第一法則)	物体を動かすには, 押したり引いたりする力が必要です. 紐で引くなど物体にさわってはたらく力や, 磁力で引き付けるなどさわらなくてもはたらく力があります. また, 軽いものは動かし易いが, 重いものは動かし辛い. 力の種類と動かし易さに難さについて考察します.
7	運動の法則2(第二法則, 第三法則)	力と加速度の関係(運動方程式), 2つの物体の間にはたらく力の関係(作用反作用の法則)について考察します.
8	中間試験	計算問題と穴埋め問題を出題します. 教科書や問題集の問題を練習しておいて下さい. 図書館やインターネットを使って学習内容に関係することを調べておいて下さい.
9	中間試験の解説	中間試験の答え合わせと解説をします.
10	運動の法則3(まとめ)	慣性の法則, 運動方程式, 作用反作用の法則についてのまとめと補足説明をします.
11	いろいろな直線運動1(方程式作成)	これまで学習してきたことをいろいろな直線運動に応用します.
12	いろいろな直線運動2(自由落下)	これまで学習してきたことをいろいろな直線運動に応用します.
13	いろいろな直線運動3(摩擦と斜面)	これまで学習してきたことをいろいろな直線運動に応用します.
14	運動量1(力積と運動量)	「力とその力がはたらいだ時間の積」と「物体の質量と速度の積」について考察します.
15	運動量2(運動量保存の法則)	作用反作用の法則から運動量保存の法則を導きます. 文から式をつくり, 式から文をつくり, 文と式を使って, 重要な法則を導きます.
16	力学的エネルギー1(仕事)	荷物を持ってじっとしていると疲れてくる. このとき, 人間はエネルギーを消費しているが, 荷物にエネルギーを与えてはいない. 荷物に対して仕事をしていない. 物理での仕事について, 説明する.
17	力学的エネルギー2(運動, 位置)	仕事と運動エネルギー, 位置エネルギーについて考察する.
18	力学的エネルギー3(保存法則)	摩擦などが無い条件での, 運動エネルギーと位置エネルギーの関係について考察する.
19	力学的エネルギー4(まとめ)	力学的エネルギーについてのまとめを行う.
20	平面・空間運動1(ベクトルとスカラー)	速度のように大きさや向きを持つ量と質量のように大きさだけの量について, その表記方法と足し算引き算の仕方について考察する.
21	平面・空間運動2(速度と運動量, 力)	直線運動について速度や運動量など学習した. 平面や空間運動でどのように表すか考察する.
22	平面・空間運動3(運動方程式, 仕事)	物体は力を加えた向きに加速する(x 方向に力を加えて, y 方向に加速しない). 平面運動での運動方程式と仕事について考察する.
23	中間試験	計算問題と穴埋め問題を出題します. 教科書や問題集の問題を練習しておいて下さい. 図書館やインターネットを使って学習内容に関係することを調べておいて下さい.
24	中間試験の解説	中間試験の答え合わせと解説をします.
25	いろいろな空間運動4(等速円運動)	物体が速さ一定で円運動するときも, 進む向きは変わるので, 速度は変化します. したがって, 加速度運動です. また, ハンマー投げで選手がハンマーを回すとき, どちら向きに力を入れていますか. これらについて考察します.
26	いろいろな空間運動5(惑星の運動)	太陽の周りを回る惑星は楕円運動しています. 天体観測により, ケプラーが発見した法則と万有引力の法則について考察します.
27	いろいろな空間運動6(単振動)	バネ振り子の運動について考察します.
28	剛体に働く力(モーメント, つりあい)	傘を立てかけるとき倒れないように気をつけます. 倒れないとき, 傘に働く力の関係がどのようにになっているか考察する.
29	流体に働く力(圧力, 浮力)	「満員電車で, 運動靴の人に足を踏まれるより, ハイヒールの人に踏まれた方が痛い.」ことと, 「海に入ると体が浮く.」ことは全く関係ないことですが関係があります. 圧力と浮力について考察します.
30	摩擦係数の測定(学生実験)	静止摩擦係数を測定します. (実験題目を変更することもあります.)
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する. (日本語として変なので, 慣れるまでは気になる人もいると思いますが, 神戸高専では, 期末試験だけを定期試験と呼びます.)	

科目	化学 (Chemistry)		
担当教員	福本 晃造 助教		
対象学年等	電子工学科・1年・通年・必修・3単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A2(100%)		
授業の概要と方針	我々は、日常的に化学物質を利用することで生活を豊かで便利なものになっている。しかし、化学物質は同時に、有害な影響を及ぼす面も持ち合わせている。専門的な研究活動では、この影響に配慮しなければならず、その為には物質の基本となる化学の知識・視点が必要である。本科目では、化学に対する基本的な考え方や応用力を養うため、身近な物質や専門的な器具・薬品を用いた学習を行い、学生自らが考える授業を展開する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A2】 試薬・器具を適正に取り扱い、安全に実験を行うことができる。		試験・レポート・小テストで評価する。
2	【A2】 実験から得られた結果を整理し、考察を行うことができる。		試験・レポート・小テストで評価する。
3	【A2】 化学の基本法則を学び、化学反応の量的関係を理解している。		試験・小テストで評価する。
4	【A2】 化学的に探求する態度を身に付け、社会との繋がりを理解している。		試験・小テストで評価する。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験70%、レポート15%、小テスト15%として評価する。試験成績は、中間試験と定期試験の平均点とする。試験以外は、レポート及び小テストを合わせて評価する。ただし、指示に従わず危険な行為を行ったり、実験操作や計算、片づけを行わない者は減点する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録」(数研出版) 「セミナー化学I+II」(第一学習社)		
参考書	「化学I・IIの新研究」ト部吉庸 著(三省堂) 「化学・基本の考え方を中心に」A.Shermanほか著、石倉洋子ほか訳(東京化学同人)		
関連科目	物理, 数学		
履修上の注意事項	HR教室, または化学実験室(一般科棟B棟5階)において行う。化学実験室において行う場合, 事前に連絡するので, 開始時刻に遅れないこと。		

授業計画 1 (化学)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	導入, 純物質と混合物	授業の概要・評価の方法の説明。身の回りには, 様々な化学物質があふれていることを学ぶ。
2	混合物と分離実験	混合物に様々な処理を行うことで, 純物質を取り出すことができる。その手法について学ぶ。
3	化学変化と物理変化	物質が他の物質に変換されるとき, 一定の規則性に従う。その規則性について学ぶ。
4	原子の構造	物質の単位である原子は, さらに小さい粒子から構成されていることを学ぶ。
5	原子核と電子配置	原子核のまわりの電子は, いくつかの層にわかれて運動している。その構造について学ぶ。
6	イオンの形成と元素の周期律	元素を元素原子番号順に並べると, 周期律が見られる。この周期律について, 様々な角度から議論を行う。
7	化学反応の考え方(1)	分子は, 原子間に結合が形成することで生み出され, 化学式で表される。ここでは化学反応を化学式を用いて考える。
8	中間試験(前期)	教科書, ノートの持ち込みは不可。計算機の持ち込みは事前に指示する。
9	中間試験回答, 化学反応の考え方(2)	様々な化学反応から, その特徴について考える。
10	物質量と化学反応式, 量的関係	反応式の係数から, 反応する物質の量的関係を理解する。
11	物質量と気体の体積	分子の個数を考えるとき, 物質量という概念を導入する。その解説と利用法の習得を行う。
12	化学反応式と一定量の気体捕集	実験を通し, 物質量と気体の体積との関係を理解する。
13	気体発生実験と化学反応式, 原子価の考え方(1)	気体発生実験を通して, 化学反応式と原子価の関係を学ぶ。
14	気体発生実験と化学反応式, 原子価の考え方(2)	気体発生実験を通して, 化学反応式と原子価の関係を学ぶ。
15	化学結合	化学結合には様々な様式がある。その構造や強弱について学ぶ。
16	物質の三態, ボイルの法則, シャルルの法則	物質には大別して, 3つの状態がある。気体状態では圧力, 体積, 温度に相関が存在し, それらについて学ぶ。
17	ボイル・シャルルの法則	ボイル・シャルルの法則を用いることで, 一定量の気体の圧力・温度・体積の関係を計算によって求めることができる。その方法について学ぶ。
18	気体の状態方程式	気体の状態方程式を用いることで, 分子量を導くことができ, その手法を学ぶ。
19	昇華, 溶解, 電解質	液体が他の物質を溶かして均一な混合物をつくることを溶解と呼ぶ。溶解の仕組みについて学ぶ。
20	溶液と濃度	溶液濃度の表記法には様々なものがある。その種類と表記法について学ぶ。
21	溶液の濃度と化学反応比の関係	専門的な化学実験では, モル濃度を利用する。ここでは, モル濃度と化学反応式との関係について学ぶ。
22	沸点上昇と凝固点降下	純粋な液体に, 物質を溶かすことで沸点上昇, 凝固点降下が起こる。この現象の解説を行う。
23	中間試験(後期)	教科書, ノートの持ち込みは不可。計算機の持ち込みは事前に指示する。
24	中間試験回答, 酸と塩基	酸・塩基の定義にはいくつかあり, その種類と特徴を学ぶ。
25	酸・塩基の反応	酸と塩基が反応すると塩に加えて水が生じる。この反応を中和と呼び, その特徴を学ぶ。
26	中和滴定	中和反応を利用することで, 酸または塩基の濃度を決定することができる。その手法と理論的根拠を学ぶ。
27	水素イオン濃度とpH	水素イオン濃度からpHを決定する。これは酸性度の指標であり, その性質を学ぶ。
28	酸化と還元	酸化・還元にもいくつかの定義法があり, その特徴と理論を学ぶ。
29	金属のイオン化傾向と金属の反応	金属原子には, その種類によってイオンになりやすさが異なる。その傾向を学ぶ。
30	イオン化傾向の応用	電池は元素のイオン化傾向を利用したものであり, その原理について学ぶ。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	物理 (Physics)		
担当教員	一瀬 昌嗣 講師		
対象学年等	電子工学科・2年・通年・必修・3単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A2(100%)		
授業の概要と方針	第一学年で身につけた物理学の知識・思考方法をもとにして、熱力学、波動、電磁気学、初等的な原子物理を理解し、自ら考え応用し、探求する力を身につける。各分野の基礎的な事項をよく理解し、工学的な応用を視野に入れて、自ら探求する契機を提供する。授業は、ほぼテキストに従い行う予定。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A2】熱力学の知識・応用力を身につけ、力学との関連性を把握し、活用できるようにする。		中間・定期試験とレポートで評価する。
2	【A2】波動の性質を三角関数とともに理解し、活用できるようにする。		中間・定期試験とレポートで評価する。
3	【A2】電界と磁界、電流と回路の基本を理解し、活用できるようにする。		中間・定期試験とレポートで評価する。
4	【A2】前期量子論と原子物理の初等的な知識を、科学的な視点とともに理解する。		中間・定期試験とレポートで評価する。
5	【A2】実験結果を誤差を含めて整理し、理論と比較しながら考察することができる。		レポートで評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験70%、レポート30%として評価する。(試験成績は、中間試験と定期試験の平均点とする。) 100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「高専の物理[第5版]」和達三樹監修(森北出版) 「エクセル物理I+II 三訂版」(実教出版)		
参考書	「理解しやすい物理I・II」近角聰信・三浦登著(文英堂) 「チャート式新物理I」「チャート式新物理II」都築嘉弘著(数研出版) など、高等学校の物理Iおよび物理IIの参考書で、好みのものを参照するとよい。 (「物理I」のみのものもあるので、「物理II」までを含む参考書を選ぶこと)		
関連科目	数学, 化学		
履修上の注意事項	自分で問題を解くことが大切なので、自宅学習を怠らないこと。		

授業計画 1 (物理)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	温度と熱	絶対温度, 熱, 内部エネルギーなどの概念を理解する。熱量の単位[cal]と仕事の単位[J]の換算を元に, 簡単な問題を解けるようにする。
2	熱量	熱エネルギー, 比熱の概念を理解する。比熱を用いた簡単な問題を解けるようにする。
3	理想気体の法則	ボイルの法則, シャルルの法則を理解し, この二法則から出てきた理想気体の状態方程式を使えるようにする。
4	気体の分子運動	気体の分子運動論を理解する。理想気体の質量と温度から, 気体分子一個あたりの2乗平均速度を求められるようにする。
5	熱力学第一法則と熱力学過程	熱力学第一法則と, 等温・定積・定圧の条件の下での熱力学過程を考察する。
6	さまざまな熱力学過程	前回に続き, 断熱変化の熱力学過程を考察する。それぞれの熱力学過程について, 簡単な問題を解けるようにする。
7	波動	単振動と等速円運動の復習。縦波と横波, 正弦波, 位相, 波のエネルギー, 干渉と重ね合わせの原理について理解する。
8	中間試験	熱力学の理解を測る問題を中心に出題する。
9	中間試験解答	中間試験の解答と解説を行い, 類題の演習を行う。
10	位相の変化・定常波	波動について理解を深める。固定端と自由端でそれぞれで反射するときに, 位相がどうずれるかを理解する。定在波について理解する。ウェーブマシンで実演の予定。
11	波の干渉・回折・反射・屈折	ホイヘンスの原理を理解し, 波の干渉・回折・反射・屈折の現象を考察する。相対屈折率を理解し, 簡単な計算ができるようになる。
12	音の速さ・うなり・固有振動	温度に対する音の速さを理解する。うなりの現象を理解し, 周期と振動数を計算できるようにする。弦の固有振動, 気柱の閉管・開管の場合の固有振動について考察する。
13	音の共鳴・ドップラー効果	共鳴・共振の現象を理解する。ドップラー効果について理解し, 変化した振動数を計算できるようにする。
14	光の速さ・反射・屈折・回折・干渉	光の速さ・反射・屈折・回折の性質について, 音波での考察を参照しつつ理解する。干渉については, ヤングの実験を考察する。
15	光の干渉・偏光・分散・散乱	薄膜とニュートンリングによる光の干渉を考察する。音波にみられない光に固有の性質である, 偏光現象, プリズムを使っての分散, レイリー散乱などを考察する。
16	光学機器	これまで学んだ光の性質を応用したものとして, レンズとレーザーを考察する。
17	静電気力・電界・電気力線	静電気の性質, 静電誘導, 誘電分極, クーロンの法則, 電気力線について理解し, 電界の強さや, 電解中の電荷が受ける力を計算できるようにする。
18	電位差・コンデンサー	電位と電位差, コンデンサーの仕組み, 誘電率, 静電エネルギーについて理解し, 関連する簡単な問題を解けるようにする。
19	直流電圧・電流	オームの法則, 直列・並列の合成抵抗値の求め方を理解し, 計算できるようにする。
20	キルヒホッフの法則・半導体	キルヒホッフの法則を理解し, それを用いて電流や電圧を求められるようにする。半導体の性質と, ダイオードとトランジスタの仕組みを理解する。
21	磁界・磁力線	磁界と磁力線の性質, 電流と磁界の関係を理解する。
22	電流が磁界から受ける力	フレミングの左手の法則, 磁束の概念を理解し, 磁界から電流が受ける力, 電流同士が及ぼし合う力を計算できるようにする。
23	中間試験	光波, 静電気, 電流の性質を中心に出題する。
24	中間試験解説	中間試験の解答と解説を行い, 類題の演習を行う。
25	電磁誘導・交流	ファラデーの電磁誘導の法則, フレミングの右手の法則, レンツの法則, 自己インダクタンス, 相互インダクタンスを理解し, 関連する簡単な問題を解けるようにする。
26	交流回路・電磁波	交流回路の概要と電磁波について理解し, 交流電流の実効値, 誘導リアクタンス, 容量リアクタンスなどを計算できるようにする。
27	学生実験	可変抵抗, コンデンサー, コイルを使って回路を作り, オシロスコープを用いてリサージュ波形を観察し, 位相差を求める。(実験題目を変更することもある)
28	電子と光	電子や光などのマイクロなレベルの現象を, トムソンの実験, ミリカンの油滴実験, アインシュタインによる光電効果の説明, などを通して理解する。ド・ブロイの物質波など, 前期量子論についても, その概念を把握し, 関連する簡単な計算ができるようにする。
29	原子と原子核	原子の構造を科学的な視点をふまえて理解する。放射線と核エネルギー, 原子核の諸性質を理解する。
30	素粒子	湯川中間子論から, 現在受け入れられている標準理論に至るまでの概要を理解する。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	化学 (Chemistry)		
担当教員	福本 晃造 助教		
対象学年等	電子工学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A2(100%)		
授業の概要と方針	我々は、日常的に化学物質を利用することで生活を豊かで便利なものに行っている。しかし、化学物質は同時に、有害な影響を及ぼす面も持ち合わせている。専門的な研究活動では、この影響に配慮しなければならず、その為には物質の基本となる化学の知識・視点が必要である。本科目では、化学に対する基本的な考え方や応用力を養うため、身近な物質や専門的な器具・薬品を用いた学習を行い、学生自らが考える授業を展開する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A2】 試薬・器具を適正に取り扱い、安全に実験を行うことができる。		試験・レポート・小テストで評価する。
2	【A2】 実験から得られた結果を整理し、考察を行うことができる。		試験・レポート・小テストで評価する。
3	【A2】 化学の基本法則を学び、化学反応の量的関係を理解している。		試験・レポート・小テストで評価する。
4	【A2】 有機化合物の構造・反応性を理解し、社会との繋がりを認識している。		試験・レポート・小テストで評価する。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験70%、レポート15%、小テスト15%として評価する。試験成績は、中間試験と定期試験の平均点とする。試験以外は、レポート及び小テストを合わせて評価する。ただし、指示に従わず危険な行為を行ったり、実験操作や計算、片づけを行わない者は減点する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録」(数研出版) 「セミナー化学I+II」(第一学習社)		
参考書	「化学I・IIの新研究」ト部吉庸 著(三省堂) 「化学・基本の考え方を中心に」A.Shermanほか著、石倉洋子ほか訳(東京化学同人)		
関連科目	物理, 数学		
履修上の注意事項	化学実験室(一般科棟B棟5階)において行うので、開始時刻に遅れないこと。		

授業計画 1 (化学)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	導入, 金属のイオン化傾向と金属の反応	授業の概要・評価方法の説明。金属原子には, その種類によってイオンになりやすさが異なる。その傾向を学ぶ。
2	イオン化傾向の応用	電池は元素のイオン化傾向を利用したものであり, その原理について学ぶ。
3	反応熱, 燃焼熱	化学反応には必ずエネルギーの出入りが伴い, 熱化学方程式を用いて視覚化できることを学ぶ。
4	生成熱・中和熱・溶解熱	燃焼熱以外の反応熱についても, 熱化学方程式で対応できることを学ぶ。
5	ヘスの法則	未知の反応熱を知るときは, ヘスの法則を利用する。その手法と理論的理解を行う。
6	水素と希ガス	水素や希ガスの特徴・反応性について学ぶ。
7	ハロゲンとその化合物	ハロゲン元素の単体は高い酸化力を示す。またハロゲン化合物は, 日常生活でも利用されており, その種類と特徴, 利用について学ぶ。
8	中間試験(前期)	教科書, ノートの持ち込みは不可。計算機の持ち込みは事前に指示する。
9	中間試験回答, 酸素とその化合物	地球上, 最も多く存在する酸素は, 様々なものと酸化物を形成する。その種類と特性について学ぶ。
10	硫黄と酸素とその化合物	硫黄と酸素には, いくつかの同素体が存在する。ここでは, その種類と特徴について学ぶ。
11	窒素, リンとその化合物	窒素・リンは, 人間の必須元素であり, 工業・農業分野においても重要な役割を果たしている。ここでは, 元素の特徴と利用法について学ぶ。
12	炭素, ケイ素とその化合物	炭素・ケイ素の化学は, 現代科学を牽引している分野である。ここでは, 炭素・ケイ素の特徴と最新研究状況を解説する。
13	アルカリ金属とその化合物	水素とアルカリ金属は同じ第1族元素であるにも関わらず, 性質は大きく異なる。アルカリ金属の特徴と, その化合物について学ぶ。
14	アルカリ土類金属, アルミニウムとその化合物	2価の陽イオンになりやすいアルカリ土類金属と, 両性金属として作用するアルミニウムについて, 反応性を中心に学ぶ。
15	金属の水酸化物	金属の水酸化物は種類によって性質が異なる。実験を通し, その違いを学ぶ。
16	鉄とその化合物	鉄の製錬を例に, 鉄の反応性について学ぶ。
17	銅とその化合物	銅の電気精錬を例に, 銅の反応性について学ぶ。
18	金属イオンの分離	金属イオンの沈殿反応や呈色反応を利用して, 溶液に含まれる金属元素の種類を調べることができる。その原理と手法について学ぶ。
19	有機化合物とはなにか	炭素を含む化合物を有機化合物と呼ぶ。その分類や官能基について学ぶ。
20	アルコールの性質(1)	数種のアルコールの構造, 性質を調べ, これらの相関性について学ぶ。
21	アルコールの性質(2)	前講で学んだ知識を用い, 提示するアルコールの性質を予想する。
22	炭化水素, 分子モデルと構造異性体	構造式の書き方を学び, 異性体について考える。
23	中間試験(後期)	教科書, ノートの持ち込みは不可。計算機の持ち込みは事前に指示する。
24	中間試験回答, アルコールの分解	アルコールは酸化や脱水反応により, 他の化合物へと変換される。その反応機構について学ぶ。
25	生体へのアルコールの影響	生体内でのアルコール分解反応について, 紹介する。
26	アルデヒドの性質	還元性をもつアルデヒドの構造や性質について学ぶ。
27	カルボン酸とエステル化	カルボン酸はアルコールと反応してエステルを生成する。その反応機構について学ぶ。
28	油脂とけん化	石鹸や合成洗剤も化学物質である。それらの構造や特徴について学ぶ。
29	芳香族化合物, 化学式の決定	芳香族化合物を構造を示して紹介する。化学式の決定法についても学ぶ。
30	身の回りの化合物と人間との関わり	これまで学んできた知識を用い, 社会における化学物質の有益性と有害性について考える。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	生物 (Biology)		
担当教員	森 寿代 非常勤講師		
対象学年等	電子工学科・3年・前期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A2(100%)		
授業の概要と方針	日常的に取り上げられるようになった生命科学や環境問題などの話題について、科学的な見方や考え方ができることは現代において必要な能力となってきた。本科目では、生命の単位である細胞の構造・機能、生命活動を維持するための様々の働きについて学習する。生命科学の諸問題に関心をもち、理解するための一助となるよう、生物学の基礎的な素養を身につける。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A2】細胞の構造と細胞小器官の機能を理解する。		細胞の構造と細胞小器官の機能を理解できているか、試験で評価する。
2	【A2】細胞の増殖の方法と生物体の構造の多様性を理解する。		細胞の増殖の方法と生物体の構造の多様性を理解できているか、試験で評価する。
3	【A2】生殖細胞の形成過程と受精のしくみを理解する。		生殖細胞の形成過程と受精のしくみを理解できているか、試験で評価する。
4	【A2】実験の目的を理解し、結果に対して授業内容を基に考察できる。		実験の目的を理解し、結果に対して授業内容を基に考察できているか、レポートで評価する。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験80%、レポート20%として評価する。試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	資料プリントを随時配布する。		
参考書	授業で随時紹介する。		
関連科目	特になし。		
履修上の注意事項	特になし。		

科目	英語 (English)		
担当教員	柳生成世 教授		
対象学年等	電子工学科・1年・通年・必修・4単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B3(80%) D2(20%)		
授業の概要と方針	中学で学習した内容を確実にした上で、さらに4技能のバランスにも配慮しながら、高専での英語教育の基本と第1学年として必要な英語力を総合的に身につける。演習科目でもあるので、予習(テキストの下読みと語彙を辞書で確認)と復習(授業内容の確認)を必ず行い、また授業に積極的に参加し、発言することが求められる。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【B3】 英語の発音記号が正しく読める。		英語の発音記号が指示する単語が読み取れるかを中間・定期試験で評価する。
2	【B3】 1年次レベルの語彙を習得する。		1年次レベルの語彙を習得できているかを中間・定期試験、演習、レポートで評価する。
3	【B3】 1年次レベルの文法項目を習得する。		1年次レベルの文法項目を理解しているかを中間・定期試験、演習、レポートで評価する。
4	【B3】 1年次レベルの英語長文を正しく解釈できる。		1年次レベルの英語長文を正しく解釈できるかを中間・定期試験、演習、レポートで評価する。
5	【B3】 辞書を適切に利用できる。		辞書を適切に使えるかどうかを、演習で評価する。
6	【D2】 英文を通して、外国の人々の文化、生活様式、物の見方が理解できる。		外国の諸事情について、知識が豊かになったかを中間・定期試験、演習で評価する。
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験70%、レポート、演習30%として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「BIG DIPPER English Course I」：森岡 裕一ほか10名著（数研出版）		
参考書	「チャート式デュアルスコープ総合英語」：小寺茂明監修（数研出版） 「やさしい英語の発音」：原岡笙子著（語研） 「中学3年分の英語を3週間でマスターできる本」：長沢寿夫（明日香出版社） 「絵でわかる前置詞の使い方」：久保清子著（明日香出版社）		
関連科目	本科目は、2年次英語に関連する。		
履修上の注意事項	英和辞典、または電子辞書を持参すること。		

授業計画 1 (英語)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	Introduction	辞書の引き方の学習・発音記号の学習。
2	Lesson 1 Smile (1)	Reading: 「ほえみ」の特徴, 心からの笑顔とうわべだけの笑顔の違い, 笑いが心と体に与える効果について。 Grammar: 現在形・過去形, 現在進行形, 過去進行形
3	Lesson 1 Smile (2)	第2週と同じ。
4	Lesson 2 Fast Food (1)	Reading: 日本の「ファーストフード」の歴史を学び, その功罪も問う。Grammar: 主語になるもの(名詞, 代名詞), 目的語になるもの(動名詞, 不定詞など)
5	Lesson 2 Fast Food (2)	第4週と同じ
6	Function 1 How About Buying Something to Eat?	人を誘う表現(How about ~ ing など)
7	Lesson 3 Art Is Life (1)	Reading: 漫画家手塚治虫の半生とその作品の根底に溢れていた「生命の尊厳」を描くに至ったエピソード。 Grammar: 受身, S+V+O(that-節, wh-節), 不定詞の副詞用法
8	中間試験	これまでの学習内容の理解を問う。
9	Lesson 3 Art Is Life (2)	中間試験の解答と解説。Lesson 3の続き: 第7週と同じ
10	Lesson 4 Animal Therapy (1)	Reading: アニマル・セラピーの可能性と試みについて。Grammar: S+V+O+ to-不定詞, S+V+O+O, S+V+O+C
11	Lesson 4 Animal Therapy (2)	第10週目と同じ。
12	Function 2 Could You Lend Me YOur Notebook?	ものを頼む表現(Could you ~ ? など) 許可を求める表現 (Would it be all right if ~ ? など)
13	Lesson 5 Dreams Are for Everyone (1)	Reading: 耳の聞こえない俳優 忍足亜希子がこれまでの人生と, これからの夢とモットーを語る。Grammar: 比較級・最上級, 不定詞・現在分詞の形容詞用法, 現在完了, 過去分詞の形容詞用法
14	Lesson 5 Dreams Are for Everyone (2)	第13週目と同じ。
15	Lesson 6 Water of Life (1)	Reading: 世界の深刻な水問題や日本の諸外国への水依存度について考える。Grammar: 関係代名詞 (who, that, which), 過去完了
16	Lesson 6 Water of Life (2)	前期定期試験の解答と解説。Lesson 6の続き: 第15週目と同じ。
17	Function 3 I'm a Great Shamisen Fan	関心を表す表現, ほめる表現 (I'm crazy about ~ , You look very nice with ~ など) 感謝を表す表現 (Thank you very much など)
18	Lesson 7 The Cases of the Wrong Bag (1)	Reading: 白昼に起こった宝石強盗事件。盗まれた宝石はホテルに預けられた黒いかばんの中から見つかったが, さてその犯人は? Grammar: 関係副詞 (where, when, how), 形式主語 (It ~ that...)
19	Lesson 7 The Cases of the Wrong Bag (2)	第18週目と同じ。
20	Lesson 8 The Secret of the Arch (1)	Reading: アーチ型の持つ不思議に迫る。Grammar: 助動詞 + 受身, 関係副詞 (why), 関係代名詞 (what), 指示代名詞 (that, those)
21	Lesson 8 The Secret of the Arch (2)	第20週目と同じ。
22	Function 4 I'm So Glad He Won!	感情を表す表現 (I'm really excited. I'm feeling nervous. など) 同情を表す表現 (That's too bad. など)
23	中間試験	これまでの学習内容の理解を問う。
24	Lesson 9 Hana's Suitcase (1)	中間試験の解答と解説。Reading: アウシュビッツの生存者である兄が, 妹ハンナのかばんと再会するまで。 Grammar: 接続詞 (when, until, because), S+V+O+C (=原形不定詞), S+V+O+C(=現在分詞)
25	Lesson 9 Hana's Suitcase (2)	第24週目と同じ。
26	Lesson 10 Continent Withoug Borders (1)	Reading: 平和と国際協力のモデル, 環境観測の拠点として注目される南極の自然や昭和基地の様子などについて。 Grammar: 句のまとめ (so that ~ can (will) ...), 分詞構文, 節のまとめ
27	Lesson 10 Continent Withoug Borders (2)	第26週目と同じ。
28	Function 5 I Agree with Jim.	主張・賛成・反対を表す表現 (I think ~ , I agree with ~ , I don't agree with ~ など)
29	Reading The Lucky Generation (1)	2050年の私たちの生活はどうなっているだろう。イギリスに住む家族の日常を描いたフィクション。
30	Reading The Lucky Generation (2)	第29週目と同じ。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	英語 (English)		
担当教員	田口 純子 教授		
対象学年等	電子工学科・2年・通年・必修・4単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B3(80%) D2(20%)		
授業の概要と方針	1年で学習した内容を確実にしたうえで、さらに4技能のバランスにも配慮しながら、2年次として必要な英語力を総合的に身につける。演習科目でもあるので、予習(テキストの下読みと語彙を辞書で確認)と復習(授業内容の確認)を必ず行い、また授業に積極的に参加し、発言することが期待されている。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【B3】 英語の発音記号が正しく読める。		英語の発音記号が指示する単語が読み取れるかを、中間・定期試験および演習で評価する。
2	【B3】 2年次レベルの語彙を習得する。		2年次レベルの語彙を習得できているかを、中間・定期試験および演習で評価する。
3	【B3】 2年次レベルの文法項目を習得する。		2年次レベルの文法項目を理解しているかを、中間・定期試験および演習で評価する。
4	【B3】 2年次レベルの英語長文を正しく解釈できる。		2年次レベルの英語長文を正しく解釈できるかを、中間・定期試験および演習で評価する。
5	【D2】 英文を通して、外国の人々の文化、生活様式、物の見方が理解できる。		外国の諸事情について、知識が豊かになったかを中間・定期試験および演習で評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験70%、演習30%として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「Vivid English Course II」：南村俊夫ほか11名著（第一学習社）		
参考書	「@WILL総合英語改訂版」：和田吉剛著（美誠社） 「やさしい英語の発音」：原岡笙子著（語研） 「絵でわかる前置詞の使い方」：久保清子著（明日香出版社） 「教養としての英語の諺」：三浦謙編著（南雲堂）		
関連科目	本科目は、1年次英語及び、3年次英語、英語演習に関連する。		
履修上の注意事項	電子辞書または英和辞典を持参すること。		

授業計画 1 (英語)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	A Third Gold Medal as a Mother(1)	「柔ちゃん」こと谷亮子選手の前人未だの挑戦。不定詞(結果を表す副詞用法), 倒置, 付帯状況(with-句)
2	A Third Gold Medal as a Mother(2)	第1週と同じ。
3	A Third Gold Medal as a Mother(3)	第1週と同じ。
4	A Third Gold Medal as a Mother(4)	第1週と同じ。
5	1000 Winds and 1000 Cellos(1)	阪神・淡路大震災復興支援チャリティー「1000人のチェロ・コンサート」が奏でた未来。受け身(完了形), seem to~, It seems that ...
6	1000 Winds and 1000 Cellos(2)	第5週と同じ。
7	1000 Winds and 1000 Cellos(3)	第5週と同じ。
8	中間試験	これまでの学習内容の理解を問う。
9	Saving Native Tongues(1)	中間試験の解答と解説。言語の消滅が意味すること。S+V(be-動詞)+C(that-節), 関係代名詞と前置詞, 受け身(進行形)
10	Saving Native Tongues(2)	S+V(be-動詞)+C(that-節), 関係代名詞と前置詞, 受け身(進行形)
11	Saving Native Tongues(3)	第10週と同じ。
12	Looking for New Adventures(1)	海洋冒険家, 堀江謙一さんの限りない夢とチャレンジ精神。関係代名詞(非制限用法), 部分否定
13	Looking for New Adventures(2)	第12週と同じ。
14	Looking for New Adventures(3)	第12週と同じ。
15	Ouch! Slap!(1)	蚊の生態とその意外な事実。関係副詞(非制限用法), 仮定法過去, 助動詞+完了形
16	Ouch! Slap!(2)	前期定期試験の解答と解説。第15週と同じ。
17	Ouch! Slap!(3)	第15週と同じ。
18	Selling a Product(1)	広告が私たちに与える影響。分詞構文, 文全体を修飾する不定詞, 文全体を修飾する副詞
19	Selling a Product(2)	第18週と同じ。
20	Selling a Product(3)	第18週と同じ。
21	The Continents Move!(1)	ウェグナーの「大陸移動説」。仮定法過去完了, as if+仮定法(過去・過去完了)
22	The Continents Move!(2)	第21週と同じ。
23	中間試験	これまでの学習内容の理解を問う。
24	The Continents Move!(3)	中間試験の解答と解説。第21週と同じ。
25	The Humanism of Kurosawa Akira(1)	「世界映画界の巨匠」黒澤明監督が映画を通して訴えたもの。S+V+O(it)+C+不定詞, if-節のない仮定法(過去・過去完了), have+O+過去分詞
26	The Humanism of Kurosawa Akira(2)	第25週と同じ。
27	The Humanism of Kurosawa Akira(3)	第25週と同じ。
28	The Beginning of the Thirsry Century(1)	水がなくなる日。S+V+O(it)+C+that-節, be+to-不定詞
29	The Beginning of the Thirsry Century(2)	第28週と同じ。
30	The Beginning of the Thirsry Century(3)	第28週と同じ。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	英語 (English)		
担当教員	前田 誠一郎 教授		
対象学年等	電子工学科・3年・通年・必修・4単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B3(80%) D2(20%)		
授業の概要と方針	1, 2学年で習得した4技能の充実, 特にReadingの力の充実を目指し, 目的に合った読み方を身につけさせる. 連続的かつ累計的な学習になるように, 既習事項との関連を重視し, 段階的な学習を進めていく. また, 多様な分野の話題を通じて, 学生の視野を広げ, 思考力, 想像力を豊かにする.		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【B3】 語彙力をつけるとともに品詞に関する事柄が理解できる.		単語だけでなく, 熟語等が理解できているか, また, 名詞, 形容詞, 動詞, 副詞などの基本的な品詞が理解できているかを中間・定期試験および演習で評価する.
2	【B3】 既習の文法事項の定着を図り, 英文解釈に活用できるようにする.		既習の文法事項が正しく理解できているかを中間・定期試験および演習で評価する.
3	【B3】 素早く概要を読み取るスキミングという読み方を身につける.		スキミングがマスターできているかを中間・定期試験および演習で評価する.
4	【B3】 素早く必要な情報を読み取るスキニングという読み方を身につける.		スキニングがマスターできているかを中間・定期試験および演習で評価する.
5	【B3】 パラグラフ・リーディングを通して, 作者の意図を読み取る力を身につける.		パラグラフ・リーディングをマスターし, 作者の意図を読みとる思考力がついているかを中間・定期試験および演習で評価する.
6	【D2】 英文を通して, 外国の人々の文化, 生活様式, 物の見方を理解する.		外国の諸事情について, 知識が豊かになったかを中間・定期試験および演習で評価する.
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は, 試験70%, 演習30%として評価する. 中間・定期試験成績70%により到達目標1~6までを, 演習成績30%により到達目標1~6までを, 総合評価する. なお, 試験成績は, 中間試験と定期試験の平均点とする. 100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト	「PRO-VISION English Reading(New Edition)」: 塩澤利雄他著 (桐原書店)		
参考書	「@WILL総合英語改訂版」: 和田剛著 (美誠社) 「ジーニアス英和辞典 (第3版または第4版)」: 小西友七・南出康世編集主幹 (大修館書店)		
関連科目	本科目は, 2年次英語および3年次英語演習, 4年次英語演習に関連する.		
履修上の注意事項			

授業計画 1 (英語)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	E-mails for Understanding(1)	オーストラリアの少女とエジプトの少女の交流を通じて, 異文化コミュニケーションに対する姿勢を学ぶ。フレーズ・リーディングをする。文法事項: 分詞構文, 過去完了, 受け身, 進行形。
2	E-mails for Understanding(2)	第1週目と同じ。
3	E-mails for Understanding(3)	第1週目と同じ。
4	E-mails for Understanding(4)	第1週目と同じ。
5	Letters from Space(1)	宇宙ステーションに滞在する宇宙飛行士が息子に宛てた手紙から, 家族や日常生活のありふれたことの大切さについて考える。文法事項: 省略構文, ifの省略。
6	Letters from Space(2)	第5週目と同じ。
7	Letters from Space(3)	第5週目と同じ。
8	中間試験	これまでの学習内容の理解を問う。
9	Past, Present, and Future(1)	コミュニケーションの歴史についての論説文を読む。文法事項: 強調構文, if節に相当する仮定を表す語句。
10	Past, Present, and Future(2)	第9週目と同じ。
11	Past, Present, and Future(3)	第9週目と同じ。
12	Past, Present, and Future(4)	第9週目と同じ。
13	See the Light(1)	ある老婦人の電球を, 電機メーカーが破格の大金で買い取ろうとした理由は何かを考え, 登場人物のさまざまな思惑を読み取る。未知語の意味を推測する。
14	See the Light(2)	第13週目と同じ。
15	See the Light(3)	第13週目と同じ。
16	Picasso: Young All His Life(1)	「世界で最も若い画家」と言われたPicassoの生涯についての物語を読み, 常に新しいことに挑戦しつづける姿勢を学ぶ。文法事項: 仮定法過去完了, 形式主語, 形式目的語。
17	Picasso: Young All His Life(2)	第16週目と同じ。
18	Picasso: Young All His Life(3)	第16週目と同じ。
19	Lucky Man(1)	パーキンソン病患者の物語を読み, 人生と社会貢献について考える。パラグラフのまとまりをとらえる。文法事項: 倒置構文, 最上級の意味を表す比較級。
20	Lucky Man(2)	第19週目と同じ。
21	Lucky Man(3)	第19週目と同じ。
22	Lucky Man(4)	第19週目と同じ。
23	中間試験	これまでの学習内容の理解を問う。
24	The Model Millionaire(1)	気のいい青年とみずばらしいモデルが登場するOsacar Wildeの短編を読み, 物語の筋を楽しむ。予備的な読みをする。
25	The Model Millionaire(2)	第24週目と同じ。
26	The Model Millionaire(3)	第24週目と同じ。
27	Penguin Problems(1)	南極大陸のアデリーペンギンの生息数が減少していることから, 地球環境の危機と, これからの課題を考える。探し読み(Scanning)をする。文法事項: 無生物主語, 名詞構文。
28	Penguin Problems(2)	第27週目と同じ。
29	Penguin Problems(3)	第27週目と同じ。
30	Penguin Problems(4)	第27週目と同じ。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	英語演習 (The Practice of English)		
担当教員	佐藤 絹子 非常勤講師		
対象学年等	電子工学科・3年・後期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B3(80%) D2(20%)		
授業の概要と方針	この授業では、(1)Barack Obama (2)Jamie Oliver (3)J.K. Rowling (4)Randy Pausch という著名人の記事・DVDを題材に、英語テキストの講読（海外の著名人に関する記事）、リスニング練習（記事に関連するドキュメンタリー・映画）を行う。また、各授業の冒頭では、自分の好きな「英語フレーズ」の解説発表を行う。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【B3】 著名人に関する英語テキストの基礎的な読み方を習得し、語彙や文法事項を理解できる。		著名人に関する英語テキストの基礎的な読み方を習得し、語彙や文法事項を理解できるかを、中間・定期試験により評価する。
2	【B3】 著名人のインタビューやドキュメンタリー番組の自然な英語を聞いて、概要を理解できる。		著名人のインタビューやドキュメンタリー番組の自然な英語を聞いて、概要を理解できるかを、演習で評価する。
3	【D2】 自分の好きな英語フレーズについて解説できる。		自分の好きな英語フレーズについて解説できるかを、プレゼンテーションにより評価する。
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験80%、プレゼンテーション10%、演習10%として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。試験成績は、中間試験と定期試験の平均点とする。		
テキスト	プリントを配布		
参考書	「感動する英語!」：近江 誠（文藝春秋）		
関連科目	本科目は、2年次英語、3年次英語、および4年次英語演習に関連する。		
履修上の注意事項	英和辞典（電子辞書も可）を持参すること。		

科目	英語演習 (The Practice of English)		
担当教員	(前期)今里 典子 准教授 (後期)エイナー・ニルセン 非常勤講師		
対象学年等	電子工学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	B3(90%) B4(10%)	JABEE基準1(1)	(d)2-b,(f)
授業の概要と方針	前期：(1) 科学技術英語の基本的な読み方を学習する。(2) TOEICについては、特にリスニングを中心に、演習する。後期：(1) 総合的な英語力向上を目指す、特にコミュニケーションのための技能を伸ばし、重要な語彙や文法項目を学習する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【B4】 科学技術英語を読むために必要な語彙・文法・表現・読み方の基礎を理解する。		科学技術英語の基礎力が身についているかどうかを中間・定期試験で評価する。
2	【B3】 TOEIC試験対策の基礎(リスニング中心)を演習し身につける。		TOEIC対策の基礎(リスニング中心)が身についているかどうかを、中間試験・定期試験、演習で評価する。
3	【B3】 英語による基本的なコミュニケーションができる。		授業中の質疑・応答を通して、各学生のコミュニケーション能力を評価する。
4	【B3】 正しい英語の発音ができる。		授業中の質疑・応答を通して、学生の発音を評価する。
5	【B3】 さまざまなコミュニケーション場面の、英語話者の発音を聞き取ることができる。		授業中の質疑・応答を通して、学生のリスニング能力を評価する。
6	【B3】 コミュニケーションに必要な英語の語彙、文法を理解できる。		授業中に取り扱った重要語彙、文法項目について、中間試験・定期試験で評価する。
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験75%、演習25%として評価する。前期は、到達目標1・2を中間・定期試験40%、演習10%で評価する。後期は、到達目標3～5の演習15%、6の中間・定期試験35%で評価する。なお試験成績は、中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「Breakthrough:Expanding the Boundaries of Science」：瀬谷幸男・高津昌宏・平井清子・和治元義博・D. Brook, (金星社) Natural English: Pre-intermediate student's book : Ruth Gairn・Stuart Redman, (Oxford University Press)		
参考書	「理工系大学生のための英語ハンドブック」：東京工業大学外国語研究教育センター編(三省堂) 「TOEIC600点突破パーフェクト英単語」：小池直己(南雲堂)		
関連科目	本科目は、3年次英語、3年次英語演習、及び5年次英語演習に関連する。		
履修上の注意事項	英和・和英辞書(電子辞書含む)を準備すること。4年前期9月分の授業内容は7月中に行う。詳細は授業中に指示する。		

授業計画 1 (英語演習)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	イントロダクション	シラバスなどについて十分説明を行う。
2	科学英語1	Chapter1: World's Oceans Warming
3	科学英語2	Chapter2: World's Oceans Warming つづき
4	科学英語3	Chapter2: The Age of Robots
5	科学英語4	Chapter2: The Age of Robots つづき
6	TOEIC対策1	TOEIC対策として, リスニング中心の課題を行う。
7	TOEIC対策2	TOEIC対策として, リスニング中心の課題を行う。
8	中間試験	これまで学習した内容について, 理解度を問う。
9	中間試験解説 + TOEIC対策3	中間試験の解説と課題の解説を行う。TOEIC対策として, リスニング中心の課題を行う。
10	TOEIC対策4	TOEIC対策として, リスニング中心の課題を行う。
11	科学英語5	Chapter5: Green Tea and Our Health
12	科学英語6	Chapter5: Green Tea and Our Health つづき
13	科学英語7	Chapter12: Hearing Ear Dogs
14	科学英語8	Chapter12: Hearing Ear Dogs つづき
15	まとめ	前期学習内容の総復習を行う。
16	Self introduction, Unit 1 - Natural English	Introducing yourself - Giving and asking information - Introduction and assessment of student's level of English Assessment
17	Unit 1 - Natural English (Textbook)	Talking about friends and family - Conversation practice - Grammar - Vocabulary building
18	Unit 2 - Natural English (Textbook)	Talking about food and restaurants - Conversation practice - Grammar - Vocabulary building
19	Unit 3 - Natural English (Textbook)	Places and directions - Conversation practice - Grammar - Vocabulary building
20	Unit 4 - Natural English (Textbook)	Talking about shopping - Conversation practice - Grammar - Vocabulary building
21	Unit 5 - Natural English (Textbook)	School and education - Conversation practice - Grammar - Vocabulary building
22	Unit 6 - Natural English (Textbook)	Talking about the world around us - Talking about the weather - Conversation practice - Grammar - Vocabulary building
23	Midterm test	Review of material covered so far
24	Unit 7 - Natural English (Textbook)	How to tell a story - Conversation practice - Grammar - Vocabulary building
25	Unit 8 - Natural English (Textbook)	Talking about free time Learning how to make arrangements - Conversation practice - Grammar - Vocabulary building
26	Unit 9 - Natural English (Textbook)	Giving opinions - Talking about life changes - Conversation practice - Grammar - Vocabulary building
27	Unit 13 - Natural English (Textbook)	Describing people - Conversation practice - Grammar - Vocabulary building
28	Unit 14 - Natural English (Textbook)	Learning about traveling - Booking a hotel and how to get through an airport - Conversation practice - Grammar - Vocabulary building
29	Unit 12 - Natural English (Textbook)	Talking about past events - School reunion - Conversation practice - Grammar - Vocabulary building
30	Review	Review of material covered throughout the semester
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	英語演習 (The Practice of English)		
担当教員	(前期)前田 誠一郎 教授, エイナー・ニルセン 非常勤講師 (後期)前田 誠一郎 教授		
対象学年等	電子工学科・5年・通年・必修・2単位(学修単位I)		
学習・教育目標	B3(70%) B4(30%)	JABEE基準1(1)	(d)2-b,(f)
授業の概要と方針	前期は、クラスを2つに分け、少人数教育を実施する。授業計画の2回～8回と9回～15回がセットになっており、学生は入れ替わることになる。前期授業の半分は、英語で発信できる技術者を目指し、自分の考えを英語で発表するための技術の基本を学習する。前期授業の半分と後期の授業では、科学技術英語やTOEICテストを演習形式で学習する。また、プレゼンテーション・コンテストに向けた演習も実施する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【B3】英語の論理展開を理解し、プレゼンテーション用原稿作成に利用できる。		英語の論理展開を理解し、プレゼンテーション用原稿作成に利用できているかどうか、原稿チェック時に評価する。
2	【B3】プレゼンテーションのための態度や提示の基本的な方法を理解し実践できる。		プレゼンテーションのための態度や提示の基本的な方法を実践できているかどうか、発表会で評価する。
3	【B4】科学技術に関する英文を読み、正確に英文を読み取ることができる。		科学技術英語の読解力は、演習と中間試験および定期試験で評価する。
4	【B4】科学技術に関する語彙を増加させる。		科学技術英語の語彙力は、演習と中間試験および定期試験で評価する。
5	【B3】TOEICテストの演習を数多くこなすことにより、TOEICのスコアを向上させることができる。		TOEICテストに関しては、演習と中間試験および定期試験で評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	前期:到達目標1と2の原稿提出と発表会で15%, 到達目標3～5の中間試験・定期試験35%で評価する。後期:到達目標3～5の中間試験・定期試験で35%, 演習で5%, 到達目標1と2の10%で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「Basic English for Engineers and Scientists」: 上原 慎吾 他著(金星堂) 「TOEIC Test: To the Point」: 三原 京 他著(南雲堂)		
参考書	「理科系のための入門英語プレゼンテーション」: 廣岡美彦著(朝倉書店) 「はじめての英語プレゼンテーション」: 飯泉恵美子, T. J. Oba著(ジャパンタイムズ) 「理工系大学生のための英語ハンドブック」: 東京工業大学外国語研究教育センター編(三省堂)		
関連科目	本科目は、4年次英語演習及び専攻科英語講読, 時事英語に関連する。		
履修上の注意事項	英和・和英辞典を持参すること。		

授業計画 1 (英語演習)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	イントロダクション	教員紹介, 少人数授業のためのグループ分け, 授業の進め方・内容についてのガイダンスを行う。
2	プレゼンテーション分析(1)	プレゼンテーションの実践例に触れ, 英文の構成, 表現, 図の提示, 発表態度などについて分析し理解する。
3	プレゼンテーション分析(2)	2回目と同じ。
4	原稿作成実践(1)	自分が発表したい題目を選び, プレゼンテーションのための原稿を作成する。その際, 2~3回目で学習した内容を反映させるように指導する。
5	原稿作成実践(2)	4回目と同じ。
6	原稿作成実践(3)	書き言葉と話し言葉の差に注意を喚起し, 準備している原稿の英文を, 洗練させる。発表時の態度についても再度指導する。
7	発表会(1)	授業を受ける20名の学生のうち半数の10名が, 準備した原稿や図をもとにプレゼンテーションを行う。学生の相互評価も行う。
8	発表会(2)	7回目と同じ。
9	「理工系の基礎英語」[Unit6]と TOEIC演習(1)	「Vectors」の読解演習とTOEICテストのListening演習を行う。
10	「理工系の基礎英語」[Unit6]と TOEIC演習(2)	「Vectors」の読解演習とTOEICテストのReading演習を行う。
11	「理工系の基礎英語」[Unit7]とTOEIC演習(3)	「Mechanics」の読解演習とTOEICテストのListening演習を行う。
12	「理工系の基礎英語」[Unit7]とTOEIC演習(4)	「Mechanics」の読解演習とTOEICテストのReading演習を行う。
13	「理工系の基礎英語」[Unit8]とTOEIC演習(5)	「Global Warming」の読解演習とTOEICテストのListening演習を行う。
14	「理工系の基礎英語」[Unit8]とTOEIC演習(6)	「Global Warming」の読解演習とTOEICテストのReading演習を行う。
15	科学技術英語の総復習とTOEICの総復習	これまでに学習してきた内容の総復習を行う。
16	プレゼンテーションの準備(1)と TOEIC演習(7)	プレゼンテーション・コンテストの説明とTOEICテストのListening演習を行う。
17	プレゼンテーションの準備(2)と TOEIC演習(8)	プレゼンテーションの原稿作成とTOEICテストのReading演習を行う。
18	プレゼンテーションの発表会(1)	プレゼンテーションの発表会を実施する。
19	プレゼンテーションの発表会(2)	プレゼンテーションの発表会を実施し, 校内のコンテストに出場する代表を決定する。
20	「理工系の基礎英語」[Unit9]と TOEIC演習(9)	「Elements and Atoms」の読解演習とTOEICテストのListening演習を行う。
21	「理工系の基礎英語」[Unit9]と TOEIC演習(10)	「Elements and Atoms」の読解演習とTOEICテストのReading演習を行う。
22	「理工系の基礎英語」[Unit10]と TOEIC演習(11)	「Electricity and Magnetism」の読解演習とTOEICテストのListening演習を行う。
23	中間試験	これまで学習した内容について, 理解度を問う。
24	「理工系の基礎英語」[Unit10]と TOEIC演習(12)	中間試験の解答と解説。「Electricity and Magnetism」の読解演習とTOEICテストのReading演習を行う。
25	「理工系の基礎英語」[Unit11]と TOEIC演習(13)	「The Big Bang」の読解演習とTOEICテストのListening演習を行う。
26	「理工系の基礎英語」[Unit11]と TOEIC演習(14)	「The Big Bang」の読解演習とTOEICテストのReading演習を行う。
27	「理工系の基礎英語」[Unit12]と TOEIC演習(15)	「The Formation of Stars」の読解演習とTOEICテストのListening演習を行う。
28	「理工系の基礎英語」[Unit12]と TOEIC演習(16)	「The Formation of Stars」の読解演習とTOEICテストのReading演習を行う。
29	「理工系の基礎英語」[Unit13]と TOEIC演習(17)	「The Formation of Planets」の読解演習とTOEICテストのListening演習を行う。
30	「理工系の基礎英語」[Unit13]とTOEIC演習(18)	「The Formation of Planets」の読解演習とTOEICテストのReading演習を行う。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。前期の中間試験と定期試験については, 2つのグループに分けて授業を行うため, グループごとに実施する。	

科目	ドイツ語 (German)		
担当教員	本田 敏雄 教授		
対象学年等	電子工学科・4年・通年・選択・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	D2(100%)	JABEE基準1(1)	(a)
授業の概要と方針	テキスト『新版アクティブ・ドイツ語』を利用し、日常生活に必要な表現を学ぶことを通してドイツ語文法の初歩的知識を身につける。また補助教材として『新よくわかるドイツ語』を併用することにより、文法事項の確認をする。全員が初めて第二外国語としてドイツ語を学ぶのであるから、アルファベットから始め、ゆっくりと時間をかけて進むことにする。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【D2】ヨーロッパ諸言語の成立についての基礎知識を持つ		年度末にレポートで確認する。
2	【D2】言語を文化として理解する。		年度末にレポートで確認する。
3	【D2】ドイツ語文法に関する基礎知識を持つ。		中間試験に代わる口頭試問(+暗唱)と定期試験で評価する。
4	【D2】簡単な挨拶がドイツ語でできるようになる。		基礎レベルの日常会話を聞き取り、淀みなく話せるかどうかを、口頭試問と暗唱により評価する。
5	【D2】ドイツ語の学習を通して日本語、英語を相対化して見ることができるようになる。		年度末にレポートで確認する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験85%、レポート15%として評価する。なお、試験成績は、中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「新版アクティブ・ドイツ語」清水薫(同学社) 「新わかるドイツ語基礎編」常木実(三省堂)		
参考書	「日本語の21世紀のために」丸谷才一 山崎正和(文春新書) 「ことばと文化」鈴木孝夫(岩波新書) 「日本人はなぜ英語ができないか」鈴木孝夫(岩波新書) 「日本・日本語・日本人」大野晋他(新潮選書)		
関連科目	なし		
履修上の注意事項			

授業計画1(ドイツ語)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	アルファベットと発音(1) 語学学習について	短母音, 複母音, 重母音の発音外国語学習の意義(1)
2	アルファベットと発音(2)	子音の発音 英語と違い, 原則として綴り通りに発音することへの注意を徹底する外国語学習の意義(2) 日本語ですら, 相対化して見ることができるように
3	挨拶 表現練習, 基数詞	導入として, 簡単な挨拶表現を覚え, 使ってみる数詞の紹介, 以降随時取り上げ, 覚える
4	名前, 住所, 出身地	まず文章に触れて, 抵抗なくしゃべれるようにする名前, 出身地を自分のものに置き換えて伝える動詞の一人称, 二人称形
5	規則動詞の現在人称変化(1)	規則変化動詞の変化を覚える
6	年齢, 趣味, 職業, 家族	自己紹介からの発展として, 自分以外の家族の紹介を練習する動詞の三人称形を利用する
7	Muendliche Pruefung(1)	会話の形での試験をする. ここまでの文法事項の整理ができており, 基本的な挨拶文を話す事ができるかどうか一人一人口頭試験の形で試験する
8	Muendliche Pruefung(2)	会話の形での試験をする. ここまでの文法事項の整理ができており, 基本的な挨拶文を話す事ができるかどうか一人一人口頭試験の形で試験する
9	sein, haben, werdenの現在人称変化	ここまでの文法事項の整理大切な不規則動詞の変化を覚える
10	買い物(1)	名詞の性と格(1格/4格)不定冠詞, 定冠詞の変化一覧表を練習する
11	聞き取り練習	ここまでのまとめの聞き取り練習をする
12	持ち物, 所有の表現	名詞の性と格(2格/3格)3格支配の動詞
13	好みの表現	誰が, どこで, 何をという疑問詞を学ぶ名詞の性に馴染む
14	不規則動詞, 定冠詞類	定冠詞類の導入
15	不定冠詞類	不定冠詞類の一覧の導入
16	名詞の複数形, 人称代名詞	名詞複数形の総まとめ人称代名詞の導入
17	プレゼントの表現(1)	前置詞句の入った多様な表現の紹介前置詞の格支配の導入
18	プレゼントの表現(2)	前置詞の格支配の学習と前置詞句の入った多様な表現の練習
19	外出の表現	どこで, どこへを伴う表現と応答
20	前置詞	前置詞の総まとめをする
21	希望, 可能, 許可, 意志の表現(1)	話法の助動詞の導入
22	Muendliche Pruefung(口頭試験)	第1週から第21回までの内容で口頭試験の形で一人一人試験する.
23	Muendliche Pruefung(口頭試験)	第1週から第21回までの内容で口頭試験の形で一人一人試験する.
24	色, 月日	付加語的に使われる形容詞の導入年月日の表現と記法
25	形容詞の格変化(1)	形容詞の弱変化
26	形容詞の格変化(2)	形容詞の混合変化, 強変化
27	比較表現, 比較変化	形容詞の比較表現および変化を学ぶ
28	非人称代名詞・不定代名詞	多様な非人称表現の紹介
29	復習, 総括(1)	ここまでの総まとめ(ドイツ語の基礎の導入部をやったにすぎない)ドイツ語の特徴のまとめ
30	復習, 総括(2)	ここまでの学習を踏まえ外国語学習の意義を確認しておきたい
備考	前期定期試験, 後期中間試験および後期定期試験を実施する. 前期中間試験に代えて, 口頭試験の形で, 授業時間内と放課後に一人一人に実施する. 達成度の低い者また意欲のある者には, 暗唱を課する.	

科目	中国語 (Chinese)		
担当教員	陳 国祺 非常勤講師		
対象学年等	電子工学科・4年・通年・選択・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	D2(100%)	JABEE基準1(1)	(a)
授業の概要と方針	中国語の正しい発音の習得から基礎文法の学習までを主に学習する。学んだ内容を演習形式で行う。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【D2】 発音（ピンイン）の習得，聞き取り，表現を習得する。		演習問題，小テストを通して発音（ピンイン），聞き取り，表現の習得を評価する。
2	【D2】 基礎文法や単語を習得する。		基礎文法や単語の習得度を演習問題，小テスト，中間及び定期試験で評価する。
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は，試験85%，演習問題と小テスト15%として評価する。なお，試験成績は，中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「1からはじめる中国語練習」：内藤正子著（白水社出版） 「プリント」		
参考書	「デイリーコンサイズ中日・日中辞典」：（三省堂）		
関連科目	ドイツ語		
履修上の注意事項	中国語やドイツ語の授業を通じて東洋の文化や西洋の文化に対する理解を深め，多面的に物事を考える能力を身に付けるよう努力する。		

授業計画1(中国語)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	発音の基礎1	発音と発音記号の説明と演習.
2	発音の基礎2	発音と発音記号の説明と演習.
3	文法1	人称代名詞と助詞"的"の説明と演習.
4	文法2	指示代名詞と量詞の説明と演習.
5	文法3	形容詞述語と動詞述語の説明と演習.
6	文法4	主述述語と選択疑問文の説明と演習.
7	文法5	疑問詞疑問文の説明と演習.
8	中間試験	中間試験を実施する.
9	文法6	限定語と状況語の説明と演習.
10	文法7	数の数え方と時間の表し方の説明と演習.
11	文法8	お金の数え方と名前や年齢のたずねかたの説明と演習.
12	文法9	方位詞及び"有"と"在"の説明と演習.
13	文法10	介詞の説明と演習.
14	文法11	完了と変化の"了"の説明と演習.
15	まとめ1	前期学習事項をまとめる.
16	文法12	経験を表す助詞の説明と演習.
17	文法13	助動詞の説明と演習.
18	文法14	程度補語と結果補語の説明と演習.
19	文法15	進行形と持続形の説明と演習.
20	文法16	動詞と形容詞の重ね用法の説明と演習.
21	文法17	動作の継続時間の表し方の説明と演習.
22	文法18	方向補語と結果補語の説明と演習.
23	中間試験	中間試験を実施する.
24	文法19	的時候,"是~的"の説明と演習.
25	文法20	謙語文と連動文の説明と演習.
26	文法21	比較文と"就,才"の説明と演習.
27	文法22	"再,又,把"の説明と演習.
28	文法23	受身文と存現文の説明と演習.
29	文法24	疑問文の応用と強調の仕方の説明と演習.
30	まとめ2	後期学習事項をまとめる.
備考	前期,後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科目	芸術 (Art)		
担当教員	大倉 恭子 非常勤講師		
対象学年等	電子工学科・1年・前期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(100%)		
授業の概要と方針	歌唱の指導,又は個人別テスト,その時の個人指導によって,変声直後又は稀にいる変声途中の者を出来るだけ良い状態へと導きたい.カノン作曲によって既習した理論の確認と,正しく楽譜を書くことを体験させたい.生涯学習と言う観点からも,できる限り流行に左右されない曲を体験させたい.		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C3】 基本的な楽譜の見方,書き方を知る.		歌唱のテスト,及びカノンの作品の採点時に評価する.
2	【C3】 リズム,メロディーを理解しながら歌う.		歌唱のテスト時にその正確さを評価する.
3	【C3】 諸外国の曲を歌うことによってその国の音楽,言語に触れる.		歌唱のテスト時に発音を評価する.
4	【C3】 カノンの作曲を通して楽典を理解し,確認する.		カノンの作品の採点時に評価する.
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	歌唱テスト50% カノン2作品の平均30% 授業中に実施する小テスト演習20% この三つの項目の合計点が60点以上を合格とする.		
テキスト	高校の音楽1(音楽の友社) プリント		
参考書	無し		
関連科目	無し		
履修上の注意事項	半期の授業の間に1回の歌唱のテストを行う.実技,演習が中心の教科なので出席,授業態度も重要視する.		

科目	保健・体育 (Health and Physical Education)		
担当教員	(前期)春名 桂 准教授 (後期)中川 一穂 教授		
対象学年等	電子工学科・1年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(100%)		
授業の概要と方針	各種の運動を自主的に行わせることによって、積極的に運動を実施する習慣を育て、生涯体育につながる能力を養う。また、健全な社会生活を営む能力や態度を養い、健康、スポーツに関する基礎知識や体力の養成を目的としている。(前期種目:ソフトボール, バレーボール, 水泳)(後期種目:剣道, 卓球)		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C3】ソフトボールの特性を理解し、打つ・守る・走る・投げる等の基本技能を習得する。また、ルールや審判法、スコアのつけ方等を学び、簡易ゲームができるようにする。		ソフトボールの特性の理解・ルール・審判法・ボールスキル・ゲームの進め方などを理解し、習得しているか評価する。
2	【C3】バレーボールの特性を理解し、レシーブ・パス・スパイク・サーブ等の基本技能を習得する。また、ルールや審判法、スコアのつけ方等を学び、簡易ゲームができるようにする。		バレーボールの特性の理解・ルール・審判法・ボールスキル・ゲームの進め方などを理解し、習得しているか評価する。
3	【C3】水の特性や泳ぎのメカニズムを理解し、基本泳法を学ぶ。また、水中での自己防衛技術として、総合的な水泳能力の向上を図る。		水の特性や泳ぎのメカニズム・泳法能力・自己防衛技術・救急法などを理解し、習得しているか評価する。
4	【C3】剣道の基本理念を学び、基本動作を習得し、打突・引き技・応じ技・得意技を身につけ、対人技能の基本を身につけ、試合のできる技能・態度を身につける。		剣道の基本理念を学び、基本動作を習得し、打突・引き技・応じ技・得意技を身につけ、対人技能の基本を評価する。剣道の応用技能を身につけ相互試合により試合技能・態度を評価する。
5	【C3】卓球の基本ストローク、球の回転の理解と習得。シングルス、ダブルスの試合の理解と実践。		卓球の基本ストローク・球の回転の理解度を対人でラリーすることにより評価する。
6	【C3】毎時間ストレッチとサーキットトレーニングを行うことにより、継続的な体力増進・傷害予防に関する知識と技能を習得を図る。		健康増進・傷害予防・技能習得に関して毎時間ごとの習熟度(関心・意欲・思考・技能・知識)を評価する。
7	【C3】新体力テストを実施する事により、各自の体力を評価し、その結果を分析して、不足している能力の向上を図る。		新体力テストについては、特に評価を行わない。
8			
9			
10			
総合評価	前期は到達目標毎1のソフトボールを20%, 2のバレーボールを20%, 3の水泳を20%, 6を40%の割合で評価する。後期は、到達目標毎4の剣道を40%, 5の卓球を20%, 6を40%の割合で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	スイミングQ&A教室: ベースボールマガジン社(バタフライ編・背泳ぎ編・平泳ぎ編・自由形編) スイミングイーブンファスター		
参考書	MY SPORTS: 大修館書店 増補版「保健体育概論」: 近畿地区高等専門学校体育研究会編 晃洋書房		
関連科目	なし		
履修上の注意事項	新体力テストは、評価に含まない。		

授業計画 1 (保健・体育)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	ソフトボール1	体育科ガイダンス(体力増進・傷害予防に関する知識学習)・安全に留意し,正しい用具(バット・グローブ・ベース・ソフトボール・マスク)の使い方を覚える。キャッチボールを通して,様々なスローイング(ピッチングを含む)の方法を学ぶ。トスバッティングを通して,バットコントロール・ミート・捕球の方法を理解する。
2	バレーボール1	安全に留意し,正しい用具(バレーボール・支柱の運び方・ネットの張り方)の使い方を覚える。対人パスを通して,様々なパス技能(オーバーハンド・アンダーハンド)の方法を学ぶ。また,ラリーが続くような簡易ゲームを学ぶ。
3	ソフトボール2	キャッチボール・トスバッティング・シートノックを通して,前回の学習内容を定着させる。また,簡易ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。
4	バレーボール2	対人パスを通して,前回の学習内容を定着させる。また,スパイク練習やサーブ練習を通して,攻撃の方法を学ぶ。また,簡易ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。
5	ソフトボール3	キャッチボール・トスバッティング・シートノックを通して,前回の学習内容を定着させる。また,簡易ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。
6	バレーボール3	対人パスやスパイク練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,簡易ゲームを通して,三段攻撃やルール,運営方法を学ぶ。
7	ソフトボール4	キャッチボール・トスバッティング・シートノックを通して,前回の学習内容を定着させる。また,正式ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。
8	バレーボール4	対人パスやスパイク練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,ローテーションを取り入れた正式ゲーム(6人制)を通して,ルールや運営方法を学ぶ。
9	ソフトボール5	正式ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。また,学習内容をスキルテストで評価する。
10	バレーボール5	正式ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。また,学習内容をスキルテストで評価する。
11	水泳1	水の特性を理解し,浮き方・沈み方・抵抗などを学ぶ。また,泳ぎのメカニズム(ストリームライン・ローリング・息継ぎ・ストローク)を学び,基本泳法にチャレンジし,個人の能力に応じて,泳力を高める。
12	水泳2	水の特性を理解し,浮き方・沈み方・抵抗などを学ぶ。また,泳ぎのメカニズム(ストリームライン・ローリング・息継ぎ・ストローク)を学び,基本泳法にチャレンジし,個人の能力に応じて,泳力を高める。
13	水泳3	水に関する事故とその原因を知り,自己防衛方法を着衣水泳や浮き身を通して学ぶ。様々なリレー種目を行い,泳ぐことだけでなく,競い合う楽しみを味わう。
14	水泳4	学習内容をスキルテストで評価する。
15	水泳5	学習内容をスキルテストで評価する。
16	剣道1	体育科ガイダンス(体力増進・傷害予防に関する知識学習)・剣道の基本理念・基本姿勢・構えなどを学ぶ。
17	剣道2	基本技能,足掻き・基本打突などを行う。
18	剣道3	基本技能,踏み込み足動作での連続面打ち・左右面打ちなどを行う。
19	新体力テスト	反復横とび・20mシャトルラン・立ち幅跳び・上体起こし・長座体前屈・ハンドボール投げ・50m走を測定する。身長・体重・座高・体脂肪・握力を測定する。
20	剣道4	基本技能,垂,小手,胴を着けて面,胴,小手を打突する。
21	剣道5	基本技能,垂,小手,胴を着けて打ち込み稽古を行う。
22	剣道6	応用技能,剣道具を着けて仕掛け技の稽古を行う。
23	剣道7	応用技能,剣道具を着けて応じ技の稽古を行う。
24	剣道8	互角稽古,試合練習を行う。
25	剣道9	基本・応用動作の試験を行う。
26	剣道10	剣道抜き勝負による試合の評価を行う。
27	卓球1	卓球の基本ストローク,球の回転の理解をする。
28	卓球2	フォアハンド・バックハンドの個人技能の練習を行う。
29	卓球3	フォアハンド・バックハンドの個人技能の練習を行う。
30	卓球4	シングルス・ダブルスのゲームを理解し,それらを評価する。
備考	中間試験および定期試験は実施しない。(1)授業の導入や雨天時などを利用して,増補版「保健体育概論」の内容を学習する。(2)スキルテストについては,定期試験中には行わず,授業内で行う。	

科目	保健・体育 (Health and Physical Education)		
担当教員	(前期)春名 桂 准教授 (後期)小森田 敏 准教授		
対象学年等	電子工学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(100%)		
授業の概要と方針	各種の運動を自主的に行わせることによって、積極的に運動を実施する習慣を育て、生涯体育につながる能力を養う。また、健全な社会生活を営む能力や態度を養い、健康、スポーツに関する基礎知識や体力の養成を目的としている。(前期種目:バドミントン, テニス, 水泳)(後期種目:サッカー, バスケットボール)		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C3】 テニスの特性を理解し、基本動作であるラケット操作や、ストロークやサーブなどの基本技能を修得する。また、ルールや審判法、スコアのつけ方等を学び、簡易ゲームができるようにする。		テニスの特性の理解・ルール・審判法・ボールコントロール・ゲームの進め方などを理解し、習得しているか評価する。
2	【C3】 バドミントンの特性を理解し、基本動作であるラケット操作や、ストロークやサーブなどの基本技能を修得する。また、ルールや審判法、スコアのつけ方等を学び、簡易ゲームができるようにする。		バドミントンの特性の理解・ルール・審判法・ボールコントロール・ゲームの進め方などを理解し、習得しているか評価する。
3	【C3】 水の特性や泳ぎのメカニズムを理解し、基本泳法を学ぶ。また、水中での自己防衛技術として、総合的な水泳能力の向上を図る。		水の特性や泳ぎのメカニズム・泳法能力・自己防衛技術・救急法などを理解し、習得しているか評価する。
4	【C3】 サッカーの特性を理解し、シュート・ドリブル・パス・トラップなどのボールを扱った基本技能や、関係を活かした対人技能を修得する。また、ルールや審判法、スコアのつけ方等を学び、簡易ゲームができるようにする。		サッカーの特性の理解・ルール・審判法・ボールコントロール・ゲームの進め方などを理解し、習得しているか評価する。
5	【C3】 バスケットボールの特性を理解し、シュート・ドリブル・パスなどのボールを扱った基本技能や、関係を活かした対人技能を修得する。また、ルールや審判法、スコアのつけ方等を学び、簡易ゲームができるようにする。		バスケットボールの特性の理解・ルール・審判法・ボールコントロール・ゲームの進め方などを理解し、習得しているか評価する。
6	【C3】 新体力テストを実施することにより、各自の体力を評価し、その結果を分析して、不足している能力の向上を図る。		新体力テストについては、評価は行わない。
7	【C3】 毎時間ストレッチやサーキットトレーニングを行うことにより、継続的な体力増進・傷害予防に関する知識と技能習熟を図る。また、各種目の練習方法を学び、段階的な技能習熟を図る。		健康増進・傷害予防・技能習熟に関して、毎時間の習熟度を(関心・意欲・思考・技能・知識)を評価する。
8			
9			
10			
総合評価	前期は到達目標毎1のテニスを20%, 2のバドミントンを20%, 3の水泳を20%, 7を40%の割合で評価する。後期は、到達目標毎4のサッカーを30%, 5のバスケットボールを30%, 7を40%の割合で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	MY SPORTS : 大修館書店 増補版「保健体育概論」: 近畿地区高等専門学校体育研究会編 晃洋書房		
参考書			
関連科目	なし		
履修上の注意事項	新体力テストは、評価に含まない。		

授業計画1(保健・体育)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	バドミントン1	体育科ガイダンス(体力増進・傷害予防に関する知識学習)・安全に留意し,正しい用具(シャトル・支柱の運び方・ネットの張り方・ラケット)の使い方を覚える。対人パスを通して,様々なパス技能(オーバーハンド・アンダーハンド)の方法を学ぶ。また,ラリーが続くような簡易ゲームを学ぶ。
2	テニス1	安全に留意し,正しい用具(ボール・ラケット・ネットの張り方)の使い方を覚える。壁打ちや対人ボレーを通して,様々なラケットコントロールの方法を学ぶ。また,ラリーが続くような簡易ゲームを学ぶ。
3	バドミントン2	対人ラリーを通して,前回の学習内容を定着させる。また,シングルのリーグ戦を通して,ルールや運営方法を学ぶ。
4	テニス2	対人パスを通して,前回の学習内容を定着させる。また,ストローク練習やサーブ練習を通して,ラリーが続くようにする。また,簡易ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。
5	バドミントン3	自由練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,ダブルスのリーグ戦を通して,ルールや運営方法を学ぶ。
6	テニス3	自由練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,ダブルスのリーグ戦を通して,ルールや運営方法を学ぶ。
7	バドミントン4	自由練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,ダブルスのリーグ戦を通して,ルールや運営方法を学ぶ。
8	テニス4	自由練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,ダブルスのリーグ戦を通して,ルールや運営方法を学ぶ。
9	バドミントン5	正式ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。また,学習内容をスキルテストで評価する。
10	テニス5	正式ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。また,学習内容をスキルテストで評価する。
11	水泳1	水の特性を理解し,浮き方・沈み方などを学ぶ。また,泳ぎのメカニズム(ストリームライン・ローリング・息継ぎ・ストローク)を学び,基本泳法にチャレンジし,個人の能力に応じて,泳力を高める。
12	水泳2	水の特性を理解し,浮き方・沈み方などを学ぶ。また,泳ぎのメカニズム(ストリームライン・ローリング・息継ぎ・ストローク)を学び,基本泳法にチャレンジし,個人の能力に応じて,泳力を高める。
13	水泳3	水に関する事故とその原因を知り,自己防御方法を着衣水泳や浮き身を通して学ぶ。様々なリレー種目を行い,泳ぐことだけでなく,競い合う楽しみを味わう。
14	水泳4	学習内容をスキルテストで評価する。
15	水泳5	学習内容をスキルテストで評価する。
16	サッカー1	体育科ガイダンス(体力増進・傷害予防に関する知識学習)・安全に留意し,正しい用具(ボール・ゴールの持ち運び)の使い方を覚える。対人パスを通して,様々なパス技能(インサイド・アウトサイド・ヘディング)及びトラッピングの方法を学ぶ。また,簡易ゲームを通して,個人の技能を高める。
17	バスケットボール1	安全に留意し,正しい用具(ボール・ゼッケン・タイマー)の使い方を覚える。ハンドリングを通して,様々なボールコントロール技能(キャッチング・ドリブル)の方法を学ぶ。また,簡易ゲームを通して,個人の技能を高める。
18	サッカー2	対人練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,簡易ゲームを通して,連係プレーやルール,運営方法を学ぶ。
19	新体力テスト	反復横とび・20mシャトルラン・立ち幅跳び・上体起こし・長座体前屈・ハンドボール投げ・50m走を測定する。身長・体重・座高・体脂肪・握力を測定する。
20	バスケットボール2	対人練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,簡易ゲームを通して,連係プレーやルール,運営方法を学ぶ。
21	サッカー3	対人練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,簡易ゲームを通して,連係プレーやルール,運営方法を学ぶ。
22	バスケットボール3	対人練習や集団練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,簡易ゲームを通して,連係プレーやルール,運営方法を学ぶ。
23	サッカー4	対人練習や集団練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,正式コートを使っのリーグ戦を通して,より高度な連係プレーやルール,運営方法を学ぶ。
24	バスケットボール4	対人練習や集団練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,正式コートを使っのリーグ戦を通して,より高度な連係プレーやルール,運営方法を学ぶ。
25	サッカー5	対人練習や集団練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,正式コートを使っのリーグ戦を通して,より高度な連係プレーやルール,運営方法を学ぶ。
26	バスケットボール5	対人練習や集団練習を通して,前回の学習内容を定着させる。また,正式コートを使っのリーグ戦を通して,より高度な連係プレーやルール,運営方法を学ぶ。
27	サッカー6	正式ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。また,学習内容をスキルテストで評価する。
28	バスケットボール6	正式ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。また,学習内容をスキルテストで評価する。
29	サッカー7	正式ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。
30	バスケットボール7	正式ゲームを通して,ルールや運営方法を学ぶ。
備考	中間試験および定期試験は実施しない。(1)授業の導入や雨天時などを利用して,増補版「保健体育概論」の内容を学習する。(2)スキルテストについては,定期試験中には行わず,授業内で行う。	

科目	保健・体育（前期/体育館種目）(Health and Physical Education)		
担当教員	春名 桂 准教授		
対象学年等	電子工学科・3年・通年・必修・2単位（学修単位I）		
学習・教育目標	C3(100%)		
授業の概要と方針	各種の運動を自主的に行わせることによって、積極的に運動を実施する習慣を育て、生涯体育につながる能力を養う。また、健全な社会生活を営む能力や態度を養い、健康・スポーツに関する基礎知識や体力の養成を目的とする。種目選択制で行う。（共通種目：水泳 選択種目：バレーボール、バドミントン、卓球）		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C3】水の特性や泳ぎのメカニズムを理解し、基本泳法を学ぶ。水中での自己防衛として、総合的な水泳能力の向上を図る。		水の特性や泳ぎのメカニズム・泳法能力・自己防衛技術・救急法などが理解、習得できているかどうかを評価する。
2	【C3】バレーボールの特性を理解し、ルールや審判法を習得する。また、基本的な個人技能・集団戦略を学び、正規ルールによるゲームができるようにする。		バレーボールのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解、習得できているかどうかを評価する。
3	【C3】バドミントンのルールや審判法を学び、基本動作であるラケット操作を習得する。また、基本的な戦術・戦略を学び、正規ルールによるゲームができるようにする。		バドミントンのルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解、習得できているかどうかを評価する。
4	【C3】卓球のルールや審判法を学び、基本動作であるラケット操作を習得する。また、基本的な戦術・戦略を学び、正規ルールによるゲームができるようにする。		卓球のルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解、習得できているかどうかを評価する。
5	【C3】毎時間ストレッチとサーキットトレーニングを行うことにより、継続的な体力増進・傷害予防に関する知識と技能を習得する。また、各種目の練習方法を学び、段階的な技能習得を図る。		健康増進・傷害予防・技能習得に関して毎時間ごとの習熟度（関心・意欲・思考・技能・知識）を評価する。
6	【C3】新体力テストを実施することにより、各自の体力を評価し、その結果を分析して不足している能力の向上を図る。		新体力テストについては、評価を行わない。
7			
8			
9			
10			
総合評価	到達目標毎1 = 20%，到達目標毎2～4 = 40%，到達目標毎5 = 40%で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	MY SPOTS：大修館書店 増補版「保健体育概論」：近畿地区高等専門学校体育研究会編（晃洋書房）		
参考書			
関連科目	特になし		
履修上の注意事項	新体力テストは評価には含まない。		

科目	保健・体育（前期/グラウンド種目）(Health and Physical Education)		
担当教員	小森田 敏 准教授		
対象学年等	電子工学科・3年・通年・必修・2単位（学修単位I）		
学習・教育目標	C3(100%)		
授業の概要と方針	各種の運動を自主的に行わせることによって、積極的に運動を実施する習慣を育て、生涯体育につながる能力を養う。また、健全な社会生活を営む能力や態度を養い、健康・スポーツに関する基礎知識や体力の養成を目的とする。（水泳及び軟式野球/ソフトボール）		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C3】水の特性や泳ぎのメカニズムを理解し、基本泳法を学ぶ。水中での自己防衛として、総合的な水泳能力の向上を図る。		水の特性や泳ぎのメカニズム・泳法能力・自己防衛技術・救急法などが理解、習得できているかどうかを評価する。
2	【C3】軟式野球/ソフトボールの特性を理解し、ルールや審判法を習得する。また、基本的な個人技能・集団戦略を学び、正規ルールによるゲームができるようにする。		軟式野球/ソフトボールのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解、習得できているかどうかを評価する。
3	【C3】毎時間ストレッチとサーキットトレーニングを行うことにより、継続的な体力増進・傷害予防に関する知識と技能を習得する。また、各種目の練習方法を学び、段階的な技能習得を図る。		健康増進・傷害予防・技能習得に関して毎時間ごとの習熟度（関心・意欲・思考・技能・知識）を評価する。
4	【C3】新体力テストを実施することにより、各自の体力を評価し、その結果を分析して不足している能力の向上を図る。		新体力テストについては、評価を行わない。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	到達目標毎1 = 20%，到達目標毎2 = 40%，到達目標毎3 = 40%で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	MY SPOTS：大修館書店 増補版「保健体育概論」：近畿地区高等専門学校体育研究会編（晃洋書房）		
参考書			
関連科目	特になし		
履修上の注意事項	新体力テストは評価には含まない。		

科目	保健・体育（前期/テニス）(Health and Physical Education)		
担当教員	中川 一穂 教授		
対象学年等	電子工学科・3年・通年・必修・2単位（学修単位I）		
学習・教育目標	C3(100%)		
授業の概要と方針	各種の運動を自主的に行わせることによって、積極的に運動を実施する習慣を育て、生涯体育につながる能力を養う。また、健全な社会生活を営む能力や態度を養い、健康・スポーツに関する基礎知識や体力の養成を目的とする。（水泳及びテニス/ソフトテニス）		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C3】水の特性や泳ぎのメカニズムを理解し、基本泳法を学ぶ。水中での自己防衛として、総合的な水泳能力の向上を図る。		水の特性や泳ぎのメカニズム・泳法能力・自己防衛技術・救急法などが理解、習得できているかどうかを評価する。
2	【C3】テニス/ソフトテニスのルールや審判法を学び、基本動作であるラケット操作を習得する。また、基本的な戦術・戦略を学び、正規ルールによるゲームができるようにする。		テニス/ソフトテニスのルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解、習得できているかどうかを評価する。
3	【C3】毎時間ストレッチとサーキットトレーニングを行うことにより、継続的な体力増進・傷害予防に関する知識と技能を習得する。また、各種目の練習方法を学び、段階的な技能習得を図る。		健康増進・傷害予防・技能習得に関して毎時間ごとの習熟度（関心・意欲・思考・技能・知識）を評価する。
4	【C3】新体力テストを実施することにより、各自の体力を評価し、その結果を分析して不足している能力の向上を図る。		新体力テストについては、評価を行わない。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	到達目標毎1 = 20%，到達目標毎2 = 40%，到達目標毎3 = 40%で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	MY SPOTS：大修館書店 増補版「保健体育概論」：近畿地区高等専門学校体育研究会編（晃洋書房）		
参考書			
関連科目	特になし		
履修上の注意事項	新体力テストは評価には含まない。		

科目	保健・体育（後期/体育館種目）(Health and Physical Education)		
担当教員	小森田 敏 准教授		
対象学年等	電子工学科・3年・通年・必修・2単位(学修単位I)		
学習・教育目標	C3(100%)		
授業の概要と方針	各種の運動を自主的に行わせることによって、積極的に運動を実施する習慣を育て、生涯体育につながる能力を養う。また、健全な社会生活を営む能力や態度を養い、健康・スポーツに関する基礎知識や体力の養成を目的とする。種目選択制で行う。（選択種目：バスケットボール、バドミントン、卓球）		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C3】バスケットボールの特性を理解し、ルールや審判法を習得する。また、基本的な個人技能・集団戦略を学び、正規ルールによるゲームができるようにする。		バスケットボールのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解、習得できているかどうかを評価する。
2	【C3】バドミントンのルールや審判法を学び、基本動作であるラケット操作を習得する。また、基本的な戦術・戦略を学び、正規ルールによるゲームができるようにする。		バドミントンのルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解、習得できているかどうかを評価する。
3	【C3】卓球のルールや審判法を学び、基本動作であるラケット操作を習得する。また、基本的な戦術・戦略を学び、正規ルールによるゲームができるようにする。		卓球のルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解、習得できているかどうかを評価する。
4	【C3】毎時間ストレッチとサーキットトレーニングを行うことにより、継続的な体力増進・傷害予防に関する知識と技能を習得する。また、各種目の練習方法を学び、段階的な技能習得を図る。		健康増進・傷害予防・技能習得に関して毎時間ごとの習熟度（関心・意欲・思考・技能・知識）を評価する。
5	【C3】新体力テストを実施することにより、各自の体力を評価し、その結果を分析して不足している能力の向上を図る。		新体力テストについては、評価を行わない。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	到達目標毎1～3 = 60%，到達目標毎4 = 40%で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	MY SPOTS：大修館書店 増補版「保健体育概論」：近畿地区高等専門学校体育研究会編（晃洋書房）		
参考書			
関連科目	特になし		
履修上の注意事項	新体力テストは評価には含まない。		

科目	保健・体育（後期/グラウンド種目）(Health and Physical Education)		
担当教員	春名 桂 准教授		
対象学年等	電子工学科・3年・通年・必修・2単位(学修単位I)		
学習・教育目標	C3(100%)		
授業の概要と方針	運動を自主的に行わせることによって、積極的に運動を実施する習慣を育て、生涯体育につながる能力を養う。また、健全な社会生活を営む能力や態度を養い、健康・スポーツに関する基礎知識や体力の養成を目的とする。(種目：サッカー)		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C3】サッカーの特性を理解し、ルールや審判法を習得する。また、基本的な個人技能・集団戦略を学び、正規ルールによるゲームができるようにする。		サッカーのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解し、習得できているかどうかを評価する。
2	【C3】毎時間ストレッチとサーキットトレーニングを行うことにより、継続的な体力増進・傷害予防に関する知識と技能を習得する。また、各種目の練習方法を学び、段階的な技能習得を図る。		健康増進・傷害予防・技能習得に関して毎時間ごとの習熟度(関心・意欲・思考・技能・知識)を評価する。
3	【C3】新体力テストを実施することにより、各自の体力を評価し、その結果を分析して不足している能力の向上を図る。		新体力テストについては、評価を行わない。
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	到達目標毎1 = 60% , 到達目標毎2 = 40%で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	MY SPOTS : 大修館書店 増補版「保健体育概論」 : 近畿地区高等専門学校体育研究会編(晃洋書房)		
参考書			
関連科目	特になし		
履修上の注意事項	新体力テストは評価には含まない。		

科目	保健・体育（後期/テニス）(Health and Physical Education)		
担当教員	中川 一穂 教授		
対象学年等	電子工学科・3年・通年・必修・2単位（学修単位I）		
学習・教育目標	C3(100%)		
授業の概要と方針	運動を自主的に行わせることによって、積極的に運動を実施する習慣を育て、生涯体育につながる能力を養う。また、健全な社会生活を営む能力や態度を養い、健康・スポーツに関する基礎知識や体力の養成を目的とする。（種目：テニス/ソフトテニス）		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C3】 テニス/ソフトテニスのルールや審判法を学び、基本動作であるラケット操作を習得する。また、基本的な戦術・戦略を学び、正規ルールによるゲームができるようにする。		テニス/ソフトテニスのルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解、習得できているかどうかを評価する。
2	【C3】 毎時間ストレッチとサーキットトレーニングを行うことにより、継続的な体力増進・傷害予防に関する知識と技能を習得する。また、各種目の練習方法を学び、段階的な技能習得を図る。		健康増進・傷害予防・技能習得に関して毎時間ごとの習熟度（関心・意欲・思考・技能・知識）を評価する。
3	【C3】 新体力テストを実施することにより、各自の体力を評価し、その結果を分析して不足している能力の向上を図る。		新体力テストについては、評価を行わない
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	到達目標毎1 = 60% , 到達目標毎2 = 40%で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	MY SPOTS : 大修館書店 増補版「保健体育概論」 : 近畿地区高等専門学校体育研究会編（晃洋書房）		
参考書			
関連科目	特になし		
履修上の注意事項	新体力テストは評価には含まない。		

科目	保健・体育（前期/体育館種目）(Health and Physical Education)		
担当教員	中川 一穂 教授		
対象学年等	電子工学科・4年・通年・必修・2単位（学修単位I）		
学習・教育目標	C3(100%)	JABEE基準1(1)	(a),(b)
授業の概要と方針	各種の運動を自主的に行わせることによって、積極的に運動を実施する習慣を育て、生涯体育につながる能力を養う。また、健全な社会生活を営む能力や態度を養い、健康・スポーツに関する基礎知識や体力の養成を目的とする。種目選択制で行う。（共通種目：水泳 選択種目：バレーボール、バドミントン、卓球）		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C3】水の特性や泳ぎのメカニズムを理解し、基本泳法を学ぶ。水中での自己防衛として、総合的な水泳能力の向上を図る。		水の特性や泳ぎのメカニズム・泳法能力・自己防衛技術・救急法などが理解、習得できているかどうかを評価する。
2	【C3】バレーボールの特性を理解し、ルールや審判法を習得する。また、基本的な個人技能・集団戦略を学び、正規ルールによるゲームができるようにする。		バレーボールのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解、習得できているかどうかを評価する。
3	【C3】バドミントンのルールや審判法を学び、基本動作であるラケット操作を習得する。また、基本的な戦術・戦略を学び、正規ルールによるゲームができるようにする。		バドミントンのルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解、習得できているかどうかを評価する。
4	【C3】卓球のルールや審判法を学び、基本動作であるラケット操作を習得する。また、基本的な戦術・戦略を学び、正規ルールによるゲームができるようにする。		卓球のルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解、習得できているかどうかを評価する。
5	【C3】毎時間ストレッチとサーキットトレーニングを行うことにより、継続的な体力増進・傷害予防に関する知識と技能を習得する。また、各種目の練習方法を学び、段階的な技能習得を図る。		健康増進・傷害予防・技能習得に関して毎時間ごとの習熟度（関心・意欲・思考・技能・知識）を評価する。
6	【C3】新体力テストを実施することにより、各自の体力を評価し、その結果を分析して不足している能力の向上を図る。		新体力テストについては、評価を行わない。
7			
8			
9			
10			
総合評価	到達目標毎1 = 20%，到達目標毎2～4 = 40%，到達目標毎5 = 40%で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	MY SPOTS：大修館書店 増補版「保健体育概論」：近畿地区高等専門学校体育研究会編（晃洋書房）		
参考書			
関連科目	特になし		
履修上の注意事項	新体力テストは評価には含まない。		

科目	保健・体育（前期/グラウンド種目）(Health and Physical Education)		
担当教員	寺田 雅裕 教授		
対象学年等	電子工学科・4年・通年・必修・2単位（学修単位I）		
学習・教育目標	C3(100%)	JABEE基準1(1)	(a),(b)
授業の概要と方針	各種の運動を自主的に行わせることによって、積極的に運動を実施する習慣を育て、生涯体育につながる能力を養う。また、健全な社会生活を営む能力や態度を養い、健康・スポーツに関する基礎知識や体力の養成を目的とする。（水泳及び軟式野球/ソフトボール）		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C3】水の特性や泳ぎのメカニズムを理解し、基本泳法を学ぶ。水中での自己防衛として、総合的な水泳能力の向上を図る。		水の特性や泳ぎのメカニズム・泳法能力・自己防衛技術・救急法などが理解、習得できているかどうかを評価する。
2	【C3】軟式野球/ソフトボールの特性を理解し、ルールや審判法を習得する。また、基本的な個人技能・集団戦略を学び、正規ルールによるゲームができるようにする。		軟式野球/ソフトボールのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解、習得できているかどうかを評価する。
3	【C3】毎時間ストレッチとサーキットトレーニングを行うことにより、継続的な体力増進・傷害予防に関する知識と技能を習得する。また、各種目の練習方法を学び、段階的な技能習得を図る。		健康増進・傷害予防・技能習得に関して毎時間ごとの習熟度（関心・意欲・思考・技能・知識）を評価する。
4	【C3】新体力テストを実施することにより、各自の体力を評価し、その結果を分析して不足している能力の向上を図る。		新体力テストについては、評価を行わない。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	到達目標毎1 = 20%，到達目標毎2 = 40%，到達目標毎3 = 40%で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	MY SPOTS：大修館書店 増補版「保健体育概論」：近畿地区高等専門学校体育研究会編（晃洋書房）		
参考書			
関連科目	特になし		
履修上の注意事項	新体力テストは評価には含まない。		

科目	保健・体育（前期/テニス）(Health and Physical Education)		
担当教員	小森田 敏 准教授		
対象学年等	電子工学科・4年・通年・必修・2単位（学修単位I）		
学習・教育目標	C3(100%)	JABEE基準1(1)	(a),(b)
授業の概要と方針	各種の運動を自主的に行わせることによって、積極的に運動を実施する習慣を育て、生涯体育につながる能力を養う。また、健全な社会生活を営む能力や態度を養い、健康・スポーツに関する基礎知識や体力の養成を目的とする。（水泳及びテニス/ソフトテニス）		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C3】水の特性や泳ぎのメカニズムを理解し、基本泳法を学ぶ。水中での自己防衛として、総合的な水泳能力の向上を図る。		水の特性や泳ぎのメカニズム・泳法能力・自己防衛技術・救急法などが理解、習得できているかどうかを評価する。
2	【C3】テニス/ソフトテニスのルールや審判法を学び、基本動作であるラケット操作を習得する。また、基本的な戦術・戦略を学び、正規ルールによるゲームができるようにする。		テニス/ソフトテニスのルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解、習得できているかどうかを評価する。
3	【C3】毎時間ストレッチとサーキットトレーニングを行うことにより、継続的な体力増進・傷害予防に関する知識と技能を習得する。また、各種目の練習方法を学び、段階的な技能習得を図る。		健康増進・傷害予防・技能習得に関して毎時間ごとの習熟度（関心・意欲・思考・技能・知識）を評価する。
4	【C3】新体力テストを実施することにより、各自の体力を評価し、その結果を分析して不足している能力の向上を図る。		新体力テストについては、評価を行わない。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	到達目標毎1 = 20%，到達目標毎2 = 40%，到達目標毎3 = 40%で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	MY SPOTS：大修館書店 増補版「保健体育概論」：近畿地区高等専門学校体育研究会編（晃洋書房）		
参考書			
関連科目	特になし		
履修上の注意事項	新体力テストは評価には含まない。		

科目	保健・体育（後期/体育館種目）(Health and Physical Education)		
担当教員	中川 一穂 教授		
対象学年等	電子工学科・4年・通年・必修・2単位（学修単位I）		
学習・教育目標	C3(100%)	JABEE基準1(1)	(a),(b)
授業の概要と方針	各種の運動を自主的に行わせることによって、積極的に運動を実施する習慣を育て、生涯体育につながる能力を養う。また、健全な社会生活を営む能力や態度を養い、健康・スポーツに関する基礎知識や体力の養成を目的とする。種目選択制で行う。（選択種目：バスケットボール、バドミントン、卓球）		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C3】バスケットボールの特性を理解し、ルールや審判法を習得する。また、基本的な個人技能・集団戦略を学び、正規ルールによるゲームができるようにする。		バスケットボールのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解、習得できているかどうかを評価する。
2	【C3】バドミントンのルールや審判法を学び、基本動作であるラケット操作を習得する。また、基本的な戦術・戦略を学び、正規ルールによるゲームができるようにする。		バドミントンのルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解、習得できているかどうかを評価する。
3	【C3】卓球のルールや審判法を学び、基本動作であるラケット操作を習得する。また、基本的な戦術・戦略を学び、正規ルールによるゲームができるようにする。		卓球のルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解、習得できているかどうかを評価する。
4	【C3】毎時間ストレッチとサーキットトレーニングを行うことにより、継続的な体力増進・傷害予防に関する知識と技能を習得する。また、各種目の練習方法を学び、段階的な技能習得を図る。		健康増進・傷害予防・技能習得に関して毎時間ごとの習熟度（関心・意欲・思考・技能・知識）を評価する。
5	【C3】新体力テストを実施することにより、各自の体力を評価し、その結果を分析して不足している能力の向上を図る。		新体力テストについては、評価を行わない。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	到達目標毎1～3 = 60%，到達目標毎4 = 40%で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	MY SPOTS：大修館書店 増補版「保健体育概論」：近畿地区高等専門学校体育研究会編（晃洋書房）		
参考書			
関連科目	特になし		
履修上の注意事項	新体力テストは評価には含まない。		

科目	保健・体育（後期/グラウンド種目）(Health and Physical Education)		
担当教員	小森田 敏 准教授		
対象学年等	電子工学科・4年・通年・必修・2単位(学修単位I)		
学習・教育目標	C3(100%)	JABEE基準1(1)	(a),(b)
授業の概要と方針	運動を自主的に行わせることによって、積極的に運動を実施する習慣を育て、生涯体育につながる能力を養う。また、健全な社会生活を営む能力や態度を養い、健康・スポーツに関する基礎知識や体力の養成を目的とする。(種目：サッカー)		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C3】サッカーの特性を理解し、ルールや審判法を習得する。また、基本的な個人技能・集団戦略を学び、正規ルールによるゲームができるようにする。		サッカーのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解し、習得できているかどうかを評価する。
2	【C3】毎時間ストレッチとサーキットトレーニングを行うことにより、継続的な体力増進・傷害予防に関する知識と技能を習得する。また、各種目の練習方法を学び、段階的な技能習得を図る。		健康増進・傷害予防・技能習得に関して毎時間ごとの習熟度(関心・意欲・思考・技能・知識)を評価する。
3	【C3】新体力テストを実施することにより、各自の体力を評価し、その結果を分析して不足している能力の向上を図る。		新体力テストについては、評価を行わない。
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	到達目標毎1 = 60% , 到達目標毎2 = 40%で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	MY SPOTS : 大修館書店 増補版「保健体育概論」 : 近畿地区高等専門学校体育研究会編(晃洋書房)		
参考書			
関連科目	特になし		
履修上の注意事項	新体力テストは評価には含まない。		

科目	保健・体育（後期/テニス）(Health and Physical Education)		
担当教員	寺田 雅裕 教授		
対象学年等	電子工学科・4年・通年・必修・2単位(学修単位I)		
学習・教育目標	C3(100%)	JABEE基準1(1)	(a),(b)
授業の概要と方針	運動を自主的に行わせることによって、積極的に運動を実施する習慣を育て、生涯体育につながる能力を養う。また、健全な社会生活を営む能力や態度を養い、健康・スポーツに関する基礎知識や体力の養成を目的とする。（種目：テニス/ソフトテニス）		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C3】 テニス/ソフトテニスのルールや審判法を学び、基本動作であるラケット操作を習得する。また、基本的な戦術・戦略を学び、正規ルールによるゲームができるようにする。		テニス/ソフトテニスのルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解、習得できているかどうかを評価する。
2	【C3】 毎時間ストレッチとサーキットトレーニングを行うことにより、継続的な体力増進・傷害予防に関する知識と技能を習得する。また、各種目の練習方法を学び、段階的な技能習得を図る。		健康増進・傷害予防・技能習得に関して毎時間ごとの習熟度（関心・意欲・思考・技能・知識）を評価する。
3	【C3】 新体力テストを実施することにより、各自の体力を評価し、その結果を分析して不足している能力の向上を図る。		新体力テストについては、評価を行わない
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	到達目標毎1 = 60% , 到達目標毎2 = 40%で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	MY SPOTS : 大修館書店 増補版「保健体育概論」 : 近畿地区高等専門学校体育研究会編（晃洋書房）		
参考書			
関連科目	特になし		
履修上の注意事項	新体力テストは評価には含まない。		

科 目		保健・体育（前期/体育館種目）(Health and Physical Education)	
担当教員		寺田 雅裕 教授	
対象学年等		電子工学科・5年・前期・必修・1単位（学修単位I）	
学習・教育目標		C3(100%)	JABEE基準1(1) (a),(b)
授業の概要と方針		各種の運動を自主的に行わせることによって、積極的に運動を実施する習慣を育て、生涯体育につながる能力を養う。また、健全な社会生活を営む能力や態度を養い、健康・スポーツに関する基礎知識や体力の養成を目的とする。種目選択制で行う。（選択種目：バレーボール、バドミントン、卓球）	
		到達目標	達成度
		到達目標毎の評価方法と基準	
1	【C3】バレーボールの特性を理解し、ルールや審判法を習得する。また、基本的な個人技能・集団戦略を学び、正規ルールによるゲームができるようにする。		バレーボールのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解、習得できているかどうかを評価する。
2	【C3】バドミントンのルールや審判法を学び、基本動作であるラケット操作を習得する。また、基本的な戦術・戦略を学び、正規ルールによるゲームができるようにする。		バドミントンのルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解、習得できているかどうかを評価する。
3	【C3】卓球のルールや審判法を学び、基本動作であるラケット操作を習得する。また、基本的な戦術・戦略を学び、正規ルールによるゲームができるようにする。		卓球のルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解、習得できているかどうかを評価する。
4	【C3】毎時間ストレッチとサーキットトレーニングを行うことにより、継続的な体力増進・傷害予防に関する知識と技能を習得する。また、各種目の練習方法を学び、段階的な技能習得を図る。		健康増進・傷害予防・技能習得に関して毎時間ごとの習熟度（関心・意欲・思考・技能・知識）を評価する。
5	【C3】新体力テストを実施することにより、各自の体力を評価し、その結果を分析して不足している能力の向上を図る。		新体力テストについては、評価を行わない。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価		到達目標毎1～3 = 60%，到達目標毎4 = 40%で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。	
テキスト		MY SPOTS：大修館書店 増補版「保健体育概論」：近畿地区高等専門学校体育研究会編（晃洋書房）	
参考書			
関連科目		特になし	
履修上の注意事項		新体力テストは評価には含まない。	

科目	保健・体育（前期/グラウンド種目）(Health and Physical Education)		
担当教員	小野 舞衣 非常勤講師		
対象学年等	電子工学科・5年・前期・必修・1単位（学修単位I）		
学習・教育目標	C3(100%)	JABEE基準1(1)	(a),(b)
授業の概要と方針	運動を自主的に行わせることによって、積極的に運動を実施する習慣を育て、生涯体育につながる能力を養う。また、健全な社会生活を営む能力や態度を養い、健康・スポーツに関する基礎知識や体力の養成を目的とする。（種目：軟式野球/ソフトボール）		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C3】軟式野球/ソフトボールの特性を理解し、ルールや審判法を習得する。また、基本的な個人技能・集団戦略を学び、正規ルールによるゲームができるようにする。		軟式野球/ソフトボールのルール・審判法・個人技能・集団戦略などを理解、習得できているかどうかを評価する。
2	【C3】毎時間ストレッチとサーキットトレーニングを行うことにより、継続的な体力増進・傷害予防に関する知識と技能を習得する。また、各種目の練習方法を学び、段階的な技能習得を図る。		健康増進・傷害予防・技能習得に関して毎時間ごとの習熟度（関心・意欲・思考・技能・知識）を評価する。
3	【C3】新体力テストを実施することにより、各自の体力を評価し、その結果を分析して不足している能力の向上を図る。		新体力テストについては、評価を行わない。
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	到達目標毎1 = 60% , 到達目標毎2 = 40%で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	MY SPOTS : 大修館書店 増補版「保健体育概論」 : 近畿地区高等専門学校体育研究会編（晃洋書房）		
参考書			
関連科目	特になし		
履修上の注意事項	新体力テストは評価には含まない。		

科目	保健・体育（前期/テニス）(Health and Physical Education)		
担当教員	春名 桂 准教授		
対象学年等	電子工学科・5年・前期・必修・1単位（学修単位I）		
学習・教育目標	C3(100%)	JABEE基準1(1)	(a),(b)
授業の概要と方針	運動を自主的に行わせることによって、積極的に運動を実施する習慣を育て、生涯体育につながる能力を養う。また、健全な社会生活を営む能力や態度を養い、健康・スポーツに関する基礎知識や体力の養成を目的とする。（種目：テニス/ソフトテニス）		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C3】 テニス/ソフトテニスのルールや審判法を学び、基本動作であるラケット操作を習得する。また、基本的な戦術・戦略を学び、正規ルールによるゲームができるようにする。		テニス/ソフトテニスのルール・審判法・ラケットコントロール・戦術・戦略などを理解、習得できているかどうかを評価する。
2	【C3】 毎時間ストレッチとサーキットトレーニングを行うことにより、継続的な体力増進・傷害予防に関する知識と技能を習得する。また、各種目の練習方法を学び、段階的な技能習得を図る。		健康増進・傷害予防・技能習得に関して毎時間ごとの習熟度（関心・意欲・思考・技能・知識）を評価する。
3	【C3】 新体力テストを実施することにより、各自の体力を評価し、その結果を分析して不足している能力の向上を図る。		新体力テストについては、評価を行わない
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	到達目標毎1 = 60% , 到達目標毎2 = 40%で評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	MY SPOTS : 大修館書店 増補版「保健体育概論」 : 近畿地区高等専門学校体育研究会編（晃洋書房）		
参考書			
関連科目	特になし		
履修上の注意事項	新体力テストは評価には含まない。		

科目	哲学 (Philosophy)		
担当教員	手代木 陽 教授		
対象学年等	全学科・5年・通年・選択・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(80%) D2(20%)	JABEE基準1(1)	(a),(b)
授業の概要と方針	哲学の根本問題は「人間とは何か」である。科学技術の進歩は現代を生きる人間のあり方を大きく変えつつある。まず科学技術についての楽観論、悲観論を取り上げ、その根拠を考察する。そして限定論の立場から科学技術の進歩が現代社会に投げかけている問題を哲学的に考察する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C3】 科学技術の諸問題の根本には「人間とは何か」という哲学的問題があることを理解し、それについて自分の意見を矛盾なく展開できる。		科学技術の諸問題の根本には「人間とは何か」という哲学的問題があることを理解し、それについて自分の意見を矛盾なく展開できるか、定期試験、レポートで評価する。
2	【D2】 科学技術の諸問題に関する西洋の哲学・倫理思想を理解し、それに対する自分の意見を矛盾なく展開できる。		科学技術の諸問題に関する西洋の哲学・倫理思想を理解し、それに対する自分の意見を矛盾なく展開できるか、定期試験、レポートで評価する。
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験50%、レポート50%として評価する。レポートには毎回授業の最後に提出する小レポートと自主課題レポートが含まれる。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	ノート講義		
参考書	なし		
関連科目	倫理		
履修上の注意事項	なし		

授業計画 1 (哲学)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	哲学とは?	哲学と科学のアプローチの相違を解説し、「私とは何か」という問題について考えてみる。
2	人間とは?	哲学の根本問題が「人間とは何か」という問題に集約されることを説明し、ヒトと類人猿の相違点についてビデオ教材を視聴して考える。
3	技術とは?	科学技術の問題が「人間とは何か」という哲学的問題と不可分であることを説明し、ハンス・ヨナスの科学技術についての5つの主張を取り上げ、科学技術の楽観論、悲観論、限定論のいずれに賛成するかを考える。
4	プラトンとアリストテレスの技術論	プラトンとアリストテレスの技術についての考え方の相違点を各々の哲学的立場から解説する。
5	科学技術の楽観論(1)	F.ベーコンの「知は力なり」という言葉に代表される楽観的な技術論とその問題点について解説する。
6	科学技術の楽観論(2)	今日の科学技術の基礎にある近代科学の自然観の特徴を解説し、その問題点を考える。
7	科学技術の楽観論(3)	人間にとって「進歩」とは何か、「進歩」観の歴史を振り返り、果たして科学技術は進歩したと言えるのかを考える。
8	科学技術の悲観論(1)	スウィフトの『ガリヴァー旅行記』に見出される人間へのイロニー(皮肉)を通して科学技術批判を試みる。
9	科学技術の悲観論(2)	レイチェル・カーソンの『沈黙の春』を取り上げ、環境破壊への彼女の警告について考える。
10	科学技術の悲観論(3)	チャップリンの『モダンタイムス』を視聴し、彼の機械文明批判について考える。
11	人間の生命と技術(1)	医療技術の進歩がもたらした生命倫理の歴史を概説する。
12	人間の生命と技術(2)	延命技術の進歩によって生じた尊厳死と積極的安楽死の問題を取り上げ、患者の自己決定権と医者の義務の関係について考える。
13	人間の生命と技術(3)	脳死は「人の死」と言えるかという問題を、脳死臨調答申中の「死の定義」を取り上げて考える。
14	人間の生命と技術(4)	「サバイバル・ロッタリー」という架空の制度を通して、臓器移植の「最大多数の最大生存」という原理の問題点を考える。
15	人間の生命と技術(5)	先進国の臓器不足と途上国の貧困問題の解消を目的とする「臓器売買」の是非について、ビデオ教材を視聴して考える。
16	人間の生命と技術(6)	人工妊娠中絶をめぐる保守派、リベラル派、中間派の立場の相違を解説し、いずれに賛成するか考える。
17	人間の生命と技術(7)	体外受精や代理母といった生殖医療技術が他人に危害を及ぼす可能性について考える。
18	人間の生命と技術(8)	受精卵診断やヒトクローン胚による再生医療の可能性を解説し、遺伝子技術と人間の尊厳の問題を考える。
19	人間の生命と技術(9)	治療的クローン胚からヒトES細胞を樹立する研究成果を捏造した韓国の黄教授のビデオを視聴して、その倫理的問題について考える。
20	人間と環境と技術(1)	地球温暖化問題を通して、地球の有限性と市場社会システムの問題について概説する。
21	人間と環境と技術(2)	環境問題が市場社会の原理的欠陥に起因することを「共有地の悲劇」や「囚人のジレンマ」のモデルで解説する。
22	人間と環境と技術(3)	地球益の優先が強権的なエコファシズムに陥る危険性を「救命艇の倫理」のモデルを通して解説し、京都議定書の意義と限界について考える。
23	人間と環境と技術(4)	環境問題が先進国と途上国の公平性の問題でもあることを「環境難民問題」を扱ったビデオ教材を視聴して理解する。
24	人間と環境と技術(5)	「移入種問題」について「動物解放論」と「生態系主義」の立場からその排除の是非を考える。
25	人間と環境と技術(6)	現代人は未来世代のために環境を守る義務があるという「世代間倫理」の理論的可能性について解説する。
26	人間と機械と情報(1)	人工知能(AI)開発の基礎には「人間の知識とは何か」という哲学的問題があることを解説し、AI主義と反AI主義のいずれに賛成するか考える。
27	人間と機械と情報(2)	ロボット開発の基礎には「心身問題」という哲学的問題があることを解説し、ロボットにも人間のような心を認めることができるか考える。
28	人間と機械と情報(3)	ロボット技術の軍事転用についてビデオを視聴し、将来この技術の開発をどこまで認めるか考える。
29	人間と機械と情報(4)	インターネットが目指す「情報の共有」は知的財産権やプライバシー権と両立するか考える。
30	まとめ	これまでの講義を受講して、改めて科学技術の楽観論、悲観論、限定論を検討する。ディベートを行い、最後に各自の意見を発表する。
備考	前期定期試験および後期定期試験を実施する。	

科目	日本史 (Japanese History)		
担当教員	福田 敬子 教授		
対象学年等	全学科・5年・通年・選択・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(80%) D2(20%)	JABEE基準1(1)	(a),(b)
授業の概要と方針	戦後60年を過ぎた。戦争体験の風化が進む中、日本に課せられた課題が多い。今の若者にとって「よく理解できない。だが、知らなければならない。」ことの 하나가、十五年戦争及びアジア・太平洋戦争であろう。日本・アジア・連合国を悲惨な状況においこんだ、これらの戦争がなぜ起きたかを学ぶ。日本の転換期といわれている今日をどのように進んでゆけばよいかを一緒に考えていきたい。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【D2】日本が大韓帝国を植民地にした概略をみて、今の朝鮮半島情勢を考える。		試験成績で評価する。
2	【C3】第一次世界大戦後の世界や日本がとった表向きの行為と実態を見る。		試験成績で評価する。
3	【D2】辛亥革命以後の中国情勢をみて、日本を十五年戦争へと駆り立てた国内事情を知る。		試験成績で評価する。
4	【C3】日本が第二次世界大戦とどのように関わりをもって、戦争拡大の道を歩んだかを知る。		試験成績で評価する。
5	【C3】現在の日本および世界の変化に目をむける。		試験成績で評価する。
6	【C3】配付した史料が読めるようになり、内容を理解する。		試験成績と、授業時の講読で評価する。
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験90%、配付史料の講読点10%として評価する。なお、試験成績は、定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	ノート講義（史料プリント配付）		
参考書	「昭和史」遠山茂樹・今井清一・藤原彰（岩波新書） 「太平洋戦争(上・下)」小島襄（中公新書）		
関連科目	歴史（1・2年）		
履修上の注意事項	・座席は指定する。 ・配付史料は毎時間持参のこと（授業中に講読を行う）。		

授業計画1(日本史)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	シラバスの説明と座席指定, プリント配付	シラバスの説明をした後, 座席指定を行う。履修者の確認をして, プリントを配付する。
2	第一次世界大戦までの領土と主な条約(1)	ペリー来航以来の諸外国との条約や, 日本の意志で領土が決定されていく様子を見る。特に朝鮮を併合する過程に重点をおく。
3	第一次世界大戦までの領土と主な条約(2)	ペリー来航以来の諸外国との条約や, 日本の意志で領土が決定されていく様子を見る。特に朝鮮を併合する過程に重点をおく。
4	第一次世界大戦の性格	帝国主義戦争といわれる第一次世界大戦参戦国の同盟関係や対立点を知っておく。
5	第一次世界大戦と日本	第一次世界大戦に参戦しなくてもよかった日本が, 参戦する経緯を知り, 中国大陸に出兵した意味を考える。
6	シベリア出兵と米騒動	第一次世界大戦中にロシア革命がおこり, 干渉戦争の中心を日本が担い, シベリア出兵を行い, 国内では米騒動が起きたことを理解する。
7	パリ講話会議	敗戦国ドイツ・オーストリア・ブルガリア・トルコと, 連合国との間に結ばれた講話条約を知り, ヨーロッパにしか適用されなかって民族自決の実態を知る。
8	ヴェルサイユ体制の性格	ヴェルサイユ体制と呼ばれた世界秩序を知り, 第一次世界大戦後の日本の国際的地位向上を, 現在との対比で考える。
9	三・一事件と五・四運動	民族自決が適用されなかったアジア諸国の内, 日本が植民地とした朝鮮や, 日本が利権を得た中国でおきた抵抗運動を知る。
10	ワシントン会議	ヴェルサイユ体制で日本がえた太平洋・東アジア地域の利権を牽制する目的で, アメリカが主導して開いた会議の内容を知る。また, 海軍軍縮会議が開かれた意味を考える。
11	大正デモクラシー	第一次世界大戦後の世界的な平和主義・自由主義的雰囲気の中で, 日本では吉野作造の民本主義や美濃部達吉の天皇機関説を中心に, 大正デモクラシーの運動が起きるが, その内容や目標を知る。
12	原敬内閣の出現	米騒動で倒れた寺内正毅内閣のあと, 本格的な政党内閣の出現をみるが, 平民宰相といわれた原敬内閣は, 平民にその政治基盤をおくものではなかった事を知る。
13	関東大震災と不法弾圧事件	関東大震災の被害の実態を知り, その騒動の中で, 4つの不法弾圧事件がおきたことを知る。
14	国体の魔術	「天皇制」という国体が, 非宗教的宗教として, 当時はどのような威力を發揮したかを知る。
15	普通選挙法と治安維持法	議憲三派内閣により, 普通選挙法が制定されるが, その前に, 思想そのものが取締対象となる治安維持法を成立させたことや, 任期満了まで普通選挙法が実施されなかったことを知る。
16	中国情勢の変化(1)	日本の侵略対象となった中国が, どのような政治状況であったか, 1911年の辛亥革命から1928年の北伐の完成まで, その概略を見る。
17	中国情勢の変化(2)	日本の侵略対象となった中国が, どのような政治状況であったか, 1911年の辛亥革命から1928年の北伐の完成まで, その概略を見る。
18	金融恐慌	昭和は初めより, 暗い時代が始まった。金融恐慌とは何かを知る。金融恐慌をめぐり, 外交政策の対立による政党の駆け引きや, 枢密院の動きを知る。
19	田中義一内閣(政友会)	高橋是清蔵相のもとで, 金融恐慌を乗り切った田中内閣は積極外交を行い, 北伐中の中国に權益保持のため, 3度に渡って山東出兵を行った。
20	浜口雄幸内閣(民政党)	張作霖爆殺事件で, 天皇の不信をかって田中内閣は退陣し, 浜口内閣は, 井上準之介蔵相のもとで懸案だった金解禁政策を1930年1月に実施した。
21	大恐慌・昭和恐慌と統帥権干犯問題	1929年10月24日に始まる大恐慌は, 金解禁政策をとる日本に, 大不況をもたらした。統帥権干犯問題がおき, 浜口首相は暗殺され, 右翼・軍部が発言権をましてゆく。
22	十五年戦争(満州事変)の勃発	柳条湖事件をおこし, 若槻首相の不拡大方針にもかかわらず, 軍部の独走で, 満州を制圧する。5.15事件で犬養毅首相が暗殺された後, 齋藤実内閣は満州国を独立国と認めた。
23	国際連盟の脱退	リットン調査団の妥協的な報告書にもかかわらず, 日本が国際連盟を脱退し, 国際社会から孤立してゆく過程をみる。
24	五・一五事件と二・二六事件	二つの事件はよく対比されるが, 1932年の五・一五事件と, 1936年の二・二六事件の大きな違いを見る。
25	ファシズムの進展	滝川事件・天皇機関説問題をはじめとする学問・思想への弾圧, 二・二六事件以降の軍部の統制確立など, 全体主義・国家主義・軍国主義への傾斜を見る。
26	蘆溝橋事件(日中戦争)の勃発	1937年の蘆溝橋事件をきっかけに, 宣戦布告なき泥沼の戦いといわれる日中戦争へ入っていく過程を, 近衛声明などを通して見てゆく。
27	第二次世界大戦と日本	1939年9月1日, 第二次世界大戦が始まった時, 日本はソ連と交戦中であり, 欧州大戦不介入の方針であった。それが, 1940年9月に日独伊三国同盟を結ぶにいたる過程を見る。
28	アジア・太平洋戦争の開始	1941年4月, 険悪化した日米関係の打開のため日米交渉が行われるが, 戦争回避はできず, 12月8日米英に宣戦布告し, アジア・太平洋戦争が始まった。
29	戦争中の日本	戦時中の荒廃した日本国内の生活や, 戦況を概観し, 1942年6月のミッドウェー海戦以後の日本軍の悲惨な撤退・全滅の様子を知る。
30	敗戦	当時の国民には真実が知られず, 戦意高揚のための報道のみ行われた。戦争は始まると途中で止めることは難しい。戦争をおこさない努力の大切さを知る。
備考	前期定期試験および後期定期試験を実施する。	

科目	世界史 (World History)		
担当教員	町田 吉隆 准教授		
対象学年等	全学科・5年・通年・選択・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(80%) D2(20%)	JABEE基準1(1)	(a),(b)
授業の概要と方針	16世紀から20世紀までの中国の歴史を学ぶ。具体的には清朝成立期から辛亥革命によって、中華民国が成立する期間を取り上げる。そこには東アジアの近世・近代を通観することによって、「巨大な隣人」の歴史的多様性を理解することが目的である。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C3】 中国の歴史的環境を理解することができる。		中国の歴史的環境について理解できているかどうかを、定期試験で評価する。
2	【C3】 最後の中華帝国であった清朝の歴史的事象を史料や小説を通じて理解することができる。		清朝の歴史的事象を理解できているかどうかを、定期試験で評価する。
3	【C3】 郷紳、皇帝独裁制、中華的世界観、近代化などの概念装置を用いて、伝統中国の歴史的性格を理解することができる。		伝統中国の歴史的性格を理解することを理解できているかどうかを、定期試験で評価する。
4	【D2】 当該地域における歴史的事象について民族紛争、国際紛争、異文化理解の観点から具体的に問題点を説明することができる。		当該地域における歴史的事象について民族紛争、国際紛争、異文化理解の観点から具体的に問題点を正確にかつわかりやすく説明できているかどうかを、小テストで評価する。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験90%、小テスト10%として評価する。到達目標1, 2, 3については前期・後期の定期試験の平均点で評価する。到達目標4については小テストで評価する。これらを総合して100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	ノートおよびプリント講義		
参考書	増井経夫『清帝国』（講談社） 三田村泰助『明と清』（河出書房） 横山宏章『中華民国』（中公新書）		
関連科目	歴史（1年生）、歴史（2年生）、日本史（5年生）		
履修上の注意事項	その他の参考文献、視聴覚資料については授業中に紹介する。		

授業計画1(世界史)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	導入	「中国」世界の自然環境, 歴史的環境について概観する。
2	多民族国家としての中国(1)	中国における民族とは何か。いくつかの定義を紹介し, その定義を具体的に検証する。
3	多民族国家としての中国(2)	中華思想の概要を理解し, 現代中国における民族問題を考える。
4	華夷変態(1)	明末期の政治, 社会状況について理解する。
5	華夷変態(2)	清朝の成立過程について理解した上で, 同時代の日本人による見聞記を読み, 判明することをまとめる。
6	華夷変態(3)	明清の交替が東アジア世界に与えた影響を理解する。
7	中華帝国の支配機構(1)	清朝の中央と地方の政治機構について概観し, その歴史的特色を理解する。
8	中華帝国の支配機構(2)	科挙制度について理解し, その政治的, 社会的, 文化的意義について考えたことをまとめる。
9	中華帝国の支配機構(3)	科挙制とも関連する「郷紳」について, 18世紀イギリスのジェントルマン, 江戸期日本の武士との比較から, その特色について考えたことをまとめる。
10	皇帝独裁制(1)	宋代以降に確立した皇帝独裁のしくみについて理解する。
11	皇帝独裁制(2)	康熙帝の継嗣問題を通じて, 皇帝独裁制の実態について理解する。
12	皇帝独裁制(3)	雍正帝を例として, 皇帝の政治, 生活, 人生について理解する。
13	中華帝国(1)	清朝の対外発展と民族統治について, その過程としくみを概観する。
14	中華帝国(2)	民族統治について, イスラーム教徒(回族, ウイグル族)およびチベットにおける事例を通して学ぶ。
15	清朝支配下の中国	前期に学んだ知見を通して, 前近代中国社会の政治的, 社会的な特色を考える。
16	18世紀の中国社会(1)	清朝最盛期の農業と農村社会の実態を理解し, 現代中国における農村問題との比較することによって, その特色をまとめる。
17	18世紀の中国社会(2)	清朝最盛期の手工業と商業の実態を理解し, 中国において産業革命が起こらなかった理由について考察する。
18	18世紀の中国社会(3)	清朝最盛期の対外貿易の実態を理解し, 近代的通商関係に対する中華帝国の意識を理解する。
19	西洋の衝撃(1)	アヘン戦争の勃発とその歴史的背景について理解する。
20	西洋の衝撃(2)	アヘン戦争の過程について理解し, この戦争が近代中国にもたらした問題を考える。
21	西洋の衝撃(3)	アヘン戦争後の「同治中興」期の清朝と明治維新期の日本を比較することによって, 近代化政策の多義的な性格を理解する。
22	衰退過程の清朝(1)	太平天国の乱を中心に, 19世紀中国社会に生じた社会変動について理解する。
23	衰退過程の清朝(2)	日清戦争期の国際情勢と清朝の政治的混乱について理解する。
24	衰退過程の清朝(3)	義和団事件と日露戦争期の国際情勢を理解し, 東アジアにおける帝国主義の実態について考える。
25	清末の思想状況(1)	変法派と革命派の思想について理解し, 両者が競合, 対立する過程について理解する。
26	清末の思想状況(2)	魯迅の小説・評論を読み, 清朝末期の知識人の置かれていた状況について理解する。
27	清末の思想状況(3)	魯迅の思想を通して, 中国における近代化について考察する。
28	辛亥革命(1)	辛亥革命勃発前夜の社会状況について理解し, 近代中国における「革命」の意味について考える。
29	辛亥革命(2)	辛亥革命の過程について理解し, 建国期の中華民国の実態と国際情勢の関係を把握する。
30	辛亥革命(3)	辛亥革命後の中国について概観し, 中国と東アジアにおける近代化の歴史的意義について考える。
備考	前期定期試験および後期定期試験を実施する。授業中に自らの見解を説明する機会を設ける。積極的な参加を望む。	

科目	社会科学特講 (Comprehensive Social Studies)		
担当教員	八百 俊介 准教授		
対象学年等	全学科・5年・通年・選択・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(80%) D2(20%)	JABEE基準1(1)	(a),(b)
授業の概要と方針	前期は、諸外国における貧困・外国人・民族・資源獲得などの政治的・社会的問題の発生原因について地誌的視点を交えて学習する。後期は途上国の経済発展、世界規模での経済問題を学習し、日本の国際貢献について検討する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C3】 途上国における貧困問題が国内の社会的・経済的構造から理解できる		途上国における貧困問題を歴史的過程、都市・農村双方の社会的・経済的構造から理解できているか定期試験で評価する
2	【D2】 外国人問題・少数民族問題の発生要因と実情が理解できる		外国人の増加原因と迫害の発生原因、少数民族地域の発生要因と実情が理解できているか定期試験で評価する
3	【C3】 国際紛争・連携の要因としての資源問題が理解できる		国際紛争・連携の背景に資源確保・争奪が存在することが理解できているか定期試験で評価する
4	【C3】 世界レベルでの経済活動の拡大過程と途上国の発展問題が理解できる		経済活動が拡大する過程や途上国の経済発展方法について理解できているか定期試験で評価する
5	【C3】 国際貢献の問題点を理解し、新たな方法を提示することができる		従来国際貢献の問題点を理解し、今後の方法を提示できるか定期試験で評価する
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験100%として評価する。100点満点とし、60点以上を合格とする		
テキスト	ノート講義		
参考書	授業時に提示		
関連科目	なし		
履修上の注意事項			

授業計画 1 (社会科学特講)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	低強度紛争	第二次大戦後の紛争が局地的になっていることを学習する
2	途上国の貧困問題1	途上国における貧困問題の要因を農村・都市両面から社会的・経済的要因から学習する
3	途上国の貧困問題2	第2週目と同じ
4	途上国の貧困問題3	第2週目と同じ
5	外国人との共生1	国内の外国人増加の原因と迫害問題の原因について学習する
6	外国人との共生2	第5週目と同じ
7	外国人との共生3	第5週目と同じ
8	外国人との共生4	第5週目と同じ
9	少数民族問題1	少数民族居住地域の発生原因と実情を学習する
10	少数民族問題2	第9週目と同じ
11	少数民族問題3	第9週目と同じ
12	資源問題1	国際紛争・連携の原因としての資源問題を学習する
13	資源問題2	第12週目と同じ
14	資源問題3	第12週目と同じ
15	まとめ	演習形式でのまとめ
16	経済の世界的枠組み1	国家間の経済活動の原初形態を学習する
17	経済の世界的枠組み2	第16週目と同じ
18	経済の世界的枠組み3	第16週目と同じ
19	世界経済の拡大1	経済活動の拡大原因と影響を学習する
20	世界経済の拡大2	第19週目と同じ
21	世界経済の拡大3	第19週目と同じ
22	世界経済の拡大4	第19週目と同じ
23	途上国の経済発展1	新興国の発展要因について学習する
24	途上国の経済発展2	第23週目と同じ
25	途上国の経済発展3	第23週目と同じ
26	途上国の経済発展4	第23週目と同じ
27	国際貢献の評価と課題1	従来の国際貢献について評価し今後の方策を検討する
28	国際貢献の評価と課題2	第27週目と同じ
29	国際貢献の評価と課題3	第27週目と同じ
30	まとめ	演習形式でのまとめ
備考	前期定期試験および後期定期試験を実施する。	

科目	人文科学特講 (Human Science)		
担当教員	(前期)今里 典子 准教授, (後期)米澤 優 非常勤講師		
対象学年等	全学科・5年・通年・選択・2単位(学修単位I)		
学習・教育目標	C3(80%) D2(20%)	JABEE基準1(1)	(a),(b)
授業の概要と方針	「言語学」という学問における基礎的な概念や考え方を学び, 言語とは何か, ということ考察し, 理解する講義である。前期は, 日本固有の第3の言語, 日本手話(JSL)にターゲットを絞り, 多角的な視点からのデータに基づき理解を深める。基本的な手話表現も習得する。後期は, 身近な日英語や世界の言語を対象に, 幅広く言語の魅力に迫る。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C3】 JSLが言語であることを言語学的・論理的に説明できる。		JSLが言語であることを言語学的・論理的に説明できるかを, 定期試験により評価する。
2	【C3】 基本的なJSLを使って簡単なコミュニケーションができる。		基本的なJSLを使って簡単なコミュニケーションができるかを, 定期試験により評価する。
3	【D2】 聾者についての基礎的な知識を習得する。		聾者についての基礎的な知識を習得できたかを, 定期試験により評価する。
4	【C3】 日・英語の音韻, 形態, 意味, 文法などについて基本的な概念を理解できる。		日・英語の音韻, 形態, 意味, 文法などについて理解できているか, 定期試験により評価する。
5	【C3】 世界の言語について, 形態的分類, 基本語順と特性などについて理解できる。		世界の言語について, 形態的分類や基本語順と特性などについて理解できているか, 定期試験により評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は, 試験100%として評価する。なお, 100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	プリント・ノート講義		
参考書	「世界の言語と日本語」: 角田太作(くろしお出版) 「日英語対照による英語学概論」: 西光義弘編(くろしお出版)		
関連科目	なし		
履修上の注意事項	前期分の授業は手話表現を習得する必要がある。また9月の授業分を7月中に行う。詳細は授業中に指示する。		

授業計画 1 (人文科学特講)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	イントロダクション	授業の進め方や評価方法など, シラバスの解説を行う. また日本手話(以下JSL)という言語を学習するに当たっての注意事項について説明. 手話に関するアンケートの実施.
2	手話の基本	アンケート結果の解説. 指文字と手話の違いについて学習する. + 指文字1 + JSL (挨拶)
3	発声と聞こえのメカニズム	人間の発声と聞こえのメカニズムについて学習する. + 指文字2 + JSL (表現1)
4	聾者について	聾者の定義, 聞こえの障害について学習する. + 指文字3 + JSL (表現2)
5	手話言語学入門: 音韻	JSLの音韻体系について, 語彙の分析演習を通して学習する. + 指文字4 + JSL (表現3)
6	手話言語学入門: 形態・統語	JSLの語形成のルールについて解説する. また類辞を取り上げその現象を観察した上で, 音声日本語の文法と比較する. + 指文字5 + JSL(表現4)
7	手話表現学習	JSLで簡単な文章表現を作る. 自己紹介文
8	手話表現復習	JSLの基本文章の演習を行う
9	手話の発生・習得	最も新しい手話言語の成立過程について学習し, 手話言語発生のプロセスを学習する. + JSL (表現5)
10	手話失語	手話失語の症例から, 手話が脳内でどのようにプロセスされていると考えるのが妥当なのかを理解する. + JSL (表現6)
11	聾教育と情報保障	聾教育の歴史と現状について学習する. また聾者の日常の情報保障について学習する. + JSL (表現7)
12	手話学習まとめと演習	JSLの基本文章の演習を行う. 動詞表現部分(テンスやアスペクト, 一致の問題)に注目して学習する.
13	手話研究基礎 1	聾者の現状について正しい理解を得るため紹介された参考文献に従って調査 1
14	手話研究基礎 2	聾者の現状について正しい理解を得るため紹介された参考文献に従って調査 2
15	手話研究基礎 3	聾者の現状について正しい理解を得るための調査についての報告作成
16	イントロダクション + 世界の言語	これ以降の授業でどのようなことを学ぶのか, 概要を説明する. また, 世界の言語について, 言語の数, 言語のグループ(語族・語派, 形態的分類)などを学習する.
17	言語の定義	言語とは何か, 例えば, チンパンジーの鳴き声は言語と言えるのかを考える. また, 言語の特性について学習する.
18	音声学	発声と調音, 母音・子音の記述様式を学習し, 日本語の五十音図について考える.
19	音韻論1	音素について学習し, 英語の音韻体系を考える.
20	音韻論2	音節・モーラという言語単位, アクセントについて学習し, 英語の違いを確認する.
21	形態論1	英語の例から, 語の特徴, 形態素という言語単位について学習する.
22	形態論2	英語の例から, 新語が作り出されるプロセスについて学習する.
23	形態論3	英語の例から, 派生語・複合語の主要部について学習する.
24	意味論1	英語の例から, 語と語の意味関係(意味の類似・対立, 慣用句・連語)について学習する.
25	意味論2	比喩について学習し, 比喩を使って日本語の慣用句・多義語について考える.
26	文法1	世界の言語の基本語順にはどのようなものがあるか学習し, 日本語の基本語順を考える.
27	文法2	英語の例から, 主語について考える. また, 日本語の「は」と「が」の用法も見る.
28	文法3	日本語のテンス・アスペクトについて学習し, その他の言語のテンス・アスペクトについても見る.
29	語用論	日本語の例から, 文法的に正しくても, ときに不適切な文になってしまうのはなぜかを考える.
30	まとめと評価	学習内容の理解度を確認し, 整理する.
備考	前期定期試験および後期定期試験を実施する.	

科目	経済学 (Economics)		
担当教員	高橋 秀実 教授		
対象学年等	全学科・5年・通年・選択・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C3(80%) D2(20%)	JABEE基準1(1)	(a),(b)
授業の概要と方針	現代日本経済・世界経済の諸テーマを多面的に検証する。最新の経済テーマ・トピックスを採り入れ、時事経済記事・データを紹介し、経済動向を視野に入れつつ、現代経済の全体像を浮き彫りにする。転換期としての日本経済・世界経済の現状と課題を把握し、技術者として現代経済を広い視野から分析し判断しうる見識を養成する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C3】 2008年9月リーマン破綻以降、米国から世界へ波及した世界金融危機・世界同時不況の原因・現状を分析する。		現代世界金融危機・世界同時不況の理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
2	【C3】 現代日本経済の歩みを理解する。特に1990年代以降の株価・地価の下落、バブル崩壊不況のメカニズムを検証し、現代日本経済の置かれている状況や課題を把握する。		現代日本経済の歩みの理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
3	【C3】 終身雇用・年功序列型雇用慣行の変化、フリーターの増大・労働形態の多様化、失業率や雇用動向を理解する。所得格差拡大の原因を考察する。		労働・雇用問題の理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
4	【C3】 少子化・高齢化の現状と原因を分析する。少子化・高齢化が財政・税制・社会保障に及ぼす経済的影響・問題点を検証し考察する。		少子化・高齢化問題の理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
5	【D2】 技術革新と産業構造の変化の関連を考察する。		技術革新と産業構造の変化の関連についての理解度を、試験・レポート・提出物により評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験70%、レポート・提出物30%で評価する。試験成績は前後期の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「日本経済100の常識 2009年版」：日本経済新聞社編（日本経済新聞社）		
参考書	「経済財政白書 2009年度版」：内閣府（国立印刷局） 「10年デフレ」：斉藤精一郎（日本経済新聞社） 「大転換 日本経済 2007年～2015年」：斉藤精一郎（PHP研究所） 「世界経済入門 第三版」：西川潤（岩波新書） 「ゼミナール日本経済入門 2009年度版」：三橋規宏他（日本経済新聞社）		
関連科目	政治経済（3年）		
履修上の注意事項	なし		

授業計画1 (経済学)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	現代世界経済・日本経済	現代世界経済・日本経済が置かれている現状を分析し考察する。
2	現代世界経済・日本経済	現代世界経済・日本経済が置かれている現状を分析し考察する。
3	現代世界経済・日本経済	現代世界経済・日本経済が置かれている現状を分析し考察する。
4	現代世界経済・日本経済	現代世界経済・日本経済が置かれている現状を分析し考察する。
5	現代世界経済・日本経済	現代世界経済・日本経済が置かれている現状を分析し考察する。
6	日本のバブル経済：発生と崩壊	1985年ブラザ合意以降80年代後半の株価・地価高騰、バブル経済化の過程とその原因を分析し考察する。
7	日本のバブル経済：発生と崩壊	1990年代株価・地価暴落、バブル崩壊に至った過程とその原因を分析し考察する。
8	平成不況と金融危機	1990年代バブル崩壊後のデフレ経済、金融危機を招いた銀行の不良債権問題を分析し考察する。
9	IT革命とグローバル化	1990年代以降世界経済の構造変化を生じさせた要因として、情報通信を基盤とする技術革新(IT革命)と、世界市場の一体化(グローバル化)を考察する。
10	労働・雇用	完全失業率・有効求人倍率の概念、近年の失業率の推移など、雇用の現状を把握するための基礎知識を習得する。
11	労働・雇用	終身雇用制・年功序列型賃金・企業別労働組合など、戦後日本の雇用の特徴を検証し考察する。
12	労働・雇用	能力主義・成果主義賃金への転換など、雇用制度に関する現代的潮流を考察する。
13	労働・雇用	労働時間・休暇など、労働基準法が規定する労働者の権利を検証する。
14	労働・雇用	フリーターなど非正規雇用の増加の現状を分析し、雇用形態の多様化とその問題点を考察する。
15	前期総括	前期の授業内容を総括する。
16	景気	GDP(国内総生産)・経済成長率など基礎概念を確認する。景気の現状を考察するための判断材料たる景気動向指数を理解し、景気動向を考察する。
17	企業	資本主義経済の根幹を成す株式会社制度、資本調達手段としての株式市場を考察する。
18	少子化・高齢化	日本の少子化・高齢化の現状を分析し考察する。
19	少子化・高齢化	晩婚化・未婚化及び経済的理由による出生率低下などの諸観点から、少子化の原因を分析し考察する。
20	少子化・高齢化	財政・税制・社会保障など様々な面に及ぼす少子化・高齢化の経済的影響を考察する。
21	財政	公共財の供給・所得の再分配・景気の調整など諸観点から、財政の機能を考察する。
22	租税	直接税と間接税の比較を中心に税制度を分析する。国債累積・財政破綻の現状を分析する。
23	社会保障	年金問題など日本の社会保障制度の問題点を分析し考察する。
24	格差問題	所得格差・ワーキング・プアなど近年の格差拡大の現状を理解し、その原因を分析する。雇用形態の変化、高齢化など様々な要因から多面的に考察する。
25	貿易	日本の貿易の特徴を分析する。日本企業の生産海外移転・多国籍企業化を理解し、グローバル化を考察する。
26	貿易	近年著しい発展を遂げつつある中国経済の現状を分析し、日中経済関係のあり方を考察する。
27	技術革新と産業構造	ペティ・クラークの法則が示す産業構造の変動を日本経済の歩みを通して実証する。
28	技術革新と産業構造	戦後日本の技術革新を、高度成長期の大量生産型、オイルショック期の省エネ型、80年代以降の情報通信型に類型化して特徴を考察し、技術革新と産業構造の変遷の関連性を分析する。
29	技術革新の新しい潮流	情報通信革命、環境との調和などのコンセプト、注目される技術革新の新しい潮流を考察する。
30	総括：世界経済・日本経済の現状と課題	全授業の総括として、世界経済・日本経済が置かれている現状と諸課題を考察する。
備考	前期定期試験および後期定期試験を実施する。時事経済テーマを随時導入するため、上記予定テーマの内容・順序は変更可能性あり。	

2. 専門科目一覧

■1年

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
1年	必修	情報基礎	藤本 健司 准教授	2	通年	127
1年	必修	電子工学序論	長谷 芳樹 講師	2	通年	129
1年	必修	電子工学実験実習	笠井 正三郎 教授, 若林 茂 教授	2	通年	131

■2年

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
2年	必修	プログラミングI	若林 茂 教授	2	通年	133
2年	必修	電気回路I	荻原 昭文 准教授	2	通年	135
2年	必修	論理回路	高嶋 和毅 非常勤講師	2	通年	137
2年	必修	電子工学実験実習	林 昭博 教授, 戸崎 哲也 准教授, 西 敬生 准教授, 長谷 芳樹 講師, 長瀬 宗二 非常勤講師	4	通年	139

■3年

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
3年	必修	電気数学	山口 秀樹 非常勤講師	2	通年	141
3年	必修	プログラミングII	戸崎 哲也 准教授	2	通年	143
3年	必修	電気磁気学I	橋本 好幸 教授	2	通年	145
3年	必修	電子デバイス	西 敬生 准教授	2	通年	147
3年	必修	電気回路II	荻原 昭文 准教授	2	通年	149
3年	必修	計測工学	山本 誠一 教授	2	通年	151
3年	必修	コンピュータ工学	高嶋 和毅 非常勤講師	2	通年	153
3年	必修	電子工学実験実習	若林 茂 教授, 橋本 好幸 教授, 藤本 健司 准教授, 小矢美晴 准教授, 長瀬 宗二 非常勤講師	4	通年	155

■4年

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
4年	必修	応用数学	笠井 正三郎 教授	2	通年	157
4年	必修	応用物理	林 昭博 教授	2	通年	159
4年	必修	ソフトウェア工学	若林 茂 教授	2	通年	161
4年	必修	電気磁気学II	一瀬 昌嗣 講師	2	通年	163
4年	必修	半導体工学	西 敬生 准教授	2	通年	165
4年	必修	電気回路III	荻原 昭文 准教授	2	前期	167
4年	必修	電子計測	大向 雅人 非常勤講師	2	通年	169
4年	必修	電子回路I	長谷 芳樹 講師	2	通年	171
4年	必修	数値解析	長野 勝利 非常勤講師, 服部 雄一 非常勤講師	2	通年	173
4年	必修	通信方式	小矢 美晴 准教授	2	通年	175
4年	必修	制御工学I	道平 雅一 准教授	2	通年	177
4年	必修	電子工学実験実習	西 敬生 准教授, 橋本 好幸 教授, 藤本 健司 准教授, 長瀬 宗二 非常勤講師	4	通年	179
4年	選択	学外実習	長谷 芳樹 講師	1	前期	181

■5年

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
5年	必修	電子回路II	小矢 美晴 准教授	2	通年	183
5年	必修	情報通信ネットワーク	藤本 健司 准教授	2	通年	185
5年	必修	情報理論	秋吉 一郎 非常勤講師	2	通年	187
5年	必修	制御工学II	笠井 正三郎 教授	2	前期	189
5年	必修	電子工学実験実習	小矢美晴 准教授, 笠井 正三郎 教授, 戸崎 哲也 准教授, 長谷 芳樹 講師	4	通年	191
5年	必修	卒業研究	講義科目担当教員	9	通年	193
5年	選択	工業英語	木村 一成 非常勤講師	2	前期	195
5年	選択	電子応用	山口 秀樹 非常勤講師	2	前期	197

学年	選択/ 必修	科目名	担当教員	単位数	学期	ページ
5年	選択	光エレクトロニクス	林 昭博 教授	2	後期	199
5年	選択	画像処理	戸崎 哲也 准教授	2	後期	201
5年	選択	コンピュータアーキテクチャ	堀 桂太郎 非常勤講師	2	前期	203

科目	情報基礎 (Fundamentals of Information Technology)		
担当教員	藤本 健司 准教授		
対象学年等	電子工学科・1年・通年・必修・2単位(学修単位I)		
学習・教育目標	A3(100%)		
授業の概要と方針	本校情報処理システムを利用するための技術を学習する。主な内容は、タッチタイピング、電子メール、WWW閲覧、HTMLによるWebページ作成、Texなどである。また、情報倫理についても学習する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A3】 コンピュータの基本的な操作ができるようになる。		基本的な操作やコマンドが理解できているかどうか演習課題に対するレポートと定期試験にて評価する。
2	【A3】 タッチタイプの技術を習得する。		タッチタイピングができるかどうか、実技試験にて評価する。
3	【A3】 電子メール、WWWについてその仕組み、検索技術などを理解する。		電子メールの使用方法や、WWWの仕組みについて理解できているかどうか、演習課題に対するレポートと定期試験で評価する。
4	【A3】 インターネットを利用する際の基本的なマナーを身につける。		マナーに対する知識や実際にマナーを守れているかどうか演習課題に対するレポートと定期試験にて評価する。
5	【A3】 HTMLを用いて、Webページを作成できる。		HTMLを理解できているかどうかWebページを作成させる演習課題に対するレポートと各コマンドに関して定期試験にて評価を行う。
6	【A3】 Texを使用してレポートの作成ができる。		Texを使用できるか確認するために演習課題に対するレポートを出させ、評価を行う。また、定期試験でTexの各種コマンドの利用方法に関して評価を行う。
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験85%、レポート10%、実技テスト5%として評価する。100点満点で60点以上で合格とする。なお、最終の試験成績は定期試験2回分の単純平均とする。		
テキスト	Web教材 プリント		
参考書	「情報リテラシー入門」：室賀進也 他、(コロナ社) 「LaTeX2 美文書作成入門」：奥村晴彦著、技術評論社		
関連科目	プログラミングI、プログラミングII		
履修上の注意事項			

授業計画 1 (情報基礎)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	センター利用のオリエンテーション	センターを利用する心得やパソコン上で動作するLINUX (PC-UNIX)について, 起動方法, ログイン, その他基本的な使用方法について学ぶ。
2	キーボード操作, タイピング練習	キーボード配列, 指のホームポジションなどについて学び, タッチタイピング練習ソフトを使った演習を行う。
3	タイピング練習, X Window System	10分程, タイピング練習を行い, 後半は, LINUX の GUI(Graphical User Interface) である X Window System(X) についてその基本的な操作について学ぶ。
4	タイピング練習, ディレクトリ, 基本コマンド	10分程, タイピング練習を行い, 後半は, ディレクトリやファイルについて説明し, ディレクトリやファイルに関するコマンドについて学ぶ。
5	タイピング練習, エディタ, テキスト作成1	10分程, タイピング練習を行い, 後半は, テキストエディタ(Emacs) を用いたテキストファイルの作成方法について学ぶ。
6	タイピング練習, エディタ, テキスト作成2	第5週と同じ。
7	演習	タッチタイピング(実技テスト), 基本操作, テキストファイルの作成などに関する演習を行う。
8	コミュニケーションのための技術: 電子メール1	電子メールの仕組みと, センターのメールシステムについて学ぶ。また, メールを使用する上で重要な個人情報の流出やウイルスなどの問題について学ぶ。
9	コミュニケーションのための技術: 電子メール2	第8週の続き。メールリーダとしてSylpheedを用いたメールの送受信の方法を学ぶ。最後にメールの送受信に関する演習を行う。
10	WWWによる情報収集1	各種ホームページを利用して様々な情報を収集できることを説明し, 実際にweb を利用した情報検索のやり方を習得する。また, 検索エンジンの種類についても説明し, 適切な検索エンジンを選ぶようにする。
11	演習	電子メールの使用方法和WWWによる情報収集の演習を行う。まず, 複数のテーマを用意し, それに対してWWWで情報を収集させる。集めた情報をまとめさせ, 電子メールで提出させる。
12	HTMLによるWebページ作成1	web ページを記述する方法であるHTML (Hyper Text Markup Language) について学習する。演習を交えながらHTMLの習得を行う。
13	HTMLによるWebページ作成2	第12週と同じ。
14	HTMLによるWebページ作成3	第12, 13週と同じ。
15	演習	Webページ作成に関する演習を行う。
16	TeX (その1)	TeXに関する説明と, 基本的なコマンドについて学習する。講義と演習を繰り返しながら, TeXに関する技術を習得する。
17	TeX (その2)	第16週と同じ。
18	TeX (その3)	第17週と同じ。
19	TeX (その4)	第18週と同じ。
20	TeX (その5)	第19週と同じ。
21	演習演習	TeXに関する演習を行う。
22	TeXによるレポート作成1	複数のテーマから1つのテーマを選びTeXを用いてレポートの作成を行う。
23	TeXによるレポート作成2	第22週の続き。
24	プレゼンテーションの基礎1	プレゼンテーションを行う上で重要なこと(テーマ, 内容)や, データの整理方法, 及び発表方法について学ぶ。
25	プレゼンテーションの基礎2	プレゼンテーション用資料の作成方法について学ぶ。
26	演習1	グループに分かれて自由課題に対するプレゼンテーションを行うための準備を行う。
27	演習2	第26週の続き。
28	演習3	第27週の続き。
29	まとめ1	第26週と第27週で作成したプレゼンテーションの資料を用いて各グループ毎にプレゼンテーションを行う。
30	まとめ2	第29週の続き
備考	前期定期試験および後期定期試験を実施する。	

科目	電子工学序論 (Introduction to Electronic Engineering)		
担当教員	長谷 芳樹 講師		
対象学年等	電子工学科・1年・通年・必修・2単位(学修単位I)		
学習・教育目標	A4-D1(100%)		
授業の概要と方針	電気回路から電磁気学までの基礎事項を演習中心に理解するとともに、電子デバイス工学について構造と電子回路素子としての動作の基礎に触れることで、電子システム系科目学習への導入とする。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A4-D1】単位の接頭語の意味を理解し、使用頻度の高いものについては使えるようになる。		前期中間試験および授業中の演習と課題で評価する。
2	【A4-D1】オームの法則の意味を理解し、直流回路の基本的な計算ができる。		前期中間試験および授業中の演習と課題で評価する。
3	【A4-D1】キルヒホッフの法則、重ね合わせの理を用いて、簡単な直流回路の計算ができる。		前期定期試験および授業中の演習と課題で評価する。
4	【A4-D1】電流による発熱作用から電力と電力量について理解し、計算することができる。		前期定期試験および授業中の演習と課題で評価する。
5	【A4-D1】磁気と静電気との違いを理解し、それぞれを応用した機器について説明することができる。		後期中間試験および授業中の演習と課題で評価する。
6	【A4-D1】磁気現象(フレミングの法則、電磁誘導、ヒステリシス特性)について説明ができる。		後期中間試験および授業中の演習と課題で評価する。
7	【A4-D1】静電容量という量を理解し、簡単な並行平板構造での容量計算ができる。		後期中間試験および授業中の演習と課題で評価する。
8	【A4-D1】半導体という物質を知り、どんな性質をもっているか説明できる。		後期定期試験および授業中の演習と課題で評価する。
9	【A4-D1】半導体素子であるダイオードの基本的な動作を説明できる。		後期定期試験および授業中の演習と課題で評価する。
10			
総合評価	成績は、試験80%、授業中の演習と課題20%として評価する。試験成績は4回の試験(前期中間、定期試験と後期中間、定期試験)の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「よくわかる電子基礎」：秋富，菅原共著(東京電機大学出版局) 「トレーニングノート電気基礎(上)」：和泉，木村，田丸，萩谷共著(コロナ社)		
参考書	「入門ビジュアルサイエンス 電気のおもしろ」：菊池，高山共著(日本実業出版社) 「はじめての電気回路」：大熊康弘著(技術評論社)		
関連科目	電気回路I，電気磁気学I，D1電子工学実験実習		
履修上の注意事項	この科目は専門科目の電気回路I，電気磁気学Iの基礎であるのでしっかり勉強すること。また，電子工学実験実習で実際に実験をして確かめることもあるので，実験と合わせて学習すること。		

授業計画 1 (電子工学序論)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	電気現象と電子工学技術史, 単位と指数表現	電気現象について, 歴史的にどのような発見がなされ, 応用されてきたかを説明する. また, 電圧, 電流などの基本的な単位および, 接頭記号(k, m, Mなど)についても説明する.
2	直流電気回路とオームの法則	電気回路の基本である直流電源(電池など)と抵抗で構成される直流回路について, オームの法則を含めて説明する.
3	直列回路・並列回路・直並列回路(1)	直流回路で用いる抵抗を複数本として, 直列に接続した場合, 並列に接続した場合, 直列と並列を組み合わせた場合について全体の抵抗値(合成抵抗)がどうようになるか, また, それらを電気回路に用いたとき, それぞれの端子間電圧, 素子に流れる電流が幾らになるか求める.
4	直列回路・並列回路・直並列回路(2)	3週目に引き続いておこなう.
5	電圧計と電流計(倍率器, 分流器)	電気回路では電流, 電圧を測定する計器があるが, それら計器にも抵抗が含まれている. そのことを知り, また, それぞれの計器に補助的な抵抗(抵抗)を追加することにより, 測定できる範囲を変える事ができる. その原理を知り, テスターなどの測定レンジ切替がどのようにになっているか学ぶ.
6	直流ブリッジ回路	4本の抵抗をひし形に組み合わせた構造をブリッジという. 直流ブリッジでは, 2組の直列抵抗の比が同じであれば並列に接続した2組の midpoint の電位は等しくなり, その間に抵抗(検流計)などを接続しても電流は流れない. このような状態を平衡状態といい, この条件を利用して抵抗の測定などに利用される. この原理を学ぶ.
7	復習と演習	1週目から6週目の内容について, 復習するとともに具体的な演習問題を解き理解を深める.
8	前期中間試験	1週目から6週目の内容について, 理解度を確認する試験をおこなう.
9	試験の解答とこれまでの注意点確認	前期中間試験の解答を行い, これまで学んできたことの確認をおこなう.
10	消費電力と発生熱量(ジュールの法則)	物体に電流が流れるとエネルギーを消費することになる. 身の回りの電気機器でもそれぞれ消費電力の表示があることに気がつく. 回路での消費電力の定義を知り, 実際に求めてみる. また, 電気エネルギーが消費されて熱エネルギーに替わり暖かくなる(ジュール熱). この熱により, どれくらい水が温かくなるか考えてみる.
11	電気抵抗と抵抗率, 導電率	電気抵抗が抵抗体の長さに比例しその断面積に反比例することを合成抵抗の原理より理解するとともに, 材料により単位長さ単位面積あたりの抵抗値(抵抗率)が異なることを知る. 一般の金属では, 温度に比例して抵抗値が変化することを知る. 抵抗とは逆の概念で, 電気の通しやすさとして, 導電率の概念を身につける.
12	熱電気現象	熱によって導体に起電力を生じ, また電流によってジュール熱以外の熱が生じる現象を一般に熱電効果(ゼーベック効果, ペルチエ効果など)という. これらの現象について知るとともに, どのように応用されているか学ぶ.
13	重ね合わせの理	複数の電源(電圧源, 電流源)をもつ直流回路では, 電源を分けて考えることができ, 最終的に各素子に流れる電流は, それぞれの電源で考えたときに各素子に流れる電流の総和で求まる. このことを例題を通して理解し, 実際に計算できるようにする.
14	キルヒホッフの法則(1)	回路計算を行ううえで, もっとも重要な基本式であるキルヒホッフの第1法則(電流則)と第2法則(電圧則)について理解し, 実際の直流回路網に活用できるようにする.
15	復習と演習	10週目から14週目の内容について, 復習するとともに具体的な演習問題を解き理解を深める.
16	前期定期試験の解答とこれまでの注意点確認	前期定期試験の解答を行い, これまで学んできたことの確認をおこなう.
17	キルヒホッフの法則(2)	回路計算を行ううえで, もっとも重要な基本式であるキルヒホッフの第1法則(電流則)と第2法則(電圧則)について理解し, 実際の直流回路網に活用できるようにする.
18	静電気と磁気現象とその利用	身の回りで起こる静電気の問題を考える. また, 静電気を応用した機器について調べる. 磁気についても同様に身の回りで応用されているものを調べてみる.
19	クーロンの法則(電気, 磁気)(1)	電荷, 磁荷(極)によるクーロン力がどのように表現されるか知る(類似性). クーロン力の解釈として, 場という概念を理解する. クーロン力はほとんど同じように表現されるが, 実際の電荷と磁荷の異なることについて学ぶ.
20	クーロンの法則(電気, 磁気)(2)	19週目に引き続いておこなう.
21	静電気の応用とコンデンサ	平行平板電極間に誘電体(絶縁体)をはさむことにより, コンデンサとなること理解し, その静電容量が電極間の距離に反比例し, 面積に比例することを学ぶ. また, 電極間にはさむ誘電体についてもどのような種類のものが使われているのか学ぶ.
22	復習と演習	17週目から21週目の内容について, 復習するとともに具体的な演習問題を解き理解を深める.
23	後期中間試験	17週目から21週目の内容について, 理解度を確認する試験をおこなう.
24	試験の解答とこれまでの注意点確認	後期中間試験の解答を行い, これまで学んできたことの確認をおこなう.
25	磁気現象1(右ねじの法則, フレミングの法則)	電流によって磁界が発生することと発生する磁界と電流の方向との関係を知る(右ねじの法則). 磁界下に電流が流れた導線に働く力について考える(フレミングの左手の法則).
26	磁気現象2(電磁誘導, 磁性体)	フレミングの左手の法則と逆の考えで, 磁界中に置かれた導体が磁界を横切ると起電力を発生することを知る(フレミングの右手の法則). これらの磁気的な現象の応用として, 発電機, トランスなどがあり, その動作原理を理解する. また, 強磁性体の磁化現象(ヒステリシス現象)などについても理解する.
27	磁気現象3(電磁誘導, 磁性体)	26週目に引き続いておこなう.
28	半導体の種類と特性, 半導体の電気伝導	導体と絶縁体の中間的な物質として半導体がある. 半導体は抵抗値が導体と絶縁体の中間であるというだけでなく, いろいろな組み合わせ(不純物を添加したもの)でいろいろな特性をもつ. 現在の電子デバイスはこの半導体の特性を活かした素子によって成り立っている. この半導体の構造, 特性について学習する.
29	PN接合とダイオードの電気的特性	ダイオードの構造はPN接合である. P, Nはそれぞれ電荷を運ぶもの(キャリア)のうち, 多数を占めているのが, プラス電荷(正孔)であればP形, マイナス電荷(電子)であればN形と呼ばれる. そのP形とN形の素子を接合させ電圧を印加したとき, その極性によって電流の流れ方が異なる. その性質について考える.
30	復習と演習	25週目から29週目の内容について, 復習するとともに具体的な演習問題を解き理解を深める.
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科目	電子工学実験実習 (Laboratory Work in Electronic Engineering)		
担当教員	笠井 正三郎 教授, 若林 茂 教授		
対象学年等	電子工学科・1年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A3(10%) A4-D1(30%) B1(20%) C4(20%) D1(20%)		
授業の概要と方針	前期:電子工学で必要となる基本的な測定器についてその取り扱い方を中心に講義と実際に使用しながら学ぶ。また、実験報告書の書き方についてもその意義を説明し、図、表などの書き方を身につける。実験は2人1組で行い皆が測定器の操作方法を身につける。後期:電気工学の基礎となる実験と情報基礎の延長となるテーマについて、実験実習を行う。実験報告書(レポート)は書き方を身につけるとともに提出期限を守ることの大切さを理解させる。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A4-D1】テスターおよびマルチメータの使い方が理解できる		前期中間試験で評価する
2	【A4-D1】ファンクションジェネレータおよびオシロスコープの使い方が理解できる		前期中間試験および前期定期試験で評価する
3	【D1】機器の取り扱いに注意し、安全に実験に取り組むことができる		前期中間試験、前期定期試験と実験実習の取り組みと達成度で評価する
4	【B1】様式が整った実験報告書(レポート)が作成できる		実験実習のレポートで評価する
5	【C4】グループで協調して実験実習に挑み、期限内に実験報告書(レポート)を提出できる		実験実習の取り組みと達成度、および実験実習のレポート提出状態により評価する
6	【A4-D1】テスタ回路の原理を理解し、分圧器、分流器の設計ができる		作品およびレポートの内容により評価する
7	【A3】ワープロソフト・表計算ソフト・文書整形ソフトの使い方がわかる		実験実習の取り組みと達成度、およびレポートの内容により評価する
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験20%、レポート35%、取り組みおよび達成度45%として評価する。前期は、試験成績40%、取り組みおよび達成度40%、レポート20%で評価する。後期は、取り組みおよび達成度50%、レポート50%で評価する。総合評価は、前期と後期の平均とし、100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「絵ときでわかる電気電子計測」：熊谷文宏著(オーム社) 「知的な科学・技術文章の書き方」：中島利勝、塚本真也共著(コロナ社) 「入門情報リテラシー[Windows版]」：高橋・松永・若林・黒田共著(コロナ社)		
参考書	「電子工学科 安全の手引き」：神戸高専電子工学科編 「よくわかる電子基礎」：秋富、菅原共著(東京電機大学出版局)(電子工学序論の教科書) 「基礎テキスト 電気・電子計測」：三好正二著(東京電機大学出版局) 「改訂新版 テスタとデジタル・マルチメータの使い方」金沢敏保・藤原章雄共著(CQ出版社)		
関連科目	電子工学序論, 情報基礎		
履修上の注意事項	実験実習では、いろいろな測定器、工具を使用するので、必要に応じて「電子工学科安全の手引き」を見ること。実験実習では、電子工学序論で習ったことを実際に実験で確認したり、情報基礎で習ったこととも関連しているので、両科目との関連性も意識すること。		

授業計画 1 (電子工学実験実習)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	電子工学実験実習の概要	電子工学という分野で何を学習するか。身近に存在する電気機器, 電子機器について知る。電子工学実験実習で学ぶこと, この教科の役割について知る。また, 機器の取り扱い, 実際の作業などで気をつけなければならないことについて, 「安全の手引き」を用いて説明する。
2	簡単な測定器(テスター)とその取り扱い	まず最初に扱う測定器としてテスターを取り上げ, 前半にはテスターでの電圧, 抵抗の測定方法について講義し, 後半には実際にテスターを用いて電池, 直流安定化電源の電圧および抵抗器の抵抗値測定を行う。その際, 抵抗のカラーコードによる抵抗値の読み方についても学習する。
3	テスターによるダイオードのチェック, コンデンサの容量測定	一定方向にしか電流を流さないダイオードについて素子としての機能を説明し, その機能をテスターで確認する方法について講義を行い, 実験で確認を行う。また, テスターでのコンデンサの容量測定方法について学び, 実際に測定を行う。
4	テスター, デジタルマルチメータによる抵抗測定(許容差, ばらつき)	抵抗は種類により, 許容差の異なるものがある($\pm 5\%$, $\pm 1\%$)。許容差の異なる素子をそれぞれ複数個測定し, ばらつき具合を調べ, 許容差との関係を知る。また, 測定器にも測定精度が異なるものがあり, テスターとテスターより精度のよいマルチメータを用いて, 測定器の精度による違いについても知る。
5	電卓による測定値の特性計算(公称値と実測値の関係など)	前回測定したデータをもとに, 許容差の違い, 測定器の違いなどによる差を統計的(ばらつき具合は分散という量で知ることが出来る)に調べる。
6	直流回路の実験に必要な測定器(直流電源, ブレッドボードなど)	これまでは素子単体を測定したが, 今回からは電気回路を構成して, 回路中の電気特性を測定することを考える。今回はまず直流回路を構成するための直流電源, 回路を組むためのブレッドボード, 回路中の電流, 素子両端の電圧測定などについて学ぶ。
7	直流回路の電圧電流特性測定(測定と測定値のグラフ化)	前回の実験に引き続き, 今回は回路中の直流電源の電圧を変化させ, 回路を流れる電流と素子の両端に発生する電圧の関係を測定し, 測定データをグラフにまとめ, オームの法則より直流回路中の抵抗値を求める。
8	中間試験	1週目から7週目までに習ったこと, 実験を行ったことについて, 理解できているか確認の筆記試験を行う。
9	中間試験の解答とこれまでの復習	中間試験の解答を行い, これまでの復習, 注意点の確認を行う。
10	交流回路の実験に必要な測定器(交流電源, ファンクションジェネレータ(FG), マルチメータ等)	まず最初に交流について基本的な事柄(正弦波, 周期, 角速度, 実効値, 波高値など)の説明を行い, 次に交流回路の実験を行うために必要となる交流電源としてFGの具体的な使い方の説明を行う。実験では, 簡単な交流回路を作り, テスター, マルチメータを用いて交流での電流, 電圧の測定を行う。
11	オシロスコープで何が出来るか。オシロスコープでFGの出力波形を観測	交流波形を観測する測定器として, オシロスコープを説明し, その使い方を実習する。実習内容は, ファンクションジェネレータで発生させた交流電圧をオシロスコープに入力し, 交流信号(正弦波)の波高値, 周期を測定し, それらの値から実効値, 周波数を求める。
12	簡単な交流回路の入出力特性を観測	簡単な交流回路を組み, 以前はマルチメータやテスターで測定していた電圧をオシロスコープで測定し, 交流回路での電流, 電圧の関係を求める。
13	実験レポートの書き方(実験レポートの課題)	後期より行われる実験実習では実験報告書を提出しなければならないが, 実験報告書の役割, 書き方について講義する。
14	課題実験, 実験レポートの作成(約2日後を提出期限とする)	実験レポートを書くために, 交流回路を題材とした課題実験を行い, 指定された形式で実験報告書にまとめる。実験時間では報告書を書く時間がないので, 自宅で報告書を作成し, 指定期日までに提出する。
15	実験レポートの評価と注意	提出された報告書をもとに, 報告書の書き方の補足説明, 注意を行う。*この報告書は後期の実験実習にも利用するので, 保管しておくこと。
16	前期定期試験の解答, 後期実験実習の説明	最初に前期定期試験の解答と復習を行い, その後, 後期実験実習の各テーマについて説明する。後期の実験実習で具体的に気をつけなければならない点など, 「安全の手引き」を用いて説明する。
17	ワープロ1	学園祭の案内文書を題材に, ワープロの基本操作を身につける。
18	ワープロ2	図を作成して, 学園祭の案内文書を完成させる。
19	テスタ回路の説明	テスター内部の回路のうち, 倍率器, 分流器の構造, 理論を学習する。
20	基板のパターン設計	実際に必要な抵抗の値を算出する。半田付けの練習を行う。基板上の部品の配置の設計を行う。
21	表計算1	成績一覧表を題材に, 表計算の基本操作を身につけてグラフを作成する。
22	表計算2	与えられたデータを自由に加工し, そのデータの特徴をグラフ化してわかりやすく表示する。
23	プリント基板の製作1	配線パターンをプリント基板へ複写, ポインティング, マーキング, エッチング, さび止め加工, 穴あけ加工
24	プリント基板の製作2	部品の半田付け, 仕上げと点検
25	LaTeXによるレポート作成1	LaTeXを使って, 前期実験実習のレポートを作成する。
26	LaTeXによるレポート作成2	図形描画ソフトTgifを使って, 図を作成する。
27	テスタ回路による誤差率の測定1(電流計)	電流計部分を使って, 実際に電流を測り, 自分の作った回路の動作および精度の検証を行う。
28	テスタ回路による誤差率の測定2(電圧計)	電圧計部分を使って, 実際に電圧を測り, 自分の作った回路の動作および精度の検証を行う。
29	LaTeXによるレポート作成3	LaTeXを使って, 図入りの実験実習レポートを完成させる。
30	実験実習のまとめ	後期実験実習のまとめを行う。
備考	前期中間試験および前期定期試験を実施する。前期に作成した報告書は後期の実験実習にも利用するので保管しておくこと。17週目以降は, 20名ずつ2班に分けて, それぞれ情報関係と電気関係の実験を交代で実施する。	

科目	プログラミングI (Programming I)		
担当教員	若林 茂 教授		
対象学年等	電子工学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A3(100%)		
授業の概要と方針	アルゴリズム・データ構造などのプログラミングの基本的な考え方を身につける。Pascal言語を用いたプログラミング演習を通して構造化プログラミング技法を身につける。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A3】問題を解く手順(アルゴリズム)を接続・選択・反復の組み合わせで構成できること		前後期中間試験, 前後期定期試験, レポート, 演習で評価する。
2	【A3】次の項目が理解でき, それを利用したPascalプログラムを作成できること。変数, 定数, 整数型, 実数型, 文字型, 論理型, while文とfor文とrepeat文, if文とcase文		前後期中間試験, 前後期定期試験, レポート, 演習で評価する。
3	【A3】次の項目が理解でき, それを利用したPascalプログラムを作成できること。配列, 関数と手続き, 仮引数と実引数, 局所変数と大域変数, 値引数と変数引数, 再帰		後期中間試験, 後期定期試験, レポート, 演習で評価する。
4	【A3】次の項目が理解でき, それを利用したPascalプログラムを作成できること。レコード型, ポインタ, 線形リスト		後期定期試験, 演習で評価する。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は, 試験80%, レポートおよび演習20%として評価する。なお, 試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「Pascalプログラミングの基礎」: 真野芳久(サイエンス社) 「情報基礎」Webテキスト		
参考書	「プログラミングの方法」: 川合慧(岩波書店)		
関連科目	情報基礎, プログラミングII, ソフトウェア工学		
履修上の注意事項			

授業計画 1 (プログラミング)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	例題1: 文字列の出力	プログラムの作成, コンパイル, 実行という一連の操作の仕方を理解する。また, プログラムの形式と出力命令を理解する。
2	問題1:	複数の出力命令を組み合わせて, 花文字を出力するプログラムを作成する。
3	例題2: 四則計算	変数, 入力命令, 算術代入文を理解する。
4	問題2:	2数の四則計算を行うプログラムを作成する。
5	例題3: 合計と平均	反復構文 (while文, for文) を理解する。
6	問題3:	いくつかの数を入力して, 合計と平均を求めるプログラムを作成する。
7	例題4: 素数一覧表	選択構文 (if文) を理解する。
8	中間試験	第7週までの内容で出題する。
9	試験の解答および解説	前期中間試験の答案返却と解答および解説を行う。
10	問題4:	素数一覧表を表示するプログラムを作成する。
11	例題5: 式の計算	文字型とその他の反復・選択構文 (repeat文, case文) を理解する。
12	問題5:	式を入力して計算するプログラム (電卓プログラム) を作成する。
13	練習問題	例題5, 問題5までのまとめと練習問題を行う。
14	例題6: ソーティング	配列を理解する。
15	問題6:	ソーティングプログラムを作成する。
16	試験の解答および解説	前期定期試験の答案返却と解答および解説を行う。
17	例題7: 最大公約数と最小公倍数	ユークリッドの互除法のアルゴリズムを理解する。関数 (function) と手続き (procedure) を理解する。
18	問題7:	いくつかの数の最大公約数と最小公倍数を求めるプログラムを作成する。
19	練習問題	例題7, 問題7までのまとめと練習問題を行う。
20	総合課題	多桁電卓プログラムを作成する。
21	総合課題	引き続き, 多桁電卓プログラムを作成する。
22	総合課題	引き続き, 多桁電卓プログラムを作成する。
23	中間試験	第22週までの内容で出題する。
24	試験の解答および解説	後期中間試験の答案返却と解答および解説を行う。
25	例題8: 分数計算	レコード型を理解する。
26	問題8	分数の四則計算プログラム (分数電卓) を作成する。
27	例題9: 線形リスト	ポインタを理解する。線形リストを理解する。
28	問題9:	線形リストを操作するプログラムを作成する。
29	練習問題および総合課題	例題9, 問題9までのまとめと練習問題を行う。また, 学生の進度に合わせて総合課題に取り組む。
30	まとめ	ファイルの整理など, 1年間のまとめをする。また, "正確に", "高速に" 計算するプログラムに反する例を示すことにより, 次年度以降の勉強の動機付けをする。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	電気回路I (Electric Circuit I)		
担当教員	荻原 昭文 准教授		
対象学年等	電子工学科・2年・通年・必修・2単位(学修単位I)		
学習・教育目標	A4-D1(100%)		
授業の概要と方針	正弦波交流とベクトル表示, 抵抗・インダクタンス・静電容量の直列回路・並列回路の計算, 交流電力, 記号法による交流回路の計算方法など電気回路の基礎を理解し, それらを活用する能力を養う。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A4-D1】正弦波交流の性質, 正弦波交流のベクトル表示を理解し, ベクトルによる正弦波交流の計算ができる。		周期, 周波数, 角周波数, 位相, 位相差, 最大値, 平均値, 実効値, 波形を表す式の理解度, および正弦波交流の直角座標表示・極座標表示とその計算の理解度を前期中間試験とレポートにより評価する。
2	【A4-D1】抵抗R・インダクタンスL・静電容量Cの単独回路, およびそれらの直列回路・並列回路の電圧・電流・インピーダンスを求めることができる。		R, L, C単独回路における電圧・電流・位相の関係, およびR, L, Cの直列回路・並列回路における電圧・電流・インピーダンスの計算を前期定期試験とレポートにより評価する。
3	【A4-D1】交流電力を表す量を理解し, R, L, Cの直列回路・並列回路における交流電力を求めることができる。		皮相電力, 有効電力, 無効電力, 有効電流, 無効電流, 力率, 無効率の理解度, およびR, L, Cの直列回路・並列回路におけるそれらの計算を後期中間試験とレポートにより評価する。
4	【A4-D1】複素数とベクトルの関係を理解し, 複素数を用いたベクトルの計算ができる。また, 交流の電圧・電流を複素数で表すことができる。		複素数の直角座標表示と指数関数形表示, 複素数を用いたベクトルの和・差・積・商の計算, および複素電圧・複素電流の理解度を後期中間試験とレポートにより評価する。
5	【A4-D1】複素インピーダンス・複素アドミタンスとオームの法則を理解し, 記号法によるR, L, Cの直列回路・並列回路, 交流ブリッジ回路, 交流電力の計算ができる。		記号法によるR, L, C直列回路・並列回路の電圧・電流・インピーダンス・アドミタンスの計算, 交流ブリッジの平衡条件, 交流電力の計算を後期定期試験とレポートにより評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は, 試験85%, レポート15%として評価する。なお, 試験成績は, 中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「電気回路(1)」: 早川義晴・松下祐輔・茂木仁博 著(コロナ社)		
参考書	「トレーニングノート電気基礎(上)」: 和泉勲・木村敦・田丸雅夫・萩谷充旦 共著(コロナ社) 「トレーニングノート電気基礎(下)」: 和泉勲・木村敦・萩谷充旦 共著(コロナ社)		
関連科目	D1「電子工学序論」, D3「電気回路II」		
履修上の注意事項			

授業計画 1 (電気回路I)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	ガイダンス, 正弦波交流(1)	授業の進め方, 到達目標と評価方法などを説明する。直流と交流の違い, 正弦波交流の時間的変化の速さを表す周期, 周波数, 角周波数, およびそれら相互の関係を理解する。
2	正弦波交流(2)	正弦波交流の瞬時値と瞬時値の時間的変化のずれを表す位相, 位相差を理解する。また, 正弦波交流の大きさを表す最大値と平均値を理解する。
3	正弦波交流(3)	正弦波交流の大きさを表す実効値を理解する。また, 正弦波交流の波形を表す式と周期, 周波数, 角周波数, 位相, 位相差, 最大値, 平均値, 実効値の関係を理解し, 正弦波交流の瞬時値を求める。
4	正弦波交流のベクトル表示(1)	正弦波交流をベクトルで表す方法としての回転ベクトルと静止ベクトル, 波形を表す式と静止ベクトルの相互の変換を理解する。
5	正弦波交流のベクトル表示(2)	正弦波交流の静止ベクトルの表示方法としての極座標表示と直角座標表示, ベクトル図, 極座標表示と直角座標表示の相互の変換を理解する。
6	正弦波交流のベクトル表示(3)	波形を表す式による正弦波交流の和・差の計算とベクトル表示による正弦波交流の和・差の計算の関係を理解する。
7	演習	正弦波交流について演習により理解を深める。
8	中間試験	中間試験までの授業内容に関する試験を行う。出題方針は試験前に通知する。
9	中間試験解答, 抵抗Rの作用	中間試験の結果を確認する。抵抗の作用を理解する。抵抗Rの単独回路における抵抗値と電圧・電流の大きさの関係, 電圧と電流の位相の関係, 電圧・電流の波形を表す式, 電圧・電流のベクトル表示を理解する。
10	インダクタンスLと静電容量Cの作用	自己インダクタンスLと誘導リアクタンスの関係, 静電容量Cと容量リアクタンスの関係を理解する。LまたはCの単独回路におけるリアクタンスと電圧・電流の大きさの関係, 電圧と電流の位相の関係, 電圧・電流の波形を表す式, 電圧・電流のベクトル表示を理解する。
11	R-L直列回路	R-L直列回路における電圧・電流とインピーダンスの関係, 電圧と電流の位相の関係を理解する。電圧と電流をベクトル表示し, R-L直列回路の電圧・電流・インピーダンスの関係を求め, それらの値を計算する。
12	R-C直列回路	R-C直列回路における電圧・電流とインピーダンスの関係, 電圧と電流の位相の関係を理解する。電圧と電流をベクトル表示し, R-C直列回路の電圧・電流・インピーダンスの関係を求め, それらの値を計算する。
13	R-L-C直列回路	R-L-C直列回路における電圧・電流とインピーダンスの関係, 電圧と電流の位相の関係を理解する。R-L-C直列回路における周波数によるインピーダンス・電圧・電流の変化, 直列共振と共振周波数, 回路のQを理解し, 共振時の特性を計算する。
14	R-L-C並列回路	R-L-C並列回路における電圧・電流とインピーダンスの関係, 電圧と電流の位相の関係を理解し, および並列共振を理解し, R-L-C並列回路の電圧・電流・インピーダンスと共振周波数を計算する。
15	演習	R-L-C回路について演習により理解を深める。
16	定期試験解答, 交流電力(1)	定期試験の結果を確認する。直流電力と交流回路の瞬時電力, 交流電力の定義を理解する。また, 抵抗Rでの交流電力を理解する。
17	交流電力(2)	インダクタンスL, 静電容量Cでの交流電力, インピーダンスZでの交流電力を理解し, 簡単な回路の交流電力を計算する。
18	交流電力(3)	交流回路における皮相電力, 有効電力, 無効電力の関係, およびこれらのインピーダンスを用いた表現を理解する。また, R, L, Cの直列回路・直並列回路における皮相電力, 有効電力, 無効電力, 有効電流, 無効電流, 力率, 無効率などを計算する。
19	ベクトルの複素数表示(1)	これまでに扱ってきたベクトルを複素数で表す方法を学習する。ベクトルと複素数の関係, 複素数の直角座標表示と指数関数形表示を理解し, 直角座標表示と指数関数形表示の相互の変換計算を行う。
20	ベクトルの複素数表示(2)	複素数によるベクトルの和・差・積・商の計算方法, j とベクトルの回転を理解し, それらの計算を行う。
21	複素電圧, 複素電流	電圧・電流の波形を表す式と電圧・電流を複素数で表した複素電圧・複素電流の関係を理解し, それら相互の変換計算を行う。
22	演習	交流電力及びベクトルの複素数表示について, 演習により理解を深める
23	中間試験	中間試験までの授業内容に関する試験を行う。出題方針は試験前に通知する。
24	中間試験解答, 複素インピーダンス(1)	中間試験の結果を確認する。複素電圧と複素電流の比である複素インピーダンスと交流回路のオームの法則を理解する。
25	複素インピーダンス(2)	R, L, C回路素子の複素インピーダンスを学習し, 記号法によりR, L, C単独回路の計算を行う。
26	直列回路・並列回路の合成インピーダンス	複素インピーダンスの直列回路・並列回路の合成インピーダンスの求め方を学習し, それらの計算を行う。
27	記号法による交流回路の計算	記号法によりR-L回路, R-C回路, R-L-C回路の電圧, 電流, インピーダンスの計算を行う。
28	複素アドミタンス	複素アドミタンスとオームの法則を理解し, R, L, C回路素子の複素アドミタンス, 複素アドミタンスの直列回路・並列回路の合成アドミタンスを求め, 記号法により直並列回路の計算を行う。
29	記号法による交流ブリッジ回路及び交流電力の計算	直流ブリッジと交流ブリッジの違い, 交流ブリッジの平衡条件を理解し, 記号法により各種交流ブリッジの平衡条件を求める。記号法による交流電力の計算方法を理解し, 記号法により有効電力, 無効電力, 皮相電力, 力率, 無効率などを計算する。
30	演習	複素インピーダンス及び記号法について, 演習により理解を深める
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	論理回路 (Logic Circuits)		
担当教員	高嶋 和毅 非常勤講師		
対象学年等	電子工学科・2年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A3(100%)		
授業の概要と方針	論理回路は、計算機回路で代表されるデジタル回路の基礎となる分野である。本科目では、コンピュータハードウェアの構成要素である論理回路についての仕組み、デジタル回路を設計するにあたって必要となる考え方や設計の仕方を学習する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A3】 数の n 進変換ができる。		基数の変換がしっかりと理解できているかを前期中間試験で評価する。
2	【A3】 論理関数を理解し、それらを簡単化することができる。		論理関数の簡単化が行えるかを前期中間試験で評価する。
3	【A3】 真理値表を作成し、論理ゲートを用いて組合せ論理回路を設計することができる。		与えられた問題に対して真理値表を作成し、それを簡単化して回路化する一連の設計手順が理解できているかを前期定期試験、レポートおよび小テストで評価する。
4	【A3】 順序論理回路の基礎、およびフリップフロップが理解できる。		順序論理回路およびフリップフロップの基礎が理解できているかを後期中間試験で評価する。
5	【A3】 フリップフロップを応用して計数回路を設計することができる。		フリップフロップを用いた n 進計数回路が設計できるかを後期定期試験、レポートおよび小テストで評価する。
6	【A3】 演算回路の仕組みを理解することができる。		加算回路や減算回路のような演算回路の仕組みが理解できているかを後期定期試験、レポートおよび小テストで評価する。
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験85%、レポート5%、小テスト10%として評価する。なお、試験成績は、中間試験(前期、後期)と定期試験(前期、後期)の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「論理回路の基礎」：田丸啓吉(工学図書)		
参考書	「イラスト・図解デジタル回路のしくみがわかる本」：宮井、尾崎、若林、三好(技術評論社) 「デジタル回路」：伊原、若海、吉沢(コロナ社)		
関連科目	電子工学序論、コンピュータ工学、電子回路I		
履修上の注意事項			

授業計画 1 (論理回路)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	イントロダクション	本講義のイントロダクションを行う。また、数の体系や代表的な数について講義する。
2	基数の変換	2進10進変換, 10進2進変換, これらを応用したn進10進変換, 10進n進変換を行う。
3	論理関数の基礎	論理和, 論理積, 否定の基本論理を学ぶ。また, 公理と定理について講義する。
4	論理関数の基礎	真理値表の書き方, 加法標準型, 乗法標準型について講義する。
5	論理関数の簡単化	5変数までの論理関数をカルノー図を用いて簡単化する手法について講義する。
6	論理関数の簡単化	5変数以上の論理関数をクワインマクスキーを用いて簡単化する手法について講義する。
7	簡単化の演習	簡単化の演習問題を行う。
8	前期中間試験	1~7週の内容の中間試験
9	試験返却と解説, 簡単化の続き	中間試験を返却し, 解答の解説を行う。また, 禁止の場合の簡単化についての講義を行う。
10	組合せ論理回路	AND, OR, NOT, NAND, NOR, eXorの論理ゲートについて講義する。また, これらを用いて簡単な論理回路の設計を行う。
11	組合せ論理回路の解析	論理の完全性を用いて, 任意の回路をNAND回路またはNOR回路に等価変換する。また, 逆にNAND回路, NOR回路を和積形または積和形の回路に変換する手法について講義する。
12	組合せ論理回路の設計	半加算回路, コンパレータの設計を, 設計手順に従って講義する。
13	順序論理回路の解析	順序論理回路, 内部状態, 安定状態, 状態遷移表について講義する。
14	順序論理回路の設計	与えられた問題を基に設計手順に従って, 遷移表や遷移図, 励起表を作成する。
15	演習問題	順序論理回路の設計に関する演習問題を行う。
16	試験返却と解答, フリップフロップ	試験返却と解答の解説を行う。また, フリップフロップの基礎と, SR-FF, T-FF, SRT-FFについて講義する。
17	フリップフロップ	JK-FF, D-FF, Dラッチについて講義する。
18	FF応用回路の設計	設計手順に従って, 回路設計を行う。ここでは, 励起表を作成し, 入力論理式を求めることで行う。
19	FF応用回路の設計の演習	FF応用回路の演習問題を行う。
20	メモリレジスタ, シフトレジスタと計数回路	メモリレジスタ, シフトレジスタについて講義する。また, 計数回路の種類について学ぶ。
21	計数回路	2進カウンタ, 可逆カウンタ, リングカウンタ, ジョンソンカウンタについて, それらの原理と動作を学ぶ。
22	計数回路の設計法	計数回路をFFを用いて設計する手順を講義する。ここでは, 応用方程式と入力方程式を用いて設計を行う。
23	後期中間試験	16週~22週の内容の中間試験
24	試験返却と解答	試験を返却し, その解説を行う。また, n進計数回路の設計手順について講義する。
25	n進計数回路設計演習	n進計数回路の設計問題の演習を行う。
26	演算回路の基礎	演算回路を行う上においての基礎を講義する。ここでは, 数値コード, 負数の取り扱い方, あふれの現象について見る。
27	加算回路の設計	全加算回路を用いて2進数の加算回路を設計する。
28	10進数加算回路	10進数加算回路について講義する。
29	演習問題1	総合的な演習問題を行う。
30	演習問題2	総合的な演習問題を行う。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	電子工学実験実習 (Laboratory Work in Electronic Engineering)		
担当教員	林 昭博 教授, 戸崎 哲也 准教授, 西 敬生 准教授, 長谷 芳樹 講師, 長瀬 宗二 非常勤講師		
対象学年等	電子工学科・2年・通年・必修・4単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-D1(40%) B1(20%) C4(20%) D1(20%)		
授業の概要と方針	電子工学に関する基礎事項および現象を実験実習により確認し, あわせてPCおよび計測器の基本的な使い方を習得する。また, 報告書の書き方, 期限内での報告書の提出を身につける。1クラスを4班に分け, 班単位で実験実習を行う。4班並列に異なる実験実習を行うため, 各班で実施する実験実習テーマの週は異なるが, 1年間で行う実験実習のテーマは同じである。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C4】グループで協調して実験実習に挑み, 期限内に実験報告書を提出できる。		各テーマへの取り組みと報告書(レポート)の提出状況で評価する。
2	【B1】様式の整った図・表が書ける。		各テーマの報告書(レポート)の内容で評価する。
3	【D1】機器の取り扱いに注意し, 安全に実験に取り組むことができる。		各テーマへの実験の取り組みで評価する。
4	【A4-D1】PCを用いて図やグラフを作成でき, またそれらを含む文書をTeXで作成できる。		「PCを利用した図, グラフ, 文書の作成」の達成度および報告書(レポート)の内容で評価する。
5	【A4-D1】オシロスコープ, ホイートストンブリッジ, ダブルブリッジを用いた計測を行うことができる。		「計測実験」の達成度および報告書(レポート)の内容で評価する。
6	【A4-D1】ダイオード, トランジスタ, FETの基本特性を測定でき, その特性を説明できる。		「半導体素子の特性測定」の達成度および報告書(レポート)の内容で評価する。
7	【A4-D1】R, L, Cの直列回路・並列回路, および波形変換回路の特性を測定でき, その特性を説明できる。		「RLC回路の実験」の達成度および報告書(レポート)の内容で評価する。
8	【A4-D1】基礎的な組合せ論理回路, 順序回路が構成でき, それらの動作を説明できる。		「論理回路の実験」の達成度および報告書(レポート)の内容で評価する。
9	【A4-D1】可視光, 赤外線, 温度, 磁気の種類センサの簡単な原理と応用例を説明できる。		「各種センサの特性測定」の達成度および報告書(レポート)の内容で評価する。
10	【A4-D1】パソコンの組み立てと分解工程, およびプリント基板の製作工程を説明できる。		「PC組み立て実験」と「製作実習(直流安定化電源の製作)」の達成度および報告書(レポート)の内容で評価する。
総合評価	成績は, 実験実習への取り組みと達成度および報告書(レポート)の内容と提出状況で総合的に評価する。1通でも未提出レポートがあるとき, 原則として年間総合評価は不可となる。詳細は第1週目のガイダンスで説明する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「電子工学科・第2学年実験実習シラバス(計画書)」: プリント 「電子工学科・第2学年実験実習指導書」: プリント 「電子工学科・安全の手引き」: プリント		
参考書	「知的な科学・技術文章の書き方」: 中島利勝・塚本真也 共著 (コロナ社)		
関連科目	電子工学実験実習(本科1年), 電子工学実験実習(本科3年), その他実験テーマの関連教科		
履修上の注意事項	実験実習計画書に記載の実験前の準備を行って実験に臨むこと。		

授業計画 1 (電子工学実験実習)

週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	ガイダンス, 安全教育, 実験テーマの概要説明	詳細な電子工学実験実習シラバス(実験実習計画書)を配布し, 評価方法, レポートの作成・提出方法・提出遅れの扱い, 遅刻・欠席の扱い, 班構成, 実施日などの説明をする。また, 当学年の安全に関する全般的な注意事項を説明する。その後, 各テーマの概要とテーマに關係する安全に対する注意事項の説明を行う。
2	PC組み立て実験 (1) PCの組み立て	CPU, ハードディスク, 各種PCIボード等をマザーボードに接続してPCを組み立て, ハード的な構成を理解する。
3	PC組み立て実験 (2) OSのインストール	組み立てられたPCにOSであるWindowsXPをインストールする。また, 使用用途に応じたPCのカスタマイズ方法を理解する。
4	PC組み立て実験 (3) 各種ソフトウェアのインストールとPCの解体	ドロー系, オフィス系のソフトウェアをインストールし, それらの基本的な使用法を理解する。また, 組み立てたPCを解体し, 実験前の状態に戻す
5	PCを利用した図, グラフ, 文書の作成 (1) PCによる作図	ドロー系ソフトウェアによる簡単な作図の方法を身につける。
6	PCを利用した図, グラフ, 文書の作成 (2) PCによるグラフ作成	PCを用いたグラフの作成方法を身につける。
7	PCを利用した図, グラフ, 文書の作成 (3) PCによる文書作成	図やグラフを含む文書をTeXで作成する方法を身につける。
8	計測実験 (1) 交流の振幅と位相	オシロスコープの使い方を再認識する。また, 2つの素子の電圧を同時に計測し, その波形を観察することで, 位相の差を確認する。
9	計測実験 (2) 直流ブリッジ	ホイートストンブリッジを用いて, 中位抵抗の値を測定することによりその測定法を習得する。また, ダブルブリッジを用いて低抵抗を測定し, その測定及び動作原理を理解する。
10	計測実験 (3) 交流ブリッジ	交流ブリッジの原理を理解し, インピーダンスの測定を行うことができる。また, L, C素子には用途に応じていろいろな種類があることを理解する。
11	半導体素子の特性測定 (1) ダイオードの特性	ダイオードの特性を測定し, その基本的な働きについて理解する。
12	半導体素子の特性測定 (2) トランジスタの静特性	トランジスタの静特性を測定し, その基本的な働きについて理解する。
13	半導体素子の特性測定 (3) FETの静特性	FETの静特性を測定し, その基本的な働きについて理解する。
14	実験とレポートの講評および実験報告書(レポート)の指導	実験とレポートの講評をHR教室で行った後, 各班毎に実験室に移動し, 提出されたレポートについて, 各実験担当者が個別に指導する。
15	工場見学またはビデオ鑑賞等	適宜, 工場見学またはビデオ鑑賞等を実施する。
16	実験テーマの概要説明	HR教室において, 実験担当者が各テーマの概要とテーマに關係する安全に対する注意事項の説明を行う。
17	RLC回路 (1) R, L, C回路素子の特性とL-C並列回路	R, L, C回路素子とL-C並列回路の周波数特性を測定し, R, L, Cの働きについて理解する。
18	RLC回路 (2) R-L-C直列回路	R-L-C直列回路の周波数特性を測定し, 直列回路におけるR, L, Cの働きおよび共振特性を理解する。
19	RLC回路 (3) 波形変換回路	Rとダイオードを用いて入力波形の一部を取り出す波形変換回路(クリップ回路, リミッタ回路), Cとダイオードを用いて直流レベルを変える波形変換回路(クランプ回路), RとCを用いて入力波形の微分, 積分を行う波形変換回路(微分回路, 積分回路)を構成し, 入出力波形を観測して回路の働きを理解する。
20	論理回路の実験 (1) 基本ゲートの入出力電圧特性	基本ゲートの入出力電圧特性を測定し, 素子の動作について学習する。
21	論理回路の実験 (2) 組合せ論理回路	基本ゲートからなる組合せ論理回路について実験し, ブール代数との關係について理解を深める。
22	論理回路の実験 (3) 順序論理回路	JK-FFについて実験を行い, 順序回路の学習を行う。
23	各種センサの特性測定 (1) 光センサの特性	光センサの特性を測定し, その基本的な働きと応用例を知る。
24	各種センサの特性測定 (2) 赤外線センサと温度センサの特性	赤外線センサや温度センサの特性を測定し, その基本的な働きと応用例, 赤外線について知る。
25	各種センサの特性測定 (3) 磁気センサの特性	磁気センサの特性を測定し, センサの基本的な働きと磁気メモリの原理の基礎を知る。
26	製作実習(直流安定化電源の製作) (1) プリント基板の製作	直流安定化電源用プリント基板を製作し, 回路製作や設計の基礎を知る。
27	製作実習(直流安定化電源の製作) (2) ハンダ付け	電子部品をプリント基板へハンダ付けすることにより, 回路製作の基礎を理解する。
28	製作実習(直流安定化電源の製作) (3) 電源の特性確認	作製した回路の動作確認の必要性和, 直流安定化電源の基本的な動作について理解する。
29	実験とレポートの講評および実験報告書(レポート)の指導	実験とレポートの講評をHR教室で行った後, 各班毎に実験室に移動し, 提出されたレポートについて, 各実験担当者が個別に指導する。
30	工場見学またはビデオ鑑賞等	適宜, 工場見学またはビデオ鑑賞等を実施する。
備考	中間試験および定期試験は実施しない。授業計画に記載の実験テーマは4班の中の1班に対しての計画であり, 他の班は前期と後期毎に3週単位で異なったテーマを実施し, 前期と後期毎に全員同じ実験実習を行う。	

科目	電気数学 (Electrical Mathematics)		
担当教員	山口 秀樹 非常勤講師		
対象学年等	電子工学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A1(100%)		
授業の概要と方針	理工学系の基礎として線形代数と複素関数論の基礎, ラプラス変換の基礎を学ぶ。学ぶ内容が幅広く, また4年で習う応用数学のベースともなるため, こまめに演習を実施して, 具体的な問題を解き, 理解を深めてもらうようにしたい。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A1】 2次正方行列を用いた座標変換と線形代数の概観が理解できる。		平面上の1次変換(移動, 拡大・縮小)ができるか, および平面上のベクトルの1次独立性の判定について前期中間試験およびレポートで評価する。
2	【A1】 連立1次方程式を行列を用いて解くことができる。		掃き出し法やクラメルの公式を用いて連立1次方程式が解けるか, また行列のランクと解の関係について理解できているかを前期中間試験, 定期試験およびレポートで評価する。
3	【A1】 行列式の計算ができる。		様々な行列に対して行列式の求め方と, その性質が理解できているかを前期中間試験, 定期試験およびレポートで評価する。
4	【A1】 ベクトル空間と線形写像に関わる基本的な事項が理解できる。		部分空間かどうかの判定, 1次独立かどうかの判定および線形写像の計算ができるかを前定期試験およびレポートで評価する。
5	【A1】 行列の対角化ができる。		行列の固有値・固有ベクトルを求め, 行列を対角化できるかを前定期試験およびレポートで評価する。
6	【A1】 複素数の基本演算ができ, 演算結果を複素平面上に表現できる。		複素数の加減乗除ができるかどうか, 複素平面の意味を理解しているかどうかを後期中間試験およびレポートで評価する。
7	【A1】 複素関数の連続性の判定や, 関数の正則性について理解できる。		複素関数に対して, コーシーリーマンの関係式を用いて正則かどうかの判定ができるかどうかを後期中間試験およびレポートで評価する。
8	【A1】 正則関数の基本的な性質を理解するとともに, その写像を描くことができる。		指数関数や三角関数などの代表的な正則関数に対して, 基本的な演算および微分計算を実行でき, 写像がえがけるかどうかを後期中間試験およびレポートで評価する。
9	【A1】 基本的なラプラス変換を定義式から求めることができる。		ラプラス変換の定義式が正しく理解できており, それを用いて変換式を導出できるかを後定期試験およびレポートで評価する。
10	【A1】 たたみこみとラプラス変換の関係を理解し, ラプラス変換を用いて常微分方程式を解くことができる。		ラプラス変換と逆変換を適用して, たたみこみの計算を実行できるか, またこれを用いて常微分方程式の問題が解けるかを後定期試験およびレポートで評価する。
総合評価	成績は, 試験70%, レポート30%として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。なお試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする。		
テキスト	「リメディアル線形代数」: 桑村雅隆著(裳華房) 「改訂応用数学」: 田河生長他著(大日本図書)		
参考書	「新編 高専の数学II問題集」: 田代編(森北出版) 「新訂応用数学問題集」: (大日本図書) 「入門線形代数」: 三宅 敏恒 著(培風館) 「新編 高専の数学2(第2版)」: 田代嘉宏 編(森北出版) 「新編 高専の数学3(第2版)」: 田代嘉宏 編(森北出版)		
関連科目	D2「数学II」, D4「応用数学」, D4「数値解析」, D4「電子計測」, D5「制御工学II」		
履修上の注意事項	内容が多岐にわたっており, 進捗ペースも速いと思われるので, 予習・復習を行い, そのつど授業内容を理解するように努めること。		

授業計画 1 (電気数学)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	行列の復習	2次正方行列の演算, 逆行列の求め方, 簡単な1次変換について復習を行う.
2	1次変換の性質	1次変換の線形性を説明し, 2次正方行列における固有値や固有ベクトルの性質を理解する.
3	ベクトルの1次独立性	線形代数の理論の出発点となるベクトルの1次独立性について説明する.
4	演習	これまでに学習した内容について, 演習を行い理解度を確認する.
5	一般的な行列の計算と連立1次方程式	一般的な行列の計算手法を解説し, 連立1次方程式の掃き出し法による解法を解説する.
6	行列の基本変形とランク	基本行列を解説し, 行列の基本変形の方法を理解する. またランク (階数) の定義と求め方を理解する.
7	連立1次方程式の解の構造	行列のランクと連立1次方程式の解の種類の関係について解説する.
8	中間試験	1~7回までの内容について試験する.
9	中間試験の解答	中間試験の解答を行い, 正答率の低かった問題の復習を行う.
10	行列式	クラメル公式, サルスの方法を解説し, n 次正方行列に対して余因子を用いた行列式の求め方を理解する.
11	ベクトル空間	ベクトル空間の定義を解説する.
12	ベクトル空間の基底と次元	一般的なベクトル空間におけるベクトルの1次独立性を解説し, ベクトル空間の基底と次元について理解する.
13	線形写像	ベクトル空間における線形写像の概念を理解し, 行列による表示の方法を理解する.
14	行列の対角化	n 次正方行列に対する固有値, 固有ベクトルの求め方を解説し, 行列の対角化の方法を理解する.
15	対称行列の対角化とその応用	対称行列の固有値と固有ベクトルの性質を解説し, 応用として2次曲線の標準化について説明する.
16	定期試験の解答	前期定期試験の解答を行い, 正答率の低かった問題の復習を行う.
17	複素数の極形式表示とオイラーの公式	複素数を絶対値と偏角を用いて表す極形式を説明し, それとオイラーの公式の関係を示す.
18	複素関数とその微分	複素関数を定義し, その極限, 連続性, 微分という一連の流れを示す.
19	正則関数の基本	正則関数の意味を解説し, 複素関数が正則関数であるための必要十分条件である, コーシーリーマンの関係式を導く.
20	指数関数と三角関数, 対数関数	基本的な複素関数である指数関数と三角関数および対数関数を定義し, それらの正則性を確かめるとともに, 基本的な性質について解説する.
21	調和関数と等角写像	正則関数の実部と虚部が調和関数であること, および調和関数が満足するラプラスの方程式の工学的な意味について解説する. また複素関数の写像は等角性を持つことを示す.
22	ラプラス変換の定義	実数関数 $f(t)$ から複素数 s の関数 $F(s)$ への変換であるラプラス変換について定義式と簡単な変換例を示す.
23	中間試験	17~22回までの内容について試験する.
24	試験の解答, ラプラス変換の基本的性質(1)	ラプラス変換の基本的性質 (線形性, 相似性, 移動法則) について解説する.
25	ラプラス変換の基本的性質 (2)	ラプラス変換における微分積分法則について解説するとともに, 基本的な関数の変換例を示す.
26	たたみこみおよびそのラプラス変換	たたみこみの定義と, そのラプラス変換の考え方, 結果について示す.
27	演習	ラプラス変換について, これまで学習した内容の演習を行う.
28	逆ラプラス変換の定義	$F(s)$ から $f(t)$ への変換である逆ラプラス変換の考え方とその基本的な性質について解説する.
29	部分分数分解法	$F(s)$ を部分分数に分解することによって, 逆ラプラス変換を求める手順を解説する.
30	常微分方程式への応用	ラプラス変換を用いると常微分方程式が容易に解けることを示す.
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科目	プログラミングII (Programming II)		
担当教員	戸崎 哲也 准教授		
対象学年等	電子工学科・3年・通年・必修・2単位(学修単位I)		
学習・教育目標	A3(100%)		
授業の概要と方針	アルゴリズム, データ構造などのプログラミングを実践的な見地から学習する。本授業は, C言語を用いた講義と演習を中心に行い, 問題解決能力を養うことを目的とする。また, オブジェクト指向型言語であるJava言語についても触れる。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A3】Linuxの操作, 関数や変数等C言語を扱う上において最低限必要な要件を理解することができる。		Linuxコマンド操作, C言語における関数と変数の取り扱いが理解できているかを前期中間試験および授業中の演習で評価する。
2	【A3】制御構造や演算手法を十分理解することができる。		制御文, 演算処理が理解できているかを前期中間試験および授業中の演習で評価する。
3	【A3】配列とポインタを理解することができる。		配列とポインタを理解できているかを前定期試験および授業中の演習で評価する。
4	【A3】構造体について理解することができる。		構造体について理解できているかを後期中間試験および授業中の演習で評価する。
5	【A3】ファイル入出力操作をすることができる。		ファイル入出力操作を理解できているかを後期中間試験および授業中の演習で評価する。
6	【A3】オブジェクト指向型プログラムを理解することができる。		オブジェクト指向型であるJava言語の基礎を理解できているかどうかを後定期試験および授業中の演習で評価する。
7	【A3】提示された問題を解決できるようなプログラミングが行えることができる。		問題解決能力を総合演習で評価する。
8			
9			
10			
総合評価	成績は, 試験60%, 授業中の演習20%, 総合演習20%として評価する。試験成績は, 前後期中間試験と前後期定期試験の計4回の平均で評価する。総合評価100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「新C言語入門シニア編」: 林晴比古(ソフトバンク) プリント		
参考書	「Pascalプログラムの基礎」: 真野芳久(サイエンス社) 「プログラミング言語C ANSI規格準拠」: B.W. カーニハン (共立出版) 「Java言語プログラムレッスン上下」: 結城浩(ソフトバンク)		
関連科目	情報基礎, プログラミングI, ソフトウェア工学, 数値解析		
履修上の注意事項	本科目では, プログラミングIをさらに実践的なものへと発展させることを目指す。そのため, プログラミングIの内容を十分理解しておく必要がある。		

授業計画 1 (プログラミングII)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	ガイダンス	LinuxにおけるC言語でのプログラムの仕方, コンパイラgccによるコンパイル方法を講義する。また, エレガントなプログラミングスタイルについても指導する。
2	関数と変数	関数と変数についての講義を行う。
3	数と変数, 標準入出力	char型, short型, int型, long型, float型, double型の違いや標準入出力の仕方についての講義を行う。
4	演算子	四則演算, 論理演算, ビット演算, インクリメント/デクリメント演算等の演算子について講義を行う。
5	制御構造	if文, switch文, while文, for文, do-while文, continue文のような条件文や繰り返し文についての講義を行う。
6	演習	西暦から閏年を判定し, 任意の月のカレンダーを表示するプログラムを作成する。2整数を入力し, その最大公約数, 最小公倍数を求める。
7	演習	任意の数を入力し, その最大値, 最小値, 平均点, 分散値を計測するプログラムを作成する。ローン計算を行うプログラミングを行う。
8	中間試験	1~7週に関する内容の中間試験
9	試験問題の解答と解説	中間試験の解答を示し, その解説を行う。
10	配列	配列の概念を説明し, 例を基に理解する。
11	配列	2次元配列を説明し, 配列の応用法を理解する。
12	ポインタ	ポインタ変数の概念を説明し, 例を基に理解する。
13	ポインタと配列	配列を用いたプログラムとポインタを用いたプログラムの例を示し, 理解を深める。
14	演習	並び替えプログラム, 多桁計算機のプログラム
15	演習	多桁計算機のプログラム, 円周率の計算, 自然対数の計算
16	試験問題の解答と解説	定期試験の解答を示し, その解説を行う。
17	構造体	構造体の概念を例を基に講義する。
18	構造体と共用体	構造体と共用体の違いを示し, 例を示しながら説明する。
19	演習	構造体を用いた住所録のプログラミング。
20	ファイル入出力	ファイルの入出力操作を説明し, 理解を深める。
21	演習	ファイル入出力に関するプログラミングとして, 字句解析プログラムの作成を行う。
22	プリプロセッサ	#includeや#defineのような前処理指令の書き方を講義する。
23	中間試験	16~22週に関する内容の中間試験
24	試験問題の解答と解説	中間試験問題の解答を示し, その解説をする。
25	Java言語1	Java言語におけるデータ型, 数値データの扱い, 配列についての講義を行う。
26	Java言語2	オブジェクト指向プログラムの説明を行う。また, 簡単なプログラムの作成例を示しながらJava言語プログラムの概要を説明する。
27	Java言語3	クラスとインスタンス, クラスの継承について講義する。
28	演習	オブジェクト指向プログラミングとして, n角形の面積を求めるプログラムを作成する。
29	総合演習1	総合的な演習問題を提示し, そのプログラミングを行う。
30	総合演習2	総合的な演習問題を提示し, そのプログラミングを行う。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	電気磁気学I (Electromagnetics I)		
担当教員	橋本 好幸 教授		
対象学年等	電子工学科・3年・通年・必修・2単位(学修単位I)		
学習・教育目標	A4-D1(100%)		
授業の概要と方針	電気磁気学は、電気や磁気に関する各種法則を学習し、様々な電氣的・磁氣的な現象を体系的に把握する学問である。本講義では、真空中、導体、誘電体における静電界について、ベクトル解析を用いて関係式の導出を行い、それらに関する種々の法則について理解する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A4-D1】SI単位系を理解し、正しい単位表示や諸計算ができるようになる。		単位を正しく使えるか、中間試験、定期試験およびレポートにより評価する。
2	【A4-D1】クーロンの法則を用いて電荷間の力を計算することができる。		クーロンの法則で電荷間の力を計算できるか、前期中間試験およびレポートにより評価する。
3	【A4-D1】電位の定義を理解し、導体系における電位を計算することができる。		電位が算出できるかどうか前期中間試験およびレポートにより評価する。
4	【A4-D1】ガウスの法則を理解し、導体系における電界を計算することができる。		ガウスの法則を用いて電界が算出できるか、前期定期試験およびレポートにより評価する。
5	【A4-D1】導体系における静電容量を計算できる。		静電容量を算出できるか後期中間試験およびレポートにより評価する。
6	【A4-D1】誘電体の特徴や性質について説明できる。		誘電体の特徴や性質について説明できるか、後期中間試験およびレポートにより評価する。
7	【A4-D1】誘電体中の電界が計算できる。		誘電体中の電界が算出できるか、後期定期試験およびレポートにより評価する。
8	【A4-D1】誘電体を含んだ系の静電容量が計算できる。		誘電体を含んだ系の静電容量が算出できるか、後期定期試験およびレポートにより評価する。
9			
10			
総合評価	成績は、試験85%、レポート15%として評価する。なお、試験成績は、中間試験(前期、後期)と定期試験(前期、後期)の合計4回の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「電気学会大学講座 電磁気学」：山田直平、桂井 誠(電気学会)		
参考書	「エレクトロニクスのための電気磁気学例題演習」：松森徳衛(コロナ社) 「基礎電磁気学 改訂版」：山口昌一郎著(電気学会) 「ベクトル電磁気学の基礎と演習」：金古喜代治(学献社) 「詳解 電気磁気学例題演習」：山口勝也(コロナ社)		
関連科目	数学I, 数学II, 物理, 電子工学序論, 電気磁気学II, 応用物理		
履修上の注意事項	授業ではベクトル解析を中心に進めていく。履修前に、微分・積分およびベクトルについて十分に理解しておくこと。また、物理において電気磁気学の基礎的な定理について理解しておくことが望ましい。		

授業計画 1 (電気磁気学)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	電荷とクーロンの法則	電荷, 物質の電氣的性質, クーロンの法則について解説する. クーロンの法則を用いて, 電荷間のクーロン力が計算できるようになること.
2	真空中にある点電荷による電界	電界とは何かを学習し, 真空中に点電荷が存在する場合の電界が計算できるようになる.
3	電気力線と電荷を動かすに要する仕事	電界によって生じる電気力線および電荷を動かすに要する仕事について解説する. 電気力線とは何かの説明ができるようになること.
4	演習1	第1~3週目で学習した内容に関するテキストの演習問題を行う. 演習問題を解きながら, 各人の習得の確認を行う.
5	仕事量と電位	仕事量と電位の関係を理解し, 電位とは何を示すが説明できるようになる. また, スカラー積とは何かを理解するとともに, それを用いて計算ができるようになる.
6	電位と電位勾配	電位, 電位差, 電位勾配について理解する. また, 電位勾配のベクトル的取り扱いについて学習し, 電界を計算できるようになる.
7	演習2	第5~6週目で学習した内容に関するテキストの演習問題を行う. 演習問題を解きながら, 各人の習得の確認を行う.
8	中間試験	電荷間に働く力, 点電荷による電界, 電気力線, 電位に関する問題を出題する.
9	ガウスの定理とベクトルの発散	ベクトルの発散について解説するのでその物理的意味が説明できるようになる. また, ガウスの定理の微分系について解説するので, 微分系のガウスの定理が説明できるようになること.
10	ガウスの定理とラプラスの方程式	ガウスの定理の積分系について解説する. 積分系ガウスの定理が説明できるようになること. ラプラスとポアソンの方程式について理解し, 簡単なラプラシアンが計算できるようになる.
11	静電界の計算1	帯電した球によって生じる電位と電界が計算できるようになる.
12	静電界の計算2	帯電した無限円筒, 無限平面によって生じる電位と電界が計算できるようになる.
13	電気双極子, 電気二重層	電気双極子について理解し, それらによる電位と電界が計算できるようになる. 電気二重層について理解し, それらによる電位と電界が計算できるようになる.
14	演習3	第9~13週目で学習した内容に関するテキストの演習問題を行う. 演習問題を解きながら, 各人の習得の確認を行う.
15	演習4	第9~13週目で学習した内容に関する補足演習問題を配布する. 演習問題を解きながら, 更に理解を深める.
16	電位係数	電位係数について理解し, 電位係数を求められるようにする.
17	容量係数	容量係数について理解し, 容量係数を求められるようにする.
18	導体系の有するエネルギーと導体に働く力	導体系に蓄えられるエネルギーが計算できるようになる. 同様に, 導体系に働く力が計算できるようになる.
19	静電容量	静電容量について理解し, 導体球, 円筒, 平行平板, 平行導線の静電容量が求められるようになる.
20	静電コンデンサ	コンデンサの種類, 簡単な構造について理解し, コンデンサの合成容量が計算できるようになる.
21	演習5	第16~20週目で学習した内容に関するテキストの演習問題を行う. 演習問題を解きながら, 各人の習得の確認を行う.
22	演習6	第16~20週目で学習した内容に関する補足問題を配布する. さらに, 演習問題を解き理解を深める.
23	中間試験	各種静電容量が計算できるようにしておくこと.
24	誘電体とその分極	誘電体の性質と, 分極が生じる原理について理解する.
25	誘電体中の電界	誘電体中の電界が計算できるようになる. 誘電体が含まれる場合の静電容量や電位が計算できるようになる.
26	誘電体の境界面における電界と電束	誘電体の境界面での電界と電束の境界条件について理解する.
27	誘電体中に蓄えられるエネルギー	誘電体中に蓄えられるエネルギーが求められる. また, 誘電体を満たした平行平板コンデンサの電極間に働く力が計算できる.
28	電気映像法	導体平面と点電荷, 接地球形導体と点電荷, 誘電体と点電荷について電気映像法を用いて電界を計算できるようになる. 平等電界中にある誘電体球の電界を求めることができるようになる.
29	演習7	第24~28週目で学習した内容に関するテキストの演習問題を行う. 演習問題を解きながら, 各人の習得の確認を行う.
30	演習8	第24~28週目で学習した内容に関する補足問題を配布する. さらに, 演習問題を解き理解を深める.
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科目	電子デバイス (Electronic Devices)		
担当教員	西 敬生 准教授		
対象学年等	電子工学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-D2(100%)		
授業の概要と方針	我々の生活のいたるところで活躍する電子デバイスの開発の歴史や、動作原理、その構造について解説する。特に、どの部品がどんな役割を果たすのか、実際の部品と特性が合致することを目指す。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A4-D2】電子デバイスを製造しているメーカー名を5つは言え、2年生の時よりも知っている会社名が増えた。		電子デバイスメーカーやその業種について問うような問題を前期中間試験で出題し評価する。
2	【A4-D2】pn接合ダイオードやショットキーバリアダイオードなど種々のダイオードの簡単な原理や役割について説明することができる。		種々のダイオードの動作原理について説明する問題を前期中間試験で出題し評価する。
3	【A4-D2】バイポーラトランジスタやFET、サイリスタなどの簡単な原理や役割について説明することができる。		バイポーラトランジスタやFET、サイリスタなどの動作原理について説明する問題を前期定期試験で出題し評価する。
4	【A4-D2】発光ダイオードや太陽電池など光デバイスの原理や使い方について簡単に説明できる。		発光ダイオードなどの光デバイスの原理や使い方についてレポートや、説明問題を後期中間試験で出題し評価する。
5	【A4-D2】集積回路の役割について簡単に説明できる。		集積回路の役割について説明させる問題を学年末定期試験で出題し評価する。
6	【A4-D2】DRAMやフラッシュメモリといった半導体メモリの種類について紹介できる。		各種メモリに関する動作原理、特にDRAMやフラッシュメモリについて説明させる問題を学年末定期試験で出題し評価する。
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験90%、レポート10%として評価する。試験成績は4回の試験の平均とする。総合評価においては100点満点中60点以上を合格とする。		
テキスト	「半導体デバイス」春木弘（オーム社）		
参考書	「電子デバイス工学」古川静二郎、萩田陽一郎、浅野種正（森北出版） 「半導体デバイス」松波弘之、吉本昌広（共立出版） 「半導体・ICのすべて」菊地正典、高山洋一郎、鈴木俊一（電波新聞社）		
関連科目	半導体工学（4年）、光エレクトロニクス(5年)、電子応用(5年)		
履修上の注意事項			

授業計画 1 (電子デバイス)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	電子デバイスとは	電子デバイス・電子部品について, 半導体や集積回路, またそれらが用いられている電化製品・工業製品の歴史をたどりながら説明する.
2	日本メーカーと世界シェア	主に半導体業界を中心に, どんな業種があるか, どんな企業があるのかを紹介する. また日本メーカーの歴史や世界シェア, ランキングについても紹介する.
3	半導体について	電子デバイスの主役であるダイオードやトランジスタは半導体という物質を原料に作られる. この半導体とは何かについて説明する.
4	pn接合	p形半導体とn形半導体を接合したpn接合の特徴や整流性を示す原理について説明する.
5	pn接合ダイオードの仕組みと働き	pn接合のように整流性をもったデバイスであるダイオードの種類や特性, 使い方などについて説明する.
6	種々のダイオードI	種々のダイオードの紹介およびその特性について解説する.
7	種々のダイオードII	前回の続きで種々のダイオードの紹介およびその特性について解説する.
8	中間試験	電子デバイスの意味や分類, 半導体やpn接合, 種々のダイオードについて説明させる問題を出す.
9	中間試験の解答, 解説	中間試験の解答と解説および学生による学習目標達成度評価を行う.
10	バイポーラトランジスタI	半導体のp形とn形をnpnやpnpのように接合して作ったバイポーラトランジスタの動作原理について説明する.
11	バイポーラトランジスタII	前回に引き続いてバイポーラトランジスタについて解説する.
12	電界効果型トランジスタ(FET)I	FETの種類と構造, 動作原理について説明する.
13	電界効果型トランジスタ(FET)II	MOS電界効果型トランジスタについて解説する.
14	サイリスタI	pn接合が多段に形成された電力制御用デバイスである種々のサイリスタの紹介とその動作原理や構造について解説する.
15	サイリスタII	前回に引き続きサイリスタについて解説する.
16	定期試験解答, 解説	試験問題に関する解答, 解説および学生による学習目標達成度評価を行う.
17	発光ダイオード(LED)の原理I	至る所で目にするようになった発光ダイオード(LED)について, 半導体の光学的な性質から解説し, LEDの動作原理, 発光色や使われている材料や構造に関する解説へとつなげる.
18	発光ダイオード(LED)の原理II	前回に引き続き, LEDの動作原理などについて詳述する.
19	発光ダイオード(LED)の使い方	前回までは原理について学んだが, 今回は実際の回路を例にLEDの使い方について説明する.
20	太陽電池	クリーンエネルギーとして注目されている太陽電池についてその発電原理と構造, 材料などについて説明する.
21	光センサーI	光センサーの構造や種類について説明する.
22	光センサーII	前回からの続きで, 光センサーの原理について説明する.
23	中間試験	これまで説明した, LEDや太陽電池, 光センサの原理について説明させる問題を出题する.
24	中間試験の解答, 解説	中間試験の解答, 解説および学生による学習目標達成度評価を行う.
25	集積回路の概要	集積回路(IC)の必然性や役割について説明するとともに, 半導体集積回路の例を一部紹介する.
26	論理回路の実現I	NOTやAND, ORなど論理回路を集積回路でどのように実現しているのかを説明する.
27	論理回路の実現II	前回の続きで論理回路の実現について説明する.
28	半導体メモリの概要	RAMとROMに大別される半導体メモリの種類や用途について説明する.
29	DRAM	今や半導体産業, 電子デバイスの代表的な製品であるDRAMの構造や記憶原理について説明する.
30	フラッシュメモリ	音楽プレーヤーや携帯電話の普及で非常に身近になった半導体メモリであるフラッシュメモリについてその構造や記憶原理について説明する.
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科目	電気回路II (Electric Circuit II)		
担当教員	荻原 昭文 准教授		
対象学年等	電子工学科・3年・通年・必修・2単位(学修単位I)		
学習・教育目標	A4-D1(100%)		
授業の概要と方針	電気回路網で成立つ法則を理解し、回路の解析に必要な各種手法について習熟する。さらに伝送回路としての電気回路の基本を学ぶ意味で、二端子対回路の各種パラメータ、フィルタ回路について学習する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A4-D1】相互誘導の概念を理解できる。また、相互誘導を含む電気回路の計算ができる。		変圧器を用いた回路の電圧や電流が算出できるかどうかをレポート及び前期中間試験により評価する。
2	【A4-D1】グラフ理論の概要が理解でき、閉路方程式、節点方程式を用いて、電気回路が計算できる。		閉路方程式や節点方程式をたてることができ、電流や電圧が算出できるかどうかをレポート及び前期中間試験により評価する。
3	【A4-D1】重ね合わせの理、相反定理、テブナンの定理、ノートンの定理、補償定理を理解し、電気回路の計算に応用できる。		重ね合わせの理やテブナンの定理など、各種定理を用いて電圧や電流などを算出できるかどうかをレポート及び前期定期試験により評価する。
4	【A4-D1】二端子対回路について理解し、アドミタンスパラメータ、インピーダンスパラメータ、四端子パラメータが求められる。		四端子パラメータであるインピーダンスパラメータやアドミタンスパラメータを解くことができるかどうかをレポート及び後期中間試験により評価する。
5	【A4-D1】二端子対回路の伝送特性について理解し、映像パラメータ、反復パラメータが求められる。		映像パラメータや反復パラメータを理解し、各種パラメータの算出が行えるかどうかをレポート及び後期定期試験により評価する。
6	【A4-D1】定K形フィルタ回路の概念を理解し、低域フィルタ、高域フィルタ、帯域フィルタが設計できる。		定K形フィルタの概念を理解し、諸特性を満たす回路が設計できるかどうかをレポート及び後期定期試験により評価する。
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験85%、レポート15%として評価する。なお、試験成績は、4回の試験(前期中間、前期定期、後期中間、後期定期)の算術平均とし、試験成績とレポートの点数が100点満点で、60点以上で合格とする。		
テキスト	「大学課程 電気回路(1)」：大野克郎、西哲生(オーム社)		
参考書	「基礎課程電気回路」：本郷廣平(実教出版) 「新電気回路基本演習」：川上春夫、島田一雄共著(工学図書) 「電気学会大学講座 電気回路論」：電気学会編(オーム社) 「詳細電気回路演習 下」：大木眞二郎(共立出版)		
関連科目	D1「数学I」及び「数学II」、D2「電気回路I」、D4「電気回路III」及び「電子回路I」		
履修上の注意事項	本授業を受講するにあたっては、複素数の計算ができること。また、簡単な直流および交流回路において、インピーダンス、電圧、電流等が求められること。		

授業計画 1 (電気回路II)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	相互インダクタンス	相互インダクタンスの概要を理解し, 相互インダクタンスを含んだ電気回路の計算ができるようになる.
2	変成器と理想変成器	変成器について理解し, 変成器を含んだ回路の計算ができるようになる.
3	回路のグラフとキルヒホッフの法則	グラフ理論について理解し, 回路をグラフで表せるようになること. また, キルヒホッフの法則を用いて, 回路方程式が立てられる.
4	回路方程式の立て方	枝電流法, 閉路電流法を用いて, 回路方程式を求めることができるようになる.
5	閉路方程式	簡単な電気回路において閉路方程式が立てられるようになる. また, 経路方程式を用いて, 回路電流が求められる.
6	節点方程式	簡単な電気回路において節点方程式が立てられるようになる. また, 閉路方程式を用いて, 節点電圧が求められる.
7	演習1	第1~6週目で学習した内容に関する演習問題を行う. 演習問題を解きながら, 各人の理解度の確認を行う.
8	中間試験	第1週~第7週までの講義内容について中間試験を行う.
9	中間試験の解説と重ね合わせの理	中間試験の解答および解説を行う. 重ね合わせの理について理解し, 簡単な電気回路に適用することができるようになる.
10	重ね合わせの応用	重ね合わせの理を様々な電気回路に適用し, 回路電流や節点電圧が求められるようになる.
11	等価電圧源・電流源回路	等価電圧源, 等価電流源の意味を理解し, それぞれの相互変換ができるようになる.
12	テブナンの定理とノートンの定理	テブナンの定理とノートンの定理を理解し, それらの定理を用いて電気回路の計算ができるようになる.
13	諸定理を用いた回路計算	諸定理を組み合わせることで, 電気回路の問題を解けるようになる.
14	供給電力最大の法則	電源のインピーダンスと負荷インピーダンスの関係について理解し, 負荷に電力を最大供給できる条件が計算できるようになる.
15	演習2	第9~14週目で学習した内容に関する演習問題を行う. 演習問題を解きながら, 各人の習得の確認を行う.
16	定期試験の解説と二端子対回路の概説	定期試験の解答および解説を行う. 二端子対回路とは何かについて理解する.
17	アドミタンス行列	アドミタンス行列の意味を理解し, 与えられた回路のアドミタンス行列が求められるようになる.
18	インピーダンス行列	インピーダンス行列の意味を理解し, 与えられた回路のインピーダンス行列が求められるようになる.
19	四端子行列の概要	四端子行列の定義を理解し, 簡単な回路の四端子行列が計算できるようになる.
20	四端子行列の計算	四端子行列の性質を理解し, 行列計算を用いて簡単な回路の四端子行列が計算できるようになる. 注意: 四端子行列は, 映像パラメータ, 反復パラメータを求めるときに必要なので, 必ず計算できるように学習すること.
21	二端子対回路の接続	二端子対回路の並列接続, 直列接続, 縦続接続について理解し, 回路計算に適用できるようになる.
22	演習3	第16~21週目で学習した内容に関する演習問題を行う. 演習問題を解きながら, 各人の習得の確認を行う.
23	中間試験	第16週~第22週までの講義内容について中間試験を行う.
24	中間試験の解説と二端子対回路の伝送特性	中間試験の解答および解説を行う. 二端子対回路の入・出力インピーダンスや減衰量などの伝送特性について理解し, それらを計算できるようになる.
25	映像パラメータ	映像パラメータの意味を理解し, 簡単な回路の映像パラメータが計算できるようになる.
26	反復パラメータ	反復パラメータの意味を理解し, 簡単な回路の反復パラメータが計算できるようになる.
27	フィルタの概要	フィルタの種類とその動作について説明できるようになる.
28	定K形低域フィルタと高域フィルタ	定K形低域フィルタと高域フィルタの意味を理解し, 与えられた条件のフィルタ回路が設計できるようになる.
29	定K形帯域フィルタ	定K形帯域フィルタの意味を理解し, 与えられた条件のフィルタ回路が設計できるようになる.
30	演習4	第24~29週目で学習した内容に関する演習問題を行う. 演習問題を解きながら, 各人の習得の確認を行う.
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科目	計測工学 (Instrumentation Engineering)		
担当教員	山本 誠一 教授		
対象学年等	電子工学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-D3(100%)		
授業の概要と方針	我々が何かを計測しようとする場合、電気電子技術を用いることが多い。計測を正しく、効率的に行うには、信号の性質や測定器の原理を理解することが重要である。電気計測では、計測の基礎として電氣的な量の計測法について学び、さらに代表的な電気電子関連の計測器の動作原理を理解する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A4-D3】実験等に用いる計測工学関連の測定器の動作原理を説明できる。		理論的に動作原理を説明できることを定期試験結果により評価する。基本的な問題の70%以上の正解を基準とする。
2	【A4-D3】必要とされる測定器を正しく選択できる。		測定対象に応じた計測工学関係の測定器を正しく選択できることを定期試験結果により評価する。基本的な問題の70%以上の正解を基準とする。
3	【A4-D3】精度の高い測定を行うために必要とされる条件を見いだすことができる。		精度の高い測定を行うために必要とされる条件、特に信号源インピーダンスと入力インピーダンスの関係を理解できることを定期試験結果により評価する。基本的な問題の70%以上の正解を基準とする。
4	【A4-D3】計測工学関連の測定器を実際に使用できる。		計測工学関連の測定器を実際に使用できることを定期試験結果により評価する。基本的な問題の70%以上の正解を基準とする。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験100%として評価する。4回の試験の単純平均を求め、それを100点満点とし、60点以上を合格とする。		
テキスト	「電気・電子計測」新妻弘明・中鉢憲賢著（朝倉書店）		
参考書	「電子計測」岩崎俊（森北出版）		
関連科目	電子計測：電気計測のセンサーの一部、表示装置の一部が関連する。実験実習：計測工学で学ぶ測定装置を実際に使用する。		
履修上の注意事項	特になし。		

授業計画 1 (計測工学)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	計測と測定	計測と測定とは何か, どう違うのかを解説する
2	測定にあたっての基本原則	一般的に測定をうまく行うために重要な項目を概説する.
3	測定方法	測定方法には大きく分けてどのような方法があるか解説する.
4	単位系と電気標準	測定には単位が重要である. 単位の種類と分類を解説する. また電気標準とトレーサビリティについても解説する.
5	信号源	計測における種々の信号源に関して解説する.
6	信号波形	電気計測における信号波形の種類と分類について解説する.
7	雑音の種類と対策	測定にとって雑音対策は重要である. ここでは雑音の種類と雑音対策について解説する.
8	中間試験(前期)	1週から7週の内容に関して試験を行う.
9	シールドとアース	雑音対策としてのシールドとアースについて解説する.
10	信号の伝達	信号源インピーダンスと測定器の入力インピーダンスについて解説する.
11	電圧, 電流の測定1(指示計器1)	指示計器とは何か, 最も基本的な可動コイル形計器について解説する.
12	電圧, 電流の測定2(指示計器2)	可動鉄片形計器, 整流形計器等を解説する.
13	電圧, 電流の測定3(指示計器3)	静電形計器, 熱電形計器, 誘導形計器等を解説する.
14	電圧, 電流の測定4(電位差計)	電位差計の原理, 測定方法, 特徴等を解説する.
15	電圧, 電流の測定5(非接触法)	回路計(クランプメータ)について解説する.
16	電圧, 電流の測定6(デジタルマルチメーター)	デジタルマルチメーターの原理, 測定方法, 特徴等を解説する.
17	波形の測定1(オシロスコープ)	オシロスコープの原理, 測定方法, 特徴等を解説する.
18	波形の測定2(アナログオシロスコープ)	アナログオシロスコープの使い方を解説する.
19	波形の測定3(デジタルオシロスコープ)	デジタルオシロスコープの原理, 測定方法, 特徴等を解説する.
20	波形の測定4(A-D, D-A変換)	デジタルオシロスコープに関連してA-D変換器, D-A変換器の動作原理等を解説する.
21	抵抗, インピーダンスの測定1	電圧降下法による中位抵抗の測定法を解説する.
22	抵抗, インピーダンスの測定2	高抵抗, 低抵抗の測定方法を解説する.
23	中間試験(後期)	第16週から22週の内容に関して試験を行う.
24	抵抗, インピーダンスの測定3	容量, インダクタンスの測定方法等を解説する.
25	磁界の測定	ホール素子等の磁界の測定方法を解説する.
26	電力, エネルギーの測定1	直流電力の測定方法を解説する.
27	電力, エネルギーの測定2	交流電力の測定方法を解説する.
28	周波数の測定	デジタルカウンターについて解説する.
29	コンピュータを用いた計測(1)	コンピュータを用いた記録装置について概説する.
30	コンピュータを用いた計測(2)	コンピュータを用いた大型計測システム装置について概説する.
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科目	コンピュータ工学 (Computer Engineering)		
担当教員	高嶋 和毅 非常勤講師		
対象学年等	電子工学科・3年・通年・必修・2単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A3(100%)		
授業の概要と方針	8ビット汎用マイクロコンピュータについて、ハード、ソフトを学習する。制御用として機器に組み込まれるマイクロコンピュータ回路を設計するための基礎知識を学習する。紙面だけの理解に終わらないように3学年の電子工学実験実習と連携をとる。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A3】マイクロコンピュータはCPU、メモリ、周辺インターフェースからなり、数値や符号は2値信号 (high, low) によって表現されていることを理解する。		マイクロコンピュータの基本構成が説明できるか、2進数、10進数、16進数、BCD符号の変換ができるか、2の補数を用いた演算ができるかなどを授業中に随時実施する演習および前期中間試験で評価する。
2	【A3】コンピュータの回路を構成するゲート、フリップフロップ、レジスタについて理解し説明できる。		各種ゲートをトランジスタ回路で示し説明できるか、ファンアウトを算出できるか、フリップフロップの機能をタイムチャートで説明できるかなどを授業中に随時実施する演習および前期中間試験で評価する。
3	【A3】デコーダ、エンコーダの機能を理解し、これらの応用について説明できる。		デコーダをゲート回路で書き説明できるか、デコーダやエンコーダの機能を入出力表を用いて説明できるか、デコーダやエンコーダの応用を図を書いて説明できるかを授業中に随時実施する演習および前期中間試験で評価する。
4	【A3】半導体メモリには、DRAM、SRAM、マスクROM、EPROMがあることを理解し、これらの記憶単位について説明できる。		各種半導体メモリの記憶単位、メモリの分類・特徴、メモリへの書込み(または、メモリからの読出し)について回路図を書いて説明できるかを授業中に随時実施する演習および前期中間試験で評価する。
5	【A3】CPUとメモリの結合について理解し、簡単な構成の、CPUとメモリの接続回路が書ける。		与えられたメモリ、デコーダなどを使用して、指定されたメモリ構成を実現する回路が設計できるかを授業中に随時実施する演習および後期中間試験で評価する。
6	【A3】CPUと入出力ポートの結合を理解し、簡単な構成の、CPUと入出力装置の接続回路が書ける。		8ビットスイッチや8ビットLED表示器などをCPUに接続し、データを入出力する方法をハード、ソフト両面から、図およびプログラムを書いて説明できるかを授業中に随時実施する演習および後期中間試験で評価する。
7	【A3】命令とプログラムについて理解し、簡単なアセンブリプログラムが書ける。		各種命令を用いて、アセンブリ言語プログラムが書けて説明できるかを授業中に随時実施する演習および後期中間試験で評価する。
8	【A3】入出力制御方式に同期方式、フラグ検査方式、割込み方式があることを理解し、これらの方式について、ハード、ソフトについて説明できる。		各種入出力制御方式(同期方式、フラグ検査方式、割込み方式)を用いて入出力機器とデータのやり取りが出来ることを図、プログラムを用いて説明できるかを授業中に随時実施する演習および後期中間試験で評価する。
9			
10			
総合評価	成績は、試験70%、授業中に随時実施する演習30%として評価する。なお、試験成績は、中間試験(前期、後期)と定期試験(前期、後期)の合計4回の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	ノート講義 プリント		
参考書	「PIC活用ハンドブック」：後閑哲也(技術評論社) 「マイクロコンピュータの基礎」：森下巖(昭晃堂)		
関連科目	D2「論理回路」、D3電子工学実験実習の「マイクロコンピュータの基礎実験」および「PICの実験」		
履修上の注意事項	D2「論理回路」を理解しておくこと。D3電子工学実験実習の「マイクロコンピュータの基礎実験」および「PICの実験」と関係しており、これら実験実習と一緒に制御用コンピュータの学習を行なう。		

授業計画1 (コンピュータ工学)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	マイクロコンピュータとは	CPU, マイクロコンピュータの構成, LSIパッケージ, ワンチップ・マイクロコンピュータについて学習する.
2	2値信号による数値および符号の表現	ビット, バイト, MSB, LSB, 2の補数による負数の表現, ASCIIコードについて学習する.
3	語長とクロック周波数, 演習	CPUの語長, クロック周波数について学習したのち, テーマ2, 3について演習を行なう.
4	ゲートとフリップフロップおよびレジスタ	記憶という観点から, ゲートとフリップフロップの違いを理解し, 基本ゲート (AND, OR, NOT, NAND, NOR) とフリップフロップ (R-Sフリップフロップ, Dフリップフロップ, ラッチ) について復習する. 次にレジスタについて学習する.
5	ロジックIC	TTLとCMOSの違いを理解した後, 各種ロジックIC間の接続における電気特性, ファンアウトについて学習する.
6	MOSLSIとゲート	MOSLSIについて学習し, MOSLSIでどのようにゲートやフリップフロップが構成されているかを学習する.
7	3状態ゲートによる信号の選択	3状態ゲートについて学習し, これを用いてコンピュータ回路の信号選択がどのように行なわれるかを学習する.
8	中間試験	マイクロコンピュータの基礎知識, 2進数, 10進数, 16進数, BCD符号の変換, 2の補数を用いた演算, フリップフロップ, CMOSなどについて試験を行う.
9	中間試験の解答およびデコーダ	中間試験の解答の後, 3入力8出力デコーダについて学習する. また, これを用いてレジスタ間のデータ転送ができることを学習する.
10	エンコーダ	3入力8出力デコーダの応用としてレジスタ間のデータ転送をまず学習する. 次に8入力3出力優先順位エンコーダについて学習したのち, その応用としてベクトル割り込み方式について学習する.
11	LSIメモリ	メモリが, フリップフロップ, デコーダ回路, 読出し書込み制御回路から構成されることを学習した後, 記憶容量, データの入出力線, アドレス信号線について学習する. また, LSIメモリの分類についても学習する.
12	SRAMの構成	スタティックRAMの記憶単位, デコーダ回路, 読出し書込み制御回路について, 詳細に学習する.
13	DRAM, ROMの記憶単位	DRAMの記憶単位について学習し, コンデンサの電荷で0, 1が記憶されることを理解する. また, マスクROM, UV-EPROMの記憶単位について学習する.
14	メモリのアクセスタイムおよび演習	CPUがアドレス信号を与えてからメモリの記憶内容がデータバスに乗るまでの時間をメモリのアクセスタイムという, このことについて学習する. また, テーマ9から14についての演習問題を解く.
15	演習 (14回のつづき)	前回に引き続き, テーマ9から14についての演習問題を解く.
16	前期定期試験の解答および8ビット・プロセッサの主要ピン構成	前期定期試験の解答の後, 8ビット・プロセッサが, データ (8本), アドレス (16本), 読出し書込みストロブ (4本) およびGND, VCC, クロック, リセット, 割り込み, ホールド端子などからなることを学習する.
17	CPUと1kバイトRAMとの接続	マイクロコンピュータの基本構成を学習した後, CPUと1kバイトRAMをどのように接続するのか, 回路図をどのように書くのかを学習する.
18	8kバイトRAMの構成	1kバイトのRAMを8個と3入力8出力デコーダを1個使用し, アドレスが0000H~1FFFHであるメモリを構成するためには, CPUとメモリをどのように接続すればよいかを学習する.
19	CPUと入力ポートの結合	CPUと入力ポートの結合について学習し, 線形アドレス指定を用いて8ビットのスイッチ入力回路について学習する.
20	CPUと出力ポートの結合	CPUと出力ポートの結合について学習し, 線形アドレス指定を用いて8ビットLED表示器について学習する.
21	プロセッサの内部構成	プロセッサには, 演算実行のため演算論理ユニットALU, 累積加算器ACC, フラグレジスタFR, 汎用レジスタ群, スタックポインタSPがあり, 基本動作のため命令レジスタIR, 制御ユニットCU, プログラムカウンタPC, アドレスレジスタARがあることを学習する.
22	命令とプログラム	アセンブリプログラムについて学習し, 1命令毎fetch, executionを繰り返していること, また各命令を実行する際にメモリを参照していることを理解する.
23	中間試験	CPUのフラグ, CPUと入力ポートおよびメモリの接続, プログラム実行時のメモリ参照などについて試験する.
24	中間試験の解答およびジャンプ命令	中間試験の解答の後, 無条件・条件付ジャンプ命令について学習する. 条件付ジャンプ命令は, 直前の命令実行後のフラグレジスタの値 (セットorリセット) によってジャンプすることを学習する.
25	スタックとスタックポインタおよび入出力	特別なメモリの利用機構 (last-in first-out)であるスタック機構について学習する.
26	割り込み処理および動作の開始	制御用マイクロコンピュータは, 外部変化に応じて処理を行なう必要がある. この際ポーリング方式に比べて効率的である割り込み処理について学習する.
27	演習	アセンブリ言語プログラムの演習問題を解く.
28	入出力制御方式1 (同期方式)	プログラムの実効タイミングに同期しておこなう入出力制御方式をAD変換器から入力を例にあげて学習する.
29	入出力制御方式2 (フラグ検査方式)	フラグ検査によって行なう入出力制御をプリンタを例に挙げて, ハード, ソフト両面から学習する.
30	入出力制御方式2 (割り込み方式)	フラグ検査方式より効率的な割り込み方式についてプリンタを例に挙げて, ハード, ソフト両面から学習する.
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科目	電子工学実験実習 (Laboratory Work in Electronic Engineering)		
担当教員	若林 茂 教授, 橋本 好幸 教授, 藤本 健司 准教授, 小矢 美晴 准教授, 長瀬 宗二 非常勤講師		
対象学年等	電子工学科・3年・通年・必修・4単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-D1(40%) B1(20%) C4(20%) D1(20%)		
授業の概要と方針	電子工学に関する基礎事項および現象を座学と関連させて実験実習し, 座学の理解を深めるとともに, 創造性教育の基礎となる製作実習にも力を入れる。また, 報告書の書き方, 期限内での報告書の提出を身につける。1クラスを4班に分け, 班単位で実験実習を行う。4班並列に異なる実験実習を行うため, 各班で実施する実験実習テーマの週は異なるが, 1年間で行う実験実習のテーマは同じである。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C4】グループで協調して実験実習に挑み, 期限内に実験報告書を提出できる。		各テーマ毎の実験への取り組み・達成度・報告書の提出状況で評価する。
2	【B1】実験結果を適切に表す図・表が書ける。		各テーマごとの報告書の内容で評価する。
3	【D1】機器の取り扱いに注意し, 安全に実験に取り組むことができる。		安全に実験が行われているか, 各テーマへの実験の取組みで評価する。
4	【A4-D1】8ビットCPUの簡単なアセンブリ言語プログラムが書け, ハンドアセンブルできる。		「マイクロコンピュータの基礎実験」への取組み・達成度および報告書の内容で評価する。
5	【A4-D1】C-R回路の入出力特性を理解し, ベクトル軌跡が書ける。		「C-R回路の入出力特性とベクトル軌跡の実験」への取組み・達成度および報告書の内容で評価する。
6	【A4-D1】トランジスタを使用した代表的な増幅回路の特性について理解できる。		「トランジスタ増幅回路の実験」への取組み・達成度および報告書の内容で評価する。
7	【A4-D1】オペアンプを用いた基本回路の特性を測定でき, その意味を理解できる。		「演算増幅器(オペアンプ)の実験」への取組み・達成度および報告書の内容で評価する。
8	【A4-D1】PICを用いた簡単な装置を作製できる。		「PIC(ワンチップマイクロコンピュータ)の実験」への取組み・達成度および報告書の内容で評価する。
9	【A4-D1】計測器とコンピュータを接続し, 簡単なデータ解析ができる。		「コンピュータ計測の実験」への取組み・達成度および報告書の内容で評価する。
10	【A4-D1】AMラジオ, カウンタ回路の製作を通じて, 電子回路の基礎および各部品について理解できる。		「AMラジオの製作」および「カウンタ回路製作」への取組み・達成度および報告書の内容で評価する。
総合評価	成績は, 実験実習への取り組みと達成度および報告書(レポート)の内容と提出状況で総合的に評価する。1通でも未提出レポートがあるとき, 原則として年間総合評価は不可となる。詳細は第1週目のガイダンスで説明する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「電子工学科・第3学年実験実習シラバス(計画書)」: プリント 「電子工学科・第3学年実験実習指導書」: プリント 「電子工学科・安全の手引き」: プリント		
参考書	「知的な科学・技術文章の書き方」: 中島利勝・塚本真也共著(コロナ社)		
関連科目	電子工学実験実習(1年・2年), その他実験テーマの関連科目		
履修上の注意事項	実験実習計画書に記載の実験前の準備を行って実験に臨むこと。		

授業計画 1 (電子工学実験実習)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	ガイダンスおよび実験テーマの概要説明	電子工学実験実習シラバス(実験実習計画書)を配布し, 全般的な説明(評価方法, レポートの作成・提出・提出先, 欠席の扱い, 班構成, 実施日など)を行なった後, 各テーマ毎に内容の説明を行なう。また, 「電子工学科・安全の手引き」を配布し, 安全教育について説明する。
2	マイクロコンピュータの基礎実験(1) 転送命令を使ったプログラミング	実験用システムMTK8510について学習した後, MTK8510の操作を理科視する。次に転送命令について学習し, これらを用いた簡単なプログラムを作成する。(演習問題1)
3	マイクロコンピュータの基礎実験(2) 加減算・比較分岐命令を使ったプログラミング	加減算・比較分岐命令について学習し, これらを用いた簡単なプログラムを作成する。(練習問題2, 3)
4	マイクロコンピュータの基礎実験(3) サブルーチン	サブルーチン, その他の命令について学習し, これらを用いた簡単なプログラムを作成する。(練習問題4, 総合問題)
5	トランジスタの増幅回路の実験(1) エミッタ接地増幅回路の実験	エミッタ接地増幅回路における直線性, 周波数特性, および入出力インピーダンス特性を測定し, その回路を理解する。
6	トランジスタの増幅回路の実験(2) 負帰還増幅回路の測定	小信号増幅器として, 直列結合2段増幅器を組み, 帰還率と増幅率およびその周波数特性の関係を調べ, 帰還増幅回路を理解する。
7	トランジスタの増幅回路の実験(3) 差動増幅回路の測定	自己平衡型の直流増幅器である差動増幅回路の測定を行い, その動作原理, および特性を理解する。
8	CR回路の周波数特性(1)	CRで構成された回路を用いて, 入出力における, 振幅比と位相差を求める。これにより, フィルタ特性となることを確かめる。
9	CR回路の周波数特性(2)	R-Cで構成された回路の抵抗値を変更することで, カットオフ周波数が変わることを確認する。また, RとCの位置を入れ替えることでフィルタの特性が変わることを理解する。
10	交流回路のベクトル軌跡	RとCで構成された回路を用いて, 電流と電圧のベクトル軌跡を求める。これにより, 電流と電圧に位相がであることを確認する。
11	AMラジオの製作(1)	ICを使うことなく, RLCの基本的な素子を組み合わせ, AMラジオを製作する事によって, RLC回路/総合的理解を深めると同時に, はんだ付けに習熟し, 電子工作に慣れ親しむ。レポートでは, 製作の手順, 進行状況, 注意した点, 工夫した点と共に, はんだ付けの原理・種類について調査・報告する。
12	AMラジオの製作(2)	11週目に引き続き製作をおこなう。レポートでは, 製作の手順, 進行状況, 注意した点, 工夫した点と共に, 電波の周波数による分類, 性質の違い等について調査・報告する。
13	AMラジオの製作(3)	12週目に引き続き製作を行なう。レポートでは, 製作の手順, 進行状況, 注意した点, 工夫した点と共に, 1本の通信路線で, 複数の信号を送る方式(1)周波数分割多重方式, (2)時分割多重方式)について調査・報告する。
14	実験とレポートの講評および実験報告書(レポート)の指導	実験とレポートの講評をHR教室で行なった後, 各班毎実験室に移動し, 提出されたレポートについて, 各実験担当者が個別に指導する。
15	工場見学, ビデオ鑑賞	適宜, 工場見学, ビデオ鑑賞を実施する。
16	実験テーマの概要説明	後期の最初の授業時間に, 各実験テーマについて, 各担当者がHR教室で実験テーマの概要を説明する。
17	演算増幅器(オペアンプ)(1) 帰還増幅回路(反転増幅回路, 非反転増幅回路)	オペアンプの基本回路である反転増幅回路, 非反転増幅回路の入出力特性を測定し, オペアンプの基本的な働きを理解する。
18	演算増幅器(オペアンプ)(2) 線形演算回路(加算回路, 減算回路)	オペアンプを用いた加算回路, 減算回路の入出力特性を測定し, その働きを理解する。
19	演算増幅器(オペアンプ)(3) 周波数特性とスルーレート	オペアンプの周波数特性, スルーレートを測定し, 周波数, 振幅による入出力特性の変化を理解する。
20	PIC(ワンチップ・マイコン)の実験(1) プログラム開発	PIC(ワンチップ・マイコン)のプログラム開発および実装方法について実習を行い, マイコン組み込み機器の開発方法並びにワンチップ・マイコンの機能について学習する。
21	PIC(ワンチップ・マイコン)の実験(2) 回路の製作	ワンチップ・マイコン(PIC16F84)を用いたテスト回路をブレッドボード上に製作し, ワンチップ・マイコンの実装技術および機能を学習する。与えられたsampleプログラムを変更し, テスト回路の動作が変化することを確かめる。
22	PIC(ワンチップ・マイコン)の実験(3) 簡易信号発生器の製作	PIC16F84にラダー・抵抗を用いたDA変換器を接続して簡易信号発生器を製作することにより, ワンチップ・マイコンの機能およびDA変換器について学習する。
23	コンピュータ計測(1) データ処理の基礎	実験で測定したデータの処理方法(有効数字, 数値の丸め方, 実験式の導出)についての学習し, 今後の実験で活用できるようになる。また, 実験レポートにおける図・表の書き方について再確認し, 正確な図や表が書けるようになる。
24	コンピュータ計測(2) AD変換の基礎	パーソナルコンピュータを用いてアナログ信号をサンプリング周波数や分解能を変化させてデジタル信号に変換する実験を行い, AD変換の基本的な性質について理解する。
25	コンピュータ計測(3) PCによるデータ処理	アナログ信号をPCで取り込み, その信号をFFT処理することで, 測定したデータの周波数解析を行う。データのFFT処理の方法と, FFTでどのようなことが解析が行えるかを理解する。
26	カウンター回路の製作(1) 配線パターンの製作	カウンター回路のプリント基板作成に必要な配線パターンを, PCを用いて作成する方法を習得する。
27	カウンター回路の製作(2) プリント基板の製作	プリント基板の作成方法を習得する。
28	カウンター回路の製作(2) カウンター回路の組立て	プリント基板に部品をはんだ付けし, カウンター回路を完成させる。カウンター回路の動作を確認すると同時に, どの動作原理を習得する。
29	実験とレポートの講評および実験報告書(レポート)の指導	実験とレポートの講評をHR教室で行なった後, 各班毎実験室に移動し, 提出されたレポートについて, 各実験担当者が個別に指導する。
30	工場見学, ビデオ学習	適宜, 工場見学, ビデオ学習を実施する。
備考	中間試験および定期試験は実施しない。授業計画に記載の実験テーマは4班の中の1班に対しての計画であり, 他の班は前期と後期毎に3週単位で異なったテーマを実施し, 前期と後期毎に全員同じ実験実習を行う。	

科目		応用数学 (Applied Mathematics)		
担当教員		笠井 正三郎 教授		
対象学年等		電子工学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位III)		
学習・教育目標		A1(100%)	JABEE基準1(1) (c),(d)1	
授業の概要と方針		3年次の電気数学に引き続き、電気電子系専門科目の基礎として重要なベクトル解析、複素関数論、フーリエ級数、フーリエ変換について修得する。		
		到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A1】空間曲線と曲面の形や性質をベクトルを用いて表現することができる。			具体的な位置ベクトルで示された空間曲線や曲面に対して、曲線の長さや単位接線ベクトル、単位法線ベクトルを正しく求められるかどうかを、前期中間試験で評価する。
2	【A1】ベクトル場あるいはスカラー場に対して、勾配・発散・回転を計算できるとともに、その物理的意味・幾何学的意味を概ね理解できる。			与えられたスカラー場、あるいはベクトル場に対して、勾配・発散・回転を正しく求められるかどうかを前期定期試験によって評価する。
3	【A1】線積分と面積分の意味が理解でき、発散定理とストークスの定理の使い方がわかる。			簡単な場の問題に対して、ガウスの発散定理とストークスの定理を適用してベクトル関数の積分を求めることができるかどうかを前期定期試験で評価する。電気磁気学への応用をレポートで評価する。
4	【A1】コーシーの定理、コーシーの積分表示を簡単な複素関数の積分に適用できる。			さまざまな関数の積分問題に対して、コーシーの定理とコーシーの積分表示を用いて、積分値を求めることができるか後期中間試験で評価する。
5	【A1】留数の意味を理解し、その性質を使って実数関数の無限積分等の特殊な積分を求めることができる。			簡単な複素積分を留数を使って求めることができるか、さらには実関数の無限積分を求めることができるかを、後期中間試験で確認・評価する。
6	【A1】任意の周期波形(関数)が、 \sin 、 \cos 関数から合成できることを理解し、フーリエ級数の重要性を理解する。			簡単な周期波形をフーリエ級数に展開でき、フーリエ級数の基本的性質が説明できることを後期定期試験で、幾つかの周期関数に対してフーリエ級数で合成できることをレポートで評価する。
7	【A1】周期を持たない関数に対しては、フーリエ積分を考へることと、それから複素形フーリエ積分を導いて、フーリエ変換の定義式が導かれることが理解できる。			基本的な関数に対してフーリエ積分表示できること、またこの関係を積分を求めるのに応用できるかを後期定期試験で評価する。
8				
9				
10				
総合評価		成績は、試験90%、レポート10%として評価する。試験成績は4回の試験の平均とする。なお、総合評価は100点満点で60点以上を合格とする。各試験において悪い場合は再試験を行なうことがあるが、その場合80点満点で評価する。		
テキスト		「新訂 応用数学」：田河生長他著(大日本図書) 「新訂 応用数学 問題集」：高遠節夫他編著(大日本図書)		
参考書		「基礎解析学 改訂版」：矢野健太郎・石原繁共著(裳華房) 「応用解析学入門」：白井宏著(コロナ社) 「詳解 応用解析演習」：福田安蔵他共編(共立出版) 「これならわかる 工学部で学ぶ数学」：千葉逸人著(プレアデス出版)		
関連科目		D3「電気数学」		
履修上の注意事項		電気数学に限らず、1年～3年で習った数学をよく理解できていることが大切である。特に微分積分学、三角関数、指数関数、対数関数をよく理解しておいて欲しい。授業の進捗のペースが早いので、予習・復習に努め、その都度授業内容を理解するよう心がけてほしい。		

授業計画 1 (応用数学)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	年間の授業ガイダンスとベクトルとスカラー, ベクトルの表示と基本演算	前半は, 本講義で1年間何を学び, それがどのような分野で活用されるか説明し, 動機付けを行う. 後半は, ベクトルの表現, 加算, 減算, スカラー倍の演算について復習するとともにそれぞれがどのように用いられるか紹介する.
2	ベクトルの内積と外積	ベクトルの内積について復習するとともに, ベクトルの外積について, その定義と応用について学ぶ.
3	ベクトル関数(ベクトルの微分, 速度, 加速度)	空間内の物体位置はベクトルで表現され, その物体の運動はベクトル変数の微分により, 速度, 加速度として表わされる. 物体の運動をベクトルを用いて表現する.
4	ベクトルによる曲線の表現	3次元空間における曲線についてベクトルを用いて表現するとともに, その幾何学的な特徴づける接線ベクトル・法線ベクトル・曲率・曲率半径について学ぶ.
5	ベクトルによる曲面の表現	3次元空間における曲面についてベクトルを用いて表現するとともに, その幾何学的特徴づける接平面・法線ベクトルについて学ぶ.
6	スカラー場とベクトル場, スカラー場の勾配	空間内に大きさだけが定義されるものをスカラー場, 大きさ方向をもつものをベクトル場として表現する. これらを数学的に扱う手法について説明する. また, スカラー場 に対して, x, y, z で偏微分したものを成分とするベクトルとしてスカラー場の勾配を定義する. 勾配の求め方, 物理的意味などについて解説する.
7	ベクトル場の発散と回転	ベクトル場に対して発散というスカラー量と, 回転というベクトル量を定義して示し, それらの物理的意味を説明する.
8	前期中間試験	1週~7週の内容についての理解度を測るための試験を行う.
9	試験解答と復習	中間試験の解答を行うとともに, 再度, 重要な点について理解を深める.
10	線積分	スカラー場とベクトル場の線積分の定義と, 媒介変数 t の積分に変換してそれらの値を求める方法を示す.
11	グリーンの定理	線積分から領域積分への変換式を与えるグリーンの定理について, その証明と具体的な応用例を示す.
12	面積分	スカラー場とベクトル場の面積分を定義し, それらを具体的に求める手順を示す.
13	ベクトルの発散とガウスの発散定理	ベクトルの発散とは何かについて説明するとともに, ガウスの発散定理の物理的意味, 証明の手順を解説し, その定理の極めて有効な適用事例を紹介する.
14	ベクトルの回転とストークスの定理	ベクトルの回転とは何かについて説明するとともに, ストークスの定理の証明の考え方を示し, この定理の有効な適用事例を示す.
15	総合演習	ベクトル解析全般(特に10週~13週に重点を置いて)に関して, 演習を行う.
16	試験解答と複素関数の復習	前半は, 前期定期試験の解答を行い, ベクトル解析のまとめとする. 後半は, 3年次に学んだ複素関数について復習する.
17	複素積分	実変数関数の積分では, 積分経路によって積分値が異なることは無いが, 複素関数に対する積分の場合には, 積分経路によって値が異なることがある. どのような条件で積分経路により積分値が異なるか調べてみる.
18	コーシーの積分定理	複素関数論における基本的で, かつ重要な定理であるコーシーの定理が, 複素積分の定義式にグリーンの定理とコーシー-リーマンの関係式を適用することによって導かれることを示す.
19	コーシーの積分表示	単一閉曲線の内部で複素関数 $f(z)$ が正則であるとき, その内部の一点 における複素関数の値 $f(z_0)$, あるいはその微分形が, コーシーの積分表示と呼ばれる積分形の式で与えられることを導く. また, それを複素積分の計算に適用できることを示す.
20	孤立特異点と関数の展開(ローラン展開)	孤立特異点の定義を説明し, その近傍で関数を級数展開する(ローラン展開)と, 負のべき乗項を伴うことを示すとともに, ローラン展開を求める具体的な方法を示す.
21	留数の定義と留数の計算方法	孤立特異点 を内部に含む単一閉曲線まわりの $f(z)$ の積分を $2\pi i$ で除したものを留数と定義し, それがローラン展開における $1/(z-z_0)$ の係数に等しいことを導く.
22	留数定理とその応用	留数の拡張形として留数定理が容易に導かれること, また留数定理を用いれば具体的な実積分問題, 特に無限積分問題が比較的容易に解けることを示す.
23	後期中間試験	複素関数に関して16週から22週で学んだことの理解度を試験により評価する.
24	試験解答と復習	後期中間試験の解答を行うとともに, 間違いやすい点, 重要な点について復習する.
25	フーリエ級数展開の定義	周期関数が, 定数及びその周期の整数倍の正弦波, 余弦波によって表現できることを説明するとともに具体的な計算方法を示す.
26	フーリエ級数の収束	フーリエ級数は, 元々の関数と完全に一致するとは限らない. では, フーリエ級数はどのような値に収束するのか説明する.
27	偏微分方程式への応用	フーリエ級数の応用として, 偏微分方程式の解法の例を紹介する.
28	フーリエ積分の定義と定理	フーリエ級数展開は, 周期関数に対して定義されるものであったが, 一般の関数は周期関数とは限らない. このような一般の関数を周期無限大の周期関数として拡張すると級数表示が積分に代わり, フーリエ積分と呼ばれる形になる. このフーリエ積分の定義と基本的な定理について紹介する.
29	フーリエ変換の性質と公式	フーリエ変換の基本的な性質と基本的な公式について説明する.
30	フーリエ変換の応用	フーリエ変換は, フーリエ級数と同様に偏微分方程式を解くのにも応用されるが, それ以外に, 電気関係では, 時間領域で表現された信号が, フーリエ変換により, 周波数領域の信号が求められる. これにより, いろいろな信号処理を理解することを助ける. 代表的な例を紹介する.
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科目	応用物理 (Applied Physics)		
担当教員	林 昭博 教授		
対象学年等	電子工学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位III)		
学習・教育目標	A2(100%)	JABEE基準1(1)	(c),(d)1
授業の概要と方針	自然科学の基礎となっている力学を学習する。ニュートンの運動方程式から出発して種々の物体の運動が求まることを理解する。運動と座標、質点の運動、保存則、質点系の運動、剛体の運動を数学の知識を活用して考える力を身につける。また、例題を解きながら理解を深める。多くの課題を与えるので、レポートにして提出する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A2】速度・加速度およびニュートンの運動の法則を理解し、慣性系における基本的な質点の運動を運動方程式をたてて求めることができる。		速度、加速度、位置、軌道の式の計算、および力として重力、復元力、束縛力等が働くときの慣性系における質点の運動を、運動方程式をたてて求められるかを前期中間試験とレポートにより評価する。
2	【A2】質点に種々の力が働くとき、慣性系と非慣性系における質点の運動を運動方程式をたてて求めることができる。		慣性系における質点の運動に加え、慣性系に対して等速直線運動、加速度運動、回転運動する座標系における質点の運動を、運動方程式をたてて求められるかを前期定期試験とレポートにより評価する。
3	【A2】物理学における基本的な保存則を理解し、これらを用いて質点および質点系の運動を求めることができる。		仕事とポテンシャルエネルギーの計算、質点系の重心の計算、および保存則を用いた運動の求め方を後期中間試験とレポートにより評価する。
4	【A2】剛体の運動方程式を理解し、基本的な剛体の運動を求めることができる。		剛体のつり合い条件の求め方、慣性モーメントの計算、剛体の固定軸のまわりの回転運動と平面運動の求め方を後期定期試験とレポートにより評価する。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験85%、レポート15%として評価する。なお、試験成績は、中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「初等力学」：甲木伸一 著（裳華房）		
参考書	「力学」：小出昭一郎 著（裳華房） 「物理学演習上」：後藤憲一，山本邦夫，神吉健 共著（共立出版）		
関連科目	物理(本科1年)，数学(本科1，2，3年)		
履修上の注意事項	微分，積分，微分方程式とその解，およびベクトルの知識が必要となるので復習しておくこと。		

授業計画 1 (応用物理)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	ガイダンス, 座標系と力・速度・加速度	授業の進め方, 到達目標と評価方法などを説明する。物体の位置を表す座標系, 力の成分, 物体の位置の時間的変化を表す速度と加速度を理解する。
2	軌道と加速度の接線成分・法線成分	加速度を軌道の接線成分と法線成分に分けて表す接線加速度と法線加速度の意味を理解する。
3	ニュートンの運動の3法則, 重力だけが働くときの質点の運動	ニュートンの運動の3法則を確認する。力として重力だけが働くときの質点の運動について, 座標系を決め, 運動方程式をたて, 初期条件のもとに運動方程式を解くと質点の運動が求まることを理解する。
4	重力と速度に比例する抵抗力が働くときの質点の運動	重力に加え速度に比例する抵抗力が働くときの質点の運動について, 運動方程式の立て方とその解き方を理解する。また, 終速度を理解する。
5	束縛運動	物体の運動が特定の線または面上に限定される束縛運動について, そのときに働く束縛力(垂直抗力, 摩擦力等)を理解する。そして, 束縛力が働くときの運動を求める。
6	単振動	単振動の意味を理解する。距離に比例する復元力が働くときの質点の運動, 糸に結ばれた質点の微小振動(単振り子)が単振動になることを運動方程式とその解より理解する。
7	演習	復習と演習により理解を深める。
8	中間試験	中間試験までの授業内容に関する試験を行う。出題方針は試験前に通知する。
9	中間試験解答, 抵抗力・強制力が働くときの運動方程式	中間試験の結果を確認する。また, 復元力に加え, 速さに比例する抵抗力および強制力が働くときの運動方程式の立て方を理解する。
10	ばねに結ばれた質点の運動	種々の形態のばねに結ばれた質点の運動を考える。質点に働く力, 運動方程式の立て方, 平衡位置の求め方, 振動の周期等を理解する。
11	万有引力	重力は万有引力であることを理解する。惑星の運動, 静止衛星, 振り子時計の周期等を考える。
12	ガリレイの相対性原理	慣性系に対して等速直線運動する座標系は慣性系であることを理解する。ガリレイ変換による運動方程式とその解を求める。
13	慣性系に対して加速度運動する座標系での質点の運動	慣性系に対して加速度運動している座標系では, 実際の力とともに加速度によるみかけの力を考えると, 慣性系と同じように運動方程式が立てられることを理解する。慣性系と加速度系で運動方程式を立て, その解を比較する。
14	慣性系に対して回転する座標系での質点の運動	慣性系に対して一定の角速度で回転する座標系では, コリオリの力と遠心力を考えれば, 慣性系と同じように運動方程式が成り立つことを理解する。
15	演習	復習と演習により理解を深める。
16	定期試験解答, 運動量保存則, 角運動量保存則(1)	定期試験の結果を確認する。運動量と力積の関係および運動量保存則を理解する。また, 力のモーメントと角運動量の意味を理解する。
17	角運動量保存則(2), 仕事と運動エネルギー	力のモーメントと角運動量の関係および角運動量保存則を理解する。また, 仕事と運動エネルギーの関係, 仕事の計算方法を理解し, 具体例に対して仕事を計算する。
18	ポテンシャルエネルギーと力学的エネルギー保存則	仕事を経路によらず座標だけで決まる保存力を理解し, 保存力に対するポテンシャルエネルギー(位置エネルギー)を求める。運動エネルギーとポテンシャルエネルギーの和である力学的エネルギーについて, その保存則を理解する。
19	質点系の重心	多くの質点からなる質点系における重心(質量中心)の意味を理解する。具体例に対して重心を求める。
20	質点系の運動方程式	質点系に外力と内力が働くときの運動方程式を理解する。また, 質点系の重心は全質量が重心に集中し, 外力もすべて重心に働いているときの1つの質点と同じ運動をすることを理解する。
21	衝突	質点の衝突の問題を考える。弾性衝突と非弾性衝突, 跳ね返り係数(反発係数), およびこれらと運動エネルギーの関係を理解する。
22	演習	復習と演習により理解を深める。
23	中間試験	中間試験までの授業内容に関する試験を行う。出題方針は試験前に通知する。
24	中間試験解答, 剛体の運動方程式	中間試験の結果を確認する。剛体の運動を重心運動とそのまわりの回転運動にわけて考えるときの運動方程式の考え方を理解する。
25	剛体のつり合い	剛体のつり合い条件を理解し, 具体例に対してつり合い条件を求める。
26	固定軸のまわりの剛体の運動	固定軸のまわりに回転する剛体の運動方程式を回転角を用いて表す。質点の並進運動と剛体の回転運動における運動方程式を含む物理量の対比関係を理解する。
27	慣性モーメント	回転運動に対する慣性を表す慣性モーメントを理解する。基本となる形状の慣性モーメントを計算する。
28	剛体の回転運動	慣性モーメントに関する定理を理解し, それを用いて慣性モーメントを求める。そして, 具体的な剛体の回転運動に対して運動方程式を立て, それを解くことにより剛体の回転運動を求める。
29	剛体の平面運動	剛体が平面内で並進運動と回転運動する平面運動に対して, 運動方程式を立て, それを解くことにより剛体の平面運動を求める。
30	演習	復習と演習により理解を深める。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	ソフトウェア工学 (Software Engineering)		
担当教員	若林 茂 教授		
対象学年等	電子工学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位III)		
学習・教育目標	A3(50%) A4-D4(50%)	JABEE基準1(1)	(c),(d)1,(d)2-a,(d)2-d,(g)
授業の概要と方針	「プログラミングI」, 「プログラミングII」で身につけたアルゴリズム・データ構造の基礎の上に, ソフトウェア設計方法論やプログラミング方法論を学習する。また, 総合情報センターのコンピュータシステムを利用して演習を行う。特に, 後期はグループでのプログラム共同開発に取り組む。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A3】ソフトウェアの基礎概念(モジュラリティ・段階的詳細化・情報隠蔽・抽象化など)が理解できる。		レポート(設計仕様書・テスト結果報告書など), 演習で評価する。
2	【A4-D4】設計仕様書からプログラムを作成することができる。		レポート(設計仕様書・テスト結果報告書など), 演習およびプレゼンテーションで評価する。
3	【A4-D4】自分の実現したいことを設計仕様書にまとめることができる。		レポート(設計仕様書・テスト結果報告書など), 演習で評価する。
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は, レポート70%, プレゼンテーション10%, 演習20%として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	プリント(参考書から重要部分を抜粋)		
参考書	「Pascalプログラミングの基礎」: 真野芳久(サイエンス社) 「新訂新C言語入門シニア編」: 林晴比古(ソフトバンク) 「プログラミング言語 C 第2版」: カーニハン, リッチー(共立出版) 「ソフトウェア工学実践の基礎」: 落水浩一郎(日科技連) 「はじめて学ぶプログラム設計」: 林雄二(森北出版)		
関連科目	プログラミングI, プログラミングII		
履修上の注意事項			

授業計画 1 (ソフトウェア工学)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	ソフトウェア工学の基礎概念	ソフトウェア工学の基礎概念について概説する。また、演習環境について説明する。
2	構造と動作の抽象	「車のハンドル」, 「素数一覧表」の問題を題材にして構造と動作の抽象について説明する。
3	構造化プログラミング, および, 課題1の説明	「曲線の印刷」の問題を題材にして構造化プログラミングの考え方を説明する。また, 課題1について説明する。
4	段階的詳細化, および, 課題1の演習1回目	「曲線の印刷」の問題を題材にして段階的詳細化の考え方を説明する。また, 課題1の演習を行う。
5	段階的詳細化, および, 課題1の演習2回目	「曲線の印刷」の問題を題材にして段階的詳細化の考え方を説明する。また, 課題1の演習を行う。
6	プログラミング技法, および, 課題1の演習3回目	プログラミング技法について解説する。また, 課題1の演習を行う。
7	プログラム設計技法, および, 課題1の演習4回目	プログラム設計技法について解説する。また, 課題1の演習を行う。
8	課題1のレポート検討	課題1のレポートについて検討する。
9	構造化プログラミング, および, 課題2の説明	「製本プログラム」の問題を題材にして構造化プログラミングの考え方を説明する。また, 課題2について説明する。
10	段階的詳細化, および, 課題2の演習1回目	「製本プログラム」の問題を題材にして段階的詳細化の考え方を説明する。また, 課題2の演習を行う。
11	段階的詳細化, および, 課題2の演習2回目	「製本プログラム」の問題を題材にして段階的詳細化の考え方を説明する。また, 課題2の演習を行う。
12	プログラム設計技法, および, 課題2の演習3回目	プログラム設計技法について解説する。また, 課題2の演習を行う。
13	システム設計技法, および, 課題2の演習4回目	システム設計技法について解説する。また, 課題2の演習を行う。
14	課題2のレポート検討	課題2のレポートについて検討する。
15	前期のまとめ	前期のまとめを行う。
16	課題3(グループ課題)の説明と班分け	課題3(グループ課題)の説明を行う。班分け後, 班ごとの打合せを行う。
17	抽象データ型とクラス, および, 課題3の演習1回目	「製本プログラム」の問題を題材にして抽象データ型とクラスの考え方を説明する。また, 課題3の演習を行う。
18	抽象データ型とクラス, および, 課題3の演習2回目	「製本プログラム」の問題を題材にして抽象データ型とクラスの考え方を説明する。また, 課題3の演習を行う。
19	テスト技法, および, 課題3の演習3回目	テスト技法について解説する。また, 課題3の演習を行う。
20	テスト技法, および, 課題3の演習4回目	テスト技法について解説する。また, 課題3の演習を行う。
21	課題3のプレゼンテーション1回目	前半4班のプレゼンテーションを行う。作品・発表について学生が相互評価する。
22	課題3のプレゼンテーション2回目	後半4班のプレゼンテーションを行う。作品・発表について学生が相互評価する。
23	課題4(グループ課題)の説明と班分け	課題4(グループ課題)の説明を行う。班分け後, 班ごとの打合せを行う。
24	モデリング, および, 課題4の演習1回目	「家計シミュレーションシステム」の問題を題材にしてモデリングの考え方を説明する。また, 課題4の演習を行う。
25	モデリング, および, 課題4の演習2回目	「家計シミュレーションシステム」の問題を題材にしてモデリングの考え方を説明する。また, 課題4の演習を行う。
26	要求定義技法, および, 課題4の演習3回目	要求定義技法について解説する。また, 課題4の演習を行う。
27	保守技法, および, 課題4の演習4回目	保守技法について解説する。また, 課題4の演習を行う。
28	課題4のプレゼンテーション1回目	前半4班のプレゼンテーションを行う。作品・発表について学生が相互評価する。
29	課題4のプレゼンテーション2回目	後半4班のプレゼンテーションを行う。作品・発表について学生が相互評価する。
30	後期のまとめ	1年間のまとめを行う。
備考	中間試験および定期試験は実施しない。	

科目		電気磁気学II (Electromagnetics II)	
担当教員		一瀬 昌嗣 講師	
対象学年等		電子工学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位III)	
学習・教育目標		A4-D1(100%)	JABEE基準1(1) (d)1,(d)2-a,(d)2-d,(g)
授業の概要と方針		電磁気学は、物質中の電子の運動によって生じるさまざまな現象を記述する学問であり、洗練された体系をもっている。この講義では、3年で学んだ静電界にまつわる諸法則に引き続き、電子の運動としての電流と、それに伴って生じる磁界、電界と磁界の対応、そしてそれらを統合するマクスウェル方程式までを理解できるように、教科書に沿って進めていく。講義・問題演習を通じて、電磁気学の体系がもつ美しさを感じてもらいたい。	
		到達目標	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A4-D1】静電場の知識を用いて、定常電流に関する問題を解くことができる。		オーム、キルヒホッフの法則を理解しているか、前期中間試験、レポートから評価する。
2	【A4-D1】静磁場についての基本法則を用いて、磁場に関する問題を解くことができる。		アンペール、ビオ・サバルの法則を理解してそれらを使うことができているか、前期定期試験、レポートから評価する。
3	【A4-D1】静磁場と静電場のベクトル・スカラーポテンシャル表記についてイメージを持って理解し、またベクトルについての計算ができる。		ベクトルで電場・磁場を解釈できているか、またベクトル表記が正しく行えているか、前期定期試験、レポートから評価する。
4	【A4-D1】磁性体と磁場の関係を理解し、磁場についての物理現象を説明することができる。		磁性体中の磁場の変化、磁性体の種類、磁束密度と磁場の大きさの違いが理解できているか、また電磁誘導の物理的理解ができているか、後期中間試験、レポートから評価する。
5	【A4-D1】様々な特徴を持つ回路について理解し、これらについての問題を解くことができる。		直流回路と交流回路におけるインダクタンスが理解できているか、後期中間・定期試験、レポートから評価する。
6	【A4-D1】マクスウェル方程式に表された物理をイメージを持って理解できている。また電磁波について理解している。		マクスウェル方程式が書け、各式の物理的意味を理解できているか、また電場・磁場・電磁波(光)の関係が理解できているか、後期定期試験、レポートから評価する。
7	【A4-D1】特殊相対性理論、電磁気学の諸法則のローレンツ共変性について理解する。		光速不変の原理、ローレンツ変換を理解できているか、後期定期試験、レポートから評価する。
8			
9			
10			
総合評価		成績は、試験70%、レポート30%として評価する。試験は4回の平均点とする(70点満点)。総合評価は100点満点とし60点以上を合格とする。	
テキスト		「電気学会大学講座 電気磁気学」：山田直平，桂井 誠(電気学会)	
参考書		「電磁気学の考え方」：砂川 重信 (岩波書店) 「やくにたつ電磁気学」：平井 紀光 (ムイスリ出版) 「理論電磁気学」：砂川 重信 (紀伊國屋書店) 「電気学会大学講座 電気磁気学問題演習詳解」：桂井 誠，山田 直平 (電気学会) 1・2番目は易しく、3番目は広範囲にわたり詳細に記述されている。4番目は教科書の章末問題の解説。	
関連科目		数学I，数学II，物理，電気磁気学I，応用数学	
履修上の注意事項		本授業に対する予習・復習を心がけ、必ず自分で教科書を熟読して論理の展開を追いかけること。電磁気学の書籍やインターネット上のコンテンツは膨大にあるので、授業でふれた内容について自分なりに調べて理解を深めること。レポート課題には、必ず自力で取り組むこと。	

授業計画 1 (電気磁気学II)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	定常電流とその保存則	電流の定義, 時間的に変化しない電流(定常電流)からどのような式が導かれるのかを理解することを目標とする。
2	オームの法則	電流・電圧・抵抗の間に成り立つ関係, 電荷の移動に必要な仕事(率)の関係からジュール熱, 電力の考え方が導かれること等の理解を目標とする。また電池につなげた導線に電流が流れる原因, それによるオームの法則の変更点の理解を目標とする。
3	キルヒホッフの法則	複雑な回路内の電流, 電圧, 抵抗の求め方を理解し, それらを用いて各値が求められることを目標とする。
4	定常電流の空間的分布	有限の広がりをもつ導体内部における電流分布と, 電子の運動で考えた場合のオームの法則について理解することを目標とする。
5	定常電流の場と静電界	上で学んだ2通りの方法で, コンデンサ間に導体をつめた場合の静電容量と電気抵抗の間に成り立つ関係式を考察する。
6	ベクトル積・回転	今後の授業の準備として, ベクトルの外積と回転についての数学的知識を学ぶ。
7	問題演習	第1~6週の間に学んだ事の理解度の確認として演習を行う。
8	中間試験	静電場の知識はもちろんのこと, オームの法則, キルヒホッフの法則を用いて様々な計算ができること。
9	電流と磁場	電流から磁場を発見するに至った経緯を説明し, 電流同士にはたらく力(アンペール力), 電流は電荷をもった粒子であることから導かれた力(ローレンツ力)について理解することを目標とする。磁場と磁束密度の違いを理解する。
10	ビオ・サバルの法則	定常電流の作る磁場からビオ・サバルの法則を説明し, ビオ・サバルの法則を用いて様々な問題が解けることを目標とする。またこの法則により, 磁束密度の発散について法則が導かれることを解説する。
11	アンペールの法則	アンペール力と磁場との関係から, 閉じた磁力線と電流の間に成り立つ関係式(積分型のアンペールの法則)を説明し, 積分型のアンペールの法則を用いて様々な問題が解けることを目標とする。また, 磁束密度の発散と積分型のアンペールの法則から磁束密度の回転について法則が導かれることを解説する。
12	ベクトルポテンシャル	ベクトルポテンシャル, スカラーポテンシャルを用いた電場と磁束密度の表し方について解説する。
13	磁気双極子モーメント	物質の磁化・磁化電流について解説する。また電場が電気双極子モーメントで表すことが出来ることからヒントを得て, 磁束密度が磁気双極子モーメントから導かれることを解説する。磁気双極子の考え方について理解することを目標とする。
14	磁性体中の静磁場の基本法則	磁性体中の磁化率によって磁場の大きさが導かれることを解説する。
15	問題演習	第9~14週の間に学んだ事の理解度の確認として演習を行う。
16	強磁性体の磁化	強磁性体はスピンの揃うことで磁化することを解説する。電流から磁場ができることの類推として, 磁化電流を導入して磁化を説明する。
17	静磁場と静電場	また静電場で導かれた関係が静磁場では成り立つかどうかの考察を行う。電磁気学におけるE-H対応とE-B対応の違いを把握し, 静電場の法則との異同を理解することを目標とする。
18	強磁性体の性質と静磁場	強磁性体についての『磁気遮蔽』, 『ヒステリシス損』, 『磁位』, 『消磁力』などの諸性質について解説する。
19	磁気回路	電気回路からの類推に基づき, 『静磁場のエネルギー』, 磁気回路における『キルヒホッフの法則』, 起電力に対して『起磁力』についての理解を目標とする。
20	インダクタンス1	自己インダクタンス, 相互インダクタンスを理解し, コイルに蓄えられるエネルギーを計算できるようになることを目標とする。
21	インダクタンス2	自己インダクタンス, 相互インダクタンス間の関係を理解し, 無端ソレノイド, 無限長ソレノイド, 有限長ソレノイド, 長岡係数, インダクタンスの直列接続を理解することを目標とする。
22	問題演習	第16~21週の間に学んだことの理解度の確認として演習を行う。
23	中間試験	磁場に対する知識をしっかりとつけ, インダクタンスと回路に関する問題について様々な計算ができること。
24	電磁誘導	ファラデーの電磁誘導の法則・レンツの法則を解説する。
25	電流回路の方程式	回路内を流れる電流の変化に伴い生じる起電力, またそれによる磁場のエネルギー, 導体と起電力の関係, 発電機と電動電気の原理, 電磁誘導, インダクタンスに関する回路について解説した後, それらの問題が解けることを目標とする。
26	マクスウェル方程式	今までの物理的な基本法則を4つの式(マクスウェル方程式)にまとめられることを解説する。
27	電磁波	マクスウェル方程式を解いた結果, 光の速度で進む波が導かれ, それが電磁波に対応することを解説する。
28	特殊相対性理論1	アインシュタインを筆頭として作られた相対性理論は, 電磁気学のMaxwell方程式が出発点であったことを解説する。そしてアインシュタインの物理と, それ以前の古典物理学の考え方との相違について解説し, 理解することを目標とする。
29	特殊相対性理論2	光に近い速度で進むと我々の日常がどのように変化するのか, 様々な例を挙げながら解説していく。このとき重要となるローレンツ変換について理解することを目標とする。
30	問題演習	第24~29週の間に学んだ事の理解度の確認として演習を行う。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	半導体工学 (Semiconductor Engineering)		
担当教員	西 敬生 准教授		
対象学年等	電子工学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位Ⅲ)		
学習・教育目標	A4-D2(100%)	JABEE基準1(1)	(d)1,(d)2-a,(d)2-d,(g)
授業の概要と方針	現代のエレクトロニクスは半導体によって支えられている。この半導体を、エネルギーバンドや電子輸送現象などの固体物理の基礎から学ぶとともに、ダイオードやトランジスタに代表される半導体デバイスとして、応用面からも深く理解できるよう学んでいく。授業で出てくる数値のほとんどは実生活では使わない桁のものばかりであるため、演習などで比較検討することで慣れながら理解することを目指す。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A4-D2】半導体の物質名(SiやGaAsなど)を3つ以上言え、結晶構造の名前や、何に使われているかを知っている。		半導体の物質名や、それぞれの違いを問うことをレポートおよび前期中間試験の中で行い評価する。
2	【A4-D2】金属、半導体、絶縁体を抵抗率やバンド構造の違いで説明できる。		グラフや図を使って3つの違いを説明する問題をレポートおよび前期中間試験の中で行い評価する。
3	【A4-D2】半導体中のキャリア密度の式の中の量記号が何かを言え、(授業の出席者数)=(出席率)×(席の数)の例が、キャリア密度、状態密度、占有確率のどれと対応するかわかる。		キャリア密度の式の意味や実際例から値を計算させる問題をレポートおよび前期定期試験で出題することで評価する。
4	【A4-D2】物質中のオームの法則がわかり、抵抗率と移動度やキャリア密度の関係がわかる。		物質中のオームの法則を説明させる問題や、抵抗率の式の意味を説明させたり、実際例から値を計算させたりする問題をレポートおよび前期定期試験で出題して評価する。
5	【A4-D2】電子や正孔が物質の中を拡散することによって流れる拡散電流をイメージすることができる。		キャリアの拡散について説明させる問題や、拡散方程式の各項の意味を答えさせる問題を前期定期試験で出題して評価する。
6	【A4-D2】pn接合の整流性をエネルギーバンド図で説明できる。		pn接合の整流性をエネルギーバンド図で説明させる問題を後期中間試験で出題し、評価する。
7	【A4-D2】pn接合の空乏層幅や静電容量を、不純物密度などの諸条件と数式から見積もることができる。		pn接合の接合状態によって空乏層幅や容量を導出させる問題をレポートおよび後期中間試験で出題し、評価する。
8	【A4-D2】金属-半導体および金属-酸化物-半導体構造の電気特性をエネルギーバンド図を用いて簡単に説明できる。		金属-半導体や金属-酸化物-半導体構造の電気特性についてレポートおよび後期定期試験で説明させ、評価する。
9	【A4-D2】MOSトランジスタやバイポーラトランジスタの動作原理を構造図やエネルギーバンド図を用いて簡単に説明できる。		MOSトランジスタやバイポーラトランジスタの動作をバンド図や構造図から、定性的に説明させる問題を後期定期試験で出題し評価する。
10			
総合評価	成績は、試験90%、レポート10%として評価する。100点満点中60点以上を合格とする。4回の試験の平均を試験点とする。		
テキスト	「半導体デバイス」：松波弘之、吉本昌広（共立出版）		
参考書	半導体デバイス-基礎理論とプロセス技術 第2版」：S.M. ジー（産業図書） 「応用物性」：佐藤勝昭（オーム社） 「半導体工学」：高橋清（森北出版） 「半導体素子」：石田哲朗、清水東（コロナ社）		
関連科目	電子デバイス(3年)、光エレクトロニクス(5年)、電子応用(5年)		
履修上の注意事項	毎回の授業に電卓を持参すること。		

授業計画 1 (半導体工学)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	半導体の電子構造: 半導体材料, 結晶構造, 不完全性	金属や半導体, セラミックスなど日常で使われる材料の分類, 単結晶や多結晶, 非晶質などの固体の分類, ダイヤモンド構造, 閃亜鉛鉱構造という結晶構造による分類について説明や, 結晶の不完全性について説明する。予習として周期律表をよく見ておくこと。
2	半導体の電子構造: エネルギー帯構造, エネルギー準位	一原子の中, そして固体の中の電子がとるエネルギー準位について説明する。このエネルギー準位から形成される帯構造, また電子の存在が許されない禁制帯について発展させる。
3	半導体の電子構造: 結晶中の電子	前回の帯構造を使って金属, 半導体, 絶縁体を描写し違いを説明する。また“遷移”という言葉の意味を理解するとともに, 禁制帯幅が物質固有のものであること, 禁制帯の遷移により正孔が生じることなどを説明する。
4	半導体の電子構造: 真性半導体と外因性半導体	n形半導体とp形半導体, ドナーとアクセプタ, 多数キャリアと少数キャリアについて説明する。固体中の電子と正孔の違いをより理解するため, 有効質量についても説明する。周期律表をよく見ておくこと。また水素原子の軌道半径の導出について復習しておくこと。
5	半導体の電子構造: 状態密度と占有確率	多数の荷電粒子の挙動を扱うため, 一つの粒子の運動方程式ではなく, 統計力学を用いて粒子群を表現する。粒子の個数に対応する「キャリア密度」を表現するための「状態密度」と「占有確率」を説明する。
6	半導体の電子構造: キャリア密度の導出と真性キャリア密度	あるエネルギーの範囲内にあるキャリアの密度を導出するには, 前回導いた式をその範囲内で積分して求める。その積分の式の展開によって導電帯(価電子帯)中の電子(正孔)密度の式を導出する。これにより, 真性半導体のキャリア密度である真性キャリア密度が定義され, pn積へと発展する。
7	半導体の電子構造: フェルミ準位	半導体デバイスの動作を説明するのによく用いられる「フェルミ準位」について説明する。水がどれだけ溜まっているかを表すのに水面の高さを測るのに似て, フェルミ準位も電子がどのエネルギーの高さまでいるかを表す量である。
8	中間試験	半導体の特徴を, 電気的な性質や帯構造などの観点から説明させる。授業中の重要語句について説明させたり, キャリア密度の導出などを行う。
9	試験解答	試験解説および学生による学習目標達成度評価を行う。
10	半導体における電気伝導: キャリアの熱運動, ドリフト電流	熱によって原子が揺れ動くことを格子振動のことや外部から印加された電界で電子が動くことによって生じるドリフト電流について説明する。キャリアの流れで考えたときのオームの法則も導出する。抵抗率について復習しておくこと。
11	半導体における電気伝導: ホール効果	ドリフト電流中のキャリアは電流と直交方向に磁界を印加すると電流, 磁界いずれとも直交する方向にローレンツ力が働き, 起電力が生じる。この現象をホール効果と呼び, この効果を測定して何がわかるかを説明する。
12	半導体における電気伝導: キャリア密度の温度特性	金属と半導体の違いとしてよく表現される抵抗率の温度依存性について, 半導体のキャリア密度の温度依存性を詳細に説明して理解してもらおう。金属の抵抗率は温度が上がるとどうなるかを調べてくること。
13	半導体における電気伝導: 拡散電流	粒子が拡散する様子を数式で表すとどうなるかを説明し, それを電子や正孔に適用した場合に電流がどのように記述できるかを説明する。またアインシュタインの関係式についても説明する。
14	半導体における電気伝導: 連続の式と拡散方程式	半導体中で起こるキャリアの生成と消滅について論じ, そこからキャリアの拡散による流れを記述した拡散方程式へとつなげ, 38ページの式(2.37)の各項について説明する。半導体の中で重要な役割を演じる「トラップ」についても論じる。
15	半導体における電気伝導: 半導体電気伝導のまとめ	これまで出てきた式や現象を使って問題を解き, 理解を定着させる。
16	試験解答	試験解答の解説および学生による学習目標達成度評価を行う。
17	pn接合: 整流性の原理, 拡散電位, 少数キャリアの注入	ダイオードとして用いられる整流作用がなぜ起こるかを帯構造から定性的に説明し, 電流電圧特性との関連を述べる。
18	pn接合: 拡散方程式による電流密度の導出	理想的なpn接合は電圧印加時に拡散によって粒子の流れが起こる。2章で説明された拡散方程式を用いてpn接合中の電流を導出する。
19	pn接合: 理想特性からのずれ, 再結合電流	前回求めたpn接合の理想特性に対して, 実際のpn接合の特性がどれだけずれているかを確認し, そのずれの理由を説明する。キャリアの生成と再結合について2章の33-40ページの関連部を復習しておくこと。
20	pn接合: 空乏層の静電容量と幅	pn接合のp形-空乏層-n形という構造はコンデンサと考えられ, 静電容量を有している。この静電容量と空乏層幅を導出する。階段接合や傾斜接合といった接合形態でどう変わるかを確認する。
21	pn接合: 降伏現象	pn接合の逆バイアス時は理想的には電流はほとんど流れないはずであるが, ある電圧を境に急に電流が流れ始める。この現象について説明する。
22	pn接合: 交流特性, 少数キャリア蓄積効果	pn接合に正弦波やパルス波を印加した場合, 順バイアス時に注入され, 空乏層近傍に存在する過剰少数キャリアが, どのような挙動を示すか, 電流電圧特性がどう影響を受けるかについて説明する。
23	中間試験	pn接合をエネルギーバンド図で説明させたり, 拡散電位や空乏層幅などの導出を行う。
24	試験解説, 金属-半導体界面の整流性, オーム性とトンネル効果	中間試験解答の解説および金属-半導体界面の整流性, オーム性とトンネル効果について説明する。半導体と金属の接触の状態や, その組合せによって接触部の抵抗が大きく異なり, 整流性を示しもある。それぞれの場合についてエネルギーバンド図で説明する。
25	絶縁体-半導体界面, MOS構造の特性	MOSトランジスタの基本であるMOS構造について説明し, 蓄積, 空乏, 反転状態のエネルギーバンド図の違いを描けるようにする。またそのときの静電容量の変化や周波数特性についても解説する。
26	MOSトランジスタ: 構造と原理, 電流-電圧特性	MOSトランジスタの構造と原理について説明する。MOSトランジスタの電流-電圧特性についてnチャネルやpチャネル, ディプレッションやエンハンスメントといった違いでどのように変わるかなどについて説明する。
27	MOSトランジスタ: 短チャネル効果とスケール則	MOSトランジスタの短チャネル効果とスケール則について説明する。
28	バイポーラトランジスタ: 基本構造と動作特性, 直流特性	バイポーラトランジスタの基本特性や構造(特にIC上での)を説明し, エネルギーバンド図で表した場合を説明する。
29	バイポーラトランジスタ: 到達率, 注入率	バイポーラトランジスタの到達率や注入率について説明する。
30	バイポーラトランジスタ: 到達率, 注入率	前回の内容について, 引き続き解説を行う。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。いずれの試験においても電卓を持参すること。必要ない場合に限り, 連絡する。	

科目	電気回路III (Electric Circuit III)		
担当教員	荻原 昭文 准教授		
対象学年等	電子工学科・4年・前期・必修・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	A4-D1(100%)	JABEE基準1(1)	(d)1,(d)2-a,(d)2-d,(g)
授業の概要と方針	電気回路において、起電力を与えてから十分に時間が経過すれば、各部の電圧や電流は定常状態になる。本講義では、電気回路が定常状態に至るまでの電圧や電流が変化する現象（過渡現象）について教授する。前半は、微分方程式を解いた電気回路の過渡現象の解法について説明する。後半は、ラプラス変換を用いた解法について説明する。また、分布乗数回路における進行波についても学習する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A4-D1】RL回路を微分方程式を用いて表し、過渡電圧および過渡電流が計算できる。		RL回路の過渡電圧および過渡電流を算出できるかどうかを、中間試験およびレポートの内容で評価する。
2	【A4-D1】RC回路を微分方程式を用いて表し、過渡電圧および過渡電流が計算できる。		RC回路の過渡電圧および過渡電流を算出できるかどうかを、中間試験およびレポートの内容で評価する。
3	【A4-D1】LC回路を微分方程式を用いて表し、過渡電圧および過渡電流が計算できる。		LC回路の過渡電圧および過渡電流を算出できるかどうかを、中間試験およびレポートの内容で評価する。
4	【A4-D1】RLC回路を微分方程式を用いて表し、過渡電圧および過渡電流が計算できる。		RLC回路の過渡電圧および過渡電流を算出できるかどうかを、中間試験、定期試験およびレポートの内容で評価する。
5	【A4-D1】相互誘導を含む回路や非線形回路を方程式で表し、過渡電圧および過渡電流が計算できる。		相互誘導を含む回路や非線形回路の過渡電圧および過渡電流が算出できるか、定期試験およびレポートの内容で評価する。
6	【A4-D1】ラプラス変換を用いて、電気回路の過渡現象を解析できる。		ラプラス変換を用いて電気回路の過渡電圧および過渡電流が算出できるか、定期試験およびレポートの内容で評価する。
7	【A4-D1】分布定数回路を微分方程式を用いて表すことができる。		分布定数回路を微分方程式で表すことができるかどうか、定期試験およびレポートの内容で評価する。
8	【A4-D1】分布定数回路において波動インピーダンスおよび電圧波の伝播速度が計算できる。		分布定数回路の波動インピーダンスおよび伝播速度が計算できるか、定期試験およびレポートの内容で評価する。
9	【A4-D1】分布定数回路において進行波の反射波および透過波を求めることができる。		分布定数回路において進行波の反射波および透過波を求めることができるかどうか、定期試験およびレポートの内容で評価する。
10	【A4-D1】無損失線路と無ひずみ線路がどのような性質を持つ分布定数回路か説明できる。		無損失線路と無ひずみ線路を式で表し、どのような性質を持つ分布定数回路かを説明できるか、定期試験およびレポートの内容で評価する。
総合評価	成績は、試験90%、レポート10%として評価する。なお、試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「基礎過渡現象」：本郷忠敬(オーム社)		
参考書	「過渡現象の考え方」：雨宮好文(オーム社) 「例題で学ぶ過渡現象」：大重力, 森本義広, 神田一伸(森北出版) 「現在過渡現象論」：大野克郎(オーム社)		
関連科目	2年 電気回路I, 3年 電気回路II, 3年 応用数学, 3年 数学I		
履修上の注意事項	授業を受けるにあたり簡単な微分方程式が解けること。また、ラプラス変換について理解しておくこと。		

科目	電子計測 (Electronic Measurements)		
担当教員	大向 雅人 非常勤講師		
対象学年等	電子工学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位III)		
学習・教育目標	A4-D3(100%)	JABEE基準1(1)	(d)1,(d)2-a,(d)2-d,(g)
授業の概要と方針	センサで計測された情報を利用して、各種装置の自動化や、目的に沿った制御がデジタルコンピュータを使って行われている。本授業では、このような計測制御の基礎的事項である、計測値のデータ処理、各種センサ、オペアンプによるデータ変換、AD・DA変換、デジタル計測器、オシロスコープなどについて学習する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A4-D3】計測方法、計測値の処理を理解し、説明できる。		各種計測方法について説明できるか、また与えられた計測値に対して最小二乗法を用いてデータ処理が行えるかを前期中間試験で評価する。
2	【A4-D3】各種センサの原理を理解し、説明できる。		各種センサの原理を説明できるか、またこれらを用いた計測回路の動作を説明できるかを前期中間試験、前期定期試験で評価する。
3	【A4-D3】オペアンプを使用した各種データ変換を理解し、説明できる。		オペアンプを使用した各種データ変換回路が説明できるか、後期中間試験で評価する。
4	【A4-D3】A/D・D/A変換回路を理解し、説明できる。		はしご形DA変換器、逐次比較形AD変換器、2重積分形AD変換器などを理解し、説明できるかを、後期中間試験で評価する。
5	【A4-D3】デジタルマルチメータの原理・構成・使い方を理解し、説明できる。		デジタルマルチメータについて理解できているかを後期定期試験で評価する。
6	【A4-D3】オシロスコープなどの波形表示・解析装置の原理・構成・使い方を理解し、説明できる。		波形表示・解析装置が理解できているかを後期定期試験で評価する。
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験100%として評価する。試験成績は4回の試験の単純平均である。総合評価は100点満点とし、60点以上を合格とする。		
テキスト	「電子計測と制御」：田所嘉昭（森北出版）		
参考書	「電磁気計測」：岩崎俊（電子情報通信学会編）		
関連科目	D3「計測工学」		
履修上の注意事項	3学年の「計測工学」を理解しておくこと。		

授業計画 1 (電子計測)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	電子計測の基礎 (1)	授業方針を説明した後, 測定の方法, 測定値の評価について学習する.
2	電子計測の基礎 (2)	測定データ処理 (最小二乗法, 標準偏差) について学習する.
3	電子計測の基礎 (3)	単位系について学習し, 演習問題を解くことにより理解を深める.
4	光センサ (1)	フォトダイオード, フォトトランジスタ, フォトカプラについて学習する.
5	光センサ (2)	CCDイメージセンサ, CdSセルについて学習する. 光電管, 光電子増倍管 (フォトマルチプライヤ) について学習する.
6	磁気センサ (1)	電磁誘導について復習し, ホールセンサ, 磁気抵抗素子について学習する.
7	復習	今までの内容をまとめて復習する.
8	中間試験	単位系, 測定の方法, 最小二乗法, CdSセル, フォトダイオード, フォトトランジスタ, フォトカプラなどについて試験する.
9	中間試験結果の解説	中間試験の内容について個別に解説する.
10	磁気センサ (2)	磁気センサの応用である, 磁界測定, 電流測定, 無接触スイッチ, 変位センサについて学習する.
11	圧力センサ	圧力と単位を理解し, ストレンゲージ, 静電容量式圧力センサ, 誘導式圧力センサについて学習する.
12	温度センサ	白金測温抵抗体, サーミスタ, 熱電対について学習する.
13	位置センサ	直線位置センサ, 回転位置センサ, 近接スイッチについて学習する.
14	超音波センサとその他のセンサ	圧電振動子について学習した後, 超音波応用計測を理解する. また温度センサ, ガスセンサ等について学習する.
15	復習	これまでの内容をまとめて復習する.
16	定期試験の解説	定期試験の内容について個別に解説する.
17	レベル変換	差動増幅器について学んだ後, オペアンプの基礎知識について学習する. オペアンプによる各種演算増幅, ボルテージフォロア回路について学習する.
18	電圧 周波数変換	信号の長距離伝送に有利な, オペアンプを使った電圧 周波数変換について学習する.
19	周波数 電圧変換	18回目で学習した周波数変換された信号を受信側では逆に電圧に変換する必要がある. その際につかわれる, オペアンプを使った周波数 電圧変換回路について学習する.
20	D - A変換	アナログ, デジタル量の基礎, D - A変換回路について学習する.
21	A - D変換	A - D変換の基礎, 直接比較方式, 計数方式について学習する. また, 2重積分方式A - D変換について学習する.
22	復習	これまでの内容をまとめて復習する.
23	中間試験	A - DおよびD - A変換, VFおよびFV変換, 超音波応用計測などについて試験する.
24	中間試験の解説	中間試験の内容について個別に解説する.
25	アナログメータとデジタルメータ	アナログメータとデジタルメータの相違について学習する.
26	デジタルマルチメータ	デジタルマルチメータの構成, 抵抗 - 直流電圧変換について学習する. 交流電圧 - 直流電圧変換, 電流 - 電圧変換回路について学習する.
27	オシロスコープ	オシロスコープの原理, 構成について学習する. 水平軸回路, プローブ, 帯域幅などについて学習する.
28	その他の波形表示・分析装置	デジタルストレージスコープ, ロジックアナライザ, デジタルスペクトラムアナライザについて学習する.
29	デジタル計測制御システム	センサ, データ変換, A / D・D / A変換, 入出力インタフェース, 制御装置, コンピュータから構成されるデジタル計測制御システムについて学習する.
30	復習	これまでの内容をまとめて復習する.
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科目	電子回路I (Electronic Circuit I)		
担当教員	長谷 芳樹 講師		
対象学年等	電子工学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位III)		
学習・教育目標	A4-D1(100%)	JABEE基準1(1)	(d)1,(d)2-a,(d)2-d,(g)
授業の概要と方針	エレクトロニクスの技術革新は広範かつ急速である。しかし基礎となるべきことを十分理解しておくことにより、新しい素子・回路・技術に対処することが可能である。本教科では電子回路の基本的な考え方と設計手法を身につけさせる。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A4-D1】 トランジスタとFETの等価回路が理解できる。		トランジスタやFETの等価回路について理解できているかを前期中間試験およびレポートで評価する。
2	【A4-D1】 直流等価回路と交流等価回路が理解できる。		直流等価回路や交流等価回路について理解できているかを前期中間試験およびレポートで評価する。
3	【A4-D1】 簡易計算によるバイアス回路の設計ができる。		理想トランジスタを用いた簡易計算によりバイアス回路の設計ができるかを前期中間試験または前期定期試験およびレポートで評価する。
4	【A4-D1】 基本増幅回路が理解できる。		トランジスタやFETの基本増幅回路が理解できているかを前期定期試験およびレポートで評価する。
5	【A4-D1】 高周波等価回路が理解できる。		トランジスタやFETの高周波等価回路が理解できているかを前期定期試験、後期中間試験およびレポートで評価する。
6	【A4-D1】 負帰還の目的と効果が理解できる。		負帰還の目的と効果が理解できているかを後期中間試験およびレポートで評価する。
7	【A4-D1】 直流電流源回路が理解できる。		直流電流源回路が理解できているかを後期定期試験およびレポートで評価する。
8	【A4-D1】 差動増幅回路・高利得増幅回路・乗算回路が理解できる。		差動増幅回路、差動増幅回路もしくはダーリントン接続を用いた高利得増幅回路、差動増幅回路を用いた乗算回路が理解できているかを後期定期試験およびレポートで評価する。
9	【A4-D1】 直流増幅回路が理解できる。		直流増幅回路とその問題点の対策が理解できているかを後期定期試験およびレポートで評価する。
10			
総合評価	成績は、試験85%、レポート15%として評価する。なお、試験成績は、中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「アナログ電子回路」藤井信生（昭晃堂）		
参考書	「演習 電子回路」桜庭一郎、佐々木正規（森北出版） 「テーマ別 電子回路例題と演習」島田一雄、南任靖雄（工学図書）		
関連科目	電気回路I、電気回路II、電子デバイス、半導体工学、電子回路II		
履修上の注意事項	電気回路I、電気回路II、電子デバイスの内容を修得していることを前提とする。		

授業計画 1 (電子回路I)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	電子回路という科目の位置づけと導入, 基本的事項の確認	電子回路では能動素子を含む回路を扱う。そのため等価回路と適切な近似が重要となる。重ねの理, テブナンの定理, 電力比, 電圧比, 電流比の表し方など, 電子回路を解析するために必要な事項について, 復習をおこなう
2	バイポーラトランジスタの動作と静特性	p形-n形-p形あるいは逆に形成し, それぞれの領域に端子を取り付けた3端子素子をトランジスタと呼ぶ。トランジスタの3端子はエミッタ, コレクタ, ベースと呼ばれる。コレクタの電流はコレクタの電圧には無関係でエミッタの電流だけで決定される。また, トランジスタは増幅作用を持つ。
3	FETの動作と静特性	pn接合の空乏層の幅が電圧によって変化することを利用して, 電流を制御する素子をFETと呼ぶ。FETには接合形, MOS形があり, 増幅作用を持つ。
4	トランジスタの等価回路, FETの等価回路	トランジスタやFETなどの能動素子については回路計算のためにこれらを適切な等価回路で表現することが必要となる。等価回路としてはベース接地トランジスタの交流等価回路, エミッタ接地トランジスタの交流等価回路, h-パラメータによる等価回路などがある。
5	直流と交流の分離	直流バイアス電圧, 電流に比較して, 振幅が十分小さい信号電圧, 電流を増幅する回路を小信号増幅器と呼ぶ。小信号増幅器では直流バイアス電圧, 電流と信号電圧, 電流を分けて計算することができる。
6	トランジスタのバイアス回路	トランジスタに直流バイアス電圧, 電流を与える回路には, 簡易バイアス回路や電流帰還バイアス回路がある。バイアス回路の設計においては温度変化に対する安定度が重要となる。
7	中間試験	(中間試験を実施する)
8	中間試験の返却と解説, バイアス回路の簡易計算と温度補償	トランジスタの特性を理想化することでバイアス回路の設計が非常に容易になる。理想化されたトランジスタはナレタとノレタという二種類の仮想的な素子で構成される。
9	FETのバイアス回路	トランジスタのバイアス回路設計と異なり, FETのバイアス回路設計においてはFETの特性曲線を使用する必要がある。
10	増幅器の特性を表す諸量	増幅器は一般に四端子回路として表すことができる。増幅器の特性を表すために入力インピーダンス, 電圧利得, 電流利得, 電力利得, 出力インピーダンスなどが用いられる。
11	トランジスタ基本増幅回路(前半)	トランジスタ基本増幅回路にはベース接地, エミッタ接地, コレクタ接地の3種類の接地形式がある。
12	トランジスタ基本増幅回路(後半)	ベース接地は低入力インピーダンス, 高出力インピーダンスであり電流増幅器であると言える。エミッタ接地はもっとも電力利得が大きくよく使用される。コレクタ接地は高入力インピーダンス, 低出力インピーダンスでありバッファとして使用される。
13	FET基本増幅回路	FET基本増幅回路にはゲート接地, ソース接地, ドレイン接地の3種類があり, それぞれトランジスタ基本増幅回路のベース接地, エミッタ接地, コレクタ接地に対応する。
14	基本増幅回路の縦続接続	単独の基本増幅回路だけでは要求された特性が実現できない場合は, 複数の基本増幅回路を組み合わせて増幅器を作る。増幅回路同士をコンデンサを介して結合する形式をRC結合増幅回路と呼ぶ。
15	トランジスタの高周波等価回路とFETの高周波等価回路	トランジスタは真性トランジスタとそれに寄生する素子に分けて考えることができる。トランジスタの高周波等価回路には高周波T形等価回路やエミッタ接地高周波ハイブリッド形等価回路などがある。FETの場合は高周波における特別な等価回路を導入する必要はなく, 電極間容量を考慮すればよい。
16	定期試験の返却と解説, ミラー効果を考慮した小信号増幅器の周波数特性	増幅器の入出力間の容量が実際よりも大きく見える現象をミラー効果と呼ぶ。増幅器の周波数特性において, 低域遮断周波数から広域遮断周波数までを帯域幅と呼ぶ。
17	多段増幅器の周波数特性	トランジスタを複数個用いて, 増幅器を縦続接続した場合, 全体の利得は各段相互の影響を考慮して求める必要がある。また, 異常発振に注意する必要がある。
18	広帯域増幅回路	増幅器の広域遮断周波数を拡大するためには, コイルと次段の容量の共振現象を利用して利得の低下を抑える手法が有効である。これをピーキングと呼ぶ。ピーキングには直列ピーキングと並列ピーキングがある。
19	負帰還の原理, 効果, 種類	特性が多少不完全ではあるが大きな利得を有する増幅器と, 特性の優れた減衰器を組み合わせて温度変化などに対する全体の特性を改善する技術として負帰還がある。
20	負帰還による入出力インピーダンスの変化	負帰還には直列-直列帰還, 並列-並列帰還, 直列-並列帰還, 並列-直列帰還がある。入出力インピーダンスは直列接続の場合は増大し, 並列接続の場合には減少する。
21	中間試験	(中間試験を実施する)
22	中間試験の返却と解説, 負帰還回路の実際(前半)	エミッタ接地基本増幅回路からバイパスコンデンサを除去すると直列-直列帰還をかけたことになる。この場合の入出力インピーダンスや利得を計算する。
23	負帰還回路の実際(後半)	並列-並列帰還を例としてとりあげ入出力インピーダンスや利得を計算する。
24	負帰還回路の安定性と位相補償	負帰還回路において位相が180度回転する周波数で開ループ利得が1以上であると発振する。これを選けるため位相補償という方法がある。
25	直流電流源回路	直流電圧源は電池により容易に得られるが, 電流源はトランジスタを使用して回路的に実現する。代表的な直流電流源回路にカレントミラー回路がある。
26	差動増幅回路	差動増幅回路は特性のそろった二個のトランジスタのエミッタを結合した増幅回路であり, 大容量のコンデンサを使用することなく直流から信号を増幅できるという特徴がある。差動増幅回路の良さを表す重要な尺度にCMRRがある。
27	高利得増幅回路, ダーリントン接続トランジスタ	一段の増幅回路で高利得を実現する手法として能動負荷の使用がある。また, 二個のトランジスタを用いて回路的に電流増幅率が大きいトランジスタを実現する手法としてダーリントン接続がある。
28	直流増幅回路, レベルシフト回路(前半)	直流から増幅することを目的とする直流増幅回路ではRC結合増幅ではなく直結増幅とする必要がある。その際, 後段のトランジスタに適正なバイアスをかけるために, レベルシフト回路が必要となる。
29	レベルシフト回路(後半), 乗算回路	レベルシフト回路には抵抗分割レベルシフト, 直流電流源によるレベルシフト, ツェナダイオードなどの直流電圧源によるレベルシフトなどがある。乗算回路は差動増幅回路を応用して実現することができる。
30	演習	総合的な演習を行う。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目		数値解析 (Numerical Analysis)	
担当教員		長野 勝利 非常勤講師, 服部 雄一 非常勤講師	
対象学年等		電子工学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位III)	
学習・教育目標		A3(100%)	JABEE基準1(1) (c),(d)1
授業の概要と方針		各種理工学理論を使用して設計されたものを現実のものとして実現するには, その理論に基づいた高度で柔軟な算法が必要である。ここでは, コンピュータによる科学技術計算の基礎となる理論を理解し, その理論を基にそれらの算法のアルゴリズムについて修得することを目的とする。併せて, 問題解決のための定式化やその解法手順を検討する手法についても理解を深める。	
		到達目標	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A3】浮動小数点数と演算系による誤差の伝播について理解できる。		浮動小数点数と演算系による誤差の伝播等について理解できているか前期中間試験・前期定期試験で評価する。
2	【A3】代数方程式の性質と解の直接解法について理解できる。		代数方程式の解の導出について理解できているか前期中間試験・前期定期試験で評価する。
3	【A3】高次方程式の各種解法やそのアルゴリズムについて理解できる。		二分法, Newton-Raphson法, 組み立て除法, 反復法等による高次方程式の解法について理解できているか前期中間試験・前期定期試験で評価する。
4	【A3】連立方程式の各種解法やそのアルゴリズムについて理解できる。		Gauss-Jordan法, Crout法, Cholesky法, Jacobi法等による連立方程式の解法やそれらのアルゴリズムについて理解できているか後期中間試験・後期定期試験で評価する。
5	【A3】行列や逆行列の計算法とそのアルゴリズムについて理解できる。		行列や逆行列の計算法とアルゴリズムについて理解できているか後期中間試験・後期定期試験で評価する。
6	【A3】多項式近似について理解できる。		関数近似や最小二乗法, Newtonの補間, Lagrangeの補間などの多項式近似等について, 理解できているか後期中間試験・後期定期試験で評価する。
7	【A3】代表的な数値微分, 数値積分, 微分方程式の数値解法の計算法について理解できる。		補間による数値微分法, Newton-Cotes形の積分公式, また, 代表的な微分方程式の数値解法について理解できているか後期中間試験・後期定期試験で評価する。
8	【A3】問題解決のための定式化の手法について理解できる。		問題を分析して定式化できるか, それを解く手順について理解できているか後期中間試験・後期定期試験で評価する。
9			
10			
総合評価		成績は, 試験100%として評価する。試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。	
テキスト		「数値計算」: 片桐重延 (東京電機大学出版局)	
参考書		「数値計算」: 戸川隼人 (岩波書店) 「数値計算」: 川上一郎 (岩波書店) 「数値解析の基礎」: 新濃清志・船田哲男 (培風館)	
関連科目		プログラミングII	
履修上の注意事項		授業はほぼテキストの内容にそって進めるが, 公式の誘導や計算手法の前提となる理論等について適宜補足して行う。講義の内容で指定された教科書に記載されていない事柄も定期試験などの対象とするので, 授業中はノートをしっかり取るよう心掛けること。	

授業計画 1 (数値解析)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	数値計算における誤差と誤差の伝播	誤差は、現象を数学的に表現する場面、コンピュータで処理する場面、コンピュータから出力する場面など情報処理の各場面で起こる。近似計算では誤差の特性を良く知り、それを利用することが不可欠である。ここでは、誤差の発生と取扱いについて理解する。
2	浮動小数点系における誤差	コンピュータで数を表示するときの方式とそのときの誤差の取り扱い方法について理解する。また、コンピュータにおける数の内部表現と誤差の扱いについても理解する。
3	代数方程式の直接的解法	2次の代数方程式の解の公式は日常的に使用しており、4次までの代数方程式についてもCardanoやFerrariなどの直接的解法によって解を求めることができる。Cardanoの方法とFerrariの方法の導出を行ない、4次までの代数方程式の解法と公式の利用について理解する。
4	非線形方程式の解法	5次以上の代数方程式や一般の非線形方程式には直接的解法は存在しないので近似解法を用いなければならない。ここでは、代数方程式および一般の非線形方程式に利用できる方法として、2分法、Newton法について理解する。
5	多項式と組立除法	非線形方程式の解法であるNewton法の反復公式を用いる場合、高次の関数値や高次の関数の微分値を計算しなければならない。これを防ぐ方法として組み立て除法を用いる方法がある。この方法はExcelの使用に馴染む手法でもある。これらについて理解する。
6	反復法による方程式の解法	方程式 $f(x) = 0$ を変形して $x = g(x)$ の形に直し、この関数を $X_{n+1} = g(X_n)$ の再起式として X_n を求める手法を反復法という。ここでは、この基本的な特性について調べ、発展的なことがらについても学習する。
7	演習	これまでの授業内容のまとめと演習を行なう。
8	中間試験	中間試験を実施する。
9	行列の計算法	行列の計算は、社会の情報化とコンピュータの進歩に伴い、多量な情報を系統的に扱うようになって急速に利用価値が増大した。ここでは、行列の性質および計算法、応用について復習する。
10	連立方程式の解法(1)	連立1次方程式の解は理論的にCramerの公式により求められるが、これには多くの積和計算を要しあまり実用的ではない。ここでは、連立1次方程式の解法として代表的なGauss-Jordan法のアルゴリズムについて理解する。
11	LU分解	LU分解とは、対角要素より上のすべての要素の値を零とする行列を下三角行列(L)とし、対角要素より下のすべての要素の値を零とする行列を上三角行列(U)として、行列をこの二つの三角行列の積LUに分解することである。ここではLU分解の計算法について理解する。
12	LU分解と連立方程式	連立1次方程式の解を係数行列を二つの三角行列の積にLU分解して求める方法について学習する。ここでは、求める三角行列の最終的な値が簡単に求められるCrout法と係数行列が正値対称行列の場合に用いられるCholesky法について理解する。
13	逆行列の算法	行列の逆行列を行列の余因子を用いて求める解析的な方法について復習する。ただし、この方法は元の行列の小行列を総て計算することから計算回数が激増し実用的ではない。ここでは、単位行列と連立方程式の解法のGauss-Jordan法を用いる方法のアルゴリズムについて理解する。
14	連立方程式の解法(2)	与えられた連立方程式に対して適当な初期ベクトルを与えて真の解に収束させる方法で連立方程式を解く反復法について学習する。ここでは、Jacobi法とその改良形のGauss-Seidel法について理解する。また、制約条件のある不定方程式の解法など連立方程式の応用についても学習する。
15	演習	前期期間に行なった授業内容のまとめと演習を行なう。
16	問題解決のための定式化(1)	問題解決のための定式化の手法について理解する。
17	問題解決のための定式化(2)	具体的な問題について、問題を分析して定式化し問題を解き、問題解決のために利用した手法、結果等について考察する。
18	演習	後期これまでの授業内容のまとめと演習を行なう。
19	多項式の計算	三角関数などの関数をxの多項式に展開して、その多項式を用いてxのある値について関数の近似値を求める。その際、計算過程を簡単にし、誤差をなるべく少なくすることについて学習する。
20	Newtonの補間多項式	補間法は数値計算法の基礎となるもので、与えられた数個の点とその関数値から、求めようとする点の関数値を計算するものである。あるいは、離散的な数値列から近似関数を求めることでもある。ここでは、多項式近似として良く知られているNewtonの補間多項式の導出について理解する。
21	差分と補間多項式	多項式近似に良く使用されるNewtonの補間多項式の係数は、結局、計算の簡単な差分表から求められることを理解する。
22	演習	後期中間までの期間に行なった授業内容のまとめと演習を行なう。
23	中間試験	中間試験を実施する。
24	Lagrangeの補間多項式	互いに異なる $n+1$ 個の点とこれに対応する関数値が与えられているとき、与えられた $n+1$ 個の点を通る n 次多項式はただ一つである。このLagrangeの補間多項式は差分商の考え方を用いて導かれたもので、本質的にはNewtonの補間多項式と同じといえる。Lagrangeの補間多項式について理解する。
25	数値微分	数値微分は、関数値が離散的にしか与えられていないときや微分が複雑で難しい場合などに用いられる。数値微分の方法には、差分演算子より微分公式を求める古典的な方法があるが、ここでは補間公式を微分する方法や微分値を差分商列の補間により求める方法について学習する。
26	数値積分	定積分は数値でコンピュータによる数多くの計算法が考案されている。数値積分は微分方程式の数値解を求めるのみならず、解析的に積分不可能な積分や離散的なデータを基にした積分を行うときに用いる。ここでは、Newtonの前進公式を積分することによりNewton-Cotes形の積分公式を求める。
27	モデル化と微分方程式	情報化が進む現代では、ものの変化を微分方程式で表してそれを数値的に解くことが必要な場合が多い。ここでは、現実の問題から微分方程式を作り、それを解く方法について考察する。
28	微分方程式の初期値問題	微分方程式には解析的に解けないものが多く、解析的に解ける場合でも解が級数、特殊関数の形になっていて具体的な値を知ることが困難なことがある。近似的な誤差をできるだけ抑えることに考慮して直接数値的に解く方法がある。ここでは、微分方程式の数値解法の代表的なものについて学習する。
29	Runge-Kutta法	微分方程式の代表的な数値解法であるRunge-Kutta法は高い精度をもつように、また、 n 個の関数の値を計算することによって微分値の計算を行わずに工巧な手法である。ここでは、Runge-Kutta法の導出を行い、その応用について理解する。また、微分方程式の応用についても考察する。
30	演習	後期期末までの期間に行なった授業内容のまとめと演習を行なう。
備考	前期、後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	通信方式 (Communication Systems)		
担当教員	小矢 美晴 准教授		
対象学年等	電子工学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位III)		
学習・教育目標	A4-D4(100%)	JABEE基準1(1)	(d)1,(d)2-a,(d)2-d,(g)
授業の概要と方針	通信方式についての概念を学び、アナログ及びデジタル通信方式の構成と要素、信号の周波数帯域などについて学習する。さらに通信の際に生じる雑音についても学習する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A4-D4】通信方式の基本的事項を理解できる		通信方式に関する基本的事項が理解できているかどうかを前期中間試験により評価する
2	【A4-D4】アナログ通信方式の変調・復調を説明できる		AM変調とFM変調方式の理論と回路の入出力関係が理解できているかどうかを前期定期試験により評価する
3	【A4-D4】デジタル通信方式の変調・復調を説明できる		標本化定理や時間多重方式などに関する事項が理解できているかどうかを後期中間試験により評価する
4	【A4-D4】各種雑音が説明できる		通信路における雑音に関する概念を理解できているかどうか後期定期試験により評価する
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験100%として評価する。なお、試験成績は、4回の試験(前期中間、前期定期、後期中間、後期定期)の算術平均とし、60点以上で合格とする。		
テキスト	「通信方式入門」：宮内一洋(コロナ社)		
参考書	「電気通信工学」：重井芳治(朝倉書店)		
関連科目	D2「論理回路」、D3「電気数学」、D4「応用数学」及び「電子回路I」		
履修上の注意事項	D2「論理回路」、D3「電気数学」、D4「応用数学」及び「電子回路I」を理解すること。		

授業計画 1 (通信方式)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	通信方式とは, 通信方式の構成と要素	通信方式の構成と要素を理解し, 説明できる.
2	情報伝送速度と符号速度, 周波数スペクトルと電力スペクトル	情報量, 情報伝送速度と符号速度, デシベル表示, 周波数スペクトルと電力スペクトル, インピーダンス整合, 1オーム系を理解し, 説明できる.
3	ベースバンド伝送と搬送波伝送	ベースバンド伝送と搬送波伝送を理解し, 説明できる.
4	演習	通信方式の基本的事項についての演習を行う. 演習問題により各人の理解度を確認する.
5	振幅変調の原理	振幅変調の基本原理解について理解し, 説明できる.
6	乗積変調器および平衡変調器	乗積変調器および平衡変調器についての基本事項を理解し, 説明できる.
7	種々の振幅変調方式	DSB-AM, DSB-SC, SSB, VSB-AMなどの振幅変調方式を理解し, 説明できる.
8	中間試験	第1週 ~ 第7週までの講義内容について中間試験を行う.
9	中間試験の解説と乗積変調器の応用回路	中間試験の解答および解説を行う. 乗積変調器の応用回路について理解し, 説明できる.
10	直交変調方式, ヘテロダイン受信	直交変調, ヘテロダイン受信の原理を説明できる.
11	角度変調の原理	角度変調の原理, FMとPMの等価性を説明できる.
12	狭帯域および広帯域角度変調	角度変調の周波数帯域幅, 狭帯域および広帯域角度変調を理解し, 説明できる.
13	FM波, PM波の変調回路	FM波, PM波の変調回路を理解し, 説明できる.
14	FM波, PM波の復調回路	FM波, PM波の復調回路を理解し, 説明できる.
15	演習	アナログ通信方式についての演習を行う. 演習問題により各人の理解度を確認する.
16	定期試験の解説とデジタル通信方式の構成と特徴	定期試験の解答及び解説を行う. デジタル通信方式の基本的構成, 特徴, 再生中継回線を理解し, 説明できる.
17	PCM方式	PCM方式について理解し, 説明できる.
18	標本化および標本化定理	標本化および標本化定理について理解し, 説明できる.
19	PCMの符号化雑音	PCMの符号化雑音について理解し, 説明できる.
20	種々の符号化方式	DPCM, DM, ADPCM, ADMなどの符号化方式を理解し, 説明できる.
21	時分割多重化, フレーム同期およびスタッフ同期	時分割多重化における多重化フレームの構成, 多重化回路の動作と構成, 多重化分離回路の構成と動作, スタッフ同期を理解し, 説明できる.
22	基本的な伝送路符号および低周波遮断の影響	基本的な伝送路符号と低周波遮断の影響を理解し, 説明できる.
23	中間試験	第16週 ~ 第22週までの講義内容について中間試験を行う.
24	中間試験の解説と再生中継回線の構成と劣化要因	中間試験の解答及び解説を行う. 再生中継回線の構成と劣化要因, 符号間干渉, タイミング回路の構成と劣化要因について理解し, 説明できる.
25	搬送波デジタル伝送における各種変調方式	搬送波デジタル伝送におけるASK, PSK, QAM, FSKなどの変調方式と信号空間ダイアグラムを理解し, 各特性の比較と基本的な回線構成ができる.
26	符号誤り率の測定	符号誤り率の測定法を理解し, 説明できる.
27	雑音指数, 雑音温度および雑音帯域幅	熱雑音とショット雑音について理解し, 説明できる.
28	雑音指数, 雑音温度および雑音帯域幅	雑音指数, 雑音温度および雑音帯域幅について理解し, 説明できる.
29	中継増幅の効果, ガウス雑音	中継増幅の効果およびガウス雑音について理解し, 説明できる.
30	演習	デジタル通信方式及び各種雑音についての演習を行う. 演習問題により各人の理解度を確認する.
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科目	制御工学I (Control Engineering I)		
担当教員	道平 雅一 准教授		
対象学年等	電子工学科・4年・通年・必修・2単位 (学修単位III)		
学習・教育目標	A4-D3(100%)	JABEE基準1(1)	(d)1,(d)2-a,(d)2-d,(g)
授業の概要と方針	フィードバック制御系の基礎的事項の考え方やそれら相互間の理論的な一貫性を明らかにし、古典制御理論の体系を理解させる。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A4-D3】与えられた条件から状態方程式を求め、伝達関数を求めることができる。		状態方程式から伝達関数が求められることができるかを前期中間試験で評価する。
2	【A4-D3】伝達関数からブロック線図が示せ、これらから制御系の特徴を理解することができる。また、ブロック線図を簡略化することができる。		ブロック線図に関する理解度を前期中間試験で評価する。
3	【A4-D3】制御系の時間応答を理解し、その特徴が理解できる。		時間応答に関する理解度を前期定期試験で評価する。また、減衰係数による2次遅れ系の時間応答の違いに関する課題を与え、レポートを提出させその理解度を評価する。
4	【A4-D3】ボード線図を描くことができ、周波数応答やゲイン余裕等を求めることができる。また、ボード線図から伝達関数を求めることができる。		ボード線図に関する理解度を前期定期試験で評価する。
5	【A4-D3】各種安定判別法の違いを理解し、制御系の安定判別ができる。		各種安定判別法に関する理解度を後期中間試験で評価する。
6	【A4-D3】根軌跡を描くことができ、最適なゲインを決定することができる。また、補償法による効果を定量的に評価できる。		根軌跡に関する理解度を後期定期試験で評価する。
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験85%、レポート15%として評価する。試験の評価は、中間、定期の4回を平均したものの85%である。100点満点で、60点以上を合格とする。		
テキスト	「基礎制御工学」：近藤文治編，前田和夫・岩貞継夫・坪根治広共著（森北出版）		
参考書	「詳解 制御工学演習」：明石一，今井弘之 共著（共立出版）		
関連科目	応用数学，電気回路I，II，III，制御工学II		
履修上の注意事項	3年までの電気回路や物理，微分積分などの知識を必要とする場合があるので復習しておくこと。また，ラプラス変換の知識は重要であるのでしっかりと修得しておくこと。		

授業計画 1 (制御工学I)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	制御工学の概要	制御工学の古典制御理論と現代制御理論の体系を理解する。また、専門学科を問わず適用される制御工学の特徴を理解する。
2	ラプラス変換	伝達関数は、ラプラス変換された関数で議論されることのメリット等を理解する。また、微分方程式等で与えられる状態方程式をラプラス変換し伝達関数を求めることができる。
3	基本的要素と伝達関数1	一次遅れ系などの基本要素の伝達関数を求めることができる。
4	基本的要素と伝達関数2	複数の基本的要素が接続された場合においても、全体の伝達関数を求めることができる。
5	基本的要素と伝達関数3	与えられた条件から、状態方程式をたて伝達関数を求めることができる。
6	ブロック線図	ブロック線図の特徴を理解し、伝達関数からブロック線図を求めることができる。
7	ブロック線図の合成	各要素毎に示されているブロック線図を簡略化させ、全体の伝達関数を求めることができる。
8	中間試験	7回までの内容に対して中間試験を行なう。
9	中間試験解説	中間試験の解答を行なう。また、理解度によっては確認テストを実施する場合もある。
10	時間領域における応答1	制御系の応答には、時間応答と周波数応答の2つがあることを説明する。また、2次遅れ系の時間応答波形と伝達関数にどのような関係があるかを理解するとともに応答時間の定義についても理解する。
11	時間領域における応答2	2次遅れ系の伝達関数を逆ラプラス変換することにより時間応答の式を導出できる。減衰係数の違いによる応答の違いについてはレポートで提出する。
12	周波数領域における応答	周波数応答の考え方と周波数伝達関数と伝達関数の関連について説明する。周波数応答には、ベクトル軌跡とボード線図が代表的であることを理解する。
13	ベクトル軌跡	周波数伝達関数からベクトル軌跡を書くことができる。特に、1次遅れ系のベクトル軌跡と周波数伝達関数の関連を理解する。
14	ボード線図	ボード線図の特徴について説明する。また、1次遅れ系や1次進み系などの基本的な要素のボード線図が書けることができる。
15	ボード線図の合成	複数のボード線図が合成できることを説明する。ボード線図の合成ができるとともに、合成されたボード線図からその伝達関数を求めることができる。
16	前期定期試験の解説, 不安定現象と特性方程式	前期定期試験の解説。制御系のパラメータの設定等においては、不安定な状態を招くことがあること、特性方程式から不安定状態をある程度推察できることを説明する。
17	ラウスの安定判別	ラウスの安定判別法とその特徴を説明する。特性方程式からラウスの安定判別法で安定判別ができる。
18	フルビッツの安定判別	フルビッツの安定判別法とその特徴を説明する。特性方程式からフルビッツの安定判別法で安定判別ができる。
19	ナイキストの安定判別1	ナイキストの安定判別法とその特徴を説明する。特性方程式からナイキストの安定判別法で安定判別ができる。
20	ナイキストの安定判別2	ナイキストの安定判別では、ゲイン余裕が求めることができることを説明する。実際に安定判別と同時にゲイン余裕を求めることができる。
21	ゲイン余裕と位相余裕	ボード線図からも安定判別ができることを説明する。ボード線図を用いて安定判別でき、ゲイン余裕、位相余裕を求めることができる。
22	制御系と定常偏差	フィードバック制御系の偏差について説明する。これらを理解するとともにオフセットや定常速度偏差を求めることができる。
23	中間試験	16回から22回までの範囲について中間試験を行なう。
24	中間試験解説	中間試験の解答を行なう。
25	過渡特性の評価	定常特性以外にも過渡特性の評価が必要であることを説明する。行き過ぎ時間などがどのような数値になっているべきかを理解する。
26	制御系の評価と評価関数	制御系の評価には評価関数と呼ばれるものがあることを説明する。様々な評価関数を知り、それらの特徴を理解する。
27	制御系の設計とその基本量	速応性や安定性はトレードオフの関係にあることを説明し、この両立の重要性について説明する。速応性や安定性を決定するパラメータを理解し、その基本的な設定数値を理解する。
28	根軌跡法1	ゲインKの決定方法に根軌跡があることを説明する。与えられた伝達関数から根軌跡がかけられる。
29	根軌跡法2	描いた根軌跡から、条件に適合する最適なゲインを求めることができる。
30	直列補償	位相進み補償や位相遅れ補償などについて説明する。位相補償によってどのような効果が得られるかを定量的に評価できる。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	電子工学実験実習 (Laboratory Work in Electronic Engineering)		
担当教員	西 敬生 准教授, 橋本 好幸 教授, 藤本 健司 准教授, 長瀬宗二 非常勤講師		
対象学年等	電子工学科・4年・通年・必修・4単位(学修単位I)		
学習・教育目標	A4-D1(10%) A4-D2(10%) A4-D4(20%) B1(10%) C1(10%) C4(20%) D1(20%)	JABEE基準1(1)	(b),(d)1,(d)2-a,(d)2-b,(d)2-d,(e),(f),(g),(h)
授業の概要と方針	電子工学実験実習1～3年で習得した電子工学に関する基礎原理や測定技術, また, 座学を通じて修得した知識を活用し, より高度な実験技術を修得する。1クラスを4班に分け, 班単位で実験実習を行う。4班並列に異なる実験実習を行うため, 各班で実施する実験実習テーマの週は異なるが, 1年間で行う実験実習のテーマは同じである。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【B1】 実験内容を適切に文章で表現できる。		適切な文章表現で的確に実験報告書が作成できているかを実験報告書で評価する。
2	【C1】 実験結果を解析し適切に図・表で表現できる。		実験結果を解析し適切に図・表で表現できるかを, 実験報告書で評価する。
3	【C4】 グループで協調して実験実習に挑み, 期限内に実験報告書を提出できる。		実験への取り組みと達成度, また, 実験報告書が期限内に提出されているかどうかで評価する。
4	【D1】 機器の取り扱いに注意し, 安全に実験に取り組むことができる。		機器の取り扱いに注意し, 安全に実験に取り組むことができるかどうか, 実験への取り組みと達成度で評価する。
5	【A4-D1】 簡単なアナログ回路の動作原理が理解できる。また, 簡単なアナログ回路が設計できる。		簡単なアナログ回路の動作原理が理解できているか, また, 回路の設計ができるかを実験の取り組みと達成度および実験報告書で評価する。
6	【A4-D2】 pn接合とMOS構造の作製に用いられる技術や作製手順を, 経験をふまえて説明できる。		pn接合とMOS構造の作製に用いられる技術や作製手順を理解できているか, 実験の取り組みと達成度および実験報告書で評価する。
7	【A4-D4】 原始プログラムが目的プログラムに変換される仕組み, および簡単なCPUの動作する仕組みが理解できる。		少数命令セットをもつ仮想CPUのコンパイラを作成し, CPUの動作をソフトウェアシミュレートすることにより, 到達目標が達成できているか実験の取り組みと達成度および実験報告書で評価する。
8	【A4-D4】 各種サーバの仕組みを理解し, LANの構築を行うことができる。		各種サーバの仕組みを理解し, LANを構築できるか, 実験の取り組みと達成度および実験報告書で評価する。
9			
10			
総合評価	成績は, 実験報告書50%, 各テーマごとの取り組みおよび達成度50%として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。実験報告書が1通でも未提出の場合, または提出期限に遅れた実験報告書が8通以上ある場合は原則として不合格とする。なお, 詳細は配布する実験計画書と第1週目のガイダンスで説明する。		
テキスト	「電子工学科・第4学年実験実習シラバス(計画書)」: プリント 「電子工学科・第4学年実験実習指導書」: プリント 「電子工学科・安全の手引き」: プリント		
参考書	「知的な科学・技術文章の書き方」: 中島利勝, 塚本真也(コロナ社)		
関連科目	電子工学実験実習(本科5年), その他実験テーマの関連教科		
履修上の注意事項			

授業計画 1 (電子工学実験実習)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	ガイダンス, 安全教育, 実験テーマの概要説明	詳細な電子工学実験実習シラバス(実験実習計画書)を配布し, 評価方法, レポートの作成・提出方法, 班構成, 実施日などの説明をする. また, 当学年の安全に関する全般的な注意事項を説明する. その後, 各テーマの概要とテーマに關係する安全に対する注意事項の説明を行う.
2	コンパイラと計算機アーキテクチャ	コンパイラ1(字句解析)
3	コンパイラと計算機アーキテクチャ	コンパイラ2(構文解析1)
4	コンパイラと計算機アーキテクチャ	コンパイラ3(構文解析2)
5	コンパイラと計算機アーキテクチャ	コンパイラ4(中間コード生成・目的コード生成)
6	コンパイラと計算機アーキテクチャ	計算機アーキテクチャ1(マイクロプログラム)
7	コンパイラと計算機アーキテクチャ	計算機アーキテクチャ2(シミュレータとユーザインターフェース)
8	アナログ回路の設計	直流安定化電源の特性評価
9	アナログ回路の設計	増幅回路の実験
10	アナログ回路の設計	発振回路の実験
11	アナログ回路の設計	アクティブフィルタの実験
12	アナログ回路の設計	アナログ回路の応用
13	アナログ回路の設計	アナログ回路実験のまとめ
14	半導体加工技術と特性評価	MOS構造作製(シリコンの表面処理と酸化膜形成)
15	半導体加工技術と特性評価	MOS構造作製(フォトリソグラフィによる電極形成)
16	半導体加工技術と特性評価	MOS構造の特性評価(静電容量・電圧特性測定)
17	半導体加工技術と特性評価	pn接合作製(ボロン拡散工程, pn伝導形判定)
18	半導体加工技術と特性評価	pn接合作製(フォトリソグラフィと機械研磨)
19	半導体加工技術と特性評価	pn接合の特性評価(電流電圧特性の評価)
20	ネットワーク環境の構築	Linuxのインストール及び, 基本操作の習得
21	ネットワーク環境の構築	イントラネットの作成
22	ネットワーク環境の構築	ファイルサーバ, プリンタサーバ, FTPサーバの構築
23	ネットワーク環境の構築	WWWサーバの構築, 及び, ファイアウォールの設定
24	ネットワーク環境の構築	DNSサーバ, メールサーバの構築
25	ネットワーク環境の構築	LANの構築
26	特別実験	各担当教官が特別に準備した実験を行ったり, 企業から講師を招いて講演会を開催したり, 工場見学や電子産業に關連した内容のビデオ鑑賞を行う.
27	特別実験	26週と同じ
28	特別実験	26, 27週と同じ
29	特別実験	26, 27, 28週と同じ
30	まとめ	各大テーマごとに, 実験とレポートの講評を行う.
備考	中間試験および定期試験は実施しない. 上記は, 第1班の計画である. 第1班はA B C D, 第2班はB C D A, 第3班はC D A B, 第4班はD A B Cと大テーマを巡回する.	

科目	学外実習 (Practical Training in Factory)		
担当教員	長谷 芳樹 講師		
対象学年等	電子工学科・4年・前期・選択・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	C2(50%) D1(50%)	JABEE基準1(1)	(b),(d)2-a,(d)2-b,(d)2-c,(e),(g)
授業の概要と方針	企業またはその他の受け入れ機関で業務の一部を実際に経験することによって、技術者に必要な人間性を養うとともに、工学技術が社会や自然に与える影響に関する理解を深める。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C2】 実習機関の業務内容を理解し、実習先での具体的な到達目標を達成する。		実習機関の業務内容に対する理解度および実習先での具体的な到達目標の達成度を実習証明書と実習報告書で評価する。
2	【D1】 実習を通じて工学技術が社会や自然に与える影響に関する理解を深める。		実習を通じて工学技術が社会や自然に与える影響に関する理解を深めたことを実習報告書と実習報告会で評価する。
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	実習証明書、実習報告書および実習報告会の内容により単位を認定する。		
テキスト	なし		
参考書	なし		
関連科目	電子工学実験実習、卒業研究		
履修上の注意事項	実習機関に受け入れを依頼して実施する科目なので、節度を持って行動するとともに、健康管理、安全管理に留意して真剣に取り組むこと。		

授業計画 1 (学外実習)

内容(テーマ, 目標, 準備など)

1) 自分の希望する実習先を検討する。(職種, 場所, 実習時期など)2) 実習先の調査と決定. 3) 実習先が決まれば, 必要な手続きを行う。(実習先により異なるため, ケースバイケース)4) 夏季休業中に実習先にて, 実習を行う. 期間中は, 実習先の指示に従うこと. 5) 夏季休業終了後, 実習報告書の提出および, 実習報告会にて実習内容の報告を行う.

備
考

中間試験および定期試験は実施しない. 学外実習を希望していても, 受け入れ先が無い場合には, 辞退となる.

科目	電子回路II (Electronic Circuit II)		
担当教員	小矢 美晴 准教授		
対象学年等	電子工学科・5年・通年・必修・2単位 (学修単位III)		
学習・教育目標	A4-D1(100%)	JABEE基準1(1)	(d)1,(d)2-a,(d)2-d,(g)
授業の概要と方針	エレクトロニクスの技術革新は広範かつ急速である。しかし基礎となるべきことを十分理解しておくことにより、新しい素子・回路・技術に対処することが可能である。本教科では電子回路Iに引き続き、電子回路の基本的な考え方と設計手法を身につけさせる。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A4-D1】 直流電流源回路が理解でき、基本的な設計ができる。		直流電流源回路が理解できており、基本的な設計ができることを前期中間試験で評価する。
2	【A4-D1】 差動増幅回路が理解でき、基本的な設計ができる。		差動増幅回路が理解できており、基本的な設計ができることを前期中間試験で評価する。
3	【A4-D1】 A級電力増幅回路、B級電力増幅回路について理解できる。		A級電力増幅回路、B級電力増幅回路について理解しているかを前期定期試験で評価する。
4	【A4-D1】 演算増幅器を用いた演算回路の設計ができる。		演算増幅器を用いた演算回路の設計ができるかを前期定期試験で評価する。
5	【A4-D1】 発振回路の発振条件を導出できる。		発振回路の発振条件を導出できるかを後期中間試験で評価する。
6	【A4-D1】 振幅変調回路と復調回路の動作原理が理解できる。		振幅変調回路と復調回路の動作原理が理解できるかを後期定期試験で評価する。
7	【A4-D1】 周波数変調回路と復調回路の動作原理が理解できる。		周波数変調回路と復調回路の動作原理が理解できるかを後期定期試験で評価する。
8	【A4-D1】 直流安定化電源の動作原理が理解できる。		直流安定化電源の動作原理が理解できるかを後期定期試験で評価する。
9			
10			
総合評価	成績は、試験100%として評価する。なお、試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「アナログ電子回路」大類重範(日本理工出版会)		
参考書	「演習 電子回路」桜庭一郎、佐々木正規(森北出版) 「テーマ別 電子回路例題と演習」島田一雄、南任靖雄(工学図書) 「アナログ電子回路」藤井信生(昭晃堂)		
関連科目	電気回路I, 電気回路II, 電子デバイス, 電子回路I		
履修上の注意事項	電気回路I, 電気回路II, 電子デバイス, 電子回路Iの内容を修得していることを前提とする。		

授業計画 1 (電子回路II)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	電力増幅回路(1)	トランジスタの代表的な大信号増幅回路であるA級電力増幅回路がある。
2	電力増幅回路(2)	大信号増幅回路にはB級プッシュプル電力増幅回路もある。B級プッシュプル電力増幅回路は電力効率は良いがクロスオーバーひずみが生じる。
3	LC並列共振回路	特定の周波数のみを増幅する回路
4	単同調増幅回路	1組の共振回路を負荷にもつ周波数選択増幅回路
5	複同調増幅回路	2組の共振回路を負荷にもつ周波数選択増幅回路
6	差動増幅回路	差動増幅回路は特性のそろった二個のトランジスタのエミッタを結合した増幅回路であり、大容量のコンデンサを使用することなく直流から信号を増幅できるという特徴がある。
7	理想演算増幅器とその等価回路	演算増幅器は別名オペアンプとも呼ばれ、入力インピーダンスと差動利得が非常に大きい差動増幅回路である。理想演算増幅器はナレタ・ノレタモデルで表現できる。
8	中間試験	(中間試験を実施する)
9	中間試験の返却と解説, 演算増幅器の二次的パラメータ	演算増幅器の二次的パラメータとしてはオフセットやスルーレートがある。
10	演算増幅器の基本回路(前半)	演算増幅器の基本回路には反転増幅回路と非反転増幅回路がある。
11	演算増幅器の基本回路(後半)	演算増幅器を用いた増幅回路の利得と帯域幅には積が一定という関係がある。
12	演算増幅器の線形演算回路への応用	演算増幅器を用いることにより、加算、減算、積分などの線形演算を実行する回路を容易に実現できる。
13	演算増幅器の非線形演算回路への応用	演算増幅器を用いることにより、対数変換、指数変換、波形変換などの非線形演算を実行する回路を実現できる。
14	発振回路の発振条件	発振回路は正帰還回路のループ利得を1以上にすれば得られる。この条件は発振周波数を決定する周波数条件と、その周波数で実際に発振現象が起こるかどうかが決定する電力条件に分けることができる。
15	低周波RC発振回路	低周波発振回路の帰還回路はRとCで実現されることが多い。代表的な回路としてウィーンブリッジ発振回路、RC移相形発振回路などがある。
16	定期試験の返却と解説, 高周波LC発振回路(前半)	高周波発振回路の帰還回路はLとCで実現されることが多い。
17	高周波LC発振回路(後半), 水晶発振回路	高周波発振回路の代表例として、同調形発振回路、コルピッツ発振回路、ハートレー発振回路、水晶発振回路などがある。
18	電圧制御発振回路とPLL	電圧で周波数を制御できる発振回路を電圧制御発振回路と呼ぶ。また、PLLは位相同期ループとも呼ばれ、発振器の発振周波数を基準周波数に一致させる回路である。PLLの応用として周波数シンセサイザがある。
19	振幅変調と振幅変調回路	情報を正弦波の振幅に乗せる変調を振幅変調と呼ぶ。振幅変調の深さを表す指標として変調度がある。振幅変調を行う回路には平衡変調回路やトランジスタの非線形性による振幅変調回路がある。
20	振幅変調波の復調回路	振幅変調波の復調回路には包絡線検波回路やPLLによる振幅変調回路がある。
21	周波数変調と周波数変調回路	情報を正弦波の周波数に乗せる変調を周波数変調と呼ぶ。周波数変調の深さを表す指標として変調指数がある。周波数変調を行う回路にはリアクタンストランジスタによる周波数変調回路や可変容量ダイオードによる周波数変調回路がある。
22	周波数変調波の復調回路	周波数変調波の復調回路にはスロープ検波回路、ピークディファレンシャル検波回路、クワッドラチャ検波回路、PLLによる復調回路などがある。
23	中間試験	(中間試験を実施する)
24	中間試験の返却と解説, 整流	交流を直流に変換する回路を整流回路と呼ぶ。通常の整流回路は電源変圧器、整流器、平滑回路からなる。整流回路の重要な性能として、脈動率、電圧変動率、整流効率がある。
25	単相半端整流回路, 単相全波整流回路	単相半波整流回路は簡単な構成で実現されるが、整流効率が低く、脈動率も悪い。単相全波整流回路はやや複雑な構成となるが、整流効率、脈動率ともにすぐれている。
26	倍電圧整流回路	倍電圧整流回路は整流器を通じてコンデンサを充電することによって交流電圧の振幅よりも高い直流電圧を取り出すことができる。その変形としてコッククロフトの回路がある。
27	平滑回路とその解析(前半)	整流器の出力には脈動分が含まれるが、これを除去するために使われる回路を平滑回路と呼ぶ。平滑回路を含めた整流回路の解析は整流素子の非線形性のため難しい。そこで適当な近似を用いて解析を行う。もっとも簡単な平滑回路としてコンデンサフィルタとインダクタンスフィルタがある。
28	平滑回路とその解析(後半)	コンデンサフィルタとインダクタンスフィルタを組み合わせた平滑回路としてLCフィルタがある。
29	直流安定化電源回路	負荷にかかる直流電圧あるいは電流は整流回路の入力交流電圧、負荷の変動によって変化する。精密な電子回路の直流電源としては常に一定の直流電圧あるいは直流電流を取り出せることが必要であり、そのためにいろいろな定電圧回路・定電流回路が用いられる。
30	総合演習	総合的な演習を行う。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	情報通信ネットワーク (Data Communications and Computer Networks)		
担当教員	藤本 健司 准教授		
対象学年等	電子工学科・5年・通年・必修・2単位 (学修単位III)		
学習・教育目標	A4-D4(100%)	JABEE基準1(1)	(d)1,(d)2-a,(d)2-d,(g)
授業の概要と方針	前期は、ローカルエリアネットワークの構築、管理、運営に必要な基本技術についてTCP/IPプロトコルを中心に解説する。後期は、ネットワークに関する基礎内容に引き続き、ネットワークを構築するための基本的な知識や技術を学習する。特に本講義では、ルータの機能や、その設定方法について実習を交えながら詳細に学習する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A4-D4】 TCP/IP通信に関する基礎用語の説明ができる。		TCP/IP通信に関する基礎的な用語を説明できるかどうか、中間試験を行い評価する。
2	【A4-D4】 2進数, 16進数, 10進数の変換ができる。		各種変換が行えるかどうか中間試験を行い、評価する。
3	【A4-D4】 TCP/IP通信の仕組みが説明できる。		現在のネットワークの主流であるTCP/IP通信の仕組みについて理解できているかどうか定期試験を行い評価する。
4	【A4-D4】 IPアドレスのクラス分けとサブネットの作成ができる。		クラスフルアドレッシングやネットワークのセグメント化に関して理解できているかどうか、演習課題及び定期試験を行い評価する。
5	【A4-D4】 OSI 各層について詳しく説明することができる。		OSI各層の働きについて理解できているかどうか、中間試験にて評価を行う。
6	【A4-D4】 クラスB程度のネットワークに対して適切にIPアドレスの割り振りを行える。		サブネットの概念が理解でき、クラスB程度のネットワークに対して適切なIPの割り当てができるか演習課題及び定期試験にて評価を行う。
7	【A4-D4】 ルータについて(WAN 機器としての役割を含め)簡単に説明することができる。		ルータについてその役割を理解しているか、中間試験にて評価を行う。
8	【A4-D4】 ルータコンポーネントの各機能を理解し、その基本設定を行うことができる。		ルータコンポーネントの各機能が理解でき、基本設定を問題なく行えるかどうか、演習課題及び、定期試験により評価する。
9	【A4-D4】 ルーティング・プロトコルについて理解し、その基本設定を行うことができる。		ルーティングに用いられるプロトコルが理解できているかどうか、また、基本設定を行えるかどうか、演習課題及び、定期試験により評価する。
10			
総合評価	成績は、試験85%、演習課題15%として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。なお、試験成績の最終成績は、中間試験と定期試験の単純平均とする。		
テキスト	Web教材 プリント		
参考書	ネットワークシステム構成論(岩崎 一彦著, コロナ社) インターネットワーキング技術ハンドブック第3版(シスコシステムズ著, ソフトバンク) 「CCNA認定ガイド 第4版」: Todd Lammle著 生田りえ子/井早 優子訳(日経BP社)		
関連科目	通信工学		
履修上の注意事項			

授業計画1 (情報通信ネットワーク)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	基本的なネットワーキング	交通や郵便, そして情報など, いろいろな例をあげネットワークの定義を説明し, ネットワークの概念を学習する.
2	OSI参照モデル	ネットワークの基本モデルでもあるOSI参照モデルについて, その成り立ちや機能について学習する.
3	ローカルエリアネットワークの概要	一般的なローカルエリアネットワークの定義やそれに伴ってWANやMANについても説明を行う.
4	レイヤ1: 信号と回線	レイヤ1における, 信号の種類やメディアの種類について学習する. また, 帯域幅の計算などを行う.
5	リピータ・ハブ, ネットワークトポロジ	レイヤ1のネットワーキングデバイスであるリピータやハブの働きについて学習する. また, ネットワークを構成する上で必要となるネットワークトポロジの概念やその構成について説明を行う.
6	レイヤ2アドレッシング	レイヤ2でMACアドレスをもちいたアドレス制御方式について学習する. IEEEを例に挙げ, MAC副層, LLC副層に関する動作や機能について説明する.
7	レイヤ2で使用される規格及び機器	IEEEに代表されるようなIEEE802.3, IEEE802.5, IEEE802.2などの規格について説明し, イーサネットなどとの違いを学習する. また, レイヤ2の機器としてスイッチとブリッジについて学習する.
8	中間試験	1~7回目までの範囲において中間試験を実施する.
9	レイヤ3: インターネットプロトコル	インターネットプロトコルがどのように使用されているのか, また, 割り振られているのかということや, 実際の通信の仕組みについて学習を行う.
10	レイヤ3: ルーティングとルータ	ルータが最適経路の選択を行う原理について学習する. また, ルータの詳しい働きについて学習する.
11	TCP	OSI参照モデルではレイヤ4にあたる部分であり, スリーハンドシェイクなど, 信頼性の高い通信を行う仕組みについて学習する.
12	UDP	現在最も使用されているUDPについて, 信頼性の問題やその他の問題点や利点, 及び仕組みについて学習する.
13	レイヤ5: セッション層	セッション層の主な働きについて学習する.
14	レイヤ6: プレゼンテーション層	プレゼンテーション層の主な働きについて学習する.
15	レイヤ7: アプリケーション層	アプリケーション層の主な働きについて学習する.
16	復習	前期分で学習したOSI参照モデル, LAN, IPアドレッシングに関する概念について復習を行う.
17	WANとルータ	IOS(Cisco Internetwork Operating System)を扱う前段階として, WANの機器, テクノロジー, 規格について学習する. さらに, WAN上のルータの機能についても学習する.
18	ルータCLI	userコマンドや, enableコマンドdisableコマンドなどCisco CLI (コマンド行インターフェイス)を用いてルータを操作して, ルータのあるネットワーク上でデータを配送する方法を学ぶ.
19	ルータのコンポーネント	ネットワーク上のデータの配送を効率的で効果的にするルータのコンポーネントについて学習する. ここでは, 特に, ルータにアクセスする正しい手順とコマンドを学習し, ネットワークの接続性についてテストを行う.
20	ルータの起動と設定	ルータの起動手順と, 初期設定ファイルの作成時に使うセットアップ・ダイアログについて学習する.
21	ルータの設定1	第5回目に続き, ルータ・モードと設定方法を使って, Cisco インターネットワーク・オペレーティング・システム (IOS) の現在と以前のバージョンでのルータの設定ファイルを更新する方法を学習する.
22	IOS	ここでは, IOSの設定方法などについて学習を行う. また実際に演習を行い, 各種オプションなどについて学ぶ.
23	中間試験	第15~22回目までの内容について中間試験を行う.
24	ルータの設定2(演習)	シミュレータを使用してルータの設定を繰り返し行い, ルータの設定を行えるようにする.
25	ルータの設定3(演習)	第24回目の続き.
26	IPアドレッシング	ここでは, IPアドレスのクラス, ネットワーク・アドレス, ノード・アドレス, サブネット・マスクの詳細について学習し, 実際のIPアドレスの割り当て方について説明を行う.
27	ルーティング	Open System Interconnection (OSI; 開放型システム間相互接続)参照モデルのネットワーク層であるレイヤ3の主なインターネットワーキング機能を実行する際に, ルータがどのように使われ, 動作するかを説明する.
28	ルーティングプロトコル	Routing Information Protocol (RIP; ルーティング情報プロトコル)と Interior Gateway Routing Protocol (IGRP; 内部ゲートウェイ・ルーティング・プロトコル)を有効にするルータの初期設定について学習する.
29	演習1	トラブルシューティングをはじめ, シミュレータを使用してルーティングを行う.
30	演習2	第29回目と同じ.
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する.	

科目	情報理論 (Information Theory)		
担当教員	秋吉 一郎 非常勤講師		
対象学年等	電子工学科・5年・通年・必修・2単位 (学修単位III)		
学習・教育目標	A3(100%)	JABEE基準1(1)	(c),(d)1
授業の概要と方針	情報理論は情報通信に関わる重要な基礎理論であり、その理解には難しい数学の理論についての知識が要求される。本授業では、理論部分を分かりやすく解説することに努め、学生が情報理論の本質を理解できることを目標とする。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A3】 予備知識としてのコンピュータやインターネットのしくみを理解できる。		コンピュータ、及びTCP/IPプロトコル、Unixオペレーティングシステム、LANなどのインターネットにおける情報通信の基盤技術についてが理解できているか、演習等で評価する。
2	【A3】 予備知識としての情報理論に関係する確率について理解できる。		簡単な通信路モデルに対して、条件付確率とベイズの定理などを適用して確率の計算ができるか、中間試験等で評価する。
3	【A3】 情報、情報源、通信モデルを理解した上で、情報の大きさを計算できる。		1つの情報が持つ情報量、及び情報源が持つ情報量であるエントロピー（平均情報量）の意味と計算方法が理解できているか、定期試験等で評価する。
4	【A3】 符号化の意義を理解した上で、基本的な符号化の方法とその効果を評価できる。		情報源符号化の意味を理解した上で、与えられた情報源に対して具体的な符号化を行って符号の効率を評価できるか、中間試験と演習等で評価する。
5	【A3】 データ圧縮、誤り訂正などの情報通信の効率と信頼性を実現するための技術を通じて、インターネットをはじめとする実社会における情報理論の意義を理解できる。		通信路符号化の意味を理解した上で、通信の信頼性を向上させるための方法について理解できているか、定期試験等で評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験85%、演習15%として評価する。100点満点で60点以上を合格とする。なお、試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする。		
テキスト	プリント		
参考書	「情報理論」：三木成彦、吉川英機著（コロナ社）		
関連科目	情報基礎		
履修上の注意事項			

授業計画 1 (情報理論)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	コンピュータと情報理論	ノイマン型コンピュータのしくみを再確認するとともに、現在のコンピュータにシャノンの情報理論が果たしてきた役割について概説する。
2	コンピュータ・ネットワークと情報理論	コンピュータ・ネットワークデータが通信システムから情報通信ネットワークへ発展してきた中で、情報理論が果たしてきた役割について概説する。
3	インターネット概説	TCP/IPプロトコル, Unixオペレーティングシステム, LANに代表される、インターネットにおける情報通信の基盤技術について概説する。
4	インターネットと情報理論	マルチメディア情報のデータ圧縮, 誤り訂正などを取り上げ、インターネットにおいて情報理論が果たす役割について概説する。
5	情報通信システムモデル	情報の発信, 通信, 受信からなる基本的な通信システム, 及び符号化と復号化を中心として、学問的な見地から情報理論が目指すところを概説する。
6	確率論の基礎(1)	条件付確率とベイズの定理など、情報理論に関係の深い確率論の基礎について解説する。
7	確率論の基礎(2)	確率変数と確率分布, マルコフ過程など、情報理論に関係の深い確率論の基礎について解説する。
8	中間試験	1週目から7週目までの授業内容に関して試験を行う。
9	通信モデルへの確率論の適用	誤りのある通信システムモデルにおいて、受信側で予想される送信情報, 及び送信側で予想される受信情報について確率計算する。通信モデルへの確率論の適用について理解する。
10	情報の表現	情報の定量的な表現である情報量, 特に確率との関連性, 情報源の表現, および各種の情報源について理解する。
11	エントロピー(平均情報量)	1つの情報ではなく、複数の情報を含む情報源に内在する情報量であるエントロピー(平均情報量)の意味と計算方法を理解する。
12	冗長度	情報源から発生する情報の生起確率の偏りによる冗長度について理解する。
13	エントロピー(平均情報量)に関する定理	定理として、2つの異なる情報源に注目したとき、両者の平均情報量の間に大小関係が存在する。本定理の意味、及び成立する理由を理解する。
14	結合事象と結合エントロピー	2つ、あるいはそれ以上の情報源に注目すると、情報源の間に関連性が存在することもある。各情報源の結合事象を持つ情報源を新たな結合情報源とする結合エントロピーについて理解する。
15	条件付事象と条件付エントロピー	2つ、あるいはそれ以上の情報源に注目すると、1つの情報源である情報が生起したことを条件として、他の情報源で生起する情報に傾向(条件付確率)が存在することもある。各情報源の条件付事象を持つ情報源を、新たな条件付情報源とする条件付結合エントロピーについて理解する。
16	相互情報量	2つ、あるいはそれ以上の情報源があるとき、ある情報源の情報について、他方から一部の情報が得られることがある。他方の情報源から得られる平均的な情報量である相互情報量について理解する。
17	マルコフ情報源におけるエントロピー	相互情報量の発展形で、過去に生起した情報に影響される情報源がマルコフ情報源である。このマルコフ情報源におけるエントロピー(平均情報量)について理解する。
18	情報源符号化	伝送誤りの無い通信路モデルを対象とする符号化である情報源符号化を取り上げ、符号化に求められる要件、及び定理などについて理解する。
19	符号に望まれる要件	基本的には、符号化された送信側の情報は、受信側では受信直後に瞬時に、また一意に元の情報に復元されることが要求されることを理解する。またこの要件を満たすためのツールの1つであるクラフトの不等式についても理解する。
20	平均符号長とクラフトの不等式	符号化方法を評価するための1つの尺度である平均符号長について学ぶ。有効な符号化を行うため、クラフトの不等式を満足する符号語の平均符号長に関する定理を理解する。
21	シャノン符号	具体的な符号化の方法としてシャノン符号の方法を学び、平均符号長を計算する。
22	ハフマン符号	具体的な符号化の方法としてハフマン符号の方法を学び、シャノン符号とハフマン符号による平均符号長を比較する。
23	中間試験	16週目から22週目までの授業内容に関して試験を行う。
24	ハフマン符号の原理	ハフマン符号の原理について概説し、ハフマン符号の有効性を理解する。
25	拡大情報源とハフマン符号化	エントロピーHの情報源をn次拡大した情報源では、エントロピーがn倍となることを学ぶ。また、n次拡大情報源に対してハフマン符号化を行った場合には、さらに効率の良い符号化となることを理解する。
26	ランレングス符号	世の中には、ある特定の情報が連続して生じやすいような情報源がある。このような情報源においては生起する情報を1つずつ符号化して伝送するよりも、情報の連続数(ランレングス)を符号化した方が効率が良い。この符号化方法であるランレングス符号とその性質について理解する。
27	ランレングスハフマン符号	ランレングス符号化とハフマン符号化を併用することで、さらに効率の良い符号化となることを理解する。
28	通信路符号化	これまで学んだ情報源符号化は誤りの無い通信路モデルを対象とした符号化であったのに対し、ここでは誤りのある通信路モデルを対象とする通信路符号化について学ぶ。一般に冗長を付加することで誤りに対して強くなることを理解する。
29	誤りのある通信路モデルにおける情報量	誤りのある通信路モデルを具体的に与え、誤り率と受信側で得られる相互情報量の関係を理解する。また通信の信頼性を向上させるための方法についても理解する。
30	各種の情報源と符号化方法の性質	これまでに学んできた各種の情報源の性質、並びに符号化方法の性質について再確認する。
備考	前期, 後期ともに中間試験および定期試験を実施する。	

科目	制御工学II (Control Engineering II)		
担当教員	笠井 正三郎 教授		
対象学年等	電子工学科・5年・前期・必修・2単位(学修単位II)		
学習・教育目標	A4-D3(100%)	JABEE基準1(1)	(d)1,(d)2-a,(d)2-d,(g)
授業の概要と方針	4年次の制御工学Iを基礎とし、状態方程式に基づくシステムの表現、制御系の設計、評価方法を講義する。また、実際にコンピュータを用いて制御を行う場合に必要となるデジタル制御についても講義する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A4-D3】古典制御と現代制御の違いを説明できるようになる。		それぞれの特徴を理解できているか、前期中間試験により評価する。
2	【A4-D3】単純な連続系システムのモデル化ができ、状態方程式による線形システムの記述が出来るようになる。		電気回路、物体の運動などを例として、レポート及び、前期中間試験により評価する。
3	【A4-D3】可制御性、可観測性の意味を理解し、与えられ線形システムに対して、可制御、可観測の評価が出来るようになる。		簡単な状態方程式を例として、可制御性・可観測性の判定をレポート及び、前期中間試験により評価する。
4	【A4-D3】連続系線形システムにおいて、安定性について説明ができるようになる。		安定であるということがどういうことか、またその判定をどう行なうかなどについて、前期中間試験により評価する。
5	【A4-D3】連続系線形システムにおいて、状態フィードバック制御のコントローラを設計できるようになる。		幾つかの制御方法について制御器の設計が出来るか、前期中間試験により評価する。
6	【A4-D3】離散時間信号を数学的に表現する方法(Z変換)を学び、実際に簡単な離散信号をZ変換を用いて表現できるようになる。		代表的な関数についてZ変換を求めることができるか、レポート及び、前期定期試験により評価する。
7	【A4-D3】パルス伝達関数を求めることが出来るようになる。		簡単なシステムを例として、パルス伝達関数を求められるか、前期定期試験により評価する。
8	【A4-D3】離散時間系システムでの安定性について学び、離散系での安定条件を説明できるようになる。また、双一次変換による連続系へ変換して連続系での判定基準により安定判別ができるようになる。		簡単な離散系システムを例として安定判別できるか、前期定期試験により評価する。
9	【A4-D3】有限整定応答について説明できるようになり、簡単なシステムに対して有限整定応答となる制御器を求めることができる。		基本的な入力信号に対して、有限整定応答となるシステムの閉ループパルス伝達関数を求めることが出来るか、また、さらに与えられたシステムに対して制御器が設計できるか前期定期試験により評価する。
10			
総合評価	成績は、試験80%、レポート20%として評価する。試験成績は中間試験と定期試験の単純平均とする。試験が悪い場合は、再試験を行なうことがあるが、その場合は80点満点とする。総合評価は100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「制御工学 下 - 現代制御理論の基礎 - 」：深海登世司・藤巻忠雄 監修(東京電機大学出版局)		
参考書	「システム制御工学シリーズ4 線形システム制御入門」：梶原宏之著(コロナ社) 「システム制御工学シリーズ5 デジタル制御入門」：萩原朋道著(コロナ社) 「自動制御」：伊藤正美著(丸善) 「システム制御の講義と演習」：中溝高好・小林伸明共著(日新出版)		
関連科目	D4「制御工学I」、D3「電気数学」		
履修上の注意事項	本講義では、4年次で学習する制御工学IIに加えて、線形代数(行列など)の知識が必要となるので、十分復習しておくこと。本講義は、15週で2単位となる「学修単位II」の科目であるので、具体的な演習は自学自習に負うこととなる。各自、予習復習演習をしっかりと行うこと。		

科目	電子工学実験実習 (Laboratory Work in Electronic Engineering)		
担当教員	小矢 美晴 准教授, 笠井 正三郎 教授, 戸崎 哲也 准教授, 長谷 芳樹 講師		
対象学年等	電子工学科・5年・通年・必修・4単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-D3(20%) A4-D4(20%) B1(10%) C1(10%) C4(20%) D1(20%)	JABEE基準1(1)	(b),(d)1,(d)2-a,(d)2-b,(d)2-d,(e),(f),(g),(h)
授業の概要と方針	座学を通じて修得した知識を確認するとともに, 実験原理・方法を修得する。6週連続を1サイクルとし, A, B, C, Dの4つの大テーマについて4班が1年をかけて巡回していく。班分けは出席番号順で等分することにより行う。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A4-D3】シーケンス制御の基本的な構成とプログラムが理解できる。		シーケンス制御の基本的な構成とプログラムが理解できるかを取り組みと達成度及び報告書(レポート)の内容で評価する。
2	【A4-D3】センサー, コントローラ, 駆動系を構成要素とする制御システムを構成できる。		センサー, コントローラ, 駆動系を構成要素とする制御システムを構成できるかを取り組みと達成度及び報告書(レポート)の内容で評価する。
3	【A4-D3】オブジェクト指向プログラムを理解し, 各種センサと運動してAIBOの行動を制御することができる。また, それらについて説明することができる。		オブジェクト指向型を理解し, AIBOの運動制御をプログラミングによって行うことができるかを取り組みと達成度及び報告書(レポート)の内容で評価する。
4	【A4-D4】AM変調及び復調の原理が理解できる。また, ワイヤレスマイクを設計・製作し, FM変調の原理が理解できる。		AM変調波の波形・スペクトルを観測できるか, またワイヤレスマイクを設計し, 発振させることでFM変調の原理を理解できるかを取り組みと達成度及び報告書(レポート)の内容で評価する。
5	【A4-D4】VHDLによる設計の特徴と基本的な流れ, 技術について説明できる。		VHDLによる設計の特徴と基本的な流れ, 技術について理解できているかを取り組みと達成度及び報告書(レポート)の内容で評価する。
6	【A4-D4】自ら考案したデジタル回路をVHDLで設計し, その結果について発表できる。		自ら考案したデジタル回路をVHDLで設計し, その結果について発表できるかを取り組みと達成度及び報告書(レポート)の内容で評価する。
7	【B1】適切な文章表現で的確に実験報告書が作成できる。		各テーマの報告書(レポート)の内容で評価する。
8	【C1】4年生以下で学んだ工学的基礎知識を応用して課題に取り組み, 結果を分析することができる。		各テーマの報告書(レポート)の内容で評価する。
9	【C4】グループで協調して実験実習に挑み, 期限内に実験報告書を提出できる。		各テーマの報告書(レポート)の提出状況で評価する。
10	【D1】機器の取り扱いに注意し, 安全に実験に取り組むことができる。		各テーマの取組みで評価する。
総合評価	成績は, 取り組み及び達成度50%, 報告書(レポート)の内容および提出状況50%として評価する。1通でも未提出レポートがあるとき, またはレポート遅れが5通以上のときは, 原則として年間総合評価は不可となる。詳細は第1週目のガイダンスで説明する。100点満点の60点以上で合格とする。		
テキスト	「電子工学科・第5学年実験実習シラバス(計画書)」: プリント 「電子工学科・第5学年実験実習指導書」: プリント 「電子工学科・安全の手引き」: プリント		
参考書	「知的な科学・技術文章の書き方」: 中島利勝, 塚本真也(コロナ社)		
関連科目	電子工学実験実習(本科4年), その他実験テーマの関連教科		
履修上の注意事項			

授業計画 1 (電子工学実験実習)		
週	テーマ	内容(目標, 準備など)
1	ガイダンス, 安全教育, 実験テーマの概要説明	詳細な電子工学実験実習シラバス(実験実習計画書)を配布し, 評価方法, レポートの作成・提出方法・提出遅れの扱い, 遅刻・欠席の扱い, 班構成, 実施日などの説明をする。また, 当学年の安全に関する全般的な注意事項を説明する。その後, 各テーマの概要とテーマに関係する安全に対する注意事項の説明を行う。
2	VHDLによるデジタル回路の設計(1)	QuartusIIによるFPGA開発の手順と基本操作
3	VHDLによるデジタル回路の設計(2)	VHDLによる論理回路設計の基本
4	VHDLによるデジタル回路の設計(3)	VHDLによる論理回路設計と自由課題
5	VHDLによるデジタル回路の設計(4)	自由課題
6	VHDLによるデジタル回路の設計(5)	自由課題とプレゼンテーション準備
7	VHDLによるデジタル回路の設計(6)	プレゼンテーション
8	AM信号とFM信号に関する実験(1)	AM変調信号の波形とスペクトル観測
9	AM信号とFM信号に関する実験(2)	AM復調信号の回路設計と波形観測
10	AM信号とFM信号に関する実験(3)	ワイヤレスマイク設計のための特性実験
11	AM信号とFM信号に関する実験(4)	ワイヤレスマイクの設計
12	AM信号とFM信号に関する実験(5)	ワイヤレスマイクの設計
13	AM信号とFM信号に関する実験(6)	プレゼンテーション
14	計測制御に関する実験(1)	ラダー図入力によるシーケンス制御の基礎
15	計測制御に関する実験(2)	PLCを用いたシーケンス制御の基礎
16	計測制御に関する実験(3)	センサと搬送装置を用いたシーケンス制御の応用
17	計測制御に関する実験(4)	ライントレーサ(車輪型ロボット)の基礎
18	計測制御に関する実験(5)	ライントレーサ(車輪型ロボット)の応用
19	計測制御に関する実験(6)	プレゼンテーション
20	ロボットの動作制御と映像処理(1)	AIBOの姿勢制御
21	ロボットの動作制御と映像処理(2)	AIBOの動作制御
22	ロボットの動作制御と映像処理(3)	AIBOの各種センサーの取り扱い
23	ロボットの動作制御と映像処理(4)	音声処理, 映像処理の扱い方
24	ロボットの動作制御と映像処理(5)	自由課題
25	ロボットの動作制御と映像処理(6)	プレゼンテーション
26	工場見学	近隣の工場を見学に行き, 実際の仕事の様子を見ることにより見聞を広げる。
27	担当教官による個別実験(1)	テーマAの教官による個別実験あるいは実験総評
28	担当教官による個別実験(2)	テーマBの教官による個別実験あるいは実験総評
29	担当教官による個別実験(3)	テーマCの教官による個別実験あるいは実験総評
30	担当教官による個別実験(4)	テーマDの教官による個別実験あるいは実験総評
備考	中間試験および定期試験は実施しない。第1班はA B C D, 第2班はB C D A, 第3班はC D A B, 第4班はD A B Cと大テーマを巡回する。ここには, 第1班の計画を示す。	

科目	卒業研究 (Graduation Thesis)		
担当教員	講義科目担当教員		
対象学年等	電子工学科・5年・通年・必修・9単位(学修単位I)		
学習・教育目標	B1(20%) B2(10%) C2(70%)	JABEE基準1(1)	(d)2-a,(d)2-b,(d)2-c,(e),(f),(g)
授業の概要と方針	特定のテーマを設定し、授業等で修得した知識と技術を総合して自主的かつ計画的に指導教官のもとで研究を行う。研究を通じて、問題への接近の方法を理解し、文献調査や実験、理論的な考察などの問題解決の手順を修得して、総合力およびデザイン能力を高める。また、研究成果を口頭で発表し論文にまとめることでコミュニケーション能力を身につける。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【C2】研究活動：研究テーマの背景と目標を的確に把握し、十分な準備活動を行い、指導教官、共同研究者と連携しながら自主的に研究を遂行できる。		研究への取り組み、達成度と卒業研究報告書の内容を評価シートで評価する。
2	【C2】研究の発展性：得られた研究結果を深く考察し、今後の課題等を示し、研究の発展性を展望することができる。		研究活動の状況、研究成果と卒業研究報告書の内容を評価シートで評価する。
3	【B1】発表および報告書：研究の発表方法を工夫し、与えられた時間内に明瞭でわかりやすく発表できる。また、報告書が合理的な構成で研究全体が簡潔・的確にまとめることができる。		中間および最終発表会、報告書を評価シートで評価する。
4	【B2】質疑応答：質問の内容を把握し、質問者に的確に回答できる。		中間および最終発表会の質疑応答を評価シートで評価する。
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	研究活動(C-2)30%、研究の発展性(C-2)30%、卒業研究報告書の構成(B-1)10%、卒業研究発表の内容(C-2)10%、その発表(B-1)10%、質疑応答(B-2)10%として総合的に評価する。総合評価は100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	各研究テーマに関する文献・論文等		
参考書	各研究テーマに関する文献・論文等		
関連科目	電子工学実験実習		
履修上の注意事項			

授業計画 1 (卒業研究)

内容(テーマ, 目標, 準備など)

卒業研究の進め方教員の指導のもとに、輪講・文献調査・実験・研究発表・討論などを行う。卒業研究は、各学生の自主性を尊重して進められるので、積極的・計画的に取り組むことが重要である。年間スケジュール例年の年間スケジュールは以下のとおりである。平成21年度も同様に行う予定であるが、多少変更することがある。3月中旬 配属決定 9月上旬 中間報告会 2月上旬 卒業研究報告書提出 3月上旬 最終報告会 本年度の研究テーマ一覧・Si単結晶太陽電池の作製・カルコパイライト型半導体を用いた・新機能的デバイスの開発・超高輝度蛍光体の結晶成長・MOD法による酸化物の半導体や磁性体薄膜の作製・光ファイバ瞬きセンサに関する研究・人のキーボードタイピング特性に関する研究・視覚実験用LED調色システムの開発・RGBカラーセンサを用いた視環境測定装置の開発・交照法システムによる視感度推定・平面画像からの立体復元に関する研究・顔画像からの表情認識に関する研究・PET/CT像からの人体臓器3次元表現・2リンク・フレキシブル・アームによる軌道制御・CANを用いた分散制御・光ピックアップのロバスト制御・Wavelet変換による画像解析・プログラミング教育支援に関する研究・データマイニング/テキストマイニングに関する研究・遺伝的アルゴリズム/プログラミングに関する研究・防犯カメラを用いた画像処理に関する研究・医用超音波画像に関する研究・生体信号の電気回路モデル化に関する研究・構造化ニューラルネットワークによる画像認識・初学者用ニューラルネットワークシミュレータの作成・携帯機器を組み込んだe-learningシステムの開発・プラズマイオン注入に関する研究・プラズマ密度自動計測システムの開発・三次元歩行動作シミュレータの開発・音声聴取時に感じる音の大きさ(ラウドネス)の詳細な検討・室内音環境評価手法の検討・DSPを用いたリアルタイム音声信号処理・PCクラスタを用いた音波伝搬・シミュレーションの並列化

備考

中間試験および定期試験は実施しない。

科目	工業英語 (ESP, Engineering)		
担当教員	木村 一成 非常勤講師		
対象学年等	電子工学科・5年・前期・選択・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	B4(100%)	JABEE基準1(1)	(d)2-b,(f)
授業の概要と方針	電気電子工学に関する技術英文を読み和訳する。また、その基本となる英文法を復習して、確認する。基本例文を覚え、簡単な技術英文を書くための知識を習得する。授業は配布した教材をもとに行う。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【B4】 技術的な英単語、熟語、慣用表現、および基本的な文型、構文、英文法を理解し、技術英文を和訳できる。		技術英文の和訳を中間試験・定期試験、レポート、演習により評価する。
2	【B4】 基本的な技術英文を書くことができる。		英訳を中間試験・定期試験、レポート、演習により評価する。
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験70%、レポート20%、演習10%として評価する。試験成績は中間試験と定期試験の平均点とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	毎回教材を配布する。その教材はインターネット上の内容、電気技術者のための英語（学献社）から		
参考書	「技術科学英語」：青柳忠克 著（産業図書） 「工業英語ハンドブック - 工業英検3・4級用基礎例文・基礎単語 - 」：（日本工業英語協会）		
関連科目	4年までの一般英語		
履修上の注意事項	英和辞書または電子辞書を持参すること		

科目	電子応用 (Applied Electronic Engineering)		
担当教員	山口 秀樹 非常勤講師		
対象学年等	電子工学科・5年・前期・選択・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	A4-D2(100%)	JABEE基準1(1)	(d)1,(d)2-a,(d)2-d,(g)
授業の概要と方針	電気の光への変換を学び、人間の視覚系が眼に到達した光をどのように処理しているのかを中心に学習する。人間の視覚系の特性を理解したうえで、照明環境における各種測光量や感覚量の評価手法を学び、照明環境に関するQOL向上について講義する。また光の照明以外の利用例として画像出力デバイスの動作原理を学習し、人間の視覚特性を考慮した画像の提示手法を学ぶ。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A4-D2】人間の視覚系の構造と特性が理解できる。		眼の光学的構造、順応と比視感度、色覚のメカニズムについて、理解できているかを中間試験にて評価する。
2	【A4-D2】放射量と測光量の関係が理解できる。		光束、照度、輝度およびXYZ表色系といった測光量と物理的な放射量との関係が理解できているかを中間試験にて評価する。
3	【A4-D2】白熱電球や蛍光灯など各種光源の発光原理を理解できる。		白熱電球、蛍光灯の発光原理の違いと、それぞれの特徴の違いが理解できているかを定期試験にて評価する。
4	【A4-D2】人間の感覚量の評価手法について理解できる。		感覚量の評価法として、ME法、SD法、一対比較法といった手法の違いと解析の手法について理解しているかを定期試験にて評価する。
5	【A4-D2】照明環境の物理的・心理的評価手法を理解できる。		照明環境において既存の測光量と人間の感覚量との関係を理解できているかを定期試験にて評価する。
6	【A4-D2】人間の視覚特性を考慮した照明環境および画像提示手法を理解できる。		CRTやLCDなど画像提示デバイスの特性を意識し、それを観察する照明環境との関連を議論する。あわせて定期試験で評価する。
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験100%として評価する。なお、試験成績は、2回の試験(前期中間、前期定期)の平均点とし、100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	建築設計講座「照明と視環境」(理工図書)から適宜プリントを用意 大学課程「照明工学(新版)」(オーム社)から適宜プリントを用意 「色彩工学入門」(森北出版)から適宜プリントを用意		
参考書	「視覚の心理物理学」:池田光男(森北出版)		
関連科目	D3「計測工学」		
履修上の注意事項			

科目	光エレクトロニクス (Optoelectronics)		
担当教員	林 昭博 教授		
対象学年等	電子工学科・5年・後期・選択・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	A4-D2(100%)	JABEE基準1(1)	(d)1,(d)2-a,(d)2-d,(g)
授業の概要と方針	光の増幅, レーザの発振条件, レーザの発振モード, ガウスビーム波・偏光・干渉とコヒーレンスなどの光の性質, および各種レーザの構造・発振原理・特徴等を理解し, 光エレクトロニクスの基礎を修得する.		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A4-D2】レーザの発振原理およびレーザ光の基本的な性質を理解し, 説明できる.		光の増幅とレーザの発振条件, 光共振器とレーザの発振モード, 光の波動パラメータ, ガウスビーム波, 偏光, 干渉とコヒーレンス等の理解度を中間試験とレポートにより評価する.
2	【A4-D2】各種レーザの構造, エネルギー準位, 発振原理, 特徴等を理解し, 説明できる.		気体レーザ, 液体レーザ, 固体レーザ, 半導体レーザの構造, エネルギー準位と反転分布の形成法, 特徴等の理解度を定期試験とレポートにより評価する.
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は, 試験90%, レポート10%として評価する. なお, 試験成績は, 中間試験と定期試験の平均点とする. 100点満点で60点以上を合格とする.		
テキスト	「光電子工学入門」: 林 昭博 編著 (槇書店)		
参考書	「光エレクトロニクス入門」: 福光於菟三 著 (昭晃堂)		
関連科目	半導体工学(本科4年), 光波電子工学(専攻科1年)		
履修上の注意事項			

科目	画像処理 (Image Processing)		
担当教員	戸崎 哲也 准教授		
対象学年等	電子工学科・5年・後期・選択・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	A4-D4(100%)	JABEE基準1(1)	(d)1,(d)2-a,(d)2-d,(g)
授業の概要と方針	高度情報化時代の進展とともに、画像処理技術は産業や医療、その他多くの分野で急速に発展している。本講義では、2次元デジタル信号処理としての観点からデジタル画像を処理、解析及び理解する技術について講義する。また、生体情報としての医用画像の撮影原理についても講義する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A4-D4】 デジタル信号処理の2次元拡張としてデジタル画像処理を捉えることができる。また、各種画像について理解することができる。		デジタル画像処理の本質を理解出来ているかを中間試験で評価する。
2	【A4-D4】 画質改善のためのコントラスト変換、平滑化やエッジ強調のための各種空間フィルタについて理解できる。		コントラスト変換や空間フィルタの内容を理解出来ているかを課題及び中間試験で評価する。
3	【A4-D4】 2値化画像処理の内容を理解できる。		2値化画像処理の内容を理解できているかを課題及び中間試験で評価する。
4	【A4-D4】 画像認識のためのパターン認識処理の内容を理解できる。		各種パターン認識手法について理解できているかを課題及び定期試験で評価する。
5	【A4-D4】 直交変換であるフーリエ変換について理解できる。		画像解析のためのデジタルフーリエ変換が理解できているかを課題及び定期試験で評価する。
6	【A4-D4】 生体情報としての医用画像の簡単な撮影原理と内容について理解できる。		CTやPET、MRIの簡単な原理とその画像について理解できているかをレポート及び定期試験で評価する。
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験70%、レポート10%、演習課題20%として評価する。試験点は、中間試験と定期試験の平均で評価する。総合評価100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	「デジタル画像処理」：酒井幸市（コロナ社） プリント		
参考書	「新C言語入門シニア編」：林晴比古（ソフトバンク） 「画像処理標準テキストブック」：CG-ARTS協会 「X-Window Ver.II プログラミング」：木下凌一・林秀幸（日刊工業新聞社） 「画像処理アルゴリズム」：斎藤恒雄（近代科学社）		
関連科目	プログラミングI、プログラミングII、ソフトウェア工学		
履修上の注意事項	C言語による画像処理プログラムを作成する。このため、D2「プログラミングI」、D3「プログラミングII」の内容を十分復習しておくことが必要である。		

科目	コンピュータアーキテクチャ (Computer Architecture)		
担当教員	堀 桂太郎 非常勤講師		
対象学年等	電子工学科・5年・前期・選択・2単位 (学修単位II)		
学習・教育目標	A4-D4(100%)	JABEE基準1(1)	(d)1,(d)2-a,(d)2-d,(g)
授業の概要と方針	コンピュータシステム各部の構成と機能, 効率化・高速化の手法について理解することをねらいとする。これらを理解するためには, ハードウェアとソフトウェアの両方の知識が要求される。また, 簡易型RISCの設計演習を通じて, コンピュータの動作原理をハードウェア面から深く理解し, 目的に応じたシステムを構成できる基礎的な設計能力とその際に生じる問題解決能力を修得する。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A4-D4】 コンピュータアーキテクチャの歴史を理解できる。		コンピュータアーキテクチャの歴史を理解できているかどうかを中間試験で評価する。
2	【A4-D4】 命令セット, 制御, 演算, メモリなどの各アーキテクチャを理解できる。		命令セット, 制御, 演算, メモリなどの各アーキテクチャを理解できているかどうかを中間試験で評価する。
3	【A4-D4】 ノイマン型と非ノイマン型(ハーバードアーキテクチャ), CISCとRISCの特徴を理解できる。		ノイマン型と非ノイマン型(ハーバードアーキテクチャ), CISCとRISCの特徴を理解できているかどうかを中間試験で評価する。
4	【A4-D4】 キャッシュメモリと仮想メモリの特徴や原理を理解できる。		キャッシュメモリと仮想メモリの特徴や原理を理解できているかどうかを定期試験で評価する。
5	【A4-D4】 割込み手法及び, パイプライン方式による高速化手法を理解できる。		割込み手法及び, パイプライン方式による高速化手法を理解できているかどうかを定期試験で評価する。
6	【A4-D4】 オペレーティングシステムや入出力アーキテクチャを理解できる。		オペレーティングシステムや入出力アーキテクチャを理解できているかどうかを定期試験で評価する。
7	【A4-D4】 簡易型RISCの設計演習を通じて, 目的に応じたシステムを構成できる設計能力を修得する。		簡易型RISCの設計演習を通じて, 目的に応じたシステムを構成できる設計能力を修得できているかどうかを定期試験と演習によって評価する。
8	【A4-D4】 各種のアーキテクチャを検討し, 必要に応じて回路を改良できる能力を修得する。		各種のアーキテクチャを検討し, 必要に応じて回路を改良できる能力を修得できているかどうかを定期試験で評価する。
9			
10			
総合評価	成績は, 試験90%, 演習10%として評価する。試験成績は, 中間試験と定期試験の平均で評価する。演習は, 簡易型RISCの設計演習として授業中に実施する。試験と演習を合算した100点満点の60点以上を合格とする。		
テキスト	「図解コンピュータアーキテクチャ入門」:堀桂太郎(森北出版)		
参考書	「コンピュータアーキテクチャ改訂2版」:馬場敬信(オーム社)		
関連科目	本科 D2の「論理回路」及び, D3の「コンピュータ工学」		
履修上の注意事項	本科 D2の「論理回路」及び, D3の「コンピュータ工学」 を復習しておくことが望ましい。		

